

# 下ノ坪遺跡Ⅲ

—農業農村活性化農業構造改善事業上岡地区区画整理工事に伴う発掘調査報告書—

2000.3

高知県野市町教育委員会

# 下ノ坪遺跡Ⅲ



2000.3

高知県野市町教育委員会

巻頭カラー 1



巻頭カラー 2



## 序

下ノ坪遺跡は、平成6年度から8年度にかけて発掘調査を行い、今回の「下ノ坪遺跡Ⅲ」をもちまして、現地調査及び整理作業のすべてを終えることとなりました。

調査の成果といたしましては、四仙騎獣八稜鏡やガラス小玉をはじめとする貴重な遺物が出土しており、遺構でも官衙的な掘立柱建物跡をはじめとし、竪穴住居跡等、野市町の歴史だけでなく、高知県の歴史を解明するうえでも貴重な資料が数多く発見されました。

この「下ノ坪遺跡」Ⅰ～Ⅲ報告書が、学術的に多くの研究者に活用されることはもちろんのこと、学校教育や、生涯教育、或いは多くの町民の方々に広く活用していただきたいと思います。

また、下ノ坪遺跡の発掘調査が野市町の歴史を紐解く契機となり、1人でも多くの方々が埋蔵文化財に关心を持たれて、より一層の文化振興の一助となれば幸いに存じます。

最後になりましたが、下ノ坪遺跡調査にあたって、高知県文化財団埋蔵文化財センターの調査員、並びに整理作業員、調査にご協力を頂いた地権者、地元関係者のみなさまのお陰を持ちまして、下ノ坪遺跡報告書が無事完結できましたこと、心よりお礼申し上げます。そして、今後も更なる野市町の文化財行政に対するご理解・ご協力をよろしくお願ひいたします。

平成12年3月

野市町教育長 安岡晋平

## 例　　言

- 1 本書は、野市町教育委員会が平成6、7、8年度に実施した農業農村活性化農業構造改善事業上岡地区区画整理工事に伴う下ノ坪遺跡の緊急発掘調査報告書である。
- 2 下ノ坪遺跡は、高知県香美郡野市町上岡字下ノ坪に所在する。
- 3 発掘調査は平成7年1月5日から3月15日、同6月7日から平成8年3月28日、同4月8日から7月16日まで実施した。
- 4 総調査面積は6,230m<sup>2</sup>であり、各年度、調査区ごとの面積は第I章のとおりである。
- 5 調査体制
  - (1) 平成6、7年度

小松 大洋（野市町教育委員会社会教育課 社会教育主事）  
池澤 俊幸（高知県文化財団埋蔵文化財センター 調査員）
  - (2) 平成8年度

小松 大洋（野市町教育委員会社会教育課 社会教育主事）  
出原 恵三（高知県文化財団埋蔵文化財センター 調査第3係長）  
池澤 俊幸（ 同 調査員）  
行藤たけし（ 同 非常勤職員）
- 6 本書の編集は更谷大介が行い、執筆は以下のように分担した。

第I・II章（小松）  
第III章（更谷）  
第IV章 1.（池澤）  
2.（更谷）  
第V章 下ノ坪遺跡出土の鍛冶・鉄鋼関連遺物の金属学的調査（大澤・鈴木）
- 7 本報告書を作成するにあたっては、鍛冶・鉄鋼関連遺物の金属学的調査について大澤正己氏鈴木瑞穂氏の手を煩わせ玉稿を頂いた。
- 8 発掘現場作業員は下記の方々である。記録的な暑夏と二度の冬を通して、精力的に作業に従事された方々に対し、記して敬意を表す。

貞岡重道・佐野宣重・佐々木龍男・吉川徳子・吉川誠喜・大黒貞之・町田恵子・森田彩子・岩崎一歩・近江川和成・楠瀬正人・田代 勝・田島一徳・浜田吉宏・松木宏史・竹村保夫・森本久美・村武 重・大和田延子・内田愛子・内田晴美・池宣 宏・小松一仁・石川 功・

岡内美行・筒井 正・松崎邦久

- 9 重機による表土剥ぎ、排土運搬、埋め戻し、測量については共運工業の石川康人、石川武史、小松和則、森岡和信、秋山純一の便宜、助力を得た。
- 10 遺物整理、報告書作成においては下記の方々の協力を得た。記して感謝の意を表したい。  
岩貞泰代・岩本須美子・大原喜子・尾崎富貴・川久保香・浜田雅代・松木富子・森 紗子・矢野 雅・山口知子・山本由里
- 11 検出遺構のナンバーは、「下ノ坪遺跡Ⅲ」独自のナンバーである。
- 12 本報告書の図版番号は各区ごとにつけてある。
- 13 出土遺物、その他図面類の関係資料は野市町教育委員会で保管している。
- 14 本書の図版及び文章中の方位はM・N（磁北）で掲載している。下ノ坪遺跡のT・N（真北）は磁北から東方向に $4^{\circ} 4' 56.51''$ である。
- 15 H区包含層・拡張Ⅰ区包含層・拡張Ⅱ区包含層の呼称については、本文中ではH区・拡Ⅰ・Ⅱ包含層と略させてもらう。なお、H区より南側拡張区を拡Ⅰ、北側を拡Ⅱと呼ぶ。

## 本文目次

第Ⅰ章 調査に至る経過と調査の経過及び方法	1
第Ⅱ章 遺跡周辺の地理・歴史的環境	2
第Ⅲ章 調査の成果	7
1. G区	7
(1) 調査区の概要と基本層準	7
(2) 遺構と遺物	7
2. H区包含層・拡張Ⅰ区包含層・拡張Ⅱ区包含層	21
(1) 器種組成	21
①土師器	21
②須恵器	25
3. K区	51
(1) 調査区の概要と基本層準	51
(2) 遺構と遺物	51
(3) 遺物集中	52
4. L・N区	62
(1) 調査区の概要と基本層準	62
(2) 自然流路S R 3と出土遺物	62
(3) ピット	62
第Ⅳ章 考察	67
1. 「ユニット7」出土の土器	67
2. 南四国の土錘 ～古代の土錘を中心にして～	74
第Ⅴ章 下ノ坪遺跡出土鍛冶・鋳銅関連遺物の金属学的調査	116

## 挿図目次

- Fig.1 下ノ坪遺跡の位置と周辺の地図  
Fig.2 下ノ坪遺跡発掘調査区  
Fig.3 G区全体図及びセクション図  
Fig.4 S B 4・S B 5・S B 6・S A 3・P 2 1 遺構平面図及びエレベーション図  
Fig.5 S A 4 遺構平面及びエレベーション図、G区出土遺物実測図  
Fig.6 G区出土遺物実測図  
Fig.7 G区出土遺物実測図  
Fig.8 H区・拡I・II包含層出土遺物実測図  
Fig.9 H区・拡I・II包含層出土遺物実測図  
Fig.10 H区・拡I・II包含層出土遺物実測図  
Fig.11 H区・拡I・II包含層出土土錐実測図  
Fig.12 H区・拡I・II包含層出土土錐実測図  
Fig.13 H区・拡I・II包含層出土土錐実測図  
Fig.14 H区・拡I・II包含層出土土錐実測図  
Fig.15 H区・拡I・II包含層出土土錐実測図  
Fig.16 H区・拡I・II包含層出土土錐実測図  
Fig.17 K区全体図及びセクション図  
Fig.18 SK 9 0 1 遺構平面及びエレベーション図、K区出土遺物実測図  
Fig.19 K区出土遺物実測図  
Fig.20 K区出土遺物実測図  
Fig.21 K区出土遺物実測図  
Fig.22 L・N区全体図及びセクション図  
Fig.23 L・N区出土遺物実測図  
Fig.24 杯の類型  
Fig.25 杯・皿の径高分布の比較  
Fig.26 I・II群の形態例  
Fig.27 埋堀（SMT-11）溶融物中の析出物のコンピュータープログラムによる高速定性分析結果

果 (Photo. 17に対応)

Fig. 28 梶形鍛冶 (SMT-15) 鉄物相のコンピュータープログラムによる高速定性分析結果  
(Photo. 18に対応)

Fig. 29 鉄製品 (鋳化鉄) (SMT-17) 鉄基地のコンピュータープログラムによる高速定性分析  
結果 (Photo. 19に対応)

Fig. 30 鉄製品 (鋳化鉄) (SMT-17) 鉄中非介在物のコンピュータープログラムによる高速定  
性分析結果 (Photo. 20に対応)

Fig. 31 鉄斧 (SMT-18) 鉄中非金属介在物のコンピュータープログラムによる高速定性分析結  
果 (Photo. 21に対応)

## 写真図版目次

- PL. 1 G区SD17 検出状況、G区SR
- PL. 2 G区ユニット7 遺物出土状況（下層）、G区ユニット7付近 完掘状況
- PL. 3 G区 遺物出土状況
- PL. 4 G区SR 完掘状況、G区SR 完掘状況（北側）
- PL. 5 K区SR5 検出状況（南）、K区SR5 検出状況
- PL. 6 K区SR5 完掘状況、K区SR3 完掘状況
- PL. 7 K区SR3 完掘状況
- PL. 8 K区SK-901 遺物出土状況、K区 遺物出土状況
- PL. 9 K区SR5 遺物出土状況
- PL. 10 K区 完掘状況（北）、N区 遺物出土状況
- PL. 11 N区SR3 完掘状況
- PL. 12 K・L・N区出土 弥生土器
- PL. 13 K区出土 弥生土器
- PL. 14 K区出土 弥生土器、G区、H区 拠I・II包含層出土須恵器
- PL. 15 G区、H区 拠I・II包含層出土 土師器皿・坏
- PL. 16 G区、H区・拠I・II包含層出土 土師器坏
- PL. 17 K区出土 土師器坏、H区・拠I・II包含層出土 土師器蓋、須恵器皿・坏
- PL. 18 G区、H区・拠I・II包含層出土 須恵器坏・蓋
- PL. 19 G区、H区・拠II包含層出土 黒色土器
- PL. 20 K・L区出土 弥生土器
- PL. 21 G区、H区・拠I・II包含層出土 須恵器

## 第Ⅰ章 調査に至る経過と調査の経過及び方法

野市町下ノ坪遺跡は、「農業農村活性化農業構造改善事業上岡地区区画整理工事」に伴う緊急発掘調査として平成6年度から平成8年度にかけて発掘調査を行ったものである。下ノ坪遺跡のある上岡地区は、稲作、ハウス園芸の盛んな地域であるが、農道及び水路の整備が遅れており、野市町と上岡地区土地改良区が農林水産省の補助を受け5.2haを整備することになった。

平成6年度には道路と水路の施工予定部分を試掘調査し、その結果東半全域で良好な遺構と包含層が遺存し、時期も複合していることが判明した。これを受けて関係部局が検討した結果、耕地部分については遺構及び包含層に影響しない工法を採用して、本調査区を道路及び水路予定部分に限定し、A、B、D、E区の発掘調査を行った。

平成7年度の調査は6月7日から開始し、C、F、G、H、J、K区の調査を実施した。当時の耕作状況により調査区の設定には一定の制限があったが、調査を進めた結果、F区西端で古墳時代掘立柱建物や弥生時代竪穴住居、J区で弥生時代竪穴住居や多量の土器を伴う大溝を検出、H区では多量の遺物を含む包含層と、古代及び弥生時代の多数の遺構群を検出した。

平成8年度の調査は4月8日から実施し、残りの調査区を調査した。南部は対象区北部とは様相が異なり、遺構・包含層が対象区西端の物部川堤防直下まで遺存することも判明した。M、O区では弥生時代を中心とした遺構群が検出され、当遺跡の全域に集落が展開する事が確認された。また、H区では古代の大型掘立柱建物の一部が複数検出されていたため、本来の調査予定地外にも調査区を拡張した結果、掘立柱建物群や八稟鏡を検出した。

現地説明会は7月14日に行い、7月16日に機材を撤収し発掘調査を終了した。

確認された遺跡全体の面積は約45,000m<sup>2</sup>、発掘調査対象面積は7,265m<sup>2</sup>で、うち6,230m<sup>2</sup>について発掘調査を実施した。

出土遺物の整理及び報告書の作成については、各調査区における遺物の出土量や時期的なまとまりを勘案して、A、B、D、M、O区を平成8年度に「下ノ坪遺跡Ⅰ」として刊行し、C、E、F、H、J区については平成9年度に「下ノ坪遺跡Ⅱ」として刊行している。今回は、G、K、L、N区及びH区、拡張区の包含層について行い、これをもって下ノ坪遺跡の報告を完結する。

拡張策の面積は下表の通りである。

調査区面積表

調査区	A区	B区	C区	D区	E区	F区	G区
面積(単位m <sup>2</sup> )	102	175	112	250	175	290	194
調査区	H区	J区	K区	L区	M区	N区	O区
面積(単位m <sup>2</sup> )	2,931	552	158	138	472.5	81	405

## 第Ⅱ章 遺跡周辺の地理・歴史的環境

### 1. 地理的環境

下ノ坪遺跡のある野市町は、県中央部に広がる高知平野の東端に位置し県下三大河川のひとつ物部川の下流域に発達した扇状地上にあり、南北約6km、東西約4km、面積23.15km<sup>2</sup>、人口16,000人を超える町である。西は物部川をはば境として南国市、東は香我美町と隣接し、北は烏ヶ森山系により土佐山田町と分けられる。南は赤岡町、吉川村の2町村と境を接し南端部より約0.3km南で土佐湾にのぞむ。

南部には、県都高知市と県東部を結ぶ国道55号線が東西に走っており、高知市より車で約30分と交通の便もよく、県都のベッドタウンとして人口も年々増加しており近年発展し続けている。

主要産業としては、江戸時代、野中兼山により灌漑施設が整備され、かつては豊富な水を生かした米作の穀倉地帯であったが、現在は近郊型の園芸農業が盛んとなっている。

自然地理学的には北東部に開楽山系の山岳地と物部川左岸側に分布する、古期扇状地を呈する野市台地よりなっている。この開楽山系は、秋葉山系と烏ヶ森山系の2つからなり野市町の約3分の1強の面積をしめる。

秋葉山系は町の北東、香我美町の境にある開楽山（標高368.2m）より南西方向に高度を減じ、町のほぼ中心の三宝山（別名金剛山、標高213.9m）の南西方向で野市台地の下に沈む。その秋葉山系の北方に平行して烏ヶ森山系があり同じく、南西に向かって高度を減じて、物部川にその山脚を浸食されている。

その山地の下に広がる野市台地は古期扇状地性の氾濫源であり、現在の市街地をのせ、海拔高度約40~10mと北から南へ高さを減じている。また、台地の西端部分は5mほどの段丘崖となって沖積平地となっている。下ノ坪遺跡は、この沖積平地上にあり海拔12mを測る。

これらの台地は、秋葉山系の西端部の三宝山の山麓部でさえぎられた物部川の堆積物が南東側へ向かって放出されたためできた扇状地性堆積物によって形成されたものである。

物部川が現在の流路を形成したのは、中近世以降のことであり、それ以前はいくつもの流路からなっていたが、中世になるとそれまで多数存在していた小水流路の幾つかが堆積作用によりつまっていき、大きな自然堤防が形成され現在の流路になったと考えられる。

この物部川はその昔から交通の手段として使われていたと考えられており、今回の調査でも興味深い結果となった。

### 2. 歴史的環境

下ノ坪遺跡のある野市町は、北部に山塊を背負い南部に平野部が開けている。西は一級河川物部川に隔てられ東は香宗川がはば町境と重なっている。物部川は野市町をはじめ、高知平野東部の平野を潤しているが、近世以前においては現在よりも西部を流れおり下流に大小の自然堤防を形成し、多くの縄文時代後期以降の遺跡が立地している。その中でも、田村遺跡は弥生時代における南四国最大の拠点集落として知られている。下ノ坪遺跡の南面約2kmの地点に位置している。



No	遺跡名	時代	No	遺跡名	時代	No	遺跡名	時代
1	下ノ坪遺跡	弥生～奈良	11	亀山窯跡	平安	21	宝鏡寺跡	中世
2	北地遺跡	弥生	12	溝渕山古墳	古墳	22	岩村遺跡群	弥生～中世
3	高田遺跡	平安	13	アゴデン白岩窯跡	平安	23	シロイ畠遺跡	古墳～中世
4	下井遺跡	平安・中世	14	大谷城跡	中世	24	石神遺跡	弥生～平安
5	西野遺跡群	弥生・古墳・奈良	15	大谷古墳	古墳	25	立田土居城跡	中世
6	深瀬遺跡	縄文～近世	16	山下遺跡	平安・中世	26	寺ノ前遺跡	弥生～中世
7	深瀬城跡	中世	17	本村遺跡	弥生	27	高添遺跡	弥生～平安
8	西上野遺跡	弥生	18	大崎山古墳	古墳	28	平杭遺跡	弥生・古墳
9	深瀬北遺跡	弥生～中世	19	中山田土居城跡	中世	29	カントラリ遺跡	縄文・古墳～平安
10	母代寺遺跡	平安・中世	20	東野土居遺跡	古墳～平安	30	田村遺跡群	縄文～近世

Fig.1 下ノ坪遺跡の位置と周辺の地図

また、その北部の上流右岸の土佐山田町にはひびのき遺跡<sup>(1)</sup>（弥生時代～古墳前期）、その対岸には林田遺跡<sup>(2)</sup>（弥生～室町）がある。東部を流れる香宗川流域にも、弥生時代初期の土器が発見されるとともに多量の木器が出土した香我美町の下分遠崎遺跡<sup>(3)</sup>や十万遺跡<sup>(4)</sup>がある。

町内にも数多くの遺跡があり、最も古いものには深瀬遺跡<sup>(5)</sup>の縄文晚期までさかのぼる。弥生時代になると遺跡数が飛躍的に増大し町内全域に分布する。特に物部川流域は著しく、下ノ坪遺跡より最も近いものとしては東に北地遺跡が隣接しており、北に西野遺跡、深瀬遺跡、深瀬北遺跡と広く分布している。また東部には先に述べた香我美町の下分遠崎遺跡と同一遺跡と考えられる曾我遺跡<sup>(6)</sup>が香宗川流域に広がっており、その北側開楽山地の麓にはガラス製の勾玉も出土した弥生中期の高地性集落の性格をもつ本村遺跡<sup>(7)</sup>がある。開楽山地には中晩期の笹ヶ峰遺跡や、土器、貝殻、獸骨、魚骨などが出土した後晩期の鬼ヶ岩屋洞窟遺跡もある。

古墳時代の遺跡も物部川、香宗川両流域に広がり集落が営まれていたことがうかがえる。古墳も開楽山地に数多くみられ、特に竹ノ内山（溝瀬山）古墳は、当時の原形に最も近い状態で残存している横穴式石室の円墳で青銅環、直刀等が出土している。その他にも2次にわたる埋葬面が確認され金環、馬具等多量の貴重な副葬品が出土した大谷古墳<sup>(8)</sup>をはじめ、小山谷古墳、大崎山古墳がある。また、町内北部の佐古地区にも日吉山古墳群や父義寺古墳等、そして今は消滅しているが上分古墳の存在により、地方豪族のいたことが推察される。

古代の遺跡としては、下ノ坪遺跡の北約1kmに深瀬遺跡がある。深瀬遺跡は先にも述べたように縄文時代からの複合遺跡であるが、古代の出土物は二彩陶器、縁袖陶器、墨書き土器、硯、蛇尾等が出土している。また深瀬遺跡は瓦窯跡の指摘もあり、円面鏡や風字鏡も発見され、官衙的性格を持つ遺跡であったと考えられる。また佐古地区的亀山にも窯跡があり、そこで作られた瓦は平安京大極殿、藤原氏の氏寺である法勝寺に使用されていたことがわかつており、もっぱら中央向けの官窯であったと思われる。その瓦の運輸を考えると下ノ坪遺跡とも深い関係があったと考えられる。このことは、当時の野市町が中央と深いつながりを持ち重要な地であったことを示している。

中世になると、中原秋家、秋道が地頭となり、香宗我部氏と名乗り勢力をふるった。しかし、関ヶ原合戦後山内氏入国によりその所領を失い、その後の一国一城制でその居城である香宗城は取り壊された。現在は八幡社と土塁の一部を残すのみである。その南東には菩提寺の宝鏡寺跡と歴代の墓と般音堂がたっている。また、戦国時代の城では佐古地区に前ノ山城、また土佐山田町との境に烏ヶ森城がある。

- (1) 岡本健児・廣田典夫「高知県ひびのき遺跡」 土佐山田町教育委員会 1997年
- (2) 宅間一之・山本哲也・森田尚宏「林田遺跡」 土佐山田町教育委員会 1985年
- (3) 高橋啓明・出原恵三「下分遠崎遺跡発掘調査概報」 香我美町教育委員会 1987年  
高橋啓明・出原恵三「下分遠崎遺跡発掘調査概報」 香我美町教育委員会 1989年
- (4) 高橋啓明・出原恵三・吉原達生「十万遺跡発掘調査報告書」 香我美町教育委員会 1988年
- (5) 高橋啓明・出原恵三・吉原達生「深瀬遺跡発掘調査報告書」 野市町教育委員会 1989年
- (6) 高橋啓明・吉原達生「曾我遺跡発掘調査報告書」 野市町教育委員会 1989年
- (7) 坂本憲昭「本村遺跡発掘調査報告書」 野市町教育委員会 1993年
- (8) 山本哲也「大谷古墳」 (財)高知県文化財団 1991年



Fig.2 下ノ坪遺跡発掘調査区 ( $S = \frac{1}{1000}$ )

## 第Ⅲ章 調査の成果

### 1. G区

#### (1) 調査区の概要と基本層準

##### ①調査区の概要 (Fig.3)

調査対象地中央北寄り、南北に長い調査区である。南北約70m、幅約2.7m、面積194m<sup>2</sup>を測る。

##### ②基本層準 (Fig.3)

北壁： I層 耕作土。

II層 旧耕作土。

SD17-1 黒褐色粘質土。

SD17-2 黒褐色粘質土に灰黄色粘質土（地山）をブロック状に含む。

SR3-1 灰色粘質土に暗赤褐色粘質土粒を含む。

SR3-2 砂礫層。

SR3-3 褐灰色粘質土。

SR3-4 黒褐色粘質土に黄色粘質土をブロック状に含む。

SR3-5 黒褐色粘質土、淡黄色粘土、砂礫がブロック状に混ざる。

SR3-6 黄褐色粘質土（地山）に黒褐色粘質土をブロック状に含む。

#### (2) 遺構と遺物

##### ①掘立柱建物跡 (Fig.4)

###### S B 4 (Fig.4)

調査区北寄りに位置している。1×2間の柱間を確認できたが、大部分が調査区外に出でおり、全容は不明である。径30~40cm、深さ20~30cmの柱穴である。出土遺物はみられなかった。

###### S B 5 (Fig.4)

調査区北側と中央部の中間付近に位置する。方位はN-11°-Wである。梁間は2間で1.82m、桁行は2間1.98m以上の東西棟である。径20~30cm、深さ10~30cmの柱穴である。出土遺物はみられなかった。

###### S B 6 (Fig.4)

調査区北側と中央部の中間付近でSB5に近接する。1間×2間の柱間を確認できたが、正確な規模は不明である。径30~38cm、深さ20~30cmの柱穴である。出土遺物はみられなかつた。

##### ②柵列跡

###### S A 3 (Fig.4)

調査区北寄りに位置する南北方向に2.8mの柵列跡で、方位はN-17°-Wを測る。柱掘形

は径24~40cm、深さ14~30cmである。出土遺物はみられなかった。

#### S A 4 (Fig.5~7)

調査区北側と中央部の中間付近に位置する東西方向に3.8mの横列溝で、方位はN-34°Wを測る。柱掘形は径24~66cm、深さ30~60cmである。

出土遺物は、土師器底部(1)、弥生土器鉢(90)、同壺(91)、石包丁(104)である。

#### ③溝跡

#### S D 1 7 (Fig.4)

調査区北寄り、西壁沿いで検出した南北方向の溝で、約15mを確認した。方位はN-6°Wである。出土遺物はみられなかった。

#### ④自然流路

#### S R 3

造構東側の段丘斜面下端に沿って検出された流路で、A区SR1やC・E・F・H区SR2とは一連のものとみられる。本遺跡の古代の存続期を通じて機能した後、シルトによって埋没している。概して、下層に砂礫層、上層にはシルト層が存在し、下層には古代前期の遺物が多い。古代後期の遺物の多くは、上層より出土している。66Lグリッド付近では土器集中であるユニット7が検出されたが、その詳細については第IV章の考察に記す。

#### ⑤P21 (Fig.4)

SB6の西側に位置している。長軸50cm、短軸40cmの楕円形で、深さ24cmを測る。出土遺物は須恵器甕口縁部(Fig.7図95)である。

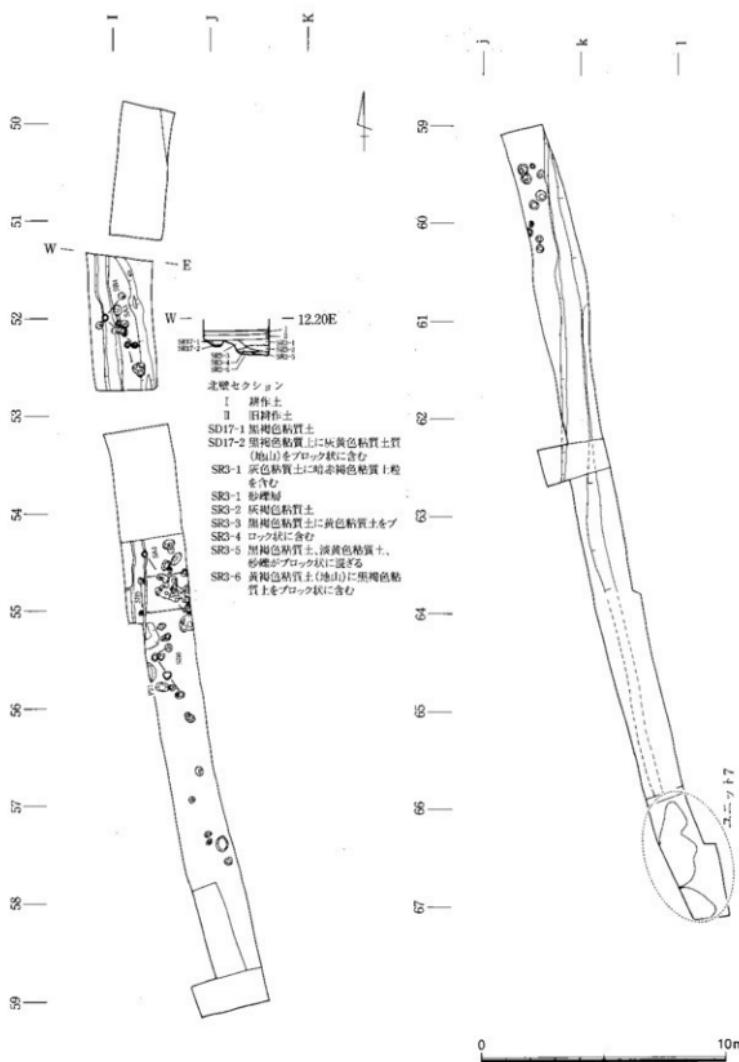


Fig.3 G区全体図及びセクション図

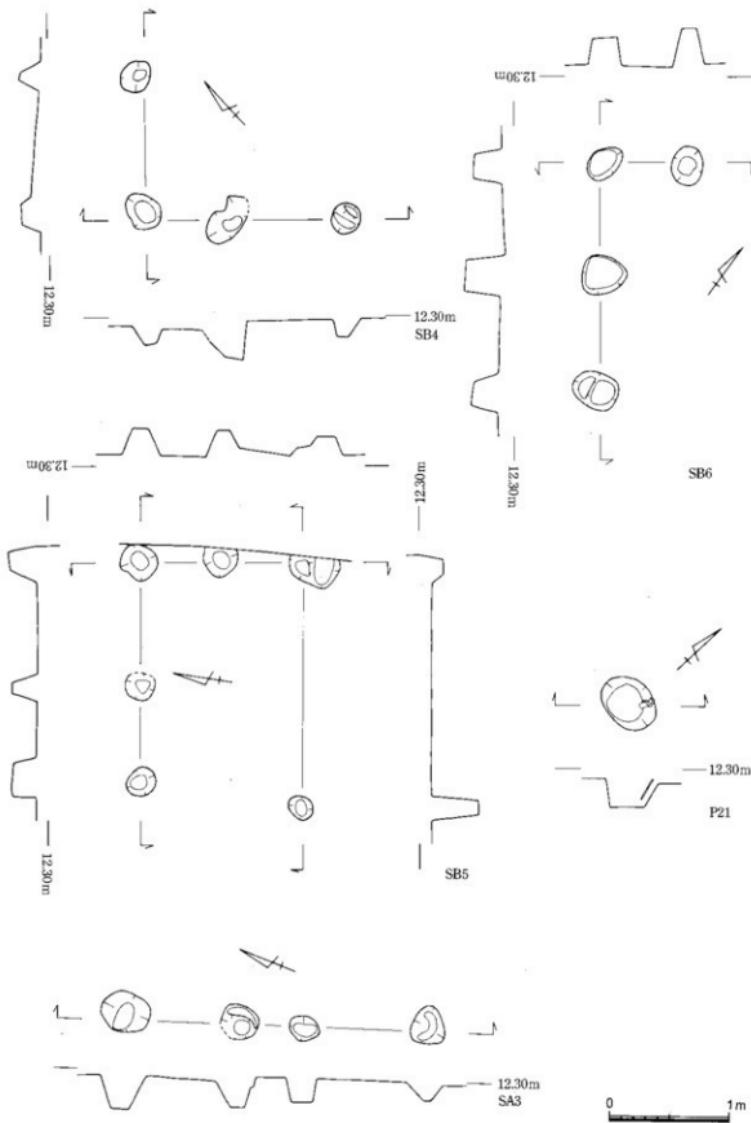


Fig.4 SB4・SB5・SB6・SA3・P21遺構平面図及びエレベーション図

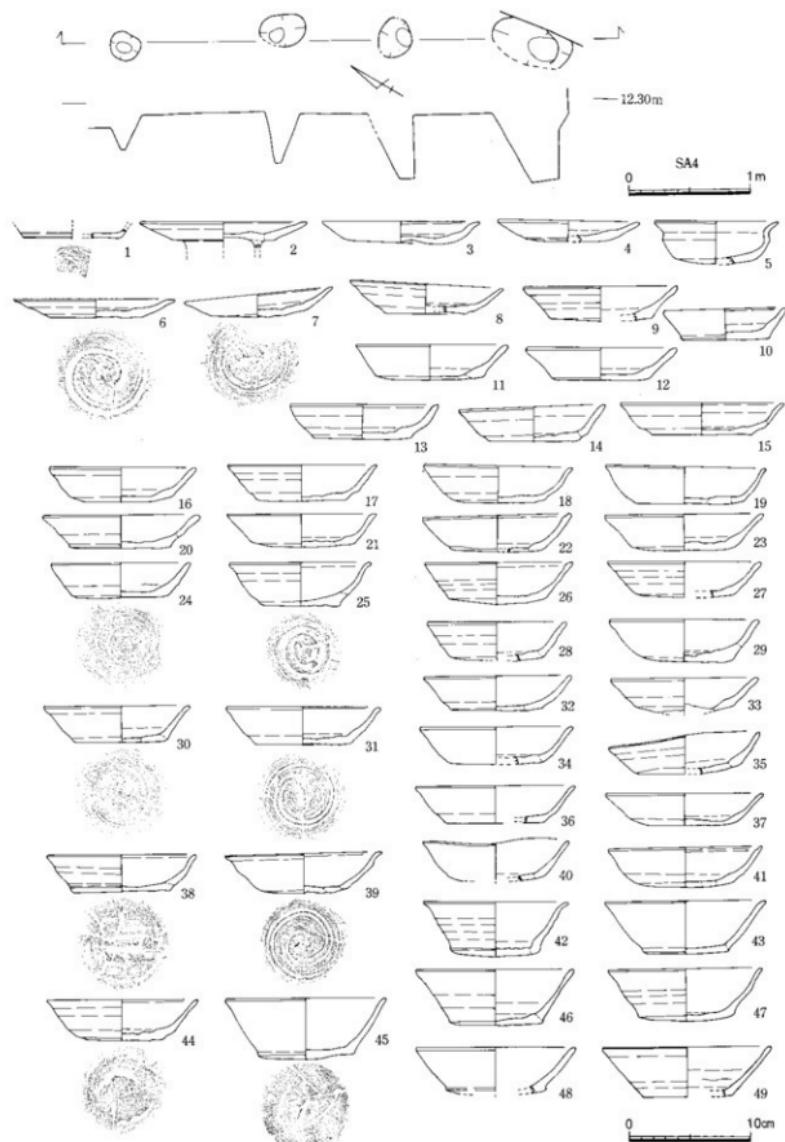


Fig.5 SA4造構平面及びエレベーション図  
G区出土遺物実測図

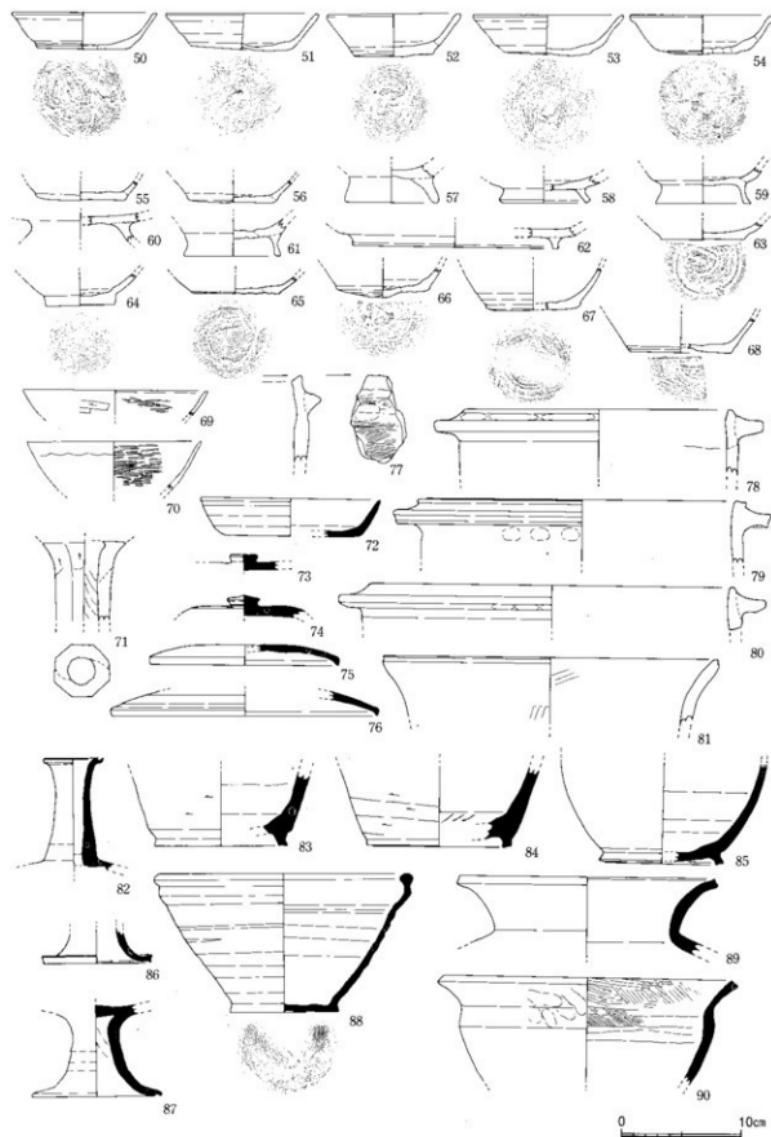


Fig.6 G区出土遺物実測図

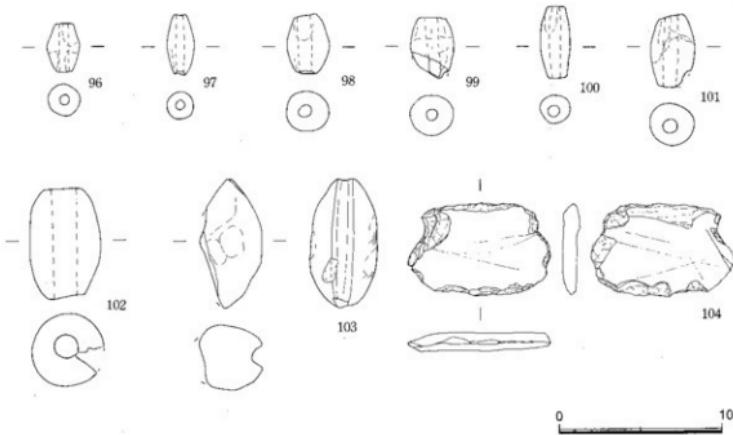
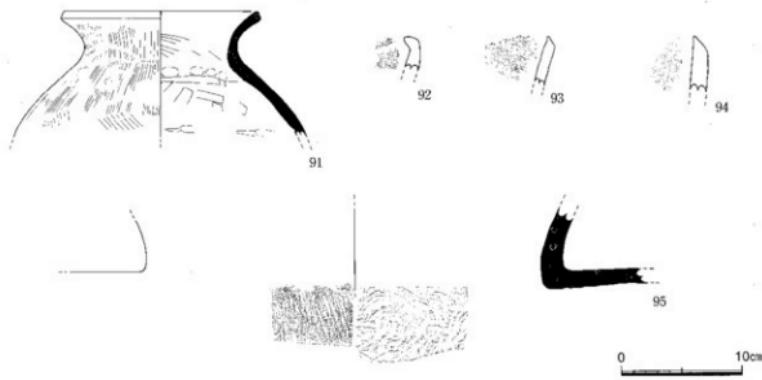


Fig.7 G区出土遺物実測図

## G区 遺物観察表(土器)

種類	Fig. No.	辨別番号	出土地点	器種	法量(cm)			特徴	備考	
					口径	器高	柄径			
土器	Fig.5	1	SA4	底部		(0.8)		7.8	チャート、赤色風化繙の繩粗粒砂を含む。にぶい橙色。外面ナデ、底部回転ヘラ切り。内面ナデ。	
	*	2	SE3	高台付皿	13.6	(2.2)			チャート、赤色風化繙の繩粗粒砂、火山ガラスを含む。にぶい橙色。全体にナデ。外面凹縁端部は最後に横ナデをしたようで僅く下方へ粘土が残る。底部の切り離しは不明であるが、ヘラ切りであると思われ、丁寧にナデしている。底部凹縁は一定方向のナデ。時は粘土層を除き、残り付いた後、火山ガラスをよくひき出しながら、その後接合部外側をヘラ工具で削ったためシャープな角をなす。	
	*	3	*	皿	12.8	1.8		7.3	チャートの繩粗粒砂を多く含み、ザラついた器表。火山ガラスを含む。内面の色調は口部部にない橙色、体部淡い黄色、底部は黒色と漸移的に変化。体部横ナデ、口縁部下部は横ナデにより引出する。底部は火成の殻は不明瞭。底面は切り離すナデ、粘土棒ナデ。火成底面は内面に凹むる面ないし強かな凹状を呈する。内底横ナデが複数ある。	
	*	4	*	皿	11.6	(1.7)		6.9	チャート、赤色風化繙の繩粗粒砂、火山ガラスを含む。浅黄褐色。外底ヘラ切り後ナデ。他は横ナデ及び凹輪ナデ。	
	*	5	*	皿	10.0	(3.5)		6.6	チャート、長石の繩粗粒砂、赤色風化繙の繩粗粒砂、火山ガラスを含む。全体にナデが仕上げるが、それ以外は不明。	
	*	6	*	皿	13.4	1.6		7.4	チャートの繩粗粒砂を少量、赤色風化繙の繩粗粒砂、火成ガラスを少量含む。精選された粘土。橙色。外面口縁部15mm幅で強く内側なナデ、底底回転ヘラ切り後、弱いナデ。内底一定方向のナデ。	
	*	7	*	皿	12.2	1.9		8.2	チャート、赤色風化繙の繩粗粒砂、底の型地片を含む。橙色。底部内側に強く丁寧な横ナデ。外底回転ヘラ切り後弱いナデ。内底指圧ヒビナデ、内底が白っぽく重ね焼きされたと思われる。	
	*	8	*	皿	13.0	2.6		7.2	チャート、赤色風化繙の繩粗粒砂を含む。火山ガラス繩粒砂を含む。精選された前段。全体に薄く、軽く仕上がる。なめらかな器表。外面15mm幅で強く内側なナデ、外底回転ヘラ切り後弱いナデ。内底指圧ヒビナデ。内底が白っぽく重ね焼きされた正在行っているため比較的整っている。内底横ナデ。	
	*	9	*	皿	12.7	(2.9)		8.4	チャート、赤色風化繙の繩粗粒砂、火山ガラスを含む。にぶい黄褐色。外口縁部強い横ナデ、外底ヘラ切り後比較的丁寧なナデ。他は全て横ナデ。内面中位のみ回転ナゲリの可能性あり。	
	*	10	*	壺		2.5		7.2	少量のチャート繩粗粒砂、火成ガラス、赤色風化繙の繩粗粒砂を多く含む。にぶい黄褐色。外底ヘラ切り後ナデ。他是全て横ナデ。	
	*	11	*	壺	12.5	3.0		8.9	チャートの繩粗粒砂、微量の火成ガラスを含む。にぶい黄褐色。外底ヘラ切り後比較的丁寧なナデ。体部との境に一部粘土が混入しがみられる。内底接合部に強い横ナデ、中央部は多方向のナデ。その他は横ナデ。	
	*	12	*	壺	12.2	2.7		8.0	チャートの繩粗粒砂、赤色風化繙の繩粗粒砂、火成ガラスを含む。橙色。体部横ナデ。外底ヘラ切り後ナデ。幅2mm程の平行丘底。内底回転ナデ、中央に一定方向のナデ。内外底充てん。	
	*	13	*	壺	12.2	3.0		7.9	チャート、赤色風化繙の繩粗粒砂、火山ガラスを含む。橙色。外面内輪ナデ。外底回転ヘラ切り後、比較的丁寧なナデ。底部円盤形成。内底落ち込む。	
	*	14	*	壺	12.1	3.1		7.4	チャートの繩粗粒砂、赤色風化繙の繩粗粒砂を僅く含む。精選された粘土。浅黄褐色。底部凹輪底形。外底回転ヘラ切り後ナデ。幅1cmの平行丘。内底一定方向のナデ。他はすべて横ナデ。	

種類	Fig. No.	押岡番号	出土地点	器種	法量(cm)				特徴	備考
					口径	器高	側径	底径		
土師	Fig. 5	15	SR3	坏	13.4		2.6	8.1	チャートの細粒砂、微量の赤色風化礫の細粒砂、火山ガラスを含む。精選された粒ナダ。丁寧な溝により、器表は滑らかな感触。にぶい橙色。体部前面ナダ、胴下部は独立した楕ナダを行い、円筒形を形成しようとする意図がうかがえる。外底は輪郭へラ切り後比較的丁寧なナダ。内底回転ナダ。全体に整美。	
	*	16	*	坏	12.1	2.9		8.4	チャート、赤色風化礫の細粒砂を含む。粗砂が多くさざついた感触。にぶい黄橙色。外底底部回転ナダ。切り後比較的丁寧なナダ。内面底部一定方向のナダ。内面側部に摩擦痕。	
	*	17	*	坏	(12.2)	3.0		7.4	チャート、赤色風化礫の細粒砂、火山ガラスを含む。器表は滑らかな感触。にぶい青褐色。外底側部凹凹。外底へラ切り後比較的丁寧なナダ。内底2mmの平行線。	
	*	18	*	坏	12.2	3.0		7.0	チャートの細粒砂、少量の赤色風化礫の細粒砂、長石の細粒砂、火山ガラスを含む。橙色。全体に体部は比較的薄手の仕上がり。体部横ナダ。底部分割成形。多方向のナダ。内底横ナダ。左右でプロポーションが異なる。	
	*	19	*	坏	13.2	(3.1)		7.8	チャートの細粒砂、赤色風化礫の細粒砂、火山ガラスを含む。精選された粒ナダ。にぶい黄橙色。体部横ナダ。外底へラ切り後比較的丁寧なナダ。内底回転ナダ。内底横ナダ。中心に短いナダ。	外面に黒斑。
	*	20	*	坏	(11.2)	2.7		8.2	チャート、赤色風化礫の細粒砂、長石の細粒砂、火山ガラスを含む。橙色。体部横ナダ。外底へラ切り後比較的丁寧なナダ。幅5~6.5mmの平行圧縮帯がある。これは全て横ナダ。内面は器表の荒れが激しいが無真が認められる。	
	*	21	*	坏	(12.2)	2.7		8.2	チャートの細粒砂、微量の火山ガラスを含む。細粒砂が多くザラついた手触り。にぶい黄橙色。外底へラ切り後比較的丁寧なナダ。内底回転ナダ。内底横ナダ。中央に短いナダ。幅5~7mm程度の粘土純積巻上成形。他の全て横ナダ。	
	*	22	*	坏	(12.0)	3.0		7.4	チャートの細粒砂、赤色風化礫の細粒砂、火山ガラスを僅かに含む。にぶい黄橙色。外底へラ切り後比較的丁寧なナダ。内底2mmの平行線。内底一定方向のナダ。他の全て横ナダ。	
	*	23	*	坏	12.8	3.0		8.4	チャート、赤色風化礫の細粒砂、火山ガラスを含む。橙色。体部横ナダ。外底へラ切り後比較的丁寧なナダ。内面体部摩耗。内底接合部に強い横ナダ。	
	*	24	*	坏	11.4	2.9		8.0	チャートの細粒砂。赤色風化礫の細粒砂。火山ガラスを含む。微細な気泡が多くザラついた印象。橙色。体部横ナダ。外底へラ切り後比較的丁寧なナダ。粘土純積が残る。内底横ナダ。	
器	*	25	*	坏	11.6	3.6		6.5	チャート、赤色風化礫の細粒砂、火山ガラスを含む。橙色。外底底部回転ナダ。切り後比較的丁寧なナダ。内底回転横ナダにより斜めをなす。他の全て横ナダ。	
	*	26	*	坏	12.2	3.5		8.0	チャート、赤色風化礫の細粒砂、火山ガラスを含む。橙色。外底へラ切り後比較的丁寧なナダ。内底回転ナダ。他の全て横ナダ。体部内面に「茎のよう」織維状斑点。内面口縁端部横ナダにより緩く變じる。	
	*	27	*	坏	12.4	3.0		8.0	チャート、赤色風化礫の細粒砂、火山ガラスを含む。橙色。体部横ナダ。外底へラ切り後ナダ。内底横ナダ。内底は黒く、外底は白い。	
	*	28	*	坏	11.6	3.2		7.8	チャートの細粒砂、長石の細粒砂、少後の赤色風化礫の細粒砂、火山ガラスを含む。橙色。体部横ナダ。外底へラ切り後、比較的丁寧なナダ。内底は圓転ナダ。体部との間に明瞭な段差をもつ。	
	*	29	*	坏	(12.0)	3.4		7.5	チャートの細粒砂、少量の赤色風化礫の細粒砂、火山ガラスを含む。橙色。体部横ナダ。外底へラ切り後、比較的丁寧なナダ。内底は圓転ナダ。体部との間に明瞭な段差をもつ。輪縁右目り。	

種類	Fig. No.	鉢番号	出土地点	器種	法量(cm)				参考
					口径	器高	脚径	底径	
土	Fig. 5	3 0	S83	坏	12.0	3.0		7.6	チャートの細粒砂、赤色風化塵の細粒砂、火山ガラスを含む。浅黄色。体部横ナデ。外底ハラ切り後ナデ。周縁部6mmの粘土被膜が認められる。留ナデ。内底回転ナデ。
	*	3 1	*	坏	12.6	3.1		7.3	チャートの細粒砂、火山ガラスを含む。暗褐色。外底口縁部横ナデ。内面に棱ができる。体部横ナデ。頭部下部強いて横ナデで浅いが底面に凹む。外底幅11mmの粘土被膜、ヘラ切り痕が顯著に認められる。軸1.5mm間隔で土木の平行圧痕が認められる。内底粘土被膜の被膜部に指圧しながらの横ナデを加え中央に窪いナデ。
	*	3 2	*	坏	12.1	2.9		7.6	チャートの細粒砂、赤色風化塵の細粒砂、火山ガラスを含む。暗褐色。外底ハラ切り後ナデ。わずかに軸被膜が残る。内面口縁部の半分以上で内側に窪い壁をなす。他は全て横ナデ及び倒立ナデ。周縁右回り。
	*	3 3	*	坏	12.0	(3.0)		(8.2)	チャートの細粒砂、少量の赤色風化塵の細粒砂、火山ガラスを含む。ザラついた乱れ部にぶい茶褐色。体部横ナデ。外底周縁部に較的丁寧なナデ。内底接合部に強い横ナデを加える。接合部で欠損。
	*	3 4	*	坏	12.6	3.1		7.5	チャートの細粒砂、赤色風化塵の細粒砂、火山ガラスを含む。暗褐色。外底表面変化が著しい。内底は凹凸ナデ。体部との境に明瞭な凹凸あり。右側のみ突出し、調整の不要箇が少なく整った仕上がり。
	*	3 5	*	坏	12.4	3.0		8.4	チャートの細粒砂、微等の赤色風化塵の細粒砂、少量の長石繊維砂、火山ガラスを含む。暗褐色。外底表面変化が著しい。内底には凹凸ナデ。体部との境に明瞭な凹凸あり。右側のみ突出し、調整の不要箇が少なく整った仕上がり。
	*	3 6	*	坏	13.1	3.1		8.2	チャートの細粒砂、微等の赤色風化塵の細粒砂、少量の火山ガラスを含む。暗褐色。外底表面変化が著しい。内底には凹凸ナデ。外底ハラ切り後ナデと思われる。軸1.5mm間隔で左回転ナデ。若干歪みあり。
	*	3 7	*	坏	13.0	2.6		6.8	チャートの細粒砂、赤色風化塵の細粒砂、火山ガラスを含む。外底回転ナデ。外底ハラ切り後ナデ。周縁部の原位回転状に見える。内底口部や右側ができる。
	*	3 8	*	坏	12.1	3.2		7.7	チャート、赤色風化塵の細粒砂、火山ガラスを含む。精耕された土上。暗褐色。外底回転ナデ。外底に3~4条の輪縫目。外底ハラ切り後ナデ。幅1~2mmの平行圧痕に明瞭に残る。内底底部に体部・接合部に粘土被膜接合部で観察される。内底回転ナデ後一定方向ナデを比較的広く施す。
	*	3 9	*	坏	12.9	3.3		7.1	チャートの細粒砂、少量の赤色風化塵の細粒砂、火山ガラスを含む。精耕された土上。暗褐色。外底回転ナデ。内面に棱を作り、外底横幅10mmの横ナデで内面に棱を作り、外底接合部とハラ切り痕が明瞭、周縁部は粘土被膜と立ち上がりが美ナデで仕上げられていると考えられる。しかし底部と体部の境は明瞭。内底横ナデ、中央部に一定方向のナデ。全体に薄手の仕上がり。
器	*	4 0	*	坏	12.0	(3.0)		7.9	チャートの細粒砂、少量の赤色風化塵の細粒砂、火山ガラスを含む。暗褐色。体部横ナデ。外底ハラ切り後ナデ。内底回転ナデ。左側と右側が反り返ったように垂む。口縁部内面に小さな窪溝状痕。やや底成不足で唇表の變れが激しい。
	*	4 1	*	坏	12.5	3.4		8.0	チャートの細粒砂、長石繊維砂、火山ガラスを含む。暗褐色。外底体部横ナデ。軸1.5mm間隔でハラ切り後ナデ。輪縫度の平行圧痕を認め、粘土被膜が残る。内底体部回転を利用した施用があり、ヘラ削りの可能性あり。底部軸を利用したナデ。
	*	4 2	*	坏	12.0	4.6		7.6	チャートの細粒砂、長石繊維砂、火山ガラスを含む。ぶい茶褐色。外底体部横ナデ及び倒立横ナデ。底部周縁部6mmの粘土被膜が残る。外底ハラ切り後ナデ。周縁部上反する。内底回転ナデ後中央にひだナデ。

種類	Fig. No.	種図番号	出土地点	器種	法量(cm)				参考
					口径	器高	横幅	底径	
土瓶	Fig. 5	4 3	SK3	坏	13.2	4.3		7.0	チャートの細粒砂、赤色風化礫の粗粒砂。火山ガラスを含む。にい黄褐色。凹凸少ない器壁は薄く、土手のはみ出しもなく全面均一な構造で底面も整う。全体に技法の熟練を感じる。外底へラ切り後ナデ。内底機ナデ。他は全て横ナデ。
	*	4 4	*	坏	(12.6)	3.3		7.4	チャートの細粒砂、長石ガラス含む。にい黄褐色。外面口唇部ナデにより内に残、外底へラ切り後凹縁部のみナデ。粘土紐残る。内底面機ナデ。他は全て横ナデ。
土	*	4 5	*	坏	(13.1)	5.0		7.8	チャートの細粒砂、長石細粒砂、赤色風化礫の粗粒砂。火山ガラスを含む。にい黄褐色。外底へラ切り後ナデ。内底は比較的丁寧なナデ。他は丁寧な横ナデ。瓶縁右回。
	*	4 6	*	坏	(13.0)	4.6		7.8	チャート、赤色風化礫、長石の細粒砂、火山ガラスを含む。桜色。外底へラ切り後比較的丁寧なナデ。周縁部で土手はみ出る2~3mm間隔の平行仕削が45度端で認められる。内底機ナデ。体部機ナデ。内底に接合痕が認められる。
瓶	*	4 7	*	坏	12.7	4.3		7.8	チャート細粒砂、少量の赤色風化礫、火山ガラスを含む。外底へラ切り後、比較的丁寧なナデ。精巧なナデ。内底間にひとナデ。他は全ナデ。
	*	4 8	*	坏	13.0	(3.8)		8.3	チャート細粒砂、少量の赤色風化礫、長石の細粒砂、火山ガラスを含む。にい黄褐色。体部機ナデで瓶面には整ったら条のビーチの小さな施設目を見る。外底へラ切り後比較的丁寧なナデと思われる。
瓶	*	4 9	*	坏	13.8	4.1		7.4	チャートの細粒砂、赤色風化礫、長石の細粒砂。火山ガラスを含む。にい黄褐色。外面体部に輪郭へ6mmの削りが良く施された輪郭目を残す。外底へラ切り後ナデと思われる。内底底面と体部底面の約3mm上方に斜面機なし、底の部分を横ナデする。内底面部機ナデ。
	Fig. 6	5 0	*	坏	12.0	3.1		7.8	チャート、赤色風化礫の粗粒砂を含む。浅黄褐色。外底面機ナデ。外底に回転へラ切り痕、周辺部ナデ調整。
器	*	5 1	*	坏	12.5	3.4		8.4	チャートの細粒砂を少量、赤色風化礫の粗粒砂を含む。精巧な仕削された胎土。浅黄褐色。内外面機ナデ。外底回転へラ切り、弱いナデ。底面円滑成。
	*	5 2	*	坏	10.9	3.5		6.6	チャートの細粒砂、少量の赤色風化礫の細粒砂を含む。にい黄褐色。外底へラ切り後主に周縁部機ナデ。毎3~5mmの平行仕削が認められる。弱いナデ先を押しあたってたとうな凹凸が認められる。内底機ナデ後ナデ。
器	*	5 3	*	坏	12.5	3.5		7.0	チャートの細粒砂を少量、長石細粒砂、赤色風化礫の細粒砂、火山ガラスを含む。桜色。体部機ナデ。外底幅7~9mmの粘土紐強とへラ切り仕方の痕跡が残る。一部の土手はみ出しあるナデ上げ、平行仕削が認められる。内底粘土紐張、回転ナデ、中央に一定方向のナデ。
	*	5 4	*	坏	(11.8)	3.1		6.4	チャートの細粒砂、少量の長石細粒砂、赤色風化礫の細粒砂、火山ガラスを含む。桜色。体部機ナデ。外底幅7~9mmの粘土紐強とへラ切り仕方の痕跡が残る。一部の土手はみ出しあるナデ上げ、平行仕削が認められる。内底粘土紐張、回転ナデ、中央に一定方向のナデ。
器	*	5 5	*	底部		(1.7)		7.4	チャート、赤色風化礫の粗粒砂、少量の長石細粒砂、火山ガラスを含む。にい黄褐色。体部機ナデ。外底へラ切り後比較的丁寧なナデ。2mm単位の平行仕削。内定右回転のナデ。体部との接合部は強い回転ナデを施し、圧着している。左右のプロボーションが異なる。
	*	5 6	*	底部		(1.9)		7.2	チャートの細粒砂、少量の赤色風化礫の粗粒砂を含む。精選された胎土。桜色。体部機ナデ。外底へラ切り後弱いナデ。内底回転ナデ。底部は指しながらの回転ナデによって形成されたと見られ、断面では薄い薄片に剥離、欠損している。

種類	Fig. No.	絆図番号	出土地点	器種	法量(cm)				特徴	備考
					口径	器高	脚径	底径		
土範	Fig. 6	5 7	SK3	底部		3.0		7.4	チャート、長石の粗粒砂、赤色風化層の細粒砂、火山ガラスを含む。にぶい褐色。上部調整不明。脚部横ナヂ。谷に内面は強い横ナヂ。	
	*	5 8	*	底部		(2.1)		6.9	チャートの粗粒砂を含む。橙色。全面赤彩。底面良好。底部内外は丁寧なナヂ。高台内外は横ナヂ。	
	*	5 9	*	底部		(3.3)		7.8	チャートの細粒砂、少量のチャート粗粒砂、赤色風化層の細粒砂を含む。にぶい褐色。体部横ナヂ。外底ヘラ切り後ナヂ。内底回転ナヂ。接合部に強い横ナヂ。高台内外とも強い横ナヂで谷に接合部の内外は強い横ナヂ。	
	*	6 0	*	底部		(2.3)			チャートの細粒砂、赤色風化層の細粒砂、火山ガラスを含む。精選された胎土。にぶい褐色。脚部の荒れが激しくて不規則である。内面は極めて滑り易く動きが利く。外底ヘラ切り後ナヂ。高台及びその接合部は横ナヂ。内底粘土接合部に指圧しながらの螺旋形横ナヂ。	
	*	6 1	*	底部		(3.2)		(8.0)	微量のチャート細粒砂、赤色風化層の細粒砂、火山ガラスを含む。精選された胎土。にぶい褐色。外表面は体部→高台へ漸減した面を呈す。外底ヘラ切り後ナヂ。高台及びその接合部は横ナヂ。内底粘土接合部に指圧しながらの螺旋形横ナヂ。	
	*	6 2	*	皿 底部		(1.8)		17.0	チャートの細粒砂を含む。褐色。全面赤彩。体部調整不明。高台は相手1cmの粘土帯を形成する。内側に向って狭くなります。高台及びその接合部付近には横ナヂが見られる。	
	*	6 3	*	坏 底部		(1.5)		6.8	微量のチャート、微量の赤色風化層の細粒砂、火山ガラスを含む。にぶい黄褐色。精選された胎土。外底ヘラ切り後斜め横ナヂ。周縁にやや粘土帯がみ出している。内底は中央から周縁へ向けての回転ナヂ。他は全て横ナヂ。	
	*	6 4	*	底部		(2.5)		5.6	チャート、赤色風化層の細粒砂、火山ガラスを含む。精選された胎土。にぶい褐色。外底ヘラ切り後リム部とへら切り直ぐなる。幅4~7mmの平行圧痕が認められる。内底回転ナヂ後ナヂ。	
	*	6 5	*	底部		(1.5)		7.3	チャート、赤色風化層の細粒砂、火山ガラスを含む。普段は体部横ナヂ。外底粘土接合部とへら切り直ぐなる。幅4~7mmの平行圧痕が認められる。内底回転ナヂ後ナヂ。	
	*	6 6	*	坏 底部		(2.1)		7.6	チャートの細粒砂、赤色風化層の細粒砂、火山ガラスを含む。精選された胎土。にぶい褐色。外底ヘラ切り直ぐなる。粘土帯が残る。周縁部のみ横ナヂ。外縁に粘土帯がみ出す。内底横ナヂ後一定方向のナヂ。	
器	*	6 7	*	坏 底部		(3.5)		7.7	微量のチャート、赤色風化層の細粒砂、火山ガラスを含む。にぶい黄褐色。体部横ナヂ。外底黄褐色で横ナヂ。内底黄褐色で横ナヂ。周縁部のみ横ナヂ。外縁に粘土帯がみ出す。内底横ナヂ後一定方向のナヂ。	
	*	6 8	*	坏 底部		(3.1)		8.2	チャートの細粒砂、赤色風化層の細粒砂を含む。精選された胎土。浅黄褐色。外表面全面に赤色。体部横ナヂ。内底回転ナヂ。	
黒色土器	*	6 9	*	輪	15.2	(2.0)			チャートの細粒砂、多量の角閃石微細粒を含む。極めて精良な胎土。施成堅板。にぶい黄褐色。外表面は横ナヂ。内面回転ヘラ磨き、口縁端部に横ナヂ痕残る。	
	*	7 0	*	輪	14.4	(4.0)			石英、チャート細粒砂～微量の粗粒砂、白雲母、黑色細粒砂を含む。精選された胎土。にぶい褐色。外表面は上一一下への削り。内面は粘土粘土巻上及び拂り目が残る。外表面にも接合板が一部剥離状態。	
土器	*	7 1	*	高坏 脚		(6.6)			チャート、赤色風化層の細粒砂、火山ガラスを含む。精選された胎土。在地胎土。にぶい褐色。外表面は上一一下への削り。内面は粘土粘土巻上及び拂り目が残る。外表面にも接合板が一部剥離状態。	
	*	7 2	*	坏	14.8	3.1			チャート、黒色粒の細粒砂を含む。灰白色。外表面回転によるナヂ。底部ナヂ。	

種類	Fig. No.	辨別番号	出土地点	器種	法量(cm)			特徴	備考
					口径	器高	周径		
瓶 甕 壺	Fig. 6	7 3	SR3	蓋		(1.3)		チャート、長石の粗粒砂、赤色風化塵を含む。灰色。外面ナデ。底の凹も面状ナデによって形がひき出され。内面はナデによって平らに仕上げている。	
	*	7 4	*	蓋		(1.8)		チャートの細粒砂、黒色粘土をわずかに含む。灰白色。外面削り。内面ナデ、天井部に指頭圧痕を認める。	
	*	7 5	*	蓋		1.7	15.5	チャート、火山ガラスの粗粒砂を含む。底内色。外面回転によるナデ、天井部左~右方向への削り、口唇部ナデで面をとる。内面回転によるナデ。	
	*	7 6	*	蓋		(2.0)		チャート、黒色粘土の粗粒砂を含む。底内色。外面回転によるナデ、口唇部ナデで面をとる。内面回転によるナデ。	
上 部	*	7 7	*	羽釜				チャートの細粒砂~小礫、赤色風化塵の粗粒砂、長石の粗粒砂、火山ガラスを含む。にぶい褐色。外面口縁部及び鋸合部に横ナデ、体部は多方向のハケ、鋸下部に横方向のハケ。内面体部に指頭圧痕が認められる。内面が赤色。(C)	
	*	7 8	*	羽釜	21.2	(5.5)		チャートの細粒砂~小礫、赤色風化塵の粗粒砂、火山ガラスを含む。橙色。鋸は指で圧着したのみられ、上面に約4 cm間隔で指頭圧痕が残る。体部はナデ。外面上にはそれ以前に縦ハケが施された可能性がある。	外面鋸端部以下に縦47°。
部	*	7 9	*	羽釜	25.4	(5.0)		破碎されたチャート、長石、赤色風化塵の粗粒砂、少量の石英小角礫、火山ガラスを含む。底の角内石、雲母片含む。黄褐色。鋸底面の鋸合部にサザエ後、鋸下部に強い横ナデをして、その他、鋸及ヒリ縫隙部は強いため横ナデを施す。各々の面は薄葉状多くおさめられた突出をつくる。内面は滑潤に仕上げられている。	外面鋸端部以下に縦45°。
	*	8 0	*	羽釜	29.4	(3.5)		チャートの細粒砂、赤色風化塵の粗粒砂、火山ガラスを含む。にぶい褐色。鋸下部接合部に強い横ナデ。他は横ナデ。指頭圧痕が認められる。	
十 前 器	*	8 1	*	壺	27.5	(5.5)		チャート、赤色風化塵の粗粒砂、火山ガラスを多く含む。にぶい褐色。内外とも多方向の、粗雑なナデ。	
	*	8 2	*	壺		(9.2)	5.0	長石の粗粒砂を含む。精選された粘土。灰白色。頭部内外面横ナデ。内面の鋸合部直下約1 cmに削り。若干の自然邊を認める。	
瓶 甕 壺	*	8 3	*	壺		(6.1)	11.0	少量のチャートの細粒砂、微量のチャート小角礫、赤色風化塵(内面の還元面では黒色化)を含む。精選された粘土。にぶい黄褐色。外面部部を最ももって横位の削り、横ナデ。内面体部の一部は斜め上方にナデがある。高合は内外とも強い横ナデ。外面上は焼成時に微化し、にぶい黄褐色を呈する。	
	*	8 4	*	壺		(6.5)	12.0	チャートの細粒砂~小礫、長石の粗粒砂を含む。灰白色。外面上縫隙横方向及びやや左上がりの削り。内面下縫隙部横ナデ。内面に中央に向かう柔痕が認められる。高台部強い横ナデ。	
	*	8 5	*	壺		(8.3)	9.2	チャート、石英、黒色粘土を僕かに含む。灰白色。外面ナデ、底部強いナデで凹む。高台部削る。内面ナデ。	
	*	8 6	*	高坏 甕		(2.9)	8.8	チャート、黒色粘土の粗粒砂をわずかに含む。灰白色。外面ナデ、端部強くナデ凹む。内面ナデ。	
器	*	8 7	*	高坏 甕		(7.5)		チャートの細粒砂~小礫、長石の粗粒砂、火山ガラスを含む。灰白色。脚部外縫隙内面は横ナデ。内面より上部に擦り目を残す。左方向に捻りながらナデ成形。脚内と坏部外底には、螺旋状の回転ナデ軌。脚部内面は平滑に仕上げる。	
	*	8 8	*	鉢	20.6	11.3	(9.0)	少量のチャートの細粒砂、黒色粘土を含む。精選された粘土。灰白色。外面部に上半をを中心にして弱い横ナデが凸部にかかる。体~1/3部は粘土巻き上げ。直徑9 cm程度の粘土板を底部とし底切りは未調整。	
	*	8 9	*	壺	21.0	(6.2)		チャートの細粒砂、黒色(赤色風化塵の変色したもの)を含む。精選された粘土。外面上縫隙全周に横ナデ、脚部に強い横ナデ。内面脚部に回転ナデ、口縫隙と肩部に自然邊がかかる。	

種類	Fig. No.	辨認番号	出土地点	器種	法量(cm)				特徴	備考
					口径	器高	底径	底深		
胎生土器	Fig.6	9 0	SA4	鉢	23.8	(8.7)			チャート、黒色絵化粧の細粒砂・小礫、長石の小礫、赤色風化粧の粗粒砂を含む。浅黄色。外面茶褐色。瓶部に指頭圧痕を有する。下方内面が部ハケナダ。腹部ハケをナダ消す。肩部接合部頗る薄い。瓶部ナダ、器表の丸が激しい。	
	Fig.7	9 1	SA4	壺	16.1				チャート、赤色風化粧の細粒砂長石の粗粒砂・小礫を含む。橙色。外面口唇部ナダ。口縁部に指頭圧痕を有する。下方内面が部ハケナダ。瓶部に指頭圧痕を有する。下方内面が部ハケナダ。腹部ハケをナダ消す。肩部接合部頗る強くナダる。	外面底部に黒斑。
製塙土器	*	9 2	SR3						チャート、赤色風化粧の細粒砂含む。浅黄色。内面布压痕。摩耗あり。	
	*	9 3	*						チャートの細粒砂・小礫、長石粗粒砂を含む。明褐色。内面布压痕。口縁部は削ぎ落とす。面白焼き織る。	
須走型	*	9 4	*						チャート、石系の粗粒砂・小礫を含む。にぶい黄褐色。内面布目。器表の丸が激しい。	
	*	9 5	P21	壺					チャート、黒色枕、火山ガラス、長石、石英をわずかに含む。深灰色。外面口唇部に指頭圧痕を有する。下方内面が部ハケナダ。口縁部、瓶部ナダ、肩部同心円文状のあて具斑。	

遺物観察表（土錐・石器）

Fig. No.	辨認番号	出土地点	器種	法量(cm)					特徴	備考
				全長	全幅	全厚	孔径	重量(g)		
Fig.7	9 6	SR3	管状土錐	3.0	2.0	1.9	0.6	9.1	チャートの細粒砂を少量含む。精選された胎土。にぶい黄褐色。芯を用いて成形。両端は面をとる。	A-a類
*	9 7	*	管状土錐	3.7	1.6	1.7	0.5	7.3	チャートの細粒砂を含む。精選された胎土。にぶい橙色。芯を用いて成形。	両端は摩耗し、欠損している。A-a類
*	9 8	*	管状土錐	3.7	2.6	2.5	0.7	18.9	チャートの細粒砂を含む。精選された胎土。にぶい橙色。心棒を用いて成形。両端は長い面をとる。	両端は摩耗。外延に黒斑。
*	9 9	*	管状土錐	3.7	2.7	2.5	0.7	19.7	チャート、赤色風化粧の細粒砂・火山ガラス、微細の砂石小礫を含む。にぶい橙色。芯を用いて成形。	A-b類
*	1 0 0	*	管状土錐	4.4	1.8	1.7	0.7	13.5	チャート、赤色風化粧の細粒砂を含む。にぶい黄褐色。芯を用いて成形。両端は面をとる。	A-b類
*	1 0 1	*	管状土錐	4.5	2.7	2.6	0.9	18.5	チャートの細粒砂を少量、赤色風化粧の細粒砂、微細の砂石粗粒砂を含む。芯を用いて成形。	破損して出土。全体にローリングを受けている。A-b類
*	1 0 2	*	管状土錐	6.8	4.4	4.5	1.4	106.8	チャート、赤色風化粧の細粒砂を少量含む。にぶい黄褐色。外表面ナダ。両端部は曲をとる。	一部欠損。A-e類
*	1 0 3	*	有溝土錐	7.9	(3.8)	4.0		107.9	チャートの細粒砂。少量の赤色風化粧の細粒砂、火山ガラスを含む。片面に粗いハケ目らしき痕を残す。2条の溝を有する。	溝溝の一方は大きくなす。B-1類

遺物観察表（石器）

Fig. No.	辨認番号	出土地点	器種	法量(cm)				材質	特徴
				全長	全幅	全厚	重量(g)		
Fig.7	1 0 4	SA4	打製石包丁	8.8	5.7	1.1	81	頁岩	片面に自然面を残す。片面に剥離面。両側を抉る。

## 2. H区包含層・拡張I区包含層・拡張II区包含層

前回の「下ノ坪遺跡II」で、H区・拡張I区・拡張II区の遺構及び遺構出土の遺物については報告されている。ここでは、前回一部しか紹介できなかった包含層出土の遺物について報告したいと思う。なお、H区包含層・拡張I区包含層・拡張II区包含層の名称であるが、H区・拡I・II包含層と略させてもらう。

H区・拡I・II包含層からは古代に属する土師器・須恵器が比較的多量に出土している。中でも皿・壺・蓋が多く出土しているので、本文中で若干のまとめをした。また、H区・拡I・II包含層からは土錐も多量に出土しており、このことについては、考察でふれることとする。

### (1) 器種組成

土師器に対して須恵器出土量が多く、口縁部の点数では、土師器が723点、須恵器 1919点を数える。以下、土師器と須恵器に分けて、各器種毎に特徴を述べる。

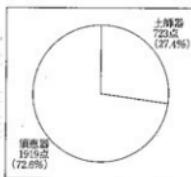


表1 土師器・須恵器割合表

#### ①土師器

口縁部から形態分類をすると、皿125点、壺165点、蓋421点、壺1点、甕10点、高壺1点に分類することが出来た。中でも比較的まとまった量が出土している、皿・壺・蓋については若干の細分類をおこなう。

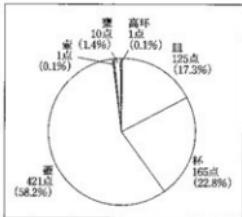


表2 土師器口縁部形状別点数割合表

#### a) 皿

土師器皿の口縁部（もしくは完形）は、723点中、125点を数え全体の17%を占める。分類は下表を参照してもらい、タイプ別の点数と割合についてのみふれていく。

表3 土師器「皿」形態分類 I (場合の有無 全125点)

分類 I	特 徴	点数
皿A	高台がつかない。平底。	31
皿B	高台がつく。	2
皿C	高台の有無不明なもの。	92

皿A類が皿B類に比べると圧倒的に多い。皿Cとした皿口縁部については、欠損度が大きく、

全体形が不明であり、高台の有無についても不明である。

表4 七輪器「皿」形態分類2 (山脚部形態分類)

分類2	特徴
a	端部がやや尖り、内面が内側する面が弱く凹む。
b	端部が屈曲し内面が凹む。
c	端部を丸くおさめる、素口様。
f	端部外面が外方へ突出、あるいは肥厚。
g	明確に外反。

以上、上記の表に従って平底であるⅢA類31点の分類をおこなうと、以下の通りである。

### ⅢA類

ⅢA-aに属するものは4点を数え、図示できるものは、Fig.8図8の1点である。

ⅢA-bに属するものは8点を数え、図示できるものはない。

ⅢA-cに属するものは10点を数え、図示できるものは、Fig.8図2,4,5,9,10の5点である。

ⅢA-fに属するものは4点を数え、図示できるものは、Fig.8図1の1点である。

ⅢA-gに属するものは5点を数え、図示できるものは、Fig.8図4の1点である。

### ⅢB類

2点が確認されるのみである。

### ⅢC類

ⅢC類は、残存部が口縁部のみである。形態分類をおこなうと、a類に属するもの8点、b類に属するもの32点、c類に属するもの31点、f類に属するもの11点、g類に属するもの10点であった。

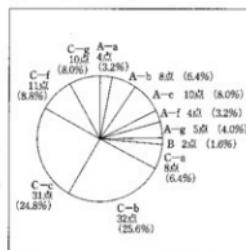


表5 上端部山脚部形態分類割合表

### b) 坏

土師器坏の口縁部（もしくは完形）は、723点中、165点を数え全体の25%を占める。

分類は下表を参照にしてもらい、タイプ別の点数と割合についてのみふれていく。

表6 土師器「坏」形態分類1 (高台の有無 全165点)

分類1	特徴	点数
坏A	高台がつかない。平底。	17
坏B	高台がつく。	4
坏不明	不明なもの。	144

表7 土器部「H」形態分類2 (口縁部形態分類 全165点)

分類2	特徴	点数
b	縁部が屈曲し内面が凹む。	36
c	端部を丸くおさめる、素口縁。	108
g	明確に外反。	19
その他	上の3者に属さないもの。	2

### 坏A類

坏A-bに属するものは2点を数え、図示できるものは、Fig.8図20の1点である。

坏A-cに属するものは15点を数え、図示できるものは、Fig.8図15, 19の2点である。

次に高台のつくB類のみ、高台の形状に着目して分類をしてみる。

表8 土器部「H」形態分類3 (B類 高台形態分類)

分類3	特徴	点数
1	下の2者に属さないもの。	1
5	高さや厚さがやや大。断面が長方形。	2
6	基部に対して先が細い。	1

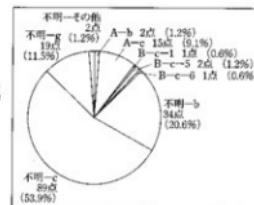
### 坏B類

坏B-c-1類に属するものは1点を数え、図示できるものは、Fig.8図24の1点である。

坏B-c-5類に属するものは2点を数え、図示できるものは、Fig.8図25の1点である。

坏B-c-6類に属するものは1点を数え、図示できるものは、Fig.8図23の1点である。

次に坏不明であるが、残存部が口縁部のみで脚部が不明なものを、口縁部での形態分類をおこなった。まず口縁部形態がb類に属するものは34点、c類に属するものは89点、g類に属するものは19点、その他に属するものは2点であった。



### c)蓋

土器器蓋の口縁部は、723点中、421点を数え全体の58%を占める。

分類は表10、11を参照にしてもらい、タイプ別の点数と割合についてのみふれていく。

表1.0 上野器「蓋」形態分類1（全体形 全421点）

分類1	特 徹	点数
蓋-1	天井部から口縁まで連続した湾曲。器高が高い。	8
蓋-2	天井部から屈曲して口縁部にいたる。	4
蓋-3	天井部から口縁部にかけて平坦。	10
蓋その他	全体形が不明なもの。	399

表1.1 上野器「蓋」形態分類2（口縁部形態 全421点）

分類2	特 徹	点数
a	外面が凹む。	5
b	外面に棱をもって屈曲。外面が面をなす。	48
c	下方への突出が少ない。端部の棱が弱く丸みをもつものもある。	94
その他	上の3者に属さないもの。	274

土師器蓋分類1で、その他に属するものについては、口縁部形態ではその他に含むこととする。

### 蓋1類 (8点)

蓋1-aに属するものは1点を数え、図示できるものは、Fig.8図30の1点である。

蓋1-bに属するものは4点を数え、図示できるものは、Fig.8図29の1点である。

蓋1-cに属するものは3点を数え、図示できるものは、Fig.8図32の1点である。

### 蓋2類 (4点)

蓋2-bに属するものは2点を数え、図示できるものは、Fig.8図27の1点である。

蓋2-cに属するものは2点を数え、図示できるものは、Fig.8図28の1点である。

### 蓋3類 (10点)

蓋3-bに属するものは5点を数え、図示できるものは、Fig.8図33,34の2点である。

蓋3-cに属するものは5点を数え、図示できるものは、Fig.8図31の1点である。

### 蓋その他 (399点)

蓋その他は、残存部が口縁部のみで全体形が不明なものであり、口縁部での形態分類のみをおこなった。まず口縁部形態がa類に属するものは4点、b類に属するものは37点、c類に属するものは84点、その他に属するものは15点である。

口縁部形態も不明な蓋口縁部点数は259点を数える。

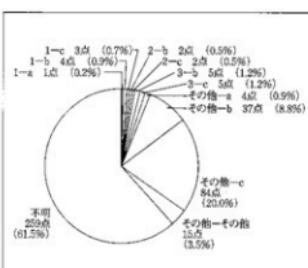


表1.2 土師器蓋口縁部形態割合点

## ②須恵器

須恵器口縁部は、細片を含むと1919点が確認できた。口縁部から形態分類をすると、皿161点、杯565点、蓋827点、壺22点、甕136点、鉢17点、高杯33点、全体不明なもの158点に分類することが出来た。この中でも比較的まとまった量が出土している、皿・杯・蓋については若干の細分類をおこなう。

### a)皿

土師器皿の口縁部（もしくは完形）は、1919点中、161点を数え全体の8%を占める。

分類は下表を参照にしてもらい、タイプ別の点数と割合についてのみふれていく。

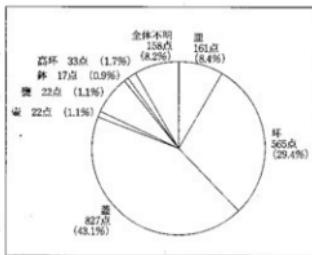


表1-3 須恵器口縁部形態別点数割合表

表1-4 須恵器「皿」形態分類1（高台の有無 全161点）

分類1	特徴	点数
皿A	平底。	160
皿B	高台がつく。	0
皿C	高台の有無不明なもの。	1

表1-5 須恵器「皿」形態分類2（口縁部形態別 点数 全161点）

分類2	特徴	点数
b	端部が屈曲し内面が凹む。	22
c	端部を丸くおさめる、素口縁。	68
d	端部の断面が方形。	20
e	端部が内傾する面をなす。	5
f	端部外面が外方へ突出、あるいは肥厚。	45
その他	上の5者に属さないもの。	1

### 皿A類

皿A-bに属するものは22点を数え、図示できるものは、Fig. 8図41, 45の2点である。

皿A-cに属するものは68点を数え、図示できるものは、Fig. 8図43の1点である。

皿A-dに属するものは20点を数え、図示できるものは、Fig. 8図37, 44の2点である。

皿A-eに属するものは5点を数え、図示できるものは、Fig. 8図38の1点である。

皿A-fに属するものは45点を数え、図示できるものは、Fig. 8図39, 42の2点である。

### 皿C類

皿C-その他に属するものは1点のみであり、図示できるものはない。

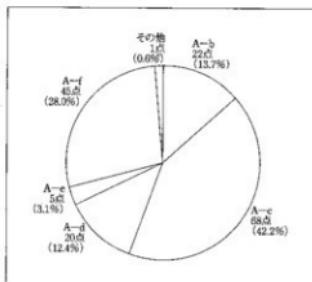


表1-6 須恵器皿口縁部形態別割合表

### b) 坏

須恵器坏の口縁部は、1919点中、565点を数え全体の29.4%を占める。

分類は下表を参照してもらい、タイプ別の点数と割合についてのみふれていく。

表17 亂色器「环」形態分類1 (高台の有無 全565点)

分類1	特徴	点数
坏A	高台がつかない。平底。	62
坏B	高台がつく。	26
坏C	底部より湾曲して立ち上がる。断面が丸みをもつ。	1
坏不明	不明である。	476

表18 亂色器「环」形態分類2 (口縁部底面分類 全365点)

分類2	特徴	点数
c	端部を丸くおさめる、素口縁。	443
g	明確に外反。	119
その他	上の2者に属さないもの。	3

#### 坏A類（平底の坏）

坏A-cに属するものは55点を数え、図示できるものは、Fig.9図55, 56, 58, 59, 60, 63の6点である。

坏A-gに属するものは7点を数え、図示できるものは、Fig.8, 9図47, 61の2点である。

次に高台のつくB類のみ、高台の形状に着目して分類をおこなう。

表19 土縁器「环」形態分類3 (高台形態分類 全365点)

分類3	特徴	点数
1	端部を内外又は外方へ拡張。端部が凹状。	6
2	端面が凹、あるいは角を描み出す。	9
3	端部を内側へ拡張。	1
4	端部を拡張しない。方形の断面。	7
5	高さや厚さがやや大きく、断面が長方形。	2
6	基部に対して先が細い。	1

#### 坏B-c類

坏B-c-1類に属するものは2点を数え、図示できるものは、Fig.8, 9図48, 57の2点である。

坏B-c-2類に属するものは8点を数え、図示できるものは、Fig.9図53の1点である。

坏B-c-3類に属するものは1点を数え、図示できるものは、Fig.9図52の1点である。

坏B-c-4類に属するものは5点を数え、図示できるものは、Fig.8図49の1点である。

坏B-c-5類に属するものは2点を数え、図示できるものはない。

坏B-c-6類に属するものは1点を数え、図示できるものはない。

#### 坏B-g類

坏B-g-1類に属するものは4点を数え、図示できるものはない。

坏B-g-2類に属するものは1点を数え、図示できるものは、Fig.8図50の1点である。

坏B-g-4類に属するものは2点を数え、図示できるものはない。

#### 坏C類

1点のみ確認できた。

#### 坏不明

坏不明であるが476点を数える。口縁部での形態分類をおこなうと、まず口縁部形態がc類に属するものは368点、g類に属するものは105点、その他に属するものは3点である。

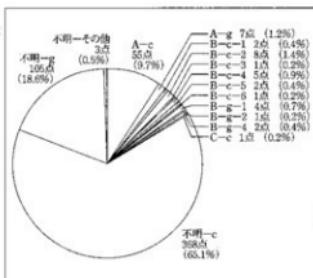


表2-0 痕跡各口縁部分類割合表

#### c)蓋

須恵器蓋の口縁部（もしくは完形）は、1919点中、827点を数え全体の43%を占める。

分類は下表を参照してもらい、タイプ別の点数と割合についてのみふれていく。

表2-1 土器器「蓋」形態分類表（全休形：1919点）

分類1	特徴	点数
蓋-1	天井部から口縁まで連続した溝曲。器高が高い。	104
蓋-2	天井部から屈曲して口縁部にいたる。	104
蓋-3	天井部から口縁部にかけて平坦。	92
蓋-4	2段の稜をなすもの。	12
蓋その他	全体形が不明なもの。	515

表2-2 本附器「蓋」形態分類表2（口縁部形態 蓋と、その他類：300点）

分類2	特徴	点数
a	外面が凹む。	32
b	外面に稜をもって屈曲。外面が面をなす。	158
c	下方への突出が少ない。端部の稜が弱く丸みをもつものもある。	104
その他	上の3者に属さないもの。	6

#### 蓋1類

蓋1-aに属するものは16点を数え、図示できるものは、Fig.9図72の1点である。

蓋1-bに属するものは66点を数え、図示できるものは、Fig.9図67, 83の2点である。

蓋1-cに属するものは22点を数え、図示できるものは、Fig.9図82, 85の2点である。

#### 蓋2類

蓋2-aに属するものは7点を数え、図示できるものは、Fig.9図81の1点である。

蓋2-bに属するものは46点を数え、図示できるものは、Fig.9図68, 74, 87の3点である。

蓋2-cに属するものは48点を数え、図示できるものは、Fig.9図73の1点である。

蓋2-その他に属するものは3点を数え、図示できるものはない。

#### 蓋3類

蓋3-aに属するものは9点を数え、図示できるものは、Fig.9図69の1点である。

蓋3-bに属するものは46点を数え、図示できるものは、Fig.9図70, 71の2点である。

蓋3-cに属するものは34点を数え、図示できるものは、Fig.9図75, 84の2点である。

蓋3-その他に属するものは3点を数え、図示できるものはない。

#### 蓋4類

蓋4に属するものは12点を数え、図示できるものは、  
Fig.9図74, 76, 77の3点である。

#### 蓋その他

蓋その他に属するものは513点を数え、全体形が不明なものである。

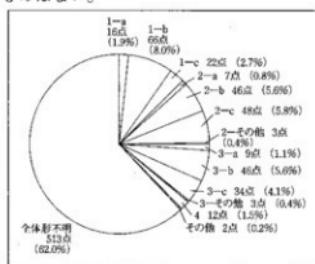


表2-3 損傷部蓋口総合割合表

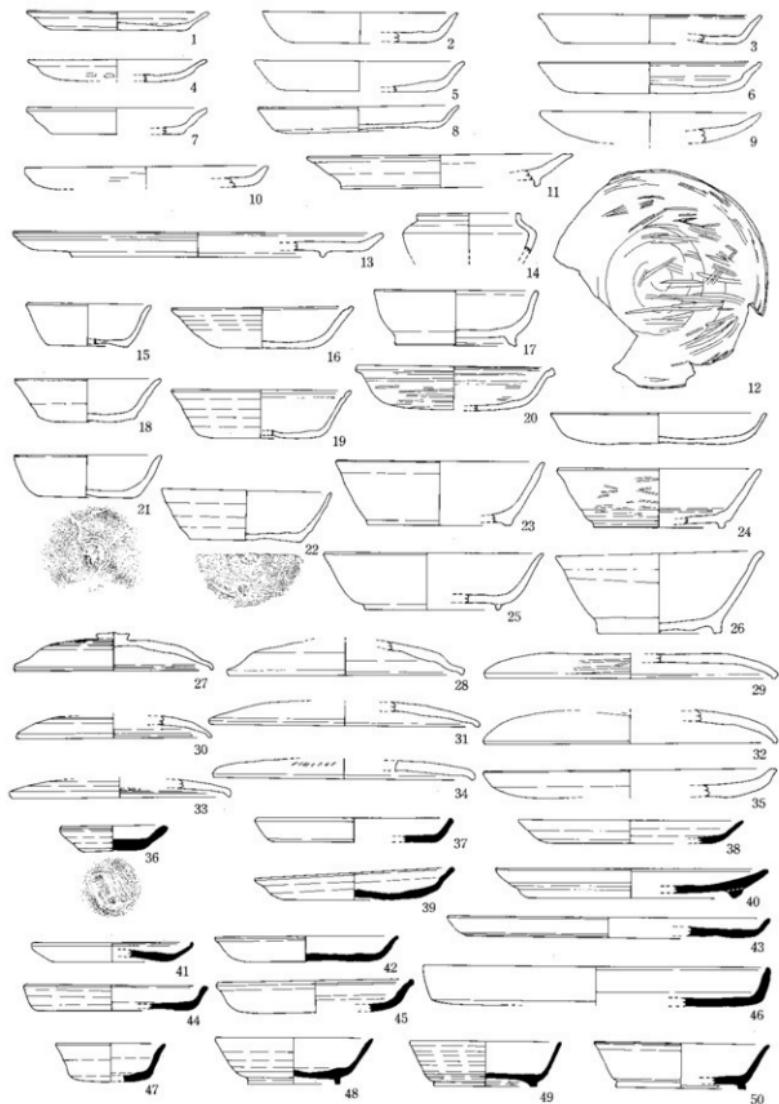


Fig.8 H区・塚I・II包含層出土遺物実測図

0 10cm

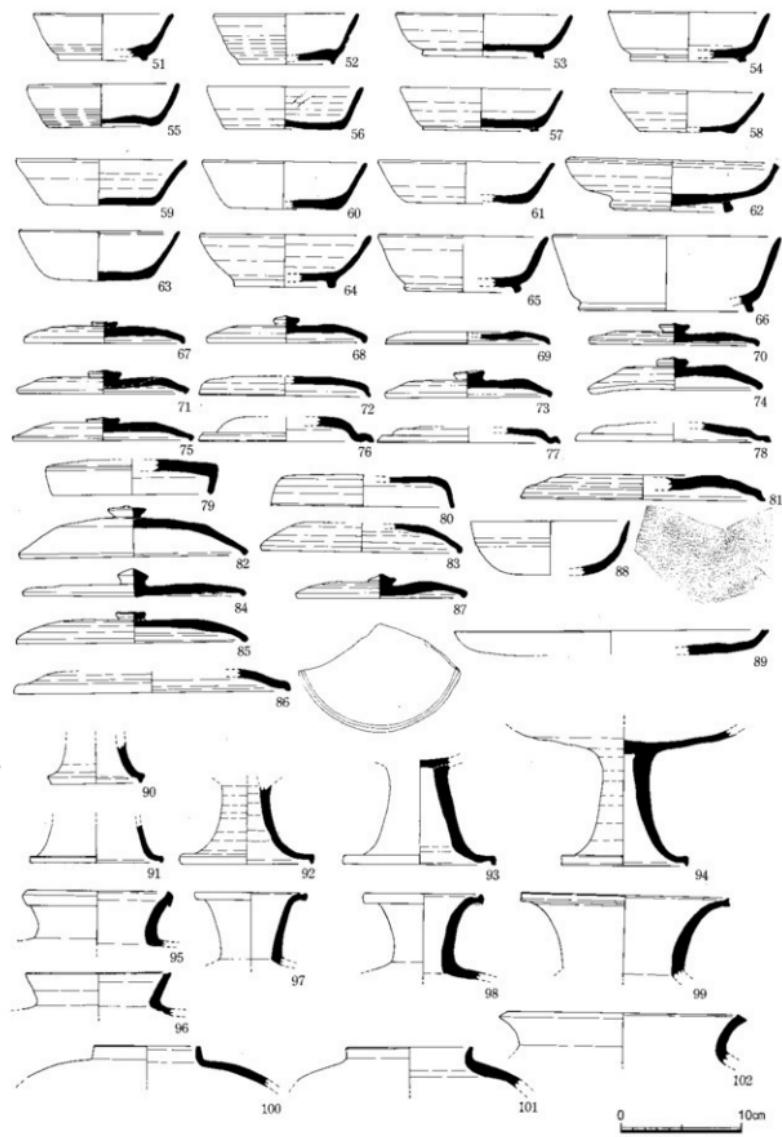


Fig.9 H区・坑I・II包含層出土遺物実測図

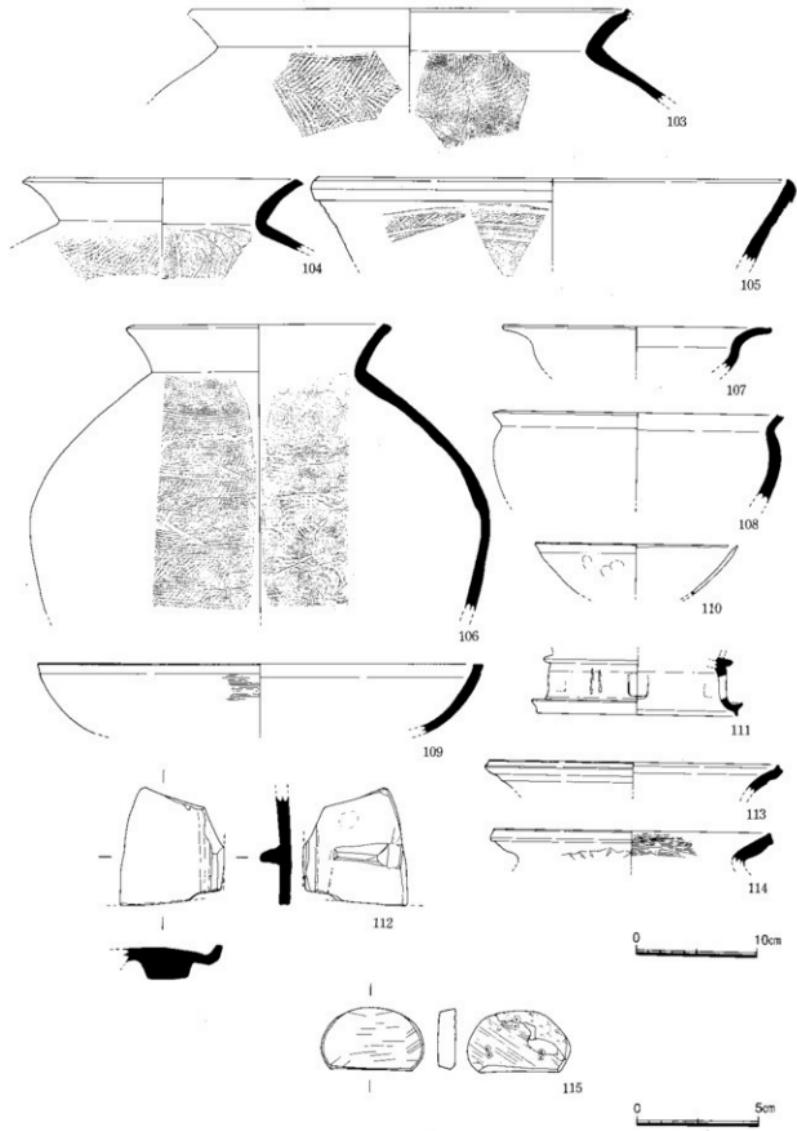


Fig.10 H区・拡I・II包含層出土遺物実測図

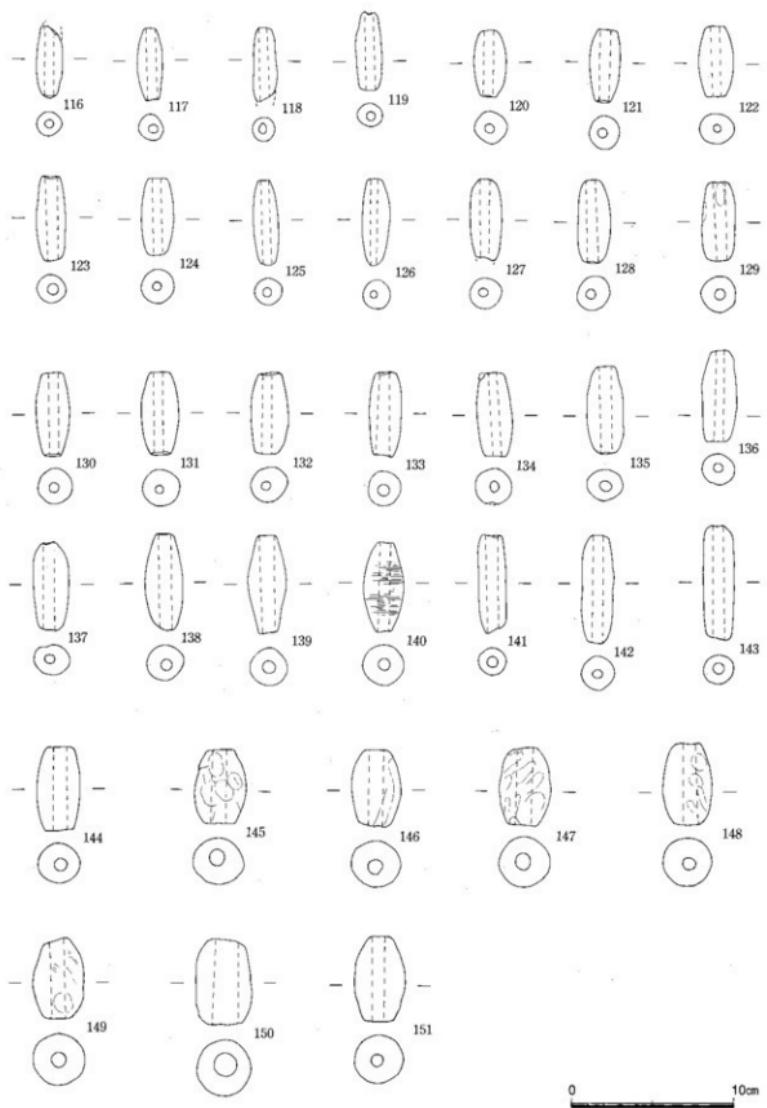


Fig.11 H区・拠I・II包含層出土土錘実測図  
(管状土錘A-a類:116~119、管状土錘A-b類:120~143、  
管状土錘A-C類:144~151)

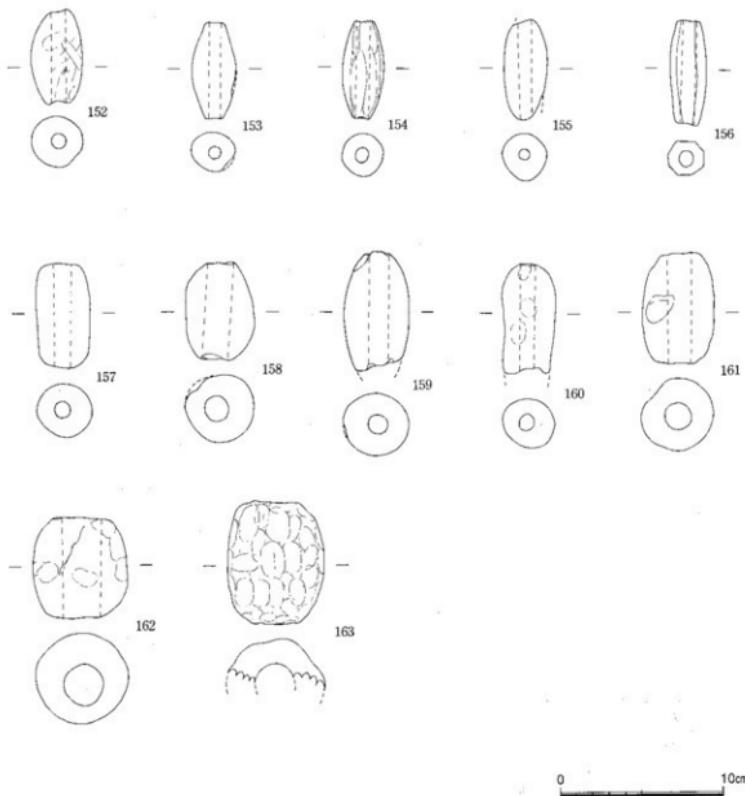


Fig.12 H区・抜I・II包含層出土土錘実測図  
(管状土錘A-c類:152~156、管状土錘A-d類:157~160  
管状土錘A-e類:161~163)

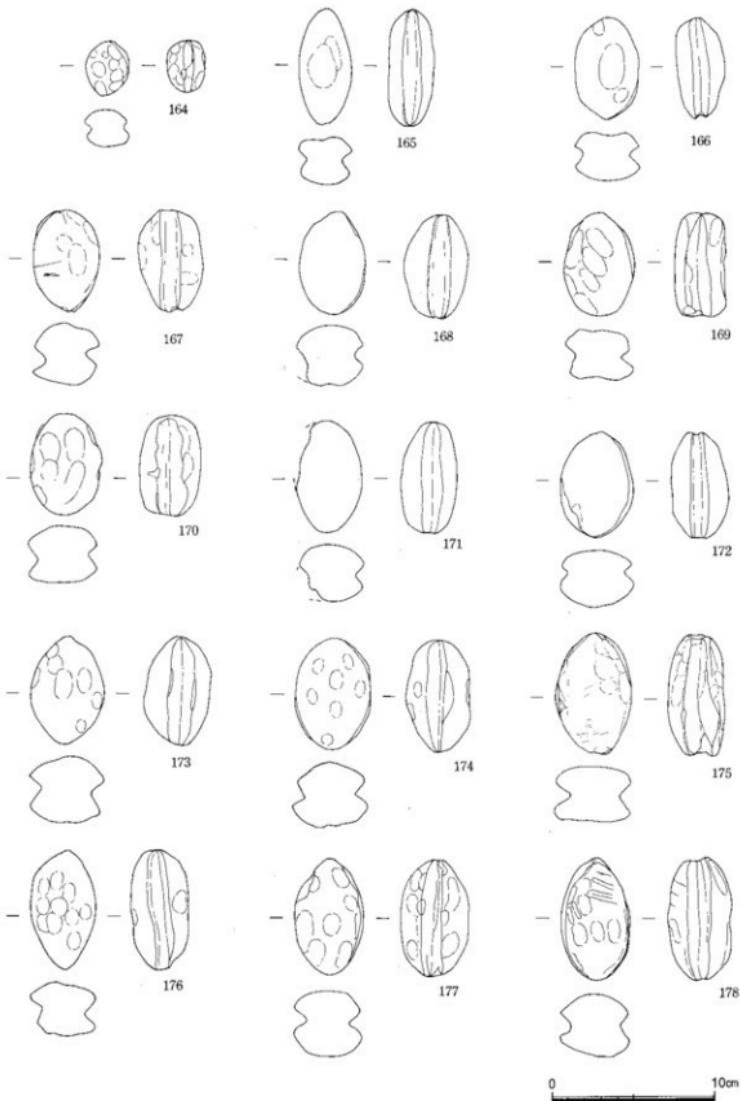


Fig.13 H区・拡I・II包含層出土土鍾実測図  
(有溝土鍾B-1類:164~178)

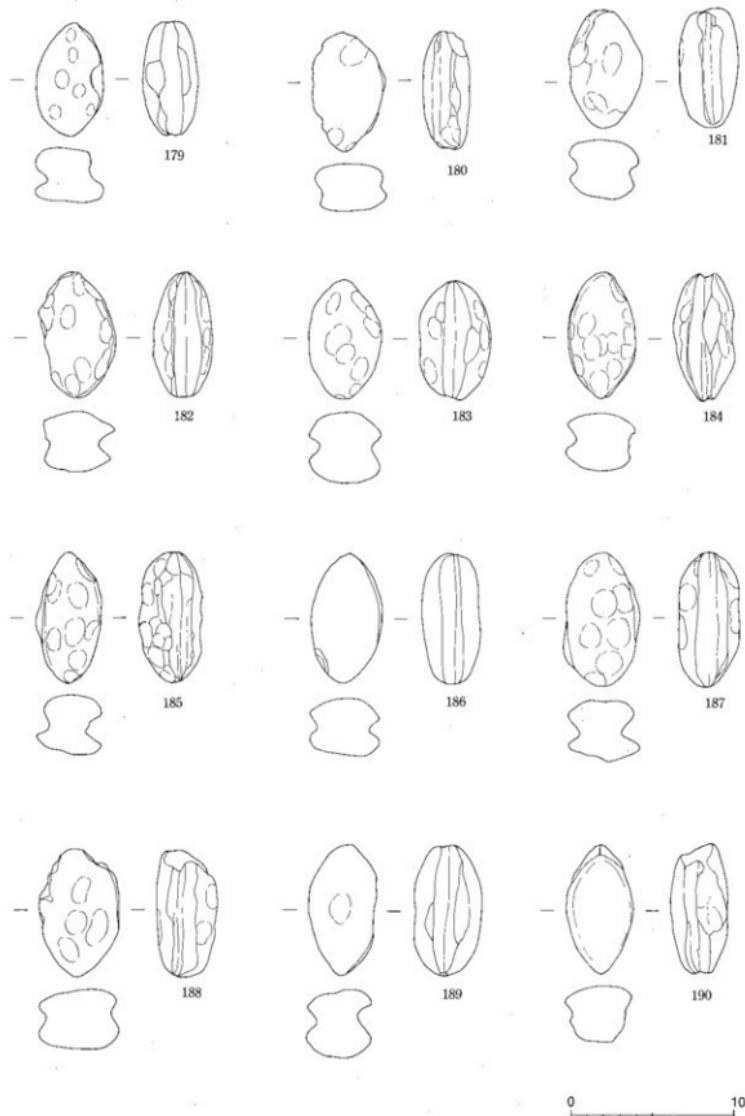


Fig.14 H区・抜I・II包含層出土土鍾実測図  
(有溝土鍾B-1類:179~190)

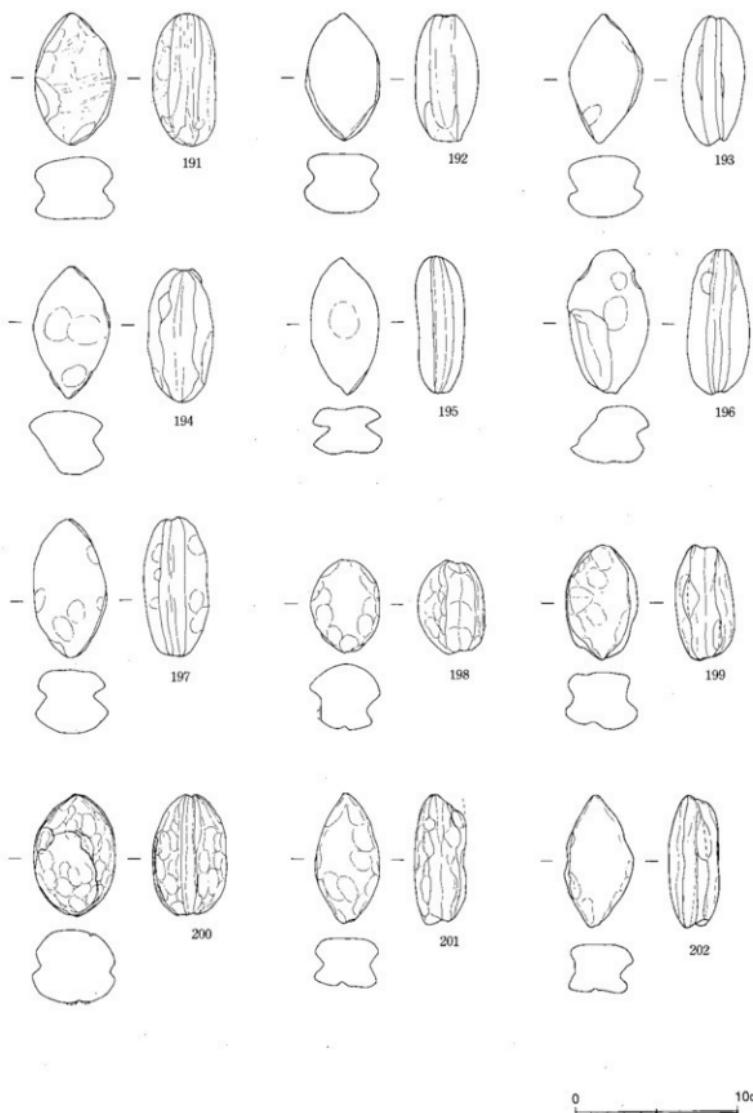


Fig.15 H区・拠I・II包含層出土土鍤実測図  
(有溝土鍤B-1類:191~197、有溝土鍤B-2類:198~202)

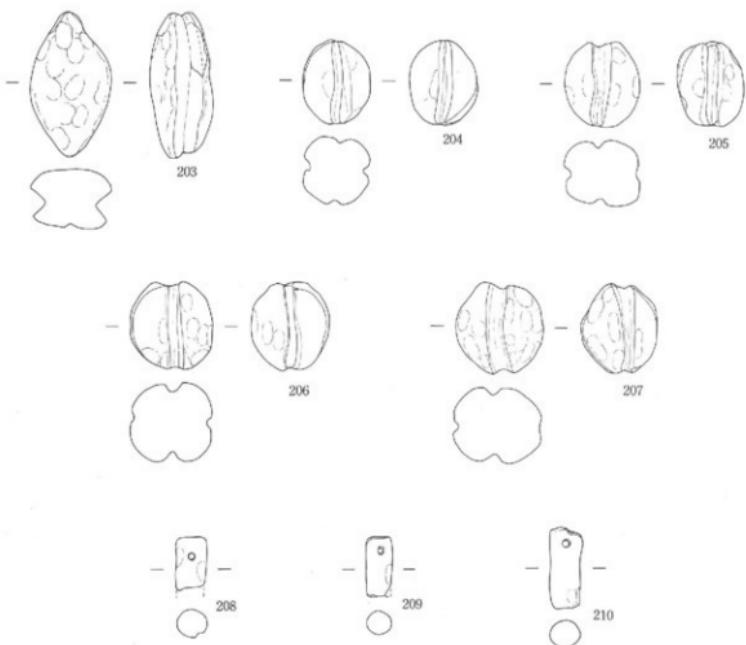


Fig.16 H区・I区・II区包含層出土土錘実測図  
(有溝土錘B-2類:203、有溝土錘B-3類:204~207  
棒状土錘C類:208~210)

0 10cm

H区・坑I・II 包含層遺物観察表(土器)

種類	Fig. No.	辨別番号	出土地点	器種	法量(cm)			特徴	備考
					口径	器高	腹径		
上部	Fig. 8	1	包含層	皿	15.0	1.5		10.8 チャート、赤色風化塵の粗粒砂、長石を含む。浅黃橙色。外壁ナデ、体部は強いナデにより細くなり口縁部は肥厚する。底部削輪ヘラ切り後ナデ。内面ナデ。	
	*	2	*	皿	16.0	2.5		11.0 チャート、赤色風化塵の粗粒砂を含む。橙色。	
	*	3	*	皿	18.2	2.4		14.1 チャート、赤色風化塵の粗粒砂を含む。にぶい黄褐色。口縁部は僅かに外反しながら縦筋で上方に立ち上がる。口縁部内面に沈線を認める。	
	*	4	*	皿	14.8	1.7		赤色風化塵の粗粒砂を含む。橙色。口縁部外面の字状に屈曲する。器表の荒れが激しい。	
	*	5	*	皿	17.2	2.5		チャート、赤色風化塵の粗粒砂を僅かに含む。浅黃橙色。洗練された胎土。	
	*	6	*	皿	18.0	2.6		13.2 チャート、赤色風化塵の粗粒砂を含む。にぶい黄褐色。口縁部内面に細かなナデにより沈線が認められる。内外面とも器表の荒れが激しい。	
	*	7	*	皿	14.8	2.2		赤色風化塵の粗粒砂を含む。橙色。口縁部は外反する。	
	*	8	*	皿	16.5	2.0		11.5 赤色風化塵の粗粒砂～小礫を多く含む。にぶい黄褐色。器表の剥離が激しく観察不可能。	
	*	9	*	皿	19.0	2.6		チャート、赤色風化塵の粗粒砂を含む。にぶい橙色。器表の荒れが激しく観察不可能。	
	*	10	*	皿	20.0	1.7		チャートの粗粒砂を含む。にぶい黄褐色。器表の荒れが激しい。	赤彩。
	*	11	*	皿	20.7	2.6		16.2 チャートの粗粒砂を含む。にぶい黄褐色。内外面ナデ。口縁部は僅かに崩壊し、内面に沈線を認める。	
	*	12	*	皿	17.8	2.6		チャート、赤色風化塵の粗粒砂を含む。橙色。外縁部等強烈なナデで面を取り外方に肥厚する。その際はナデ+ハラ巻き、底部削輪ヘラ切り後ナデ+ハラミガキ。内面ナデ。	
	*	13	*	皿	30.4	1.9		20.8 チャート、赤色風化塵の粗粒砂を含む。高台は断面逆三角形。	赤彩。
器	*	14	*	甕	8.4	(3.3)		チャート、赤色風化塵の粗粒砂を含む。橙色。器表の荒れが激しく観察不可能。	
	*	15	*	甕	10.2	3.4		6.6 赤色風化塵の粗粒砂を含む。にぶい橙色。器表の剥離が激しく観察不可能。上げ底風。	
	*	16	*	甕	15.0	3.3		チャート、赤色風化塵の粗粒砂を含む。橙色。内外面ナデ。底沿部はヘラ切り痕。口縁部内面強烈ナデにより沈線状になる。	
	*	17	*	甕	13.5	4.5		10.0 チャート、赤色風化塵の粗粒砂～粗粒砂を含む。高台強烈ナデ。器表は外方に強烈出し内側を強くナデする。底部ヘラ切り痕が残る。内面口縁部に沈線が僅かに残る。内面強烈とも器表の荒れが激しい。内外面とも赤彩が見られる。	
	*	18	*	甕	12.0	3.5		7.6 チャート、赤色風化塵の粗粒砂を含む。浅黄褐色。内外面ナデ。	
	*	19	*	甕	14.7	5.0		10.2 チャートの粗粒砂を含む。にぶい黄褐色。内外面ナデ。外面上平行圧痕を認める。	
	*	20	*	甕	16.0	3.6		チャートの粗粒砂～小礫を含む。にぶい橙色。内外面ナデ。口縁部は大きく外反し、内面に沈線が認められる。口唇部は強いナデで面をなす。内面に粘土絆痕が認められる。	
	*	21	*	甕	12.0	3.4		8.0 チャート、赤色風化塵の粗粒砂を含む。橙色。内外面ナデ。底削輪ヘラ切り痕。器表の荒れが激しい。	
	*	22	*	甕	13.8	4.1		9.0 チャートの細粒砂を僅かに含む。浅黄褐色。内外面ナデ。外面上平行圧痕が認められる。器表の荒れが激しい。	
	*	23	*	甕	17.0	5.3		11.6 泥岩、赤色風化塵の粗粒砂～小礫を含む。にぶい黄褐色。器表の剥離が激しく観察不可能。	
	*	24	*	甕	16.6	4.9		10.9 チャート、赤色風化塵を含む。にぶい橙色。外壁ナデ。高台の底付部は強いナデ。底付痕明瞭。	

種類	Fig. No.	絵図番号	出土地点	器種	法量(cm)				特徴	備考
					口径	器高	胴径	底径		
土器	Fig. 8	25	包含層	壺					赤色風化縫の粗粒砂を僅かに含む。器表の荒れが激しく観察不可能。	
	*	26	*	鉢	16.8	6.6		10.2	チャート、赤色風化縫の粗粒砂を含む。淡黄褐色。口縁部に堆積する。外沿の底付黒斑著。	
	*	27	*	蓋	16.4	3.1			チャート、赤色風化縫の粗粒砂を含む。褐色。内外面ナデ。外面上部反時計回りの削り。口縁部内面に沈線。	
	*	28	*	蓋			(2.7)	19.2	チャートの粗粒砂を含む。灰黄色。脇曲部の跡が明瞭。器表の荒れが激しい。	
	*	29	*	蓋	13.8		(2.0)		チャートの粗粒砂を含む。明赤褐色。外側へラ原筋。内面器表の剥離が激しい。	
	*	30	*	蓋			(1.8)	16.0	チャート、赤色風化縫の粗粒砂を含む。褐色。外面上部反時計回りの削り。他はナデ。	口縁部に黒斑。
	*	31	*	蓋	22.1	(1.9)			赤色風化縫の小襷を含む。褐色。器表の荒れが激しく観察不可能。	
	*	32	*	蓋	23.9	(2.7)			チャートの粗粒砂を多く含む。にぶい黄褐色。外面上部削り。器表の荒れが激しい。	
盤	*	33	*	蓋					チャート、赤色風化縫の粗粒砂を含む。褐色。外面上部反時計回りに削り。笠部径18.2cm。	
	*	34	*	蓋					チャートの粗粒砂を多く含む。にぶい黄褐色。外面上部に列点文。器表の荒れが激しい。笠部径21.5cm。	
	*	35	*	高壺	24.0	2.3			チャート、泥岩の粗粒砂を含む。褐色。外面上部削り。内面ナデ。口唇部強いナデで面をとり外方に僅かに彫らむ。	
	*	36	*	皿	8.5	2.0		5.1	チャートの粗粒砂を含む。灰白色。底辺へラ切り張を認める。	
	*	37	*	皿	15.8	2.0		13.3	チャート、黒色粒の粗粒砂を含む。灰色。外面上部削り。底辺へラ切り。口唇部は強いナデで面をなす。	
	*	38	*	皿	18.3	1.9		13.6	チャート、黒色粒の粗粒砂を含む。内外面ナデ。外面上部平行弦痕が認められる。	
	*	39	*	皿	16.4	2.7			チャート、黒色粒の粗粒砂・小襷を含む。灰褐色。外面上部ナデ。内面丁寧なナデ。底部粘土絆痕が認められる。	
	*	40	*	皿	22.4	2.4		17.0	チャート、石英の細粗粒砂を少量含む。精選された粘土。灰褐色。外面上部ナデ。立ち上がり部に「U」形の凹痕が認められる。底部に断面三三角形の粘土塊を貼り付ける。内面口縁部に1条の粗粒砂を認める。全体に器表の荒れが激しい。同1個体と思われるものが他に2点出土している。	
恵器	*	41	*	皿	13.2	1.5		9.6	チャートの粗粒砂を含む。内外面ナデ。底辺へラ切り張。口縁部は上方にたら上がる。	
	*	42	*	皿	14.8	2.2		12.1	チャート、長石、黒色粒の粗粒砂を含む。灰黄色。内外面ナデ。口縁部外反する。	
	*	43	*	皿	26.4	1.6		24.8	チャート、黒色粒の粗粒砂を含む。灰白色。底部反時計回りの削り。	
	*	44	*	皿	14.7	2.1		12.7	チャートの粗粒砂をわずかに含む。灰色。内外面ナデ。底辺へラ切り。粘土塊が認められる。口縁部内面に沈線。口容部は強いナデで面をなす。	
	*	45	*	皿	16.0	2.6			チャートの粗粒砂を含む。黄灰色。内面平行弦痕が認められる。口縁部内面強い横ナデにより凹縫状になる。	
	*	46	*	皿	28.6	(3.2)			チャートの細粗粒砂、黒色粒の粗粒砂を少量化する。底辺へラ切り。立上がり部に「U」形の凹痕がある。内面口縁部に粗粒砂が認められる。底辺へラ切り張の跡が残る。内面口縁部に口縫が認められる。体部は暗い発色。燒成軟質。牽耗が著しい。	
	*	47	*	壺	9.0	3.1		5.4	チャート、黒色粒の細粗粒砂を含む。灰色。外面上部ナデ。平行弦痕が認められる。外底へラ切り張。内面ナデ。	
	*	48	*	壺	12.8	3.8		7.6	チャート、長石の粗粒砂を含む。灰色。内面回転ナデ。底辺へラ切り張。中央部、底から押しつぶされる。	

種類	Fig. No.	辨団番号	出土地点	器種	法量(cm)				特徴	備考
					口径	器高	胸徑	底径		
須	Fig.8	4 9	包含層	坏	12.6	(3.7)		8.5	チャートの粗粒砂を小塊に含む。灰白色。内外面ナデ。外底は平行圧痕。底部ヘラ切り痕。高台の結合痕顯著。	
	*	5 0	*	坏	14.2	3.7		10.6	チャートの粗粒砂を僅かに含む。灰白色。内外面ナデ。高台底部は強いナデにより断面が凹む。	
	Fig.9	5 1	*	坏	11.4	3.9		7.2	チャート、赤色風化繊、黒色粒の粗粒砂を僅かに含む。黄灰色。内外面ナデ。外底に幅約3mmの平行溝が3条認められる。上部底盤が外側に突出。両面は断面正三角形を示す。	
	*	5 2	*	坏	11.8	4.2		7.5	チャート、長石の粗粒砂を含む。灰白色。外底ナデ。平行圧痕が認められる。底底ヘラ切り。高台は高い。内外面ともに粘土の付着物が多い。	
	*	5 3	*	坏	14.4	3.5		10.0	チャート、黒色粒の細粗粒砂をわずかに含む。灰白色。内外面ナデ。底盤反時計回りヘラ前引。高台底盤は強いナデで断面が凹む。	
	*	5 4	*	坏	13.2	4.1		9.6	チャート、黒色粒の細粗粒砂をわずかに含む。灰白色。内外面ナデ。高台底盤は凹む。	
	*	5 5	*	坏	12.3	3.6		8.4	チャート、黒色粒の細粗粒砂を含む。灰白色。内外面ナデ。外底は平行圧痕が認められる。外底ヘラ切り後ナデ。内面丁寧なナデ。	
	*	5 6	*	坏	12.8	3.5		9.6	チャート、墨色粒の細粗粒砂～小塊含む。灰白色。外底ナデ。外底ヘラ切り後ナデ。内面ナデ。内外に火ダスキが認められる。	
	*	5 7	*	坏	13.3	3.5		9.6	黒色粒の粗粒砂を多く含む。灰白色。内面は回転ナデ。底盤反時計回りのヘラ切り。高台底盤は低い横ナデで断面が凹む。	
	*	5 8	*	坏	12.6	3.4		7.4	チャート、黒色粒の細粗粒砂～粗粒砂を含む。灰白色。内外面ナデ。胸部は平行圧痕、底下部に幅3mmの平行溝が認められる。外底ヘラ切り後丁寧にナデ削る。内面ナデ。	
恵	*	5 9	*	坏	14.0	3.7		8.6	チャート、赤色風化繊の細粗粒砂、黒色粒の粗粒砂を含む。灰白色。外面ナデ。胸部約15mm幅。胸下部に3mm幅の平行溝が認められる。外底ヘラ切り後丁寧なナデ。内面ナデ。内底斜面圧痕が認められる。	
	*	6 0	*	坏	13.5	3.9		8.5	チャート、赤色風化繊、黒色粒の粗粒砂を含む。灰白色。内外面ナデ。外底ヘラ切り後ナデ。	
	*	6 1	*	坏	14.6	4.4		10.2	チャート、黒色粒の細粗粒砂を含む。灰黄色。外面ナデ。口縁部外反する。外底ヘラ切り後ナデ。内面ナデ。	
	*	6 2	*	坏	17.0	4.2		9.2	チャート、黒色粒の細粗粒砂を含む。灰白色。外面ナデ。胸部は丁寧に削る。底部ヘラ切り痕を丁寧に削る。内面口縁部に沈縫を認める。全体に丁寧なつくり。	
	*	6 3	*	坏	13.1	4.2		9.0	チャート、黒色粒の細粒砂～粗粒砂含む。灰白色。内外面ナデ。外底ヘラ切り後丁寧なナデ。	
	*	6 4	*	坏	14.0	4.2		8.2	チャート、長石の粗粒砂を僅かに含む。灰色。内外面ナデ。底盤内部面削によるナデ。	
	*	6 5	*	坏	13.7	4.6		9.2	チャート、赤色風化繊、黒色粒の粗粒砂を含む。灰白色。内外面ナデ。口縁部はやや外反する。	
	*	6 6	*	坏	18.7	6.2		14.2	チャート、長石、赤色風化繊の粗粒砂を含む。黄灰白色。内外面ナデ。外底天井部は反時計回りの削り。内面天井部に「×」の記号が認められる。横み往2.1cm。	
	*	6 7	*	蓋	13.1	1.8			チャート、黒色粒の細粗粒砂を含む。灰色。外底天井部削り。その他はナデ。内面ナデ、粘土堆積が認められる。口縁部は面をなす。笠形径12.9cm。摘み径1.1cm。	
	*	6 8	*	蓋					チャートの粗粒砂を含む。灰白色。内面ナデ。外表面器表の荒れが激しく観察不可能。口唇部強いナデ。	
	*	6 9	*	蓋	13.6	(1.0)			外表面自然釉。	

種類	Fig. No.	押抜番号	出土地点	器種	法量(cm)				特徴	備考
					口径	器高	側径	底径		
頸	Fig. 9	7 0	包含層	蓋	13.9	1.7			チャートの粗粒砂をわずかに含む。灰白色。外面ナデ。口縁部推板。横み径2.4cm。	
	*	7 1	*	蓋	13.9	1.9			チャートの粗粒砂をわずかに含む。灰白色。外面ナデ。口縁部に幅約2mmの平行痕が認められる。内面ナデ。天井部は丁寧なナデ。横み径2.3cm。	
	*	7 2	*	蓋	14.0	1.6			チャート、黒色粒の粗粒砂を含む。灰色。外面ナデ。口縁部は横ナデで凹む。内面天井部に粘土結晶が認められる。	
	*	7 3	*	蓋	13.5	2.1			チャート、泥岩の粗粒砂～小礫を含む。灰色。外面ハケナデ。内面天井部ハケナデより後ナデ。その他ナデ。口縁部はナデで面をとる。横み径2.3cm。	
	*	7 4	*	蓋		2.9			チャート、長石、黒色粒の細粗粒砂を僅かに含む。灰白色。外面もナデ。全体にねじれる。笠部横径13.9cm。横み径2.6cm。	
	*	7 5	*	蓋	14.7	1.9			チャート、黑色粒の粗粒砂を含む。灰白色。内外面ともナデ。接合痕が認められる。生焼け。横み径2.3cm。	
	*	7 6	*	蓋	14.4	2.1			チャート、黑色粒の粗粒砂を含む。灰色。口縁部はS字状に屈曲する。	
	*	7 7	*	蓋	15.0	1.3			黒色粒の粗粒砂を含む。灰色。外面ハケナデ。内面ナデ。口縁部はS字状に屈曲する。	
	*	7 8	*	蓋	16.0	1.6			チャート、黒色粒の粗粒砂を含む。灰黄色。外面屈曲部から口縁部にかけて大きく述べ。	
	*	7 9	*	蓋		(2.8)			チャート、黒色粒の粗粒砂を含む。灰色。外反時計回りにハケナズ。内面多方向にナデ。笠部径13.1cm。	
忠	*	8 0	*	徹蓋		(2.6)	15.0		チャートの粗粒砂を含む。灰白色。内外ナデによる圧延痕。	
	*	8 1	*	蓋	20.0	2.0			チャート、黒色粒の粗粒砂を含む。灰白色。外面天井部反対前回りの削り。内面ナデ。天井部に同心円内文のあて具模が認められる。口縁部は強い横ナデで凹む。	
	*	8 2	*	蓋		4.1			チャート、赤色風化讐の粗粒砂を含む。灰黄色。器表の荒れが激しい。笠部径18.6cm、横み径3.1cm。	土加部の可能性あり。
	*	8 3	*	蓋	16.3	(2.6)			チャート、長石の粗粒砂を含む。灰色。外面ともナデ。平行圧痕が認められる。	
	*	8 4	*	蓋	18.3	2.7			チャート、黒色粒の粗粒砂を多く含む。灰色。内外面ナデ。	
	*	8 5	*	蓋		2.5			チャート、黒色粒の粗粒砂を僅かに含む。灰白色。天井部ハケナズ。内面ナデ。天井部前面熱土結晶。笠部径18.9cm、横み径2.9cm。	
	*	8 6	*	蓋	22.7	(1.8)			チャート、赤色風化讐の細粗粒砂を含む。灰黄色。内外面ナデ。	
	*	8 7	*	蓋		2.0			チャート、黒色粒の粗粒砂を含む。灰色。内面天井部丁寧なナデ。内面天井部に「才」の字状のヘフ記号が認められる。笠部径13.8、横み径2.3cm。	
	*	8 8	*	高坏	13.0	4.6			黒色粒、泥岩の粗粒砂を含む。灰白色。内外面ともナデ。	
	*	8 9	*	高坏	25.8				チャート、黒色粒の粗粒砂を含む。灰白色。内面ナデ。口唇部強いナデで凹縫状になる。	
器	*	9 0	*	高坏		(3.4)	7.4		チャート、赤色風化讐をわずかに含む。灰黄色。内外面ナデ。底部は下方に突出し横ナデで面をなす。	
	*	9 1	*	高坏		(3.1)	10.9		黒色粒、長石の粗粗粒砂を含む。灰色。内外面ともナデ。下端部は下方に突出せ面をなす。	自然釉。
	*	9 2	*	高坏脚		(6.5)	10.7		チャート、黒色粒の細粗粒砂～粗粒砂を含む。灰白色。外縁部平行痕が認められる。底部平行痕が認められる。底部は丁寧なナデで面を取り下方に突出する。内面ナデ。	
	*	9 3	*	高坏脚		(8.7)	12.7		チャート、長石、黒色粒の細粗粒砂～粗粒砂を含む。灰白色。外縁部によるとナデ。平行圧痕が認められる。底部は丁寧なナデで面を取り下方に突出する。内面ナデ。	

種類	Fig. No.	辨図番号	出土地点	器種	法 番 (cm)			特 微	備 考
					口径	器高	腹徑		
須	Fig.9	9 4	包含層	高杯洞		(11.4)		10.3	チャート、黒色粒の粗粒砂～小砾を含む。灰白色。腹部外側に横ナデ。口部は幅約1cmの貼付1様でナデ。肩部に列点文を有する。内面周辺によるナデ。頸部に接合痕が認められる。肩部・脚部とともに内面ナデ。
	*	9 5	*	壺	11.7	(4.5)			チャート、黒色粒の粗粒砂～小砾を含む。灰白色。外面部回転によるナデ。口部は幅約1cmの貼付1様でナデ。肩部に列点文を有する。内面周辺によるナデ。頸部に接合痕が認められる。肩部・脚部ともに内面ナデ。
	*	9 6	*	壺	12.0	(4.5)			チャート、黒色粒の粗粒砂～小砾を含む。灰白色。外面部回転によるナデ。口部は幅約1cmの貼付1様でナデ。肩部に列点文を有する。内面周辺によるナデ。頸部に接合痕が認められる。肩部・脚部ともに内面ナデ。
	*	9 7	*	壺	9.3	(6.0)			チャート、赤色風化塵の細粒砂～粗粒砂を含む。灰白色。内面ナデ。口線上端部は深い横ナデで凹む。
	*	9 8	*	壺	9.8	(6.9)			チャート、黒色粒の粗粒砂～粗粒砂を含む。灰白色。外面部回転によるナデ。口部は幅約1cmの貼付1様でナデ。肩部を取り上方に僅かに折落する。内面ナデ。口部は幅約1cmの貼付1様でやや凹む。
	*	9 9	*	壺	17.0	(6.6)			長石、黒色粒の細粒砂～粗粒砂を含む。灰白色。内面ナデ。口部は幅約1cmの貼付1様で面をなす。
忠	*	1 0 0	*	壺	8.8				長石、雲母の粗粒砂を含む。灰白色。内面ナデ。口部は幅約1cmの貼付1様で面をなす。
	*	1 0 1	*	壺	10.5				チャート、黒色粒の細粒砂～粗粒砂を含む。灰白色。外面部回転によるナデ。
	*	1 0 2	*	壺	19.1	(4.1)			チャート、粗粒砂を含む。灰白色。内外面ナデ、平行仕上が認められる。口唇部は強い横ナデで面をなす。
	Fig.10	1 0 3	*	甌	35.6				チャート、石英の粗粒砂～小砾、黒色粒砂の細粒砂～火山ガラスを含む。灰白色。外面部回転によるナデ。口部は幅約1cmの貼付1様で体部にタキシマがある。内面周辺部は深いナデで凹む。体部に同心円文状の凹みがある。
	*	1 0 4	*	甌	22.1	(6.9)			チャート、長石、黒色粒の粗粒砂～小砾を含む。灰白色。外面部回転によるナデ。肩部には左の貼付痕が認められる。頭部より上は横ナデ。内面周辺部は深いナデで凹む。内面周辺部は強い横ナデで面をなす。
	*	1 0 5	*	甌	43.2	(6.7)			赤色風化塵、黒色粒の粗粒砂を含む。灰白色。外面部回転によるナデ。内面周辺部は深いナデで凹む。内面周辺部は強い横ナデで面をなす。
器	*	1 0 6	*	甌	20.8	(23.9)	38.0		チャート、黒色粒の粗粒砂を含む。灰白色。頸部以上の外面部回転によるナデ。内面周辺部は強い横ナデ。内面周辺部は深いナデで凹む。口唇部は面をなす。
	*	1 0 7	*	鉢	22.0				チャート、泥岩、黒色粒の粗粒砂を含む。灰白色。内面ナデ。口部は大らく外反し、上縁部は強い横ナデで僅に凹む。
	*	1 0 8	*	鉢	23.0				長石、火山ガラス、黒色粒の細粒砂を含む。灰白色。内面ナデ。口部は強い横ナデで凹む。
	*	1 0 9	*	鉢	36.7	(5.8)			黒色粒、長石の粗粒砂を含む。灰白色。外面部回転によるナデ。内面ナデ。口部は強い横ナデで面をなす。
	*	1 1 0	*	坏	16.6	(4.2)			黒色粒の粗粒砂、火山ガラスを含む。灰黄色。外面部回転によるナデ。指頭圧痕が認められる。内面ナデ。
	*	1 1 1	*	円盤硯				16.5	体部に2つのすかしが認められ、その間に2つの沈線を施す。脚部は弱いナデで調整。脚部と口部は欠損。
須 忠 器	*	1 1 2	*	楕円硯					灰色。硯証は1.2cmの立ち上がりが見られ hakkariで調整。所面逆三角形。正規。逆台形の脚を有する。脚部は欠損。
	*	1 1 3	*	壺	23.8	(2.3)			チャート、赤色風化塵の小砾を含む。にぼい黄褐色。内面ナデ。口部は上方に横み出し強いナデで面をなす。

種類 No.	Fig. 番号	鉢図 出土地点	器種	法量(cm)				特徴	備考	
				口径	器高	脚径	底径			
弥生上等	Fig. 10 114	包含層	甕	22.7	(2.8)			チャートの粗粒砂～小礫を含む。にぶい褐色。 外面口縁部ハケ状底体による、列点支が残る。 内面横ハケ。口唇部強い横ナデで、上部に拡張し面をなす。		
	*	115	*	丸窯	全長 2.6	金幅 4.3	全厚 0.7	重量 15.2	平面形は梢円形を縦に2/3に分割した様相を呈する。各面ともに、よく磨かれており裏面には2孔を1対とする洒り孔が3ヶ所認められる。 表面は非常にきれいに磨かれているが、裏面はやや粗い。	

## H区・域I・II 包含層遺物観察表（土錐）

Fig No.	排闇番号	出土地点	器種	法量(cm)					特徴	備考
				全長	全幅	全厚	孔径	重量(g)		
Fig.11	1 1 6	包含層	管状土錐	4.4	1.6	0.5	0.5	8.3	チャート、赤色風化褪の細粒砂～小礫を少量含む。精選された粒上に浅黄色。芯を用いて成形。端部は摩耗する。	片側端部の一部欠損。 A-a類
*	1 1 7	*	*	4.5	1.5	1.6	0.6	8.9	チャート、赤色風化褪の細粒砂～小礫を含む。浅黄色。芯を用いて成形。両端は摩耗する。	A-a類
*	1 1 8	*	*	5.5	1.4	1.5	0.5	8.0	チャート、赤色風化褪の細粒砂～粗粒砂を少々含む。青い褐色。芯を用いて成形。両端は摩耗する。	端部の一部欠損。 A-a類
*	1 1 9	*	*	4.9	1.6	0.6	0.5	9.0	チャート、赤色風化褪の細粒砂～粗粒砂を含む。青い黄褐色。芯を用いて成形。側部にくぼみを認める。端部は摩耗する。	端部の一部欠損。 A-a類
*	1 2 0	*	*	4.1	2.0	2.0	0.6	15.2	チャートの細粒砂～小礫を含む。に青い褐色。芯を用いて成形。端部は窄む。	A-b類
*	1 2 1	*	*	4.4	1.9	2.0	0.6	15.8	チャートの細粒砂を少量含む。精選された粒上。橙色。芯を用いて成形。両端は広い面をとる。側面に指頭圧痕を認める。	A-b類
*	1 2 2	*	*	4.4	2.1	1.8	0.5	16.7	チャートの細粒砂を少々含む。精選された粒上。橙色。芯を用いて成形。両端は面をとる。	A-b類
*	1 2 3	*	*	5.3	1.9	0.7	0.7	13.5	チャートの細粒砂～粗粒砂を含む。に青い褐色。芯を用いて成形。摩耗が激しい。	片側端部の一部欠損。 A-b類
*	1 2 4	*	*	4.7	2.0	2.1	0.5	18.4	チャート、黒色粒の細粒砂～火山ガラスを含む。に青い褐色。芯を用いて成形。両端は面をとる。	A-b類
*	1 2 5	*	*	5.2	1.5	1.7	0.5	11.9	チャートの細粒砂～小礫を含む。に青い褐色。芯を用いて成形。両端は摩耗する。	A-b類
*	1 2 6	*	*	5.3	2.1	1.8	0.4	13.2	チャートの細粒砂をわずかに含む。に青い黄褐色。芯を用いて成形。両端は摩耗する。片面の端部に凹凸をなす。側面は膨らみをもつたと思われるが少ない。指頭圧痕が認められる。	側面の一部に黒斑。 片側端部の一部欠損。 A-b類
*	1 2 7	*	*	5.0	1.9	1.9	0.6	16.3	チャートの細粒砂～小礫、赤色風化褪の細粒砂を含む。浅黄色。芯を用いて成形。両端は摩耗する。	側面約1/2に黒斑。 A-b類
*	1 2 8	*	*	5.1	2.0	2.1	0.6	18.9	チャート、赤色風化褪の細粒砂をわずかに含む。精選された粒上。芯を用いて成形。両端は狭い面をとるが片面には摩耗でやや凹みを帯びる。	側面約1/2に黒斑。 A-b類
*	1 2 9	*	*	4.9	2.1	2.2	0.7	19.2	チャート、赤色風化褪の細粒砂を少量含む。青色。芯を用いて成形。側面に指頭圧痕を認める。両端は摩耗する。	A-b類
*	1 3 0	*	*	5.1	2.1	2.2	0.6	20.9	チャートの細粒砂を少量含む。青色。芯を用いて成形。両端は面をとる。側面に彫版時にできくぼみが残る。	A-b類
*	1 3 1	*	*	5.0	2.3	2.2	0.5	22.4	チャート、黒色粒の細粒砂を少量含む。精選された粒上。浅黃褐色。芯を用いて成形。両端では丸が中心よりずれる。両端は面をとる。	側面の一部に黒斑。 A-b類
*	1 3 2	*	*	5.0	2.2	2.1	0.6	23.3	チャート、赤色風化褪の細粒砂を少し含む。に青い褐色。芯を用いて成形。両端は広い面をなす。側面の片方は膨らみをもつてもう一方はたたない。側面に指頭圧痕が認められる。	A-b類
*	1 3 3	*	*	5.2	2.0	2.1	0.7	17.9	チャート、赤色風化褪の細粒砂～小礫を多く含む。橙色。芯を用いて成形。両端は摩耗する。器表の荒れが激しい。	A-b類
*	1 3 4	*	*	5.2	2.2	2.1	0.6	23.5	チャート、黒色粒の細粒砂を少量含む。に青い橙色。芯を用いて成形。両端は面をとる。	A-b類
*	1 3 5	*	*	10.3	2.3	0.7	0.8	18.8	チャートの細粒砂を少々含む。精選された粒上。に青い黄褐色。芯を用いて成形。両端は面をとる。	端部の一部欠損。 A-b類

Fig No.	押出番号	出土場所	器種	法尺(cm)					特徴	備考
				全長	全幅	全厚	孔径	重量(g)		
Fig.11	1 3 6	包含層	管状土鍤	5.6	2.1	0.7	0.6	20.9	チャートの細粒粒砂をわずかに含む。精選された粘土。芯を用いて成形。両端は曲をとる。	埴輪の一端欠損。A-b類
*	1 3 7	*	*	5.5	2.2	1.9	0.7	22.0	チャート、赤色風化塵の細粒粒砂～粗粒砂を含む。芯を用いて成形。側部はナギの後指で押さええる。両端は摩耗する。	片側端部の一端欠損。A-b類
*	1 3 8	*	*	5.9	2.3	2.2	0.7	23.2	チャート、赤色風化塵の細粒粒砂～粗粒砂を含む。芯を用いて成形。	側部の一端に黒斑。薄片部側の一端欠損。A-b類
*	1 3 9	*	*	6.0	2.3	2.3	0.8	23.1	チャートの粗粒砂～小礫を含む。黄色。芯を用いて成形。両端は抜く面をとるが摩耗している。	片側端部の一端欠損。A-b類
*	1 4 0	*	*	5.5	2.5	2.5	0.7	27.9	チャート、赤色風化塵の粗粒粒砂を含む。黒褐色。芯を用いて成形。両端は抜く面をとるが摩耗している。	A-b類
*	1 4 1	*	*	6.1	1.7	1.7	0.7	16.0	チャート、赤色風化塵の粗粒粒砂～小礫を含む。精選された粘土。芯を用いて成形。表面には摩耗する。片側端部に指頭圧痕を認める。	片側端部の一端欠損。A-b類
*	1 4 2	*	*	6.7	2.0	2.1	0.6	26.0	チャート、赤色風化塵の粗粒砂～小礫を多く含む。芯を用いて成形。器表の荒れが激しい。	側部約1/2に黒斑。A-b類
*	1 4 3	*	*	7.1	1.9	1.8	0.6	23.3	チャートの細粒粒砂～粗粒砂を少量含む。精選された粘土。にほい粒色。芯を用いて成形。	片側端部の一端欠損。A-b類
*	1 4 4	*	*	5.1	2.6	2.4	0.8	31.9	チャート、赤色風化塵、黒色粒の粗粒砂を含む。精選された粘土。にほい粒色。芯を用いて成形。両端は曲をとる。	A-c類
*	1 4 5	*	*	4.6	3.1	2.8	1.0	35.2	チャートの細粒粒砂を含む。精選された粘土。にほい粒色。芯を用いて成形。両端は曲をとる。指頭圧痕が認められる。	A-c類
*	1 4 6	*	*	4.7	3.0	2.8	0.9	33.6	チャートの細粒粒砂、火山ガラスを少しあ含む。精選された粘土。黑色。芯を用いて成形。両端は曲をとる。	A-c類
*	1 4 7	*	*	4.8	3.2	3.1	1.1	40.3	チャート、黒色粒の細粒粒砂を含む。にほい粒色。芯を用いて成形。両端は曲をとる。側部に指頭圧痕が認められる。	側部に黒斑。A-c類
*	1 4 8	*	*	5.0	3.0	3.0	0.8	40.9	チャート、赤色風化塵の細粒粒砂を含む。にほい粒色。芯を用いて成形。全体に丁寧なナギ。両端は曲をとるが摩耗している。指頭圧痕が認められる。	A-c類
*	1 4 9	*	*	4.9	3.1	3.1	0.9	40.4	チャート、赤色風化塵の粗粒粒砂、火山ガラスを少量含む。にほい粒色。芯を用いて成形。両端は曲をとる。側部に圧痕が認められる。	A-c類
*	1 5 0	*	*	5.3	3.4	3.5	1.4	48.0	チャート、赤色風化塵の粗粒粒砂～小礫を多く含む。灰白色。芯を用いて成形。両端は摩耗する。器表の荒れが激しい。	A-c類
*	1 5 1	*	*	5.2	3.1	3.0	0.8	44.2	チャート、赤色風化塵の細粒粒砂を含む。精選された粘土。深黄褐色。芯を用いて成形。両端は曲をとる。	孔部に擦り目を認める。A-c類
Fig.12	1 5 2	*	*	5.8	3.2	3.1	1.0	44.7	チャート、赤色風化塵の粗粒粒砂～小礫を少量含む。精選された粘土。にほい粒色。芯を用いて成形。両端は曲をとる。指頭圧痕が認められる。	A-c類
*	1 5 3	*	*	6.8	2.7	2.4	0.8	30.9	チャート、赤色風化塵の粗粒粒砂、火山ガラスを含む。精選された粘土。にほい粒色。芯を用いて成形。両端は曲をとるが摩耗している。側部がわずかに欠損。	A-c類
*	1 5 4	*	*	6.0	2.6	2.6	0.8	34.3	チャートの細粒粒砂。芯を用いて成形。両端は曲をとる。	A-c類
*	1 5 5	*	*	6.2	2.7	2.9	0.7	36.4	チャートの粗粒砂～小礫、赤色風化塵の粗粒粒砂を含む。にほい粒色。芯を用いて成形。両端は曲をとるが摩耗する。全体に器表の荒れが激しい。	片側端部の一端欠損。A-c類

Fig No.	拂図番号	出土地点	器種	法量(cm)					特徴	備考
				全長	全幅	全厚	孔径	重量(g)		
Fig.12	156	包含層	管状土鍤	5.5	2.2	2.1	0.9	30.7	チャート、黒色絞の粗粒粒砂～粗粒砂を用いて成形。側面はヘラ状で底をとり断面八角形を呈する。両端は揉い面をとるが摩耗する。	須忠質。 A-c類
*	157	*	*	6.3	3.3	3.3	1.0	60.5	チャートの細粒粒砂を少量含む。精選された粘土。灰白色。芯を用いて成形。端部はナデにより面をとる。	片側端部の一一部欠損。 A-d類
*	158	*	*	6.0	4.2	4.1	1.4	87.7	チャートの細粒粒砂～小理、赤色氯化鈣の粗粒粒砂を含む。灰白色。芯を用いて成形。	A-d類
*	159	*	*	7.8	4.0	3.8	1.2	(96.0)	チャート、赤色氯化鈣の粗粒粒砂～粗粒砂を含む。灰灰色。芯を用いて成形。両端部は摩耗と欠損により観察不可能。	粗部に擦り日が認められる。 A-d類
*	160	*	*	6.7	3.2	3.0	0.9	(61.8)	チャート、赤色氯化鈣の粗粒砂～小理、多く含む。灰白色。側面に指圧圧痕が認められる。両端は摩耗する。	片側端部の一一部欠損。 A-d類
*	161	*	*	6.6	4.4	4.4	1.6	118.5	チャート、赤色氯化鈣、黒色絞の粗粒粒砂～粗粒砂を含む。黄灰色。芯を用いて成形。両端は面をとるが摩耗する。	側部約1/2に黒斑。 片側端部の一一部欠損。 A-e類
*	162	*	*	6.2	5.7	1.8	2.4	167.2		搬入品。 A-e類
*	163	*	*	7.5	5.9			(112.8)		搬入品。 A-e類

Fig No.	博団番号	出土地点	器種	法 命 (cm)					特 徴	備 考
				全長	全幅	全厚	溝数	重量(g)		
Fig.13	164	包含層	有溝土鉢	3.4	2.7	2.3	2	19.0	チャートの粗粒砂をわずかに含む。精選された胎土。褐色。2方の溝を有する。溝部は板状の凹みを残す。工具で削り取ることによって底形。溝断面はU字形を呈する。指頭圧痕が認められる。	B-1類
*	165	*	*	7.2	3.3	2.8	2	59.1	チャートの粗粒砂・小窪、赤色風化櫻の細粒砂を含む。褐色。2方の溝を有する。溝断面はハサワリ形を呈する。指頭圧痕が認められる。	B-1類
*	166	*	*	6.3	4.0	3.0	2	62.8	チャートの粗粒砂をわずかに含む。精選された胎土。褐色。2方の溝を有する。溝断面はナデビ字形を呈する。側面部の片面に指頭による大きな凹みを有する。	B-1類
*	167	*	*	6.3	4.1	3.8	2	87.5	チャート、赤色風化櫻の粗粒砂・粗粒砂を含む。褐色。2方の溝を有する。溝断面はV字形を呈する。側面部V字形に凹みを有する。側面部にはU字形を呈する。側面部に胎部にはみ出しが認められる。指頭圧痕がある。	B-1類
*	168	*	*	6.3	4.0	3.8	2	83.3	チャート、赤色風化櫻の粗粒砂・小窪、石灰、火山ガラスを多く含む。灰白色。2方の溝を有する。溝断面はU字形を呈する。側面部に凹みが認められる。側面部の人差し指大の凹みが見られる。胎表の荒れが激しい。	側面部一部欠損。B-1類
*	169	*	*	6.4	4.3	3.1	2	80.6	チャート、赤色風化櫻の粗粒砂・粗粒砂、火山ガラスをわずかに含む。灰白色。2方の溝を有する。溝断面はV字形を呈する。側面部はV字形を呈する。側面部にはみ出しが認められる。片方の側部は大きく凹む。	側面部一部欠損。B-1類
*	170	*	*	6.2	4.4	3.6	2	93.7	チャートの粗粒砂・火成岩白色。2方の溝を有する。溝断面はU字形を呈する。側面部は灰白色。V字形を呈する。側面部に凹みが認められる。指頭圧痕が認められる。	溝部と側面部に黒斑。B-1類
*	171	*	*	6.8	3.9	3.5	2	83.7	チャート、赤色風化櫻の粗粒砂・小窪を多く含む。明褐灰色。2方の溝を有する。溝断面はV字形を呈する。全体に胎表の荒れが激しい。	側面部一部欠損。B-1類
*	172	*	*	6.5	4.5	3.5	2	86.6	チャート、赤色風化櫻の粗粒砂・小窪を多く含む。灰白色。2方の溝を有する。溝断面はV字形を呈する。側面部に凹みが認められる。全体に胎表の荒れが激しい。	一部に黒斑。B-1類
*	173	*	*	6.6	4.6	4.0	2	96.3	チャート、赤色風化櫻の粗粒砂・粗粒砂を少量含む。灰白色。2方の溝を有する。溝断面はV字形を呈する。側面部中央に大きな凹みを有する。指頭圧痕が認められる。	B-1類
*	174	*	*	6.9	4.5	4.0	2	111.9	チャート、赤色風化櫻の粗粒砂をわずかに含む。精選された胎土。褐色。2方の溝を有する。溝断面はV字形を呈する。側面部中央に大きな凹みを有する。指頭圧痕が認められる。	B-1類
*	175	*	*	7.5	4.7	3.4	2	111.4	チャート、赤色風化櫻の粗粒砂を少量含む。褐色。2方の溝を有する。溝断面はハサワリ字形を呈する。側面部に凹みが認められる。側面部中央に多数の指頭圧痕が認められる。	側面部一部欠損。B-1類
*	176	*	*	7.3	4.0	3.3	2	86.3	チャート、赤色風化櫻の粗粒砂を含む。褐色。2方の溝を有する。溝断面はハサワリ字形を呈する。側面部にはナデビ字形を残すようにナデ。指頭圧痕がある。	B-1類
*	177	*	*	7.2	4.3	4.1	2	104.7	チャート、赤色風化櫻の粗粒砂・火成岩白色。2方の溝を有する。溝断面はV字形を呈する。側面部に凹みが認められる。指頭圧痕が認められる。	B-1類
*	178	*	*	7.5	4.2	3.9	2	114.3	チャート、黒色粒の粗粒砂・赤色風化櫻の粗粒砂・火山ガラスを含む。灰白色。2方の溝を有する。溝断面はV字形を呈する。側面部に凹みが認められる。指頭圧痕が残る。	B-1類

Fig. No.	押出 番号	出土地点	器種	法量(cm)					特 徴	備 考
				全長	全幅	全厚	溝数	重量(g)		
Fig.14	179	包含層	有拂土鉢	7.0	4.1	3.3	2	89.9	チャート、赤色風化礫の粗粒砂～粗粒砂を含む。薄青緑色。2方の溝を有する。溝断面はV字形を呈する。指頭圧痕が認められる。	側縁中央部の一部欠損。側部に黒斑。B-1類
*	180	*	*	7.3	4.5	2.9	2	88.2	チャート、赤色風化礫の粗粒砂～粗粒砂、火山ガラスを含む。褐色。2方の溝を有する。溝断面はU字形を呈する。側縁部に弱い凹みを認める。側部に溝約7mm、深さ約4mmの小孔が認められる。側部に指頭圧痕が認められる。	B-1類
*	181	*	*	7.3	4.3	3.6	2	101.9	チャート、赤色風化礫の粗粒砂～粗粒砂。薄青緑色。2方の溝を有する。溝断面はU字形を呈する。側縁部に弱い凹みを認める。側部に溝約7mm、深さ約4mmの小孔が認められる。側部に指頭圧痕が認められる。	側縁部の一部欠損。B-1類
*	182	*	*	7.7	(4.7)	3.7	2	104.0	チャート、赤色風化礫の粗粒砂～粗粒砂、火山ガラスを少量含む。褐色。2方の溝を有する。溝断面はU字形を呈する。側縁部はナットと指圧で調整。指頭圧痕を認める。	少側縁部の一部欠損。B-1類
*	183	*	*	7.3	4.4	4.4	2	127.1	チャート、赤色風化礫の粗粒砂～小理砂が多く、火山ガラスを少量含む。灰白色。2方の溝を有する。溝断面はU字形を呈する。側縁部に弱い凹みを認められる。側縁部に指頭圧痕が認められる。指頭圧痕が認められる。	B-1類
*	184	*	*	7.8	4.2	3.5	2	106.2	チャート、赤色風化礫の粗粒砂～粗粒砂、火山ガラスを含む。薄青緑色。2方の溝を有する。溝断面はU字形を呈する。側縁部に弱い凹みが認められる。指頭圧痕を認める。	側縁部の一部欠損。B-1類
*	185	*	*	8.0	4.0	3.6	2	105.1	チャート、赤色風化礫の粗粒砂～小理砂を多く含む。灰白色。2方の溝を有する。溝断面はU字形を呈する。側縁部に弱い凹みが認められる。側部に形成時におさえこんだ指頭圧痕が顕著。全体に器表の荒れが激しい。	B-1類
*	186	*	*	8.0	4.3	3.5	2	107.9	チャート、赤色風化礫の粗粒砂～小理砂、火山ガラスを含む。浅黄褐色。2方の溝を有する。溝断面はU字形を呈する。側縁部に弱い凹みが認められる。側部に指頭圧痕が認められる。全体に器表の荒れが激しい。	一部に黒斑。B-1類
*	187	*	*	8.2	4.4	3.7	2	124.9	チャート、赤色風化礫、泥岩の粗粒砂を含む。灰白色。2方の溝を有する。溝断面はU字形を呈する。側縁部に弱い凹みが認められる。側部に指頭圧痕が顕著。	B-1類
*	188	*	*	7.9	5.0	3.7	2	121.6	チャート、赤色風化礫の粗粒砂～小理砂を多く含む。薄青緑色。2方の溝を有する。溝断面はU字形を呈する。側縁部に指頭圧痕による凹みが認められる。側部に指頭圧痕が認められる。	側縁部の一部欠損。B-1類
*	189	*	*	8.0	4.2	4.2	2	125.9	チャート、赤色風化礫の粗粒砂～小理砂を含む。薄青緑色。2方の溝を有する。溝断面はU字形を呈する。側縁部に弱い凹みが認められる。側部に指頭圧痕による凹みが認められる。	B-1類
*	190	*	*	7.9	4.0	3.4	2	88.7	チャート、赤色風化礫の粗粒砂～小理砂、火山ガラスを含む。浅黄褐色。2方の溝を有する。溝断面は残存部はU字形を呈するが全体的には不明。側縁部に弱い凹みが認められる。側部に指頭圧痕により大きくなっている。	B-1類
Fig.15	191	*	*	8.1	4.9	3.8	2	139.8	チャート、赤色風化礫の粗粒砂～粗粒砂を含む。浅黄褐色。2方の溝を有する。側縁部中央付近に弱い凹みが認められる。側部に指頭圧痕による凹みが認められる。	側縁部の一部欠損。側部に擦り目。B-1類
*	192	*	*	6.8	4.5	3.6	2	119.2	チャート、赤色風化礫の粗粒砂～小理砂を含む。薄青緑色。2方の溝を有する。側縁部に凹みを認める。	B-1類

Fig No.	博國番号	出土地点	器種	法量(cm)					特徵	備考
				全長	全幅	全厚	溝数	重量(g)		
Fig.15	193	包含層	有溝土錐	8.0	4.5	3.8	2	109.6	チャート、赤色風化礫の細粒砂～粗粒砂、火山ガラスを含む。浅黃褐色。2方の溝を有する。溝断面はU字形を呈する。側部に指頭圧痕が認められる。側部に指頭圧痕が認められる。	B-1類
*	194	*	*	8.1	4.6	3.9	2	108.3	チャート、赤色風化礫の粗粒砂を含む。2方に溝を有する。溝断面はU字形を呈する。側部に指頭圧痕が認められる。	側部の一部剥離。約1/2に黒斑。B-1類
*	195	*	*	8.4	4.2	2.8	2	86.3	チャートの細粒砂、少數の赤色風化礫の細粒砂。火山ガラスを含む。2方の溝を有する。溝断面はV字形を呈する。溝は放向に渡り切られる。側部は形成時のおとこみで側面が凹む。	B-1類
*	196	*	*	8.8	4.9	3.5	2	124.6	チャートの粗粒砂～小錐、火山ガラスを含む。2方の溝を有する。溝断面はU字形を呈する。側部に凹みが認められる。指頭圧痕が認められる。	側部の一部欠損。B-1類
*	197	*	*	8.6	4.5	3.9	2	124.6	チャート、赤色風化礫の粗粒砂～小錐。火山ガラスを含む。2方の溝を有する。溝断面はU字形を呈する。側部に凹みが認められる。	側部の一部欠損。約1/2に黒斑。B-1類
*	198	*	*	(5.0)	4.3	4.0	3	(79.4)	チャート、赤色風化礫の粗粒砂～小錐を含む。2方の溝を有する。2方の溝のうち2方には断面がV字形を呈する。側部に凹みが大きい。1方は断面がU字形を呈し側部は斜面である。指頭圧痕が残る。側部にも指頭圧痕が残る。	一部に黒斑。B-2類
*	199	*	*	7.0	4.4	3.5	3	84.6	チャート、赤色風化礫の粗粒砂を含む。2方の溝を有する。溝断面はU字形を呈する。側部にはU字形を呈する。指頭圧痕が認められる。全体に摩耗がある。	B-2類
*	200	*	*	7.4	5.0	4.5	3	160.2	チャートの粗粒砂～粗粒砂を含む。2方の溝を有する。溝断面はU字形を呈する。指頭圧痕が認められる。	B-2類
*	201	*	*	8.0	3.9	4.1	3	(74.7)	チャート、長石の粗粒砂～赤色風化礫の粗粒砂を含む。2方の溝を有する。溝断面はU字形を呈する。側部に凹みが大きい。指頭圧痕が認められる。	一部欠損。B-2類
*	202	*	*	(8.0)	(4.0)	3.0	3	(87.5)	チャート、赤色風化礫の粗粒砂～小錐を含む。2方の溝を有する。溝断面はU字形を呈する。側部に凹みが認められる。指頭圧痕が認められる。	B-2類
Fig.16	203	*	*	8.9	5.0	3.6	3	120.2	チャート、赤色風化礫の粗粒砂～小錐を含む。2方の溝を有する。溝断面はU字形を呈する。指頭圧痕が認められる。	約1/2に黒斑。B-2類
*	204	*	*	5.2	4.2	4.2	4	84.0	チャート、赤色風化礫の粗粒砂～小錐を含む。2方の溝を有する。溝断面はU字形を呈する。側部に凹みが大きい。指頭圧痕が認められる。	一部に黒斑。B-3類
*	205	*	*	5.2	4.0	4.6	4	92.5	チャート、赤色風化礫の粗粒砂～粗粒砂を含む。2方の溝を有する。溝断面はU字形を呈する。側部に凹みが大きい。指頭圧痕が認められる。	B-3類
*	206	*	*	5.3	5.4		4	122.5	チャート、赤色風化礫の細粒砂を含む。2方の溝を有する。溝断面はU字形を呈する。側部に凹みが大きい。指頭圧痕が認められる。	B-3類
*	207	*	*	5.5	5.4	4.6	4	125.3	チャート、赤色風化礫の細粒砂～小錐を含む。2方の溝を有する。溝断面はU字形を呈する。指頭圧痕が認められる。	B-3類

Fig No.	拂岡 番号	出土地点	器種	法量(cm)					特徴	備考
				全長	全幅	全厚	孔径	重量(g)		
Fig.16	208	包含層	棒状土錐	(3.3)	1.9		0.5	11.5	チャート、赤色風化粧の細粒粒砂を少 量含む。赤い褐色。片側端部に約0.5 mmの孔を穿つ。指紋圧痕が顯著。	片側部は欠損。 C類
*	209	*	*	3.7	1.6		0.5	10.4	チャートの細粒粒砂をわずかに含む。 精選された粘土。浅黄褐色。片側端部 に約5mmの孔を穿つ。上下端部はナデ により面をなす。指紋圧痕が認められ る。	C類
*	210	*	*	5.0	2.0		0.5	17.6	チャート、黒色粒、赤色風化粧の細粒 粒砂を含む。橙色。片側端部に約0.5mm の孔を穿つ。にぎった痕が認められる。	C類

### 3. K区

#### (1) 調査区の概要と基本層準

##### ①調査区の概要 (Fig. 17)

調査対象地中央部の、南北に長い調査区である。南北約63m、幅約2.5m、面積158m<sup>2</sup>を測る。

古代と弥生の自然流路が重複しつつ継続している。SR3については他区と同様の状況で、ここでは触れない。

##### ②基本層準 (Fig. 17)

(71M)

南壁：SR5-1 黒色粘土質シルト。

SR5-2 暗褐色粘土質シルトに数mm～7cm大の礫を含む。

SR5-3 砂疊層（疊は数cm大）に黒褐色粘土質シルトが混ざる。

SR5-4 暗赤褐色シルト。

SR5-5 砂疊層（数mm～10数cm大）

(76M付近)

南壁：I層 黒褐色粘土質シルト。

II層 暗褐色粘土質シルト。（土師器片と1cm～最大13cmまでの礫を含む）

III層 にぶい黄褐色粘土質シルトに褐色粘土質シルトを含む。（土器含む）

IV層 にぶい黄褐色粘土質シルト。（地山）

#### (2) 造構と遺物

##### ①土坑

###### SK 901 (Fig. 18～20)

調査区中央南寄りに位置する溝状土坑である。北西部は調査区外で、全容は不明であるが、3.54mを確認した。幅40cm、深さは北部で34cm、南部では20.1cmを測る。出土遺物は、弥生土器壺（4, 14）、同高坏（40）、同甕底部（52）である。

##### ②溝跡

###### SD 901

調査区南寄りに位置する。平面図が残存しないため、造構の全容は不明である。出土遺物は、弥生甕胴部（Fig. 19図30）、同胴部（Fig. 20図69）である。

##### ③自然流路

###### SR 5 (Fig. 17～21)

SR5は、SR3と重複しながら検出された南北方向の流路で、調査区中央部で、西側の区外へ延びる。埋土は黒褐色粘土質シルトである。出土遺物は、壺（3, 5, 6, 7, 10, 15, 20～23）、壺胴部（18）、甕（17, 19, 25, 27）、鉢（31）、高坏（40）、高坏脚部（32～34）、蓋（36）、甕底部（42）、底部（43, 45）、胴部（50, 54, 55, 57～65）、土師器坏（68）、

石庖丁（71）、石斧（74）である。

④ピット

P 9 1 0 (Fig. 17)

調査区中央部付近に位置する。古代に属するピットで、出土遺物は須恵器壺（Fig. 20図66）である。

(3) 遺物集中 (Fig. 17)

SR5底で4ヶ所の遺物集中を検出した。

①ユニット1 (Fig. 18~21)

調査区北寄り、東壁寄りに位置する。図示できる出土遺物は、弥生土器壺（8, 11, 16）、同底部（38, 44）、同壺底部（46）、同底部（53）、磨製石斧（73）である。

②ユニット2 (Fig. 18~21)

調査区北寄り、西壁寄りに位置する。図示できる出土遺物は、弥生土器壺（2, 9, 13）、同壺（29）、同高壺脚部（35）、同壺底部（37）、同台付き鉢（39）、同底部（47, 48）、打製石包丁（70）、砥石（72）である。

③ユニット3 (Fig. 19, 20)

調査区北部と中央部の間、西壁寄りに位置する。図示できる出土遺物は、弥生土器壺（2, 26）、同底部（49）である。

④ユニット4 (Fig. 18, 20)

調査区中央部北寄り、西壁寄りに位置する。図示できる出土遺物は、弥生土器壺（1, 12）、同底部（56）である。

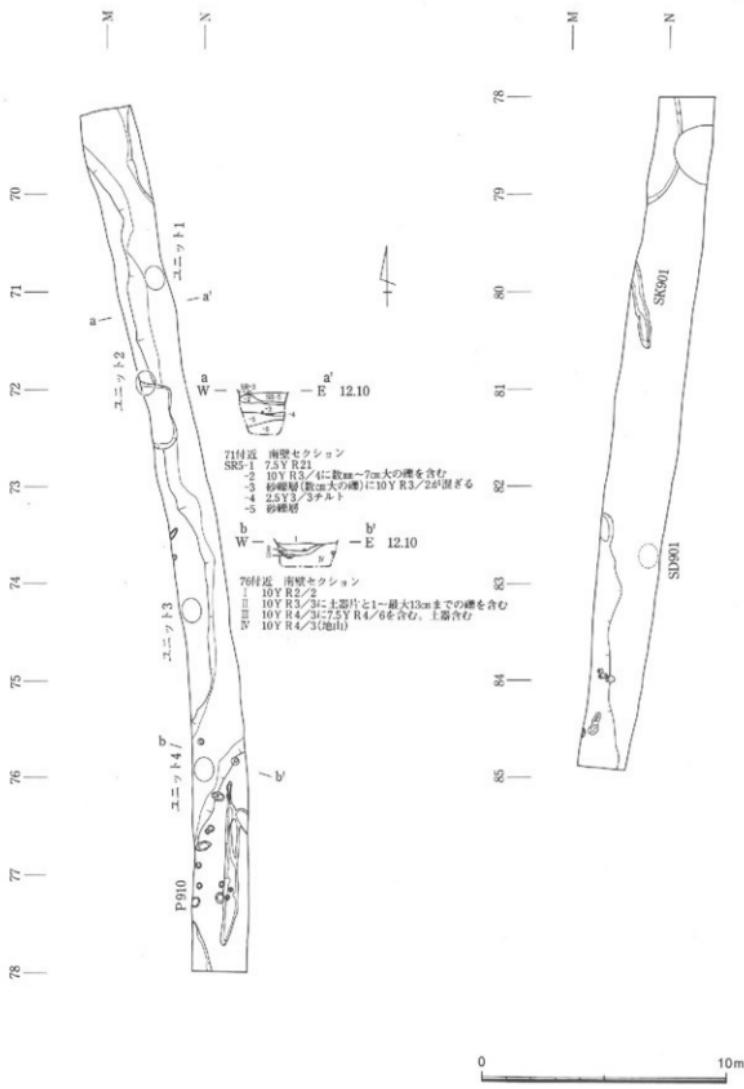


Fig.17 K区全体図及びセクション図

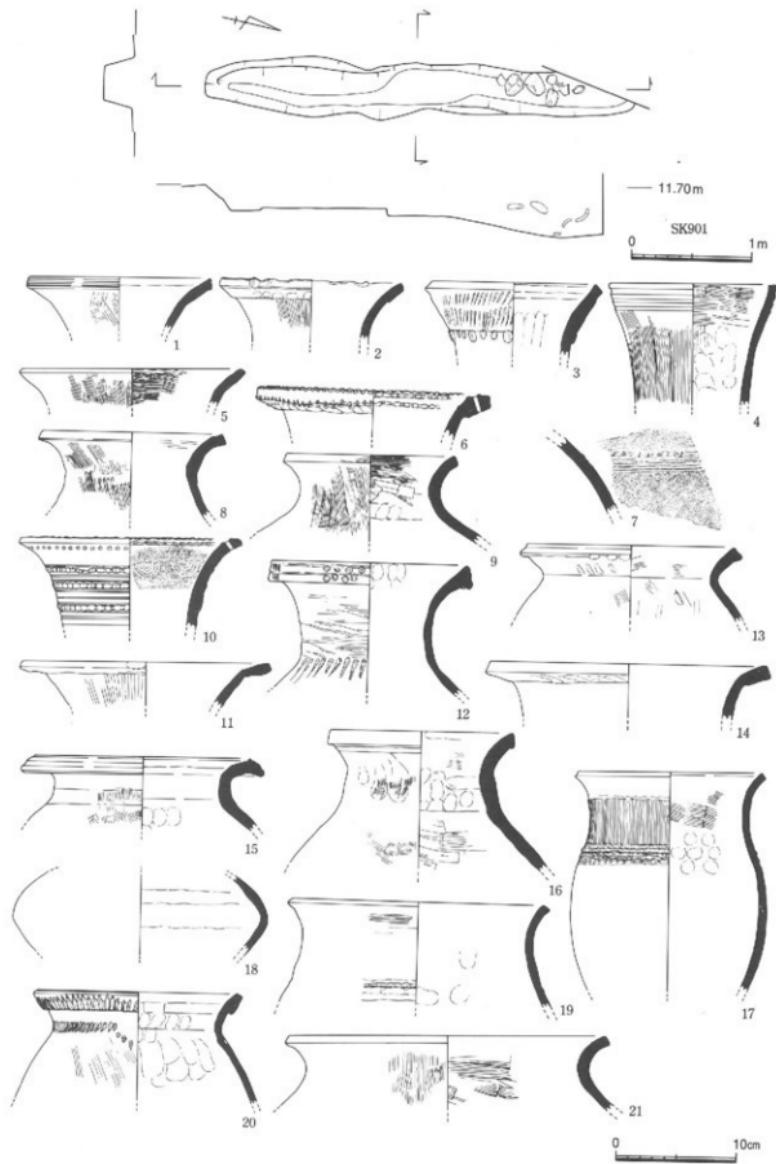


Fig.18 SK901遺構平面図及びエレベーション図、K区出土遺物実測図

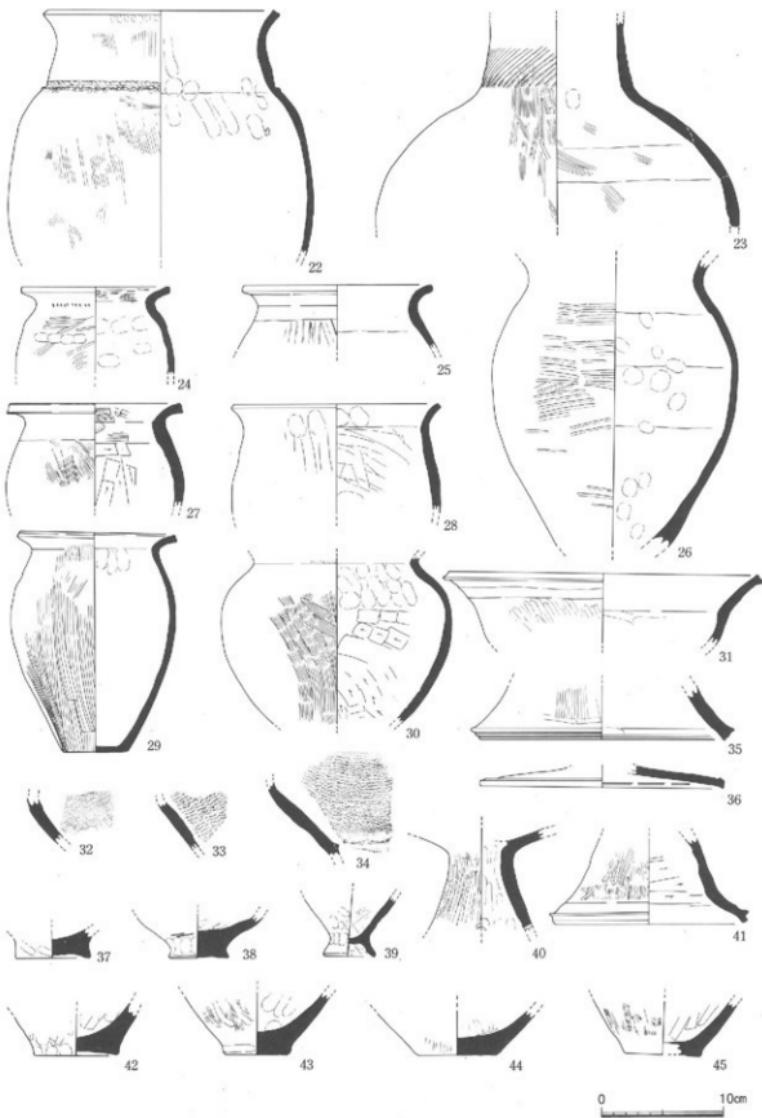


Fig.19 K区出土遺物実測図

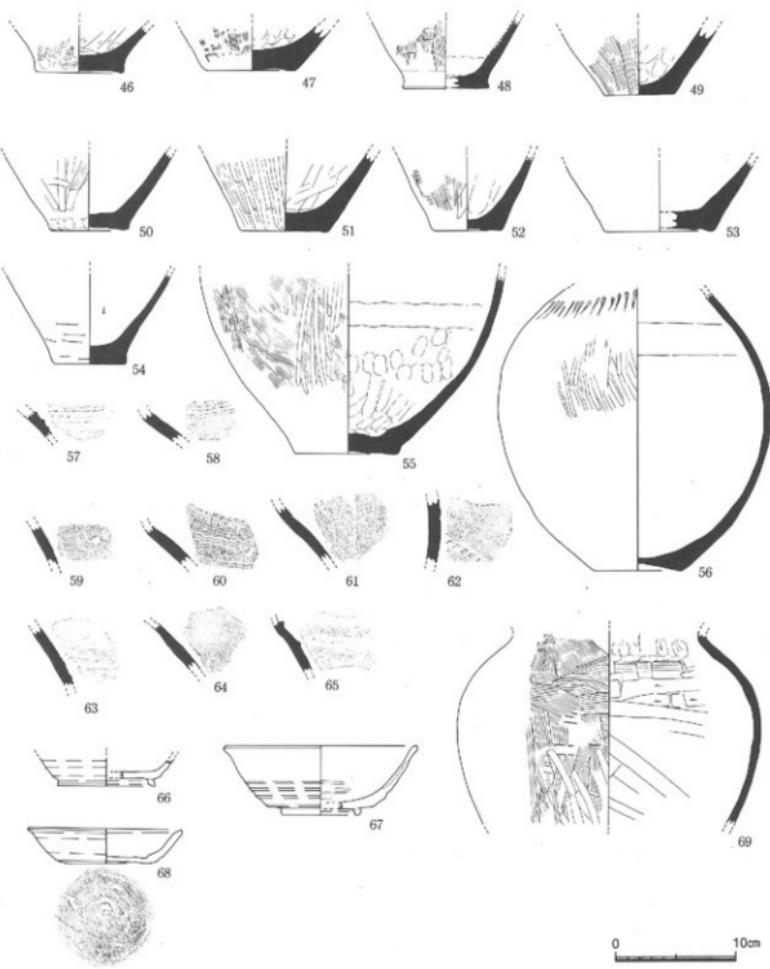
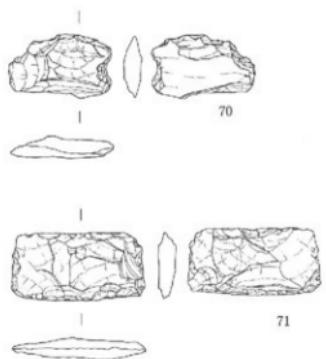
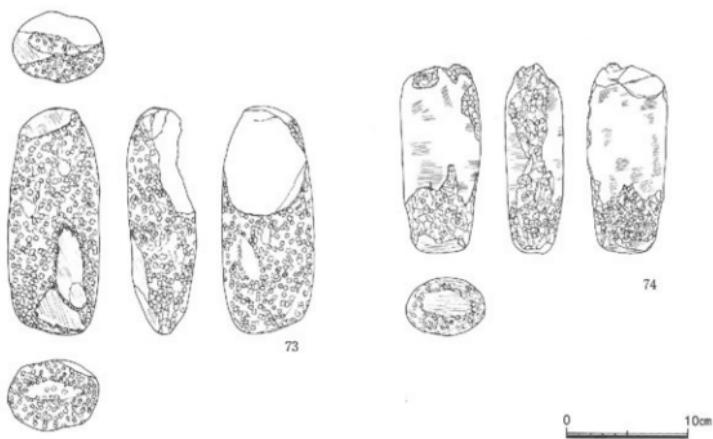


Fig.20 K区出土遺物実測図



0 10cm



0 10cm

Fig.21 K区出土遺物実測図

## K区 遺物観察表(土器)

種類	Fig. No.	辨団番号	出土地点	器種	法量(cm)				特徴	備考
					口径	器高	脚径	底径		
器	Fig. 18	1	SR5	壺	14.8	(4.5)			チャートの粗粒砂を含む。にぶい褐色。外面緑ハケ+横ナデ。口唇部は強く横ナデし、2条の沈陥化した凹線文を有する。内面は剥離が激しく観察不可能。	
	*	2	*	壺	14.7	(5.2)			チャートの粗粒砂～粗粒砂含む。明赤褐色。外面緑ハケ。口縁部に幅約17mmの粘土帯を貼り付ける。口唇部は面をとる。口縁部の粘土帯に指頭圧痕。器表の荒れが激しい。	
	*	3	*	壺	13.6	(6.1)			チャート・赤色風化櫻の粗粒砂～小穢を含む。褐色。外面緑ハケ+横ナデ。口縁部に3条の凹線文を有する。その下部に直径約7mmの熱土塊を添付する。口唇部は面をなす。	
	*	4	SK901	壺	13.8	(9.9)			チャート・長石の粗粒砂を含む。褐色。外面緑ハケ+横ナデ。口縁部に3条の凹線文を有する。内面緑ハケ+ナデ。口縁部は強いナデで面をなす。指頭圧痕顕著。	
	*	5	SR5	壺	18.0	(3.0)			チャートの粗粒砂を含む。褐色。外面緑ハケ。内面緑ハケ。	
	*	6	*	壺	19.2	(3.9)			チャートの粗粒砂～小穢を多く含む。褐色。口縁部外側に幅25mmの粘土帯を貼り付ける。状況により左右で大きさが異なる。口縁部内面幅約4mmの粘土帯を3本貼り付け5mm間隔で挟む。口唇部は面をなし、上口端部に削り目を入れる。口縁部に径3mm程の小孔を内→外へ穿つ。	
	*	7	*	壺					チャート・赤色風化櫻の粗粒砂を含む。褐色。外面緑調整、6条の凹線化した凹線文を有し上2条は幅4mm、長さ6mm程の粘土帯を貼り付ける。また斜斜格子を施す。内面ナデ。	
	*	8	*	壺	14.7	(7.1)			チャート・赤色風化櫻の粗粒砂～小穢を含む。褐色。外面緑ハケ+ナデ。口唇部強く横ナデで面をなし方に僅かに拡張する。口縁部横ナデ。頸部に指頭圧痕が認められる。内面口縁部は横ナデがみられるが、剥離が激しく観察不可能。	
	*	9	*	壺	13.9	(7.1)			チャートの粗粒砂を含む。褐色。外面緑ハケ。内面緑ハケ+ナデ。接合部及び指頭圧痕を有する。口唇部横ナデで面をなす。	
	*	10	*	壺	18.0	(7.5)			チャート・赤色風化櫻の粗粒砂～小穢を含む。褐色。外面緑凹線文が施され幅約4mmの粘土帯を貼り付ける。内面口縁部付近に幅約4mmの粘土帯を2本4mm間隔で貼り付ける。削り目を入れる。その間に幅3mm程の小孔を内→外方向に穿つ。器表の荒れが激しい。	
	*	11	*	壺	10.0	3.7			チャートの粗粒砂をわずかに含む。褐色。外面緑ハケ。口縁部に幅約2mmの粘土帯を添付し、口唇部は強い横ナデ。口縁部は僅かに屈曲し、内面4条の粗筋文を有する。内面屈曲部以下は横ナデ。器表の荒れが激しい。	
	*	12	*	壺	16.0	(10.7)			チャート・赤色風化櫻の粗粒砂を含む。褐色。外面口縁部強い横ナデで内→外へ穿つ。下端部は下口端部に竹刷毛の削り痕を有する。頸部へ向う不規則に文様を施す。肩部に削り目を有する。内面器表の剥離が激しいが、指頭圧痕が認められる。	
	*	13	*	壺	17.0	6.0			チャート・赤色風化櫻の粗粒砂を含む。浅黄褐色。口縁部に指頭圧痕。外面頸部に2点文、接合部がわずかに残る。頸部ハケ。内面頸部はナデ。口唇部横ハケ、口縫部強い横ナデで面をなし、下方に底張する。	
	*	14	SK901	壺	22.6	(4.5)			チャート・長石の粗粒砂を含む。褐色。口縫部に幅2mmの粘土帯を貼り付ける。内面左ナデ。口唇部は強い横ナデで面をなす。器表の荒れが激しい。	
	*	15	SR5	壺	17.6	(6.0)			チャート・石臼・赤色風化櫻の粗粒砂を含む。浅黄褐色。外面緑ハケ、頸部強いナデ。内面ナデ。口唇部強い横ナデで上方に拡張し、2条の凹線文を有する。	
	*	16	*	壺	14.8				チャートの粗粒砂を含む。にぶい黄褐色。外面緑ハケ+横ナデ、口唇部強い横ナデで下方に削り目。内面左←右方向のケヅリ後、ハケ+ナデ。接合痕、指頭圧痕顕著。	

種類	Fig.	標図番号	出土地点	器種	法量(cm)				特徴	備考
					口径	器高	胴径	底径		
甕	Fig.18	1 7	SE5	甕	15.2	(18.0)			チャートの粗粒砂を含む。浅黄褐色。外面口縁部強い横ナゲ、頸部横ハケ、肩部上下から指痕によって粘土で集められた突起を形成する。内面横ハケナナゲ、指痕压痕を認める。口唇部は強い横ナゲ前面をなす。	肩部焼ける。
	*	1 8	*	壺 肩部		(6.5)	21.0		チャート、石英の粗粒砂を含む。にぶい黄褐色。内面ナゲ。器表の荒れが激しい。	
	*	1 9	*	甕	20.6				チャート、赤色風化縚の粗粒砂・小穢を含む。黄褐色。外面口唇部強い横ナゲで面をなし、外方に拡張する。口唇部強い横ナゲ、頸部ハケ後ナゲで幅約3mmの粘土帶を貼り付け横ナゲで割り切目を入れる。指痕压痕を認める。内面ナゲ、指痕压痕が認められる。	
	*	2 0	*	壺	16.4	(9.0)			チャートの粗粒砂を含む。にぶい褐色。外面ハケナナゲ、肩部と頸部に形の異なる列点文を有する。口縁部は17mm程の粘土帶を貼り付け横ナゲで割り切目を入れる。口唇部は強い横ナゲ。内面ナゲ。指痕压痕がある。	
	*	2 1	*	壺	26.0				チャートの小穢・粗粒砂を含む。にぶい橙色。外面横ハケ後ナゲ、内面横ハケ+横ナゲ。口唇部強い横ナゲで面をなす。	
生	Fig.19	2 2	*	甕	18.7				チャートの粗粒砂・赤色風化縚の粗粒砂・小穢を含む。橙色。外面口唇部強い横ナゲで面をなし僅かに凹む。口縁部ハケ後ナゲ、頸部横ハケナナゲ、肩部で幅約5mmの粘土帯を貼り付け横ナゲで割り切目を入れる。肩部はケ後ナナゲ。内面ナゲ、肩部から頸部にかけて指痕压痕が認められ、頸部に崩壊が残る。	
	*	2 3	*	壺		(16.6)			チャートの小穢・粗粒砂を多く含む。橙色。外面ハケ、頸部に列点文を有する。内面ハケナナゲ、接合痕が認められる。	
	*	2 4	*	甕	12.0	7.2			チャートの粗粒砂を含む。にぶい黄褐色。外面ハケと肩部に剥離文。口縁部は横ナゲ。口唇部強い横ナゲで面をなす。内面横横構ナゲ、口唇部横構ナゲ+横ナナゲ。内外面指痕压痕が僅かに残る。	肩部に黒斑。
	*	2 5	*	甕	15.4	(5.3)			チャート、赤色風化縚の粗粒砂を含む。外面頸部ハラケズリ、頸部と口縁部は横ナゲ、内面横ナゲ、接合痕剥離、口唇部は強い横ナゲで、下方に僅かに延張しや凹む。	
	*	2 6	*	甕		23.5			チャートの粗粒砂を含む。にぶい褐色。外面にタタキ、内面ナゲ。指痕压痕、接合痕が認められる。	外面焼ける。
上	*	2 7	*	甕	14.0	(7.5)			チャート、石英の粗粒砂を含む。明赤褐色。外面唇部横構ナゲ、頸部強いナナゲ、内面横構ヘラ削り、口縁部は横ナゲ+横ハケナナゲ。口唇部横ナゲで、下方に僅かに剥離しや凹む。	
	*	2 8	*	甕	16.7				チャート、赤色風化縚、長石の粗粒砂を含む。にぶい褐色。外面唇部横構ナゲ、口縁部横ナゲ。内面横構ヘラケズリ、口縁部横ナゲ、口唇部は強い横ナゲで下垂する。頸部内外面に指痕压痕。	
	*	2 9	*	甕	12.6	18.1	5.3		チャートの粗粒砂を多く含む。にぶい黄褐色。外面横ハケ、口縁部横構ナゲ、口唇部横ナゲの後口縁部前面を強く横ナゲ。	内外面焼ける。
	*	3 0	SD901	壺 肩部		(13.8)			チャート、赤色風化縚の粗粒砂・小穢を含む。にぶい黄褐色。外面ハケ、肩部は強い横ナゲ、頸部横構ナゲ。内面ハケ、口縁部横構ナゲ、肩部指痕压痕剥離、器表の荒れが激しい。	外面焼ける。
	*	3 1	SR5	甕	25.3	(5.8)			チャート、赤色風化縚の粗粒砂を含む。にぶい黄褐色。内外面ともナナゲ。外的接合痕が僅かに残る。口唇部強い横ナゲで下方に延張する。	
器	*	3 2	*	高环脚					チャートの粗粒砂を含む。にぶい黄褐色。外面部状文、剥離沈跡、剥離文を残す。	
	*	3 3	*	高环脚					チャート、長石の粗粒砂を含む。にぶい黄褐色。外面ハケ溝整後、累状文、波状文を残す。	
	*	3 4	*	高环脚					チャート、石英の粗粒砂を含む。にぶい橙色。外面部剥離後波状文を施し、幅約5mmの断面三角形の粘土帶を貼り付ける。内面ナゲ、接合痕が残る。	

機 類	Fig No.	持図 番号	出土地点	器 種	法 量 (cm)			特 徴	備 考	
					口徑	器高	胸徑			
炭 生 土 器	Fig.19	3 5	SR5	高环脚		4.5	10.0	チャートの粗粒砂を含む。にぶい 橙色。外観暗ハケ。底口線部を残す。内面擦 ナダ。脚部は上部を構み出し横ナダし2条 の凹縞文を有する。		
	*	3 6	*	蓋		(1.3)		チャートの粗粒砂を含む。橙色。上下面放射 状にナダ。口縫部は上に約4mm、下に約1cm の粘土帯を貼り付けていたようであるが下方 は欠損。口部は強い横ナダで面をなす。		
	*	3 7	*	甕底部		2.3	6.0	チャートの粗粒砂を多く含み、赤色風化繊 を僅かに含む。にぶい橙色。内面ヘラケズリが。 底部は構み出るように上げ底。		
	*	3 8	*	底部		(3.6)		4.7	チャートの粗粒砂を含む。表面ナダ。接合痕、指頭圧痕著。内面ナダ。	
	*	3 9	*	台付鉢		5.3		4.1	チャートの粗粒砂を含む。赤色風化繊を含む。浅黄橙色。内 外面指痕有。接合痕が認められる。器表の剥れ及び亀裂が激しい。	
	*	4 0	SK901	高環		(8.5)		チャートの粗粒砂を含む。橙色。外側ハケナ ヘラミガキ。内面ナダ。拂り目痕者。		
	*	4 1	SR5	高环脚		(7.5)		15.3	チャート。赤色風化繊の粗粒砂。小窪をわず かに含む。にぶい黄橙色。外面上-下方向へ ハケ後、ラミガキ。脚部強い横ナダ。撫頭部 上下に構みだして横ナダ。内面ナダ。	
	*	4 2	*	甕底部		(3.5)		6.8	チャート。長石の粗粒砂を含む。にぶい橙色。 外側ナダ。肩下部に指頭圧痕著。内面ナダ、 接合痕著。上げ底。	
	*	4 3	*	底部		(5.1)		5.6	チャート。赤色風化繊の粗粒砂を含む。にぶ い黄橙色。外側ハケ後ヘラケズリ。底部強 い横ナダ。内面に指頭圧痕が認められる。上げ 底。	内面に黒斑。
	*	4 4	*	底部		(3.6)		6.4	チャート。石英、赤色風化繊を含む。橙色。 外側ハケ。内面ヘラケズリ。	
	*	4 5	*	底部		(4.4)		6.2	チャートの細粒粒砂を含む。にぶい橙色。 外側ナダ。瓶ハケが僅かに残る。内面ヘラケ ズリの痕が僅かに残る。器表の荒れが激しい。	
器	Fig.20	4 6	*	甕底部		(3.9)		7.0	チャートの粗粒砂を多く含む。にぶい橙色。 外側ハケナダナヘラミガキ。指頭圧痕著。 内面ナダケスリ。底部上げ底。	底部に黒斑。
	*	4 7	*	底盤		(3.6)		7.3	チャート。石英、赤色風化繊を含む。明褐色。 外側ハケ。内面指頭圧痕、指痕著者。底部 や上げ底。	
	*	4 8	*	底部		(5.5)		7.0	チャートの粗粒砂、赤色風化繊を僅かに含む。 にぶい橙色。外側ハケ。内面剥離が激しく観 察不可能。底部下面ハケ。	
	*	4 9	*	底部		(5.5)		5.8	チャート。赤色風化繊の粗粒砂を含む。橙色。 外面下-上方向へのハケ。内面ナダ。指頭圧 痕著者。	
	*	5 0	*	底部		(6.4)		6.1	チャート。赤色風化繊の粗粒砂を含む。にぶ い黄橙色。外側ヘラケズリ後ナダ。下端部に 指頭圧痕が認められる。内面ナダ。上げ底。	
	*	5 1	*	底部		(6.6)		7.1	チャートの粗粒砂を含む。にぶい黄橙色。 外側ハケ。内面ヘラケズリナダ。	
	*	5 2	SK901	甕底部		(6.1)		5.4	チャートの細粒粒砂を含む。赤色風化繊の 外側観ハケ。内面ナダで、底部へ状原体の 圧痕。器表の荒れが激しい。上げ底。	
	*	5 3	SR5	底部		(5.8)		8.8	チャートの粗粒砂を多く含む。赤色風化繊を 若干含む。橙色。器表の荒れが激しい。底部 は僅かに上げ底。	底部に黒斑。
	*	5 4	*	底部		(7.4)		5.9	チャート。長石の粗粒砂を含む。にぶい黄橙 色。外側ハケ後、瓶方向へヘラミガキ。底部の 強い横ナダ。内面ナダ。指頭圧痕著。	
	*	5 5	*	底部		(14.9)		8.3	チャート。赤色風化繊の細粒粒砂-粗粒砂を 含む。橙色。外側ハケナヘラミガキ。肩部に左 下より2列点文を有する。内面剥離が激しく 観察不可能。底部は上げ底。	底部に黒斑。
	*	5 6	*	底部		(23.3)	22.4	7.1	チャートの小窪、赤色風化繊の粗粒砂を含 む。橙色。外側ナダナヘラミガキ。肩部に左 下より2列点文を有する。内面剥離が激しく 観察不可能。底部は上げ底。	

種類	Fig. No.	博団番号	出土地点	器種	法量(cm)				特徴	備考
					口径	器高	胴径	底径		
強 25 土	Fig. 20	5 7	SR5	胴部					チャートの粗粒砂・小礫を含む。橙色。外面に幅2~4mmの平面三角形の粘土帯を貼りつける。	
	*	5 8	*	胴部					チャートの粗粒砂・小礫を含む。橙色。外面ハケ後ナダ。縦状文を有する。	
	*	5 9	*	胴部					チャートの粗粒砂を僅かに含む。黄橙色。樹脂波状文と縦状文を施す。	
	*	6 0	*	胴部					チャートの粗粒砂を僅かに含む。にぶい黄橙色。外周くじ先による連續した縫目の中下に波状文を有する。	
	*	6 1	*	胴部					チャート、赤色風化繊の粗粒砂を含む。橙色。外面ハケ。縦状文を有する。器表の荒れが激しい。	
	*	6 2	*	胴部					チャート、赤色風化繊の粗粒砂を含む。橙色。外周ハケ。縫目洗面が施され、その上に約5mmの粘土帯を貼り付け5mm間隔で撹む。	
器 類	*	6 3	*	胴部					チャート、赤色風化繊の粗粒砂を含む。にぶい橙色。外周ハケ後ナダ。木目の長い横ハケ、その後輪約3mmの粘土帯を貼り付けて縫目を崩し沈線文を施す。	
	*	6 4	*	胴部					チャート、赤色風化繊の粗粒砂を含む。黄橙色。外周擦光をコンパクトに使用した扇形文と樹脂文を有する。	
	*	6 5	*	胴部					チャート、赤色風化繊の粗粒砂を含む。にぶい橙色。外周ハケ後ナダ。木目の長い横ハケ、その後輪約3mmの粘土帯を貼り付けて縫目を崩し沈線文を施す。	
須恵器	*	6 6	P910	坏	(2.3)			8.0	チャート、黒色をわずかに含む。灰色。内外面ナダ。高台は僅かに外方に突出する。	
土 師 器	*	6 7	SR5	坏	15.6	5.7		6.4	チャート、黒色の繊維状砂を含む。淡赤橙色。外周周板ナダ。内面ハラミガキ痕。高台はやや内側につき接合痕顯著。	
	*	6 8	*	坏	12.6	2.9		6.5	チャート、赤色風化繊の粗粒砂を含む。にぶい橙色。内外面ナダ。底部周板ヘラ切り後ナダ。	
乳生土器	*	6 9	SD901	胴部		16.1			チャート、赤色風化繊の粗粒砂・小礫を含む。にぶい橙色。外周ハケ後ヘラ箇所。内面左・右方向のヘラカスリ、張詰強いナダ。	

遺物観察表(石器)

Fig No.	博団番号	出土地点	器種	法量(cm)				材質	特徴
				全長	全幅	厚	重量(g)		
Fig. 21	7 0	SR5	打製石斧丁	6.3	3.8	1.3	34.5	頁岩	片方の側縁部に半円状の丁寧な抜りが認められる。
*	7 1	*	打製石斧丁	8.2	4.1	1.4	50.1	サヌカイト	平面長方形。直線刃の両刃。刃部を両面からつくり出している。
*	7 2	*	砾石	10.6	5.3	2.3	269	砂岩	使用面2面。
*	7 3	*	磨製石斧	18.6	7.4	5.5	1.15Kg	ミカク緑色岩	全面に敲打痕が認められる。刃部は片寄っている。
*	7 4	*	磨製石斧	15.7	6.5	4.7	850	ミカク緑色岩	刃端欠損。基部近くには敲打痕が認められるが、他の丁寧に研磨されている。

## 4. L・N区

### (1) 調査区の概要と基本層準

#### ①調査区の概要 (Fig. 22)

調査対象地の南部に位置する南北方向に長い調査区である。南北約96m、幅約2.3m、面積219m<sup>2</sup>を測る。M区との交差部を境に、北側をL区、南側をN区と呼称するが、同じ様相を呈するので一括して扱う。古代の自然流路SR3が検出された。

#### ②基本層準 (Fig. 22)

##### N区南サブトレンド

I層	耕作土。
II層	灰黄褐色粘土質シルトに数mm～数cm大の礫を含む。
III層	黒褐色粘土質シルト。
IV層	灰赤色シルト。(地山)
SR3-1	黒褐色粘土質シルト。
SR3-2	砂と2～10cm大の礫。少量の土器片(土師器・須恵器)含む。
SR5	砂に数mm～数cm大の礫を含む。

### (2) 自然流路S R 3と出土遺物

#### ①自然流路S R 3 (Fig. 23)

遠跡東側の段丘斜面下端に沿うように延び、幅約1.7m、深さ50～70cmを測る。SR3は古代に埋没した自然流路である。

#### ②出土遺物 (Fig. 23)

弥生土器壺(1, 2, 11)で、1と2は同一個体かと思われる。11はN区下層より半完形の状態で出土した。その他弥生土器底部(3～7)、須恵器底部(8)、白磁IV類(9)、須恵器高坏脚部(10)がある。

### (3) ピット

N区から4つのピットが検出された。径32～40cm、深さ20cmを測る。流路との切り合の関係は不明である。出土遺物はみられなかった。

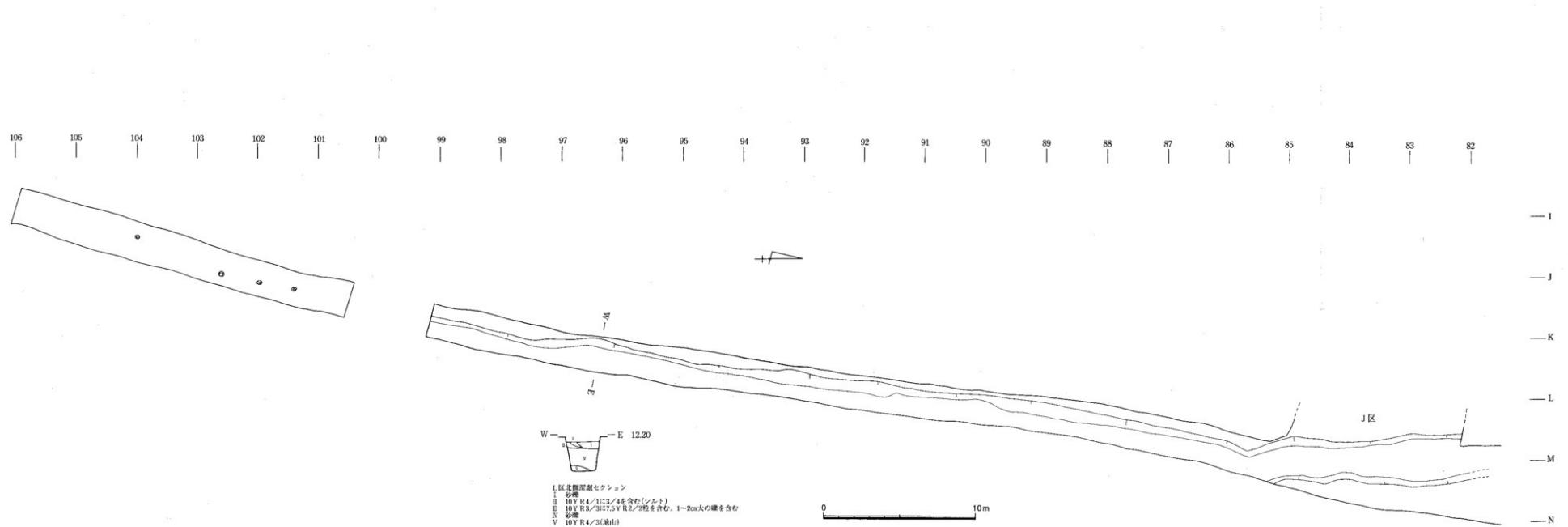


Fig.22 L・N区全体図及びセクション図

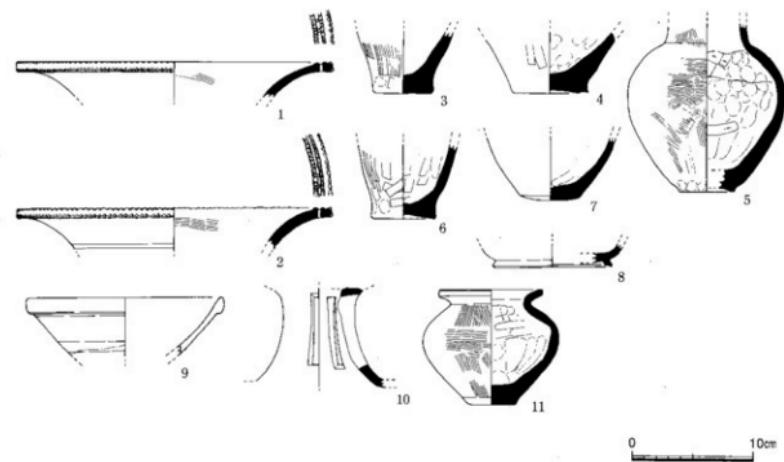


Fig.23 L+N区出土遺物実測図

## L・N区 遺物観察表(土器)

種類	Fig. No.	検査番号	出土地点	器種	法量(cm)				特徴	備考
					口径	器高	胴径	底径		
	Fig. 23	1	SK3	壺	26.0	(3.0)			チャートの粗粒砂を含む。赤色風化櫻の細粒砂。口縁部内面とも底強いナダをし面に上部に削り付けてある。口唇部強いナダで面をとり上部に削みをいれる。口縁部に約3mm程の斜上唇を防ぐ付け剣みをいれる。口縁部に径2mm程の小孔を穿つ。	No2と同一個体か。
甕	*	2	*	壺	26.4	(3.4)			チャートの粗粒砂を含む。橙色。外曲線ハケ。口縁部内面も底強いナダをし面に上部に削り付けてある。口唇部強いナダで面をとり上部に削みをいれる。口縁部に径2mm程の小孔を穿つ。	No1と同一個体か。
牛	*	3	*	底部					チャート、赤色風化櫻の粗粒砂を含む。に赤い黄褐色、背面へラクスリ、ハケ痕が僅かに残る。底部下唇に指頭圧痕が認められる。	
土	*	4	*	底部		(5.0)			チャート、赤色風化櫻の粗粒砂～小窪、火山ガラスの小窪、黒色粒の底粒砂～小窪を含む。外曲ナダ、ヘラクスリか。内面ナダ、指頭圧痕が認められる。上行底風。器表の差れが激しい。	
器	*	5	*	底部		(14.0)			チャート、赤色風化櫻の粗粒砂を含む。赤褐色。外曲線部ハケ、腹面ハケ後後脚、肩下滴落に指頭圧痕显著。内面腹部ケズリナダ、複合側溝著、肩部～胴部ナダ。指頭圧痕显著。上げ底。	
	*	6	*	底部		(6.0)			チャート、赤色風化櫻の粗粒砂を含む。に赤い黄褐色。外曲ナダ。内面ヘラクスリナダ、指頭圧痕著。内面ヘラクスリナダ。指頭圧痕著。上げ底。	外面に黒斑。
	*	7	*	底部					チャート、赤色風化櫻の粗粒砂、黒色粒の小窪を含む。に赤い黄褐色。外面ナダ。内曲ナダ、指頭圧痕著。	底部に黒斑。
須恵器	*	8	*	底部		(1.9)			チャート、黒色粒の粗粒砂を含む。灰褐色。内外面ともナダ。高台部強いナダで凹む。	
白	*	9	*	口縁部	16.2				白磁IV類。焼成良好。灰白色。外面下半露底、口縁部内面若干粒楽のたまりがみられる。	
須恵器	*	10	*	高环瓶					チャート、黒粒の粗粒砂を含む。灰黄色。外曲ナダ。内曲ナダ。約6cmのすかしをもつ。	
弥生土器	*	11	*	壺	8.5	9.5			チャート、赤色風化櫻の粗粒砂を含む。橙色。外曲口唇部面を見る部分が一部ある。口縁部ナダ、肩部～胴部にかけてハケナダ、腹部ハケ、底部ナダ。内面口縁部ナダ、脇部ヘラクスリ、胴部強いナダ、指頭圧痕著。	

## 第IV章 考察

### ユニット7出土の土器

土器集中であるユニット7からは、土師質土器杯皿を中心に遺存度良好な土器が多数出土している。ここではこの土器群について、所属時期をはじめとする検討を試みるとともに、本遺跡の古代における消長についても簡単にまとめる。

#### I. 出土状態と資料の認定

ユニット7は流路SR3内からの出土ではあるが、1) 約1.3×4.9mの範囲に極めて密度の高い塊となって検出されたこと、2) 欠損や摩耗が比較的少なく、遺存状態の良いものが目立つ、3) 以上の状態が流路内でも特異であることが指摘できる。さらに後述するような土器の特徴もあわせると、多くは同時に遺棄されたものとみられる。本稿では資料の信頼性を高めるため、上の1)～3)の条件を全て満たす遺物を対象に考察を進める。2)と3)については具体的には、口縁部から底部までを圓化・復元でき、且つ口縁部或いは底部の残存率(復元全周に対する残存弧の長さ)が4分の1を超えることとする。例えば「ユニット7」の集中範囲内から出土していても、この残存度の条件に合致しないものは、本稿の資料として採用しない。以上の条件に適合する遺物はNo.2～54<sup>回</sup>のうち5と10を除く51点とNo.88で、合計52点である。

なお、多数を占める土師質土器杯の中には、わずかな部分を欠くのみで完形に近いものが10点、完形のものが2点存在し、廃棄時の状態を窺わせる。

#### II. 分類(表1)

該当する遺物には土師質土器杯・皿、須恵器鉢が存在する。須恵器食膳具は存在しない。土師質土器はその形態や手法において共通点が多い。初めに手法上の主な共通点を列挙すれば、成形には回転台を使用し、切り離しは回転ヘラ切りによる。多くの場合、底部外面には粘土絆痕やヘラ切り痕が各々単独或いは重複して観察できる。ミガキは、いずれの部位にも施さない。これらは全ての個体に共通するので、以下では原則的に省略する。詳細については後述する。分類名称については、土佐の古代前期からの流れを考慮した<sup>14</sup>。

##### 1. 土師質土器杯

平底のもののみを認める。器高指数により、杯Aと杯Dに大別できる(Fig.24)。

###### 杯A

杯45点中36点を占め、主要器形といえる。平底の底部から、体部が斜直あるいはやや内湾して立ち上がる。Fig.25のごとく明確な法量分化は示さないが、15、19、36は底径も大きいなど大柄で、杯A Iとする。

小径の24は杯A IIIとする。他を杯A IIとする。

###### 杯D

器高指数が29～38で平均33と、杯Aに比して高く、法量も大きい。体部は直線的あるいはやや内湾して立ち上がる。25、52は小型で杯D IIに分類する。48、49は、器高指数だけでみると杯Aに相当するほど低いものである。

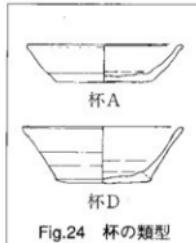


Fig.24 杯の類型

## 2. 土師質土器皿

法量分化は明瞭とはいえないが、大径の4点と小径の2点を分離した。平底のものは皿A、高台又は脚を持つ2は皿B4に分類する。

## 3. 須恵器 鉢

88のみが該当する。形態、底部回転糸切り、一定した器壁厚、整った回転ナデ痕、精選された胎土が特徴的な篠窯の製品である。

## III. 位置付け

### 1. 土佐における古代後期土器研究の現状

1990年代を中心に、簡単にまとめておく。出土資料には地域的な偏りがある、土佐中央部の高知平野では一定の資料が得られているが、その他の地域では質と量が充実した一括資料は殆ど得られていない。90年代前半までは高知平野でも資料不足の感が否めなかつたが、そのような状況の中で松田直則氏は、「9世紀後半から12世紀初頭」を三期に区分する編年を発表し、統いて四国4県の概要をまとめた<sup>14</sup>。この成果はその後の研究の基礎となっている。96年には小籠遺跡の報告の中で、出原恵三氏が後述のSK130・136をはじめとする古代土器について考察した<sup>15</sup>。95年から始まった下ノ坪遺跡の発掘調査では、同遺跡が古代においても一大活動期をなしていることが判明するとともに、それまでに例のない質と量を備えた一括資料群が次々と検出された。これらの資料群は直ちに注目されるところとなり、96年の第8回国中世土器研究会では、それらの位置付けに向けての速報が池澤によつて行われた<sup>16</sup>。97年には、吉成承三氏が新出資料を加えて古代後期から中世前期にわたる供膳具の様相をまとめるとともに、播磨地方との関係についても言及した<sup>17</sup>。98年の第9回国中世土器研究会では土器碗が主題とされ、竹村(現姓筒井)三栄氏が、新出資料を盛り込むとともに、比較的散発的に出土していた土器碗の様相をまとめた<sup>18</sup>。同年の下ノ坪遺跡報告では、池澤が県下の他遺跡出土資料をも含めた古代土器の分析と位置付けを行い、古代前期から後期への流れが把握できることとなった<sup>19</sup>。99年には天崎遺跡の報告がなされ、当該期の様相が不明であった高知平野西部の資料を得ることができた<sup>20</sup>。また、池澤は平安時代を通じた編年を試みるとともに、土器碗についての検討を行った<sup>21</sup>。このような現状の中で、以下ユニット7の位置付けを行う。

## 2. 比較と位置付け

ユニット7は、池澤の古代土器編年試案II期(以下II期と省略)の範疇に属する資料であることは明らかである。II期の内容、位置付け、画期、意義については註2にあり、ここでは割愛する。本項では、最も近似した様相を呈する小籠遺跡SK130・136出土遺物群(以下小籠遺跡と呼称)との比較を主な手掛りに、ユニット7のさらに詳細な位置付けを試みる。小籠遺跡はII-2期の基準資料である。主な対象は、同資料でも主体をなす杯A、杯D、皿である。

### (1) 法量

ユニット7に法量の縮小傾向を指摘できる。Fig.25からわかるように、杯Aでは口径の分布中心がやや異なり、皿でも小籠遺跡にあった大径のものが存在しない。杯Dも口径、器高が共に顯著に縮小しているように見えるが、ユニット7の時期に、より大型のものが存在しないのか否かについては即断できない。確かなのは、ユニット7の杯Dが小籠遺跡にはなかった小法量のもので占められていることである。特に杯D IIは小籠遺跡とはかけ離れた小ささで、後続期にはさらに縮小してゆく可能性がある。

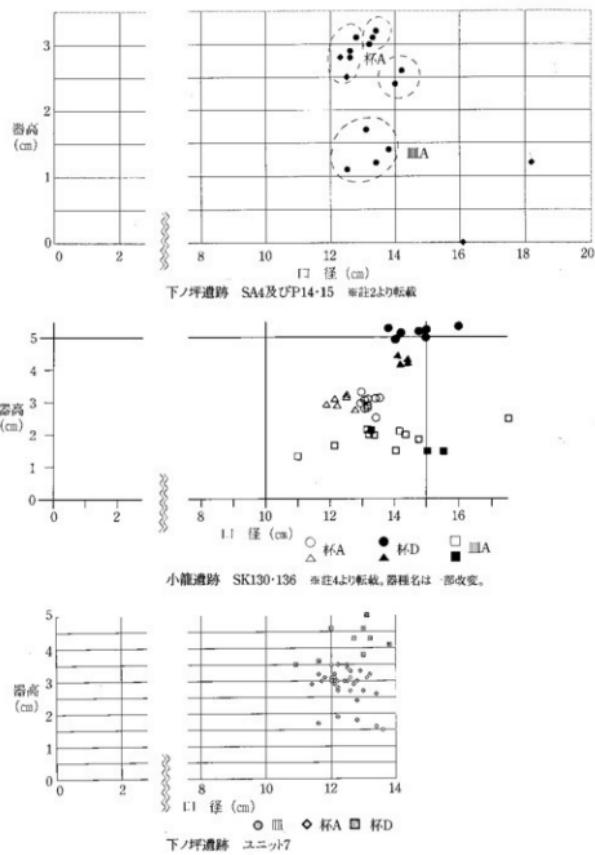


Fig.25 土師質土器皿径高分布

## (2) 皿の形態

皿は形態にも相違を指摘でき、律令期的な箱形のシルエットを保つものが小籠遺跡には一定数存在するが、ユニット7には存在しない。ユニット7の皿は全て、形態や底径において杯との共通性が強くなったもので、体部の作り方で杯にも皿にもなる、という製作法によるものと考えられる。

## (3) 織年の位置付け

法量変化の傾向をみるとために、Fig.25にはII-1期の基準資料である下ノ坪遺跡P14・15及びSA

4も掲げた。これらのグラフから、まず杯A・皿Aについては、法量が縮小したり、大法量のものが欠落してゆく傾向が看取できる。杯DはII-2期より確認できる器種である。以上の諸様相からみて、ユニット7は小籠遺跡SK130・136より後出する資料と考えられ、II-3期を与えておく。年代観については、篠窯産鉢を手掛りにできる。篠窯製品に関する伊野・石井の年代観によれば<sup>(11)(12)</sup>、小籠遺跡の土器群に含まれる平安II期中～新的黒色土器椀との関係にも矛盾は生じない。

なお、碗や小径の皿・杯の存在からユニット7より後出する資料と考えられる奥谷南遺跡K-1出土土器群中には、小籠遺跡に匹敵する大法量の杯Dが含まれており<sup>(13)</sup>、同器種の法量推移についてはなお検討を要する。

#### IV. 群・製作手法

##### 1. 群の設定

ユニット7では、細部の形態やつくり、胎土、調整にバリエーションが認められる。多数を占める杯Aではそれらの間に相関関係が表れたので、2つの群を設定する（表1, Fig.26）。なお、形態分類のモアルや呼称は註2に準ず。

##### I群

胎土に0.5mm以下の石英等の砂粒を比較的多く含み、粗い触感がある。表1のごとく、口縁端部は素直に丸くおさめるc形態で比較的厚いものが多く占める他、ごく弱い四線が廻りb形態に分類できるものも2点認める。II群に比べ器壁が厚い、立上り部が特に厚いものが多く、11はこの部分に明確な接合痕を認めるが、同様の痕跡を他にも普遍的に認める証ではない。底部外面は、粘土紐やヘラ切りの痕跡を目立たなくなる程度にナデ消すものが多い。また、ナデは外底の周縁部が丁寧で、その周縁部は若干上反し、立上り部はII群のように段状にならないものが多い。また、体部内面に回転力による擦痕を認めるものがあり、工具を当てて回転調整を行った可能性がある。

器名 番号	器種	口径 mm	器高 mm	底 径 mm	口縁 形態	施 工 手 法	外底調査	備考
3_126	皿A I	12.8	1.8	14	I			
20_136	杯A B	12.4	2.7	21	c	ナデ	厚	
9_129	皿A II	12.7	2.9	23	c	ナデ	内擦	
21_116	皿A II	12.2	2.8	23	c	丁寧ナデ		
25_138	皿A II	12.8	3.0	23	c	ナデ	内擦	
16_103	皿A II	12.1	2.9	24	c	丁寧ナデ	内擦	
11_111	皿A II	12.5	3.0	24	c	ナデ	体部を接合	
35_124	皿A II	12.4	3.0	24	c	ナデ		
13_100	皿A II	12.5	3.0	25	c	ナデ	内擦	
33_134	皿A II	12.0	3.0	25	c	ナデ		
24_132	皿A II	11.4	2.9	25	c	弱ナデ		
22_105	皿A II	12.0	3.1	26	b	ナデ	連続的巻上げ	
41_120	皿A II	12.5	3.4	27	b	ナデ	連続的巻上げ	
29_118	皿A II	12.0	3.5	29	c	ナデ		
48_142	杯D I	13.0	3.8	29	c	ナデ	内擦	
47_109	杯D I	12.7	4.3	34	c	丁寧ナデ		
5_162	皿A I	13.4	1.6	12	g	未	口等	
8_129	皿A I	12.5	2.4	19	g	未	薄	
15_156	皿A I	13.4	2.6	19	g	丁寧ナデ	横丁寧	
36_158	皿A I	13.1	3.1	24	g	弱ナデ	薄	連続的巻上げ
19_131	皿A I	13.2	3.2	24	g	弱ナデ	薄	
17_107	皿A II	12.7	3.0	25	g	ナデ		
31_112	皿A II	12.6	3.1	25	g	木	連続的巻上げ	
32_156	皿A II	12.1	3.0	26	g	弱ナデ	連続的巻上げ	
30_159	皿A II	12.0	3.0	25	c	弱ナデ	連続的巻上げ	
39_125	皿A II	12.5	3.3	26	g	未	連続的巻上げ	
44_117	皿A II	12.4	3.3	26	g	未	連続的巻上げ	
38_119	皿A II	12.1	3.2	26	g	弱ナデ		
53_98	皿A II	12.3	3.5	28	c	未		
25_127	皿A II	11.6	3.6	31	g	未	薄	
4_153	皿A II	11.6	1.7	19	c			
7_106	皿A II	12.2	1.9	16		未		
2_135	皿A II	13.6	1.5	11		粗高は皿部		
37_140	杯A II	13.0	2.7	21	c	弱ナデ	体部を接合	
12_148	杯A II	12.2	2.7	22	c		厚	
27_138	皿A II	12.4	3.0	24	c	ナデ		
18_121	皿A II	12.2	3.0	25	g	丁寧ナデ	薄	
34_146	皿A II	12.6	3.1	25	c	ナデ		
40_157	皿A II	12.0	3.0	25	c		厚	
14_104	皿A II	12.1	3.1	26	c	ナデ	口薄	
50_137	皿A II	11.1	3.0	26	g	木	内擦	
54_123	皿A II	11.8	3.1	26	g	弱ナデ		
51_101	皿A II	12.3	3.4	27	c	弱ナデ		
25_145	皿A II	11.6	3.2	28	c	ナデ		
26_122	皿A II	12.2	3.5	29	c	ナデ	連続的巻上げ	
49_130	杯D I	13.8	4.1	30	c	ナデ		
62_110	杯D I	10.9	3.5	32	c	弱弱ナデ		
43_154	杯D I	13.2	4.3	33	g			
46_114	杯D I	13.0	4.6	35	c	ナデ		
45_108	杯D I	13.1	5.0	38	c	弱ナデ	内擦	
42_113	杯D I	12.0	4.6	38	g	ナデ		

1. 1「丁寧ナデ」は造形の各部位が押され、

「弱ナデ」は痕跡がやや明瞭に残る。「未」は未調査。

2. 「厚」は厚底部、内擦、内面擦痕。

「薄」は薄手、「口薄」は口縁部が薄手。

3. その他は本文参照。

表1 ユニット7該当の土師質土器皿一覧

## II群

精選された胎土で砂粒が少なく、滑らかな触感である。全体に薄手、或いは口縁部を薄く作るものが目立ち、口縁部は外反するg形態が多数を占める。底部外面のナデはI群に比べて弱く、未調整のものも少なからず存在する。立上り部で剥離せず、むしろ粘土紐が底部から体部へ連続するとみられるものが多い。底部外面の形状はI群と異なった傾向があり、周縁部が持ち上がりず、立上りは段状になる例が多い。このような全体的なシルエットは、II期になって顕在化した「D相」により良く合致するものである<sup>14</sup>。なお、群を問わず器形の歪みが少なくない中、15、19は均整のとれた形で胎土も精良である。特に15は丁寧なつくりで、立上がり外面の段も丁寧に調整され明瞭かつ整美であり、II群及びD相の一つの指標となる個体である。

### 2. 本遺跡への土器供給

上記のような諸要素の相関性は、工房レベルの差異を想定させる。同じ規格で同じ用途の土器が、2つ以上の最小生産単位から供給されているということになる。

### 3. 製作手法についての覚え書き

上記のような群の問題とも関係して、ユニット7にみる製作手法に関する痕跡は画一的とは言い難い。成形方法では、I群杯Aの中にみられる、底部の周縁に体部を圧着しつつ立ち上げる方法、II群杯Aに目立つ、立上がり部に際立った接合痕が認められず、連続的な巻き上げの傾向が強いものなどがある。しかし、それらがはっきりしないものも存在し、I群・II群の分類と、想定できる手法との関係等は、本稿では結論できない。

さて、小籠遺跡出土資料に關し、出原恵三氏は立上がり部での剥離や、底部外面の切り離し痕の不明瞭さを根據に「分割成形技法」の成立を唱え、以後中世まで当地の土器生産上「規定的役割」を果たしたものとした<sup>15</sup>。ユニット7との比較の為に改めて小籠遺跡資料を実見すると、たしかに、立上がり部に接合痕を有す例や、そのような手法が立ち上がり部の形態に表れている例を特に杯Dに認める。しかしユニット7では、そのような例は杯Dにおいても少なかった。I群に多い、立上がり部が肥厚する断面形は、IIの立上がり部の痕跡に注目すると、底部の周縁部に体部を圧着したことによると考えられるが、19、22、37のように剥離が底部から体部へと螺旋状に連続する例もある。以上の諸様相をまとめると、細部形態と製作痕跡、胎土群といった諸要素が、比較的に多様かつ混在しているというのが、ユニット7及びII期全体に關する現時点での所見である。これらの諸要素をもっと整理できるのか否かは今後の課題となる。

## V. 土佐における、篠窯産鉢からみた土器・陶器の様相について

ここでは既に発表した集計結果に基いて述べる<sup>16</sup>。ユニット7には篠窯産の鉢（以下篠鉢）が含まれていた。篠鉢の出土例をまとめると表2のようになり、幾つかの特徴を指摘することができる。まず遺跡の立地や性格としては、水運至便な拠点及び寺院関連とみられる遺跡である。時期的には表2のごとく、10世紀中葉頃とされる製品が多い。またこの時期は、黒色土器や施釉陶器の搬入が当地として既に本格化しており、表2の遺跡でもそれらが必ず揃って出土している。これらの遺物が多く出土する遺跡は、律令期の拠点的遺跡とは異なるか、あるいは同じ遺跡でも立地や性格に変化のある遺跡が多く、また黒色土器や綠釉陶器の出土量は律令期の搬入品に比べて多量である。これらのことから、当該期の新たな拠点的遺跡に関わった富裕層が、平安京的な搬入品を獲得し、それらによる生活様式<sup>17</sup>

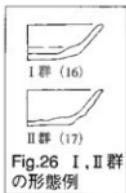


Fig.26 I, II群の形態例

遺跡名	点数	出土位置	段階 <sup>(18)</sup>	遺跡の立地
下ノ坪	1	ユニット7	H期	水陸交通の要衝に設けられた拠点
奥谷南	4	包含層	H期	山腹の寺院関連施設か
船戸	3	S R 2	I期	水運の拠点
風指	1	包含層	J期	近隣に船戸遺跡

表2 土佐出土の篠鉢 ※各遺跡に関する文献は註19他。

を一部導入したことが窺える。その展開と定着の程度については、今後の課題となろう。

さてここで、これらをめぐる覚え書きを、断片的ながら記しておきたい。その一つは煮炊具の変化と新器形の導入である。上記の時期に該当する遺跡では「浜津型」の羽釜が少なからず出土するのが通例で、その出土の様相からは比較的急速な普及が窺え、煮炊具における一つの画期と言える。なお、ここで詳説できないが、その細部形態や胎土にはいくつかのバリエーションがある。食膳具においては、II-1期より律令期を脱却した新たな様相を呈し、II-3期に後続する段階では平高台椀が出現するが、煮炊具においても、浜津型の羽釜がII-3期頃に導入されるものとみられる。また既述した篠鉢の出現時期も、当該期とほぼ一致している。第2はユニット7における篠鉢の出土状態である。表2の、ユニット7を除く出土例は何れも口縁部の断片や底部の一部であるが、ユニット7では一部が欠けるものの全体が復元できる遺存状態であった。冒頭に記したユニット7及びその周辺の状態から考えると、篠鉢88は他の土師器食膳具と共に、未破損のものを遺棄した可能性がある。

#### VI. まとめ—遺跡の消長について—

既報告のよう、下ノ坪遺跡の古代における繁栄期の開始は、8世紀前半代に求めることができた<sup>(20) (21)</sup>。検出遺構を概観すると、大型掘立柱建物などがH区に出現した後、建物をはじめとする遺構が継続的に営まれるが、9世紀前半頃の最大級の建物群の後に遺構は激減・小規模化する。遺物についても、搬入の土師器・黒色土器・緑釉陶器火舎、四仙騎獣八稜鏡、佐波理容器を含めて大量に出土した遺物の出土量は、全体的には遺構と消長を共にする。ただ、遺跡東辺を流れる流路SR1~3ではそれ以後の遺物の出土が続くが、それらも11世紀末~12世紀前半頃を最後にほぼ途絶し、流路は埋没する。ユニット7はその様な流路の中位で出土している。この様な遺構・遺物の検出状況からみると、調査の及んだ沖積地に展開した建物群の廃絶後、遺跡は東の段丘上を中心に営まれた可能性がある。何れにせよ本遺跡ではH区の大型建物群廃絶後も、篠鉢(出土点数1)や黒色土器(同3)、緑釉陶器(同2)などが搬入され<sup>(22)</sup>、土師器食膳具の多数廃棄が行われることもあった。しかしそれらも、13世紀を待つことなく繁栄を終えるのである。今回調査の及んでいない段丘上の様相については勿論不明であるが、10世紀から12世紀にかけての時期は、土佐全域で建物跡をはじめとする諸様相が判然としないのが特徴であり、資料の蓄積が待たれる<sup>(23)</sup>。

最後になったが、伊野近富氏には篠窯産鉢、松田直則氏・吉成承三氏には、ユニット7をはじめとする本遺跡出土遺物に関して多大なご教示を賜った。記して感謝申し上げます。 (池澤俊幸)

註

- 1)以下、同様の数字は本書G区の図版番号を表す。
- 2)池澤俊幸「南四国における古代前期の土器様相-下ノ坪遺跡の成果を中心として-」『下ノ坪遺跡Ⅱ』野市町教育委員会 1998年
- 3)松田直則「土佐における古代末から中世の土器様相-模倣系土器の展開を中心に-」『中近世土器の基礎研究V』日本中世土器研究会 1989年  
松田直則「四国における古代末から中世の土器研究」「シンポジウム 土器からみた中世社会の成立」シンポジウム実行委員会 1990年
- 4)出原恵三「小籠遺跡出土の古代土器について」「小籠遺跡Ⅱ」高知県文化財団埋蔵文化財センター 1996年
- 5)池澤俊幸「高知県野市町下ノ坪遺跡の古代土器より」「第8回四国中世土器研究会資料 土佐の土器・古代から中世へ-8~10世紀の土器様相の展開」四国中世土器研究会 1996年
- 6)吉成承三「土佐の古代末から中世前期にかけての土器様相-高知平野を中心に-」「中近世土器の基礎研究III」日本中世土器研究会 1997年
- 7)竹村三葉「高知県における土器椀の様相」「第9回四国中世土器研究会資料」四国中世土器研究会 1998年
- 8)註2
- 9)『天崎遺跡』高知県文化財団埋蔵文化財センター 1999年
- 10)池澤俊幸「土佐」「平安時代の土器・陶磁器研究-90年代の回顧と今後の展望-」第18回中世土器研究会報告資料 1999年
- 11)伊野近富「篠原型須恵器の分布について」「京都府埋蔵文化財論集第2集」京都府埋蔵文化財調査研究センター 1991年
- 12)石井清司「篠窯須恵器」「概説 中世の土器・陶磁器」真陽社 1995年
- 13)『奥谷南遺跡Ⅱ』高知県文化財団埋蔵文化財センター 2000年
- 14)註2
- 15)註4
- 16)池澤俊幸「土佐における古代の遺跡-官衙的遺跡を中心に-」「律令国家における地方官衙遺構研究の現状と課題-南海道を中心に-」古代学協会四国支部第12回大会発表資料 1998年
- 17)註11
- 18)伊野近富にご教示頂いた。
- 19)『船戸遺跡』高知県教育委員会 高知県文化財団埋蔵文化財センター 1996年  
『後川・中筋川埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅱ 風指遺跡 アゾノ遺跡』高知県教育委員会 1989年
- 註13
- 20)『下ノ坪遺跡Ⅱ』野市町教育委員会 1998年
- 21)池澤俊幸「土佐における古代前期の建物群-研究の現状と課題-」「古代文化 第52巻第6号」(財)古代学協会 2000年
- 22)当該期に比定可能な黒色土器は、今次G区SR3出土の2点の他、B区ST5(「下ノ坪遺跡Ⅰ」野市町教育委員会 1997)で出土している。同じく縁軸陶器は、F区(註20)で報告された口縁部破片の他、整理段階で包含層出土の破片1点を確認している。
- 23)註16

## 2. 南四国の土錘

～古代の土錘を中心にして～

更谷大介

下ノ坪遺跡報告書も、今回の「下ノ坪遺跡Ⅲ」をもって完結となるが、この下ノ坪遺跡を漁撈の面からとらえてみると、土錘が県内でも特に多量に出土した。

周知の通り、土錘とは漁網などを水中に沈めたり、浮子と共に用いて漁網を水中に直立させたりするための道具である。石器時代から、人間の狩りとしての生業のうち、最も歴史の古いもののひとつに釣りがある。しかし釣りでは大量の魚を一度に漁獲出来ないため、漁業の中心は網漁へと移っていく<sup>①</sup>その結果網具類が発達していった。弥生時代以降、漁撈の中心的位置を占めるものは漁網であり、土錘はその実体を示す数少ない人工遺物の一つである<sup>②</sup>。土錘を検討し、錘の大きさや形態、重量で分類することは漁網の操業単位を考えるうえでも重要である。しかし、南四国における土錘の本格的な検討はまだなされていないのが現状である。

下ノ坪遺跡では、H区・拡I・II包含層をはじめとして、多量の土錘が出土しており、ほぼ全てが古代に属する。(H区・拡I・II包含層とは略称であり、H区包含層・拡張区I包含層・拡張区II包含層を指す)。そこで、このH区・拡I・II包含層出土の土錘を基準に、「下ノ坪遺跡Ⅱ」で報告された遺構出土の土錘、及び県下の古代に属する土錘を集めて、形態、特徴などを述べていきたい。また古代以外の土錘についても、可能な限り時期を明らかにしてみる。時期については、弥生・古墳・古代・中～近世に分類する。

## (1) 下ノ坪遺跡出土の土錘

### ① H区・拡I・II包含層出土土錘

H区・拡I・II包含層から、総数263点の土錘が出土した。すべて包含層のものであり詳細な時期比定は難しいが、他の出土遺物からみて、古代に属するものとして把握することが出来る。263点の土錘を、まず大きく形態によって3つに分類した。また、遺存状態が良好な95点を図化し、これに全体の形態が把握できる109点を加算、不明なもの59点を含む計263点について、形態、重量を基準に分類をおこなった。そして、H区・拡I・II包含層以外の遺構出土のものについても、この基準に基づいて分類し、若干の考察をおこなう。

#### (a) 土錘の分類

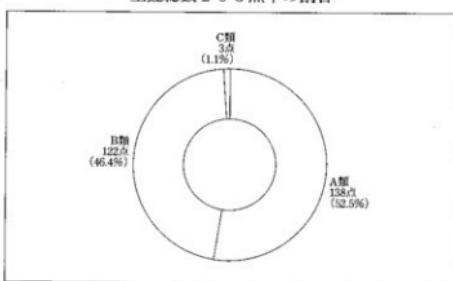
土錘の形態分類にあたっては、管状土錘については、漁網への装着法を含めた形態と、おもり（沈子）として最も重要と思われる重量で分類し、有溝土錘については漁網へ装着する溝の数で分類をした。

土錘の種類であるが、「管状土錘」「有溝土錘」「棒状土錘」「有溝管状土錘」「有溝穿孔土錘」があるが、この中で下ノ坪遺跡H区・拡I・II包含層から出土しているのは、「管状土錘」「有溝土錘」「棒状土錘」の3種だけである。

表1. 土錘形態分類表

形態分類	
	A類. 管状土錘
土錘	B類. 有溝土錘
	C類. 棒状土錘

土錘総数263点中の割合



#### A類. 管状土錘

A類「管状土錘」は、全体形が管状をなし、長軸中央の孔を利用して漁網に装着するタイプである。

H区・拡I・II包含層出土の、A類「管状土錘」は、総数138点（52.5%）で、図化できるものは48点である。

### B類. 有溝土錘

B類「有溝土錘」は、全体形が梢円形の滑車状で、長軸両縁の溝を利用して漁網と装着するタイプである。

H区・拠I・II包含層出土の、B類「有溝土錘」は、総数122点（46.4%）で、図化できるものは44点である。

### C類. 棒状土錘

C類「棒状土錘」は、全体形が棒状をなし、長軸両端又は片端の孔を利用して漁網と装着するタイプである。

H区・拠I・II包含層出土の、C類「棒状土錘」は、総数3点（1.1%）である。

### (b) A類「管状土錘」

管状土錘は、H区・拠I・II包含層から、土錘総点数263点中、138点と半数を超える出土点数であり、土錘総点数の52.5%を占めている。

管状土錘を重量で分類すると下表のようになる。

表2. 管状土錘 重量分類表

形態分類-重量分類	重量分類	点数
A-a類	10.0g以下	8点
A-b類	10.1g~30.0g	68点
A-c類	30.1g~50.0g	28点
A-d類	50.1g~110.0g	4点
A-e類	110.1g以上	3点
A-f類	不明	27点

#### A-a類 (Fig.11 116~119)

10.0g以下の小型の管状土錘で、比較的、全長と全幅の比率関係が大きく、細長いタイプで、形態には「紡錘形」と「円筒形」がみられる。A-a類は8点出土しており、図化できるものは4点である。

#### A-b類 (Fig.11 120~143)

10.1g~30.0gまでの管状土錘で、全長と全幅の比率関係が大きく細長いタイプである。形態には「紡錘形」と「円筒形」がみられる。A-b類は68点出土しており、図化できるものは24点である。

#### A-c類 (Fig.11.12 144~156)

30.1g~50.0gまでの管状土錘で、全長と全幅の比率関係が比較的小さい。形態には「紡錘形」と「円筒形」がみられる。A-c類は28点出土しており、図化できるものは13点である。

#### A-d類 (Fig.12 157~160)

50.1g~110.0gまでの管状土錘で、全長と全幅の比率関係が小さい。形態には「紡錘形」と「円筒形」がみられる。A-d類は4点出土しておりそのすべてを図化した。

#### A-e類 (Fig.12 161~163)

110.1g以上の管状土錘で、全長と全幅の比率関係が小さい。形態は大型の「円筒形」である。

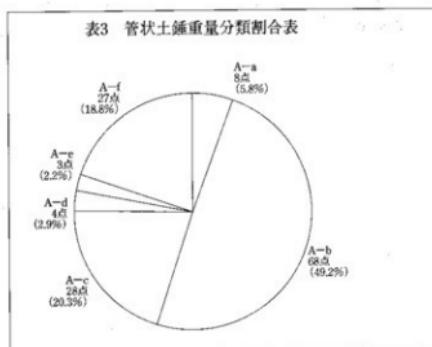
A-e類は3点出土しており、そのすべてを図化した。そのうち2点が撤入品である。

#### A-f類

欠損の度合いが激しく、全体形が不明であり、重量を推定することも困難なものが27点出土しているが、図化しない。

管状土錘を重量で分類すると、

A-a類、A-b類の30.0gまでの管状土錘と、A-c類、A-d類、A-e類の30.1g以上の管状土錘では30.0gを境に、形態的に大きくかわっている。30.0g以下のものは、全長と全幅の比率が比較的大きく、幅が細くて細長いタイプで、30.1g以上のものは全長と全幅の比率が比較的小小さく、短くて太いタイプとなっている。



#### (c) B類「有溝土錘」

有溝土錘は、H区・拡I・II包含層から、土錘総点数263点中、122点を数え、土錘総点数の46.4%を占める。

有溝土錘を長軸の溝数で分類すると下表のようになる。

表4. 有溝土錘 溝数分類表

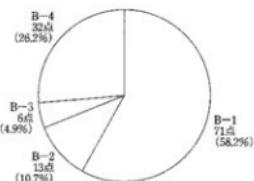
形態分類-溝数分類	溝数分類	点数
B-1類	2条の溝を有するもの	71点
B-2類	3条の溝を有するもの	13点
B-3類	4条の溝を有するもの	6点
B-4類	溝数が不明なもの	32点

有溝土錘断面	
B-1	
B-2	
B-3	

#### B-1類 (Fig. 13, 14, 15 191~197)

長軸両縁に2条の溝を有する有溝土錐で、71点出土しており、図化できるものは34点である。溝の断面形をみてみると、溝断面形がU字形を呈するものが38点あり、V字形を呈するものは32点みられる。その他に溝部が欠損していて断面形が不明なものが1点みられる。B-1類の重量は19.0gの小型品から127.1gまで分布している。形態は「楕円形」か「菱形」を呈しており、中でも「楕円形」を呈するものが圧倒的に多い。B-1類71点中、43点が「楕円形」を呈しており、「菱形」が15点、形が明確に分かれ得ない不明なものが13点みられる。

表5 有溝土錐 溝数分類割合表



#### B-2類 (Fig. 15, 16 198~203)

長軸にT字状で3条の溝を有する有溝土錐で、13点出土しており、図化できるものは6点である。溝をみてみると、すべてこのタイプの有溝土錐は、向かい合わせの2条の溝に比べて、もう一方の溝は溝幅が細くなってしまい溝の深さも浅くなっている。溝の断面形をみてみると、溝断面形がU字形を呈するものが1点、V字形を呈するものが11点、向かい合った溝2条がU字形で、残る1条がV字形を呈するものが1点みられる。B-2類の重量は、一部欠損している(74.7)gから120.2gまでに分布している。形態は「楕円形」か「菱形」を呈しており、B-2類13点中、6点が「楕円形」を呈しており、「菱形」が7点みられた。

#### B-3類 (Fig. 16 204~207)

長軸両縁に4条の溝を有する有溝土錐で、6点出土しており、図化できるものは4点である。溝の断面形をみてみると、溝断面形がU字形を呈するものが5点、V字形を呈するものが1点みられる。B-3類の重量は84.0gから125.3gまで分布している。形態的特徴をみてみると、B-3類は全て球形を呈している。

#### B-4類

欠損の度合いが激しく、全体形が不明であり、溝数も不明なものである。32点を数えたが、図化できるものはない。溝の断面形を可能な限りでみてみると、B-4類32点中、U字形を呈するものが8点、V字形を呈するものが4点みられる。溝部が欠損しており不明なものは20点を数える。

#### (d) C類「棒状土錘」

棒状土錘は、H区・拡I・II包含層から、土錘出土総点数263点中、3点のみであり、土錘総点数の1.1%である。(Fig.16 208~210)

棒状土錘は点数が少なくこれ以上の分類はしない。

高知県全体でも、下ノ坪遺跡3点を含む6点の出土例しかなく、比較検討できない。

### ② 下ノ坪遺跡全体の出土土錘について

前章では、下ノ坪遺跡の中でも、最も一括資料が多く得られたH区・拡I・IIの包含層出土の土錘を分類してきたが、それらを踏まえて下ノ坪遺跡全体の土錘について、調査区ごとに触れてみたい。

#### (a) B区出土土錘

B区については「下ノ坪遺跡I」で説明されているので、ここでは概要は省き、土錘についてのみ述べる。

B区包含層から、管状土錘A-a類が1点確認できた。報告書では図示及び説明はされていない。小型品で一部欠損しているが、円筒形を呈している。

#### (b) C・E区出土土錘

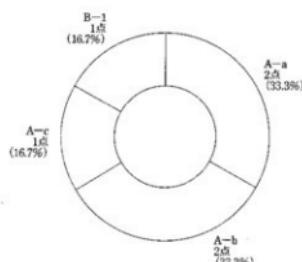
C・E区については「下ノ坪遺跡II」で説明されているので、ここでは概要は省き、土錘についてのみ述べる。C・E区からは、土錘6点が出土している。その内5点は「下ノ坪遺跡II」C・E区に図示されている。

種類別にみてみると、管状土錘5点、有溝土錘1点である。出土地点はすべてS R2からで、時期は出土遺物からみて古代に位置づけることができる。

管状土錘は、A-a類が2点、A-b類が2点、A-c類が1点である。

有溝土錘はB-1類が1点で、形態は「楕円形」を呈しており、溝断面形はU字形を呈する。

表6 C・E区土錘分類割合表

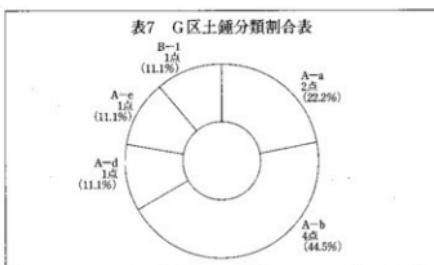


### (c) G区出土土錘

G区については「下ノ坪遺跡Ⅲ」で説明されているので、ここでは概要は省き、土錘についてのみ述べる。

G区からは、土錘9点が出土している。その内8点は「下ノ坪遺跡Ⅲ」G区に図示されている。

種類別にみてみると、管状土錘8点、有溝土錘1点である。出土地点は、管状土錘1点がS B 6からの出土で、その1点を除いては、すべてS R 3からの出土である。時期はS B 6が古代、



S R 3も古代の自然流路であり、9点とも古代と位置づけることができる。

管状土錘は、A-a類が2点、A-b類が4点、A-d類が1点、A-e類が1点である。A-a類は2点とも小型品で、「紡錘形」を呈しているが、1点は「算盤玉形」に近い形を呈している。A-b類の4点中、3点が全長と全幅の比率関係は短く幅が広い。この3点は重量18.5g~19.7gであり、形態も「紡錘形」を呈しており、似たような様相である。

A-d類の1点は、器表が著しく荒れており若干欠損もしているが、孔径は大きい。A-e類は1点あるが、重量が108.8gと本来ならば、A-d類に属するのだが、一部欠損しており、その部分を足すと推定ではあるが、大型品のA-e類に分類ができる。形態は「紡錘形」を呈している。

次に、有溝土錘はB-1類が1点で、形態は「菱形」を呈しており、溝断面形はU字形を呈する。

### (d) H区遺構出土の土錘

H区から、117点の土錘が出土している。その内47点は「下ノ坪遺跡Ⅱ」H区に図示されている。

先ほど分類したH区・拡I・II包含層とは別であり、H区出土の土錘はすべて古代の遺構から出土したものである。H区については「下ノ坪遺跡Ⅱ」で説明されているので、ここでは概要は省き、土錘についてのみ述べる。

分類をおこなうと、管状土錘71点、有溝土錘46点である。

#### S K15

管状土錘8点、有溝土錘9点の計17点が出土している。A-b類が3点、A-f類が5点、有溝土錘B-1類が6点、B-2類が1点、B-4類が2点である。

#### S K16

有溝土錘が1点出土している。全体形は「楕円形」を呈しており、溝数は3条である。溝断面

形は3条ともV字形を呈する。B-2類に属する。

S K20

有溝土錐が1点出土しているが、過半が欠損しており全体は不明であるが、溝数は2条で、溝断面形はU字形を呈する。B-1類に属する。

S K21

有溝土錐が1点出土しているが、約1/2が欠損しているため全体は不明であるが、溝数は3条で、溝断面形はU字形を呈する。B-2類に属する。

S K22

管状土錐が4点出土している。A-a類、A-c類、A-d類、A-f類が各1点ずつである。

S K27

有溝土錐が1点出土しているが、約1/2程欠損しており全体は不明であるが、溝数は2条で、溝断面形はU字形を呈する。B-1類に属する。

S K30

有溝土錐が1点出土している。「楕円形」を呈しており、2条の溝を有する。溝断面形はV字形を呈しており、B-1類に属する。

S K33

管状土錐が2点出土している。2点ともA-b類に属し、形態は「紡錘形」を呈している。

S K34

管状土錐4点と有溝土錐3点の計7点が出土している。管状土錐はA-a類が1点、A-b類が1点、A-f類が2点である。有溝土錐は2条溝のB-1類が3点である。3点とも形態は「楕円形」を呈している。

S D32

管状土錐が2点出土している。1点は約1/2が欠損しているため全体は不明であるが、10.0g以下だと推定が出来る。もう1点の形態は「紡錘形」を呈しており、2点ともA-a類に属する。

S D35

管状土錐が1点出土している。A-b類に属し、形態は「紡錘形」を呈する。

S D40

管状土錐が2点出土している。2点とも同じ様な様相を呈しており、形態も「紡錘形」でA-b類に属する。

S D41

管状土錐2点、有溝土錐1点の計3点が出土している。管状土錐は2点ともA-c類に属し、有溝土錐はB-1類が1点である。

S D43

管状土錐1点、有溝土錐1点の計2点が出土している。A-b類が1点、B-1類が1点である。

S D44

有溝土錐2点が出土している。2点とも全体形は「楕円形」を呈している。B-1類に属する。

#### S B11

有溝土錘1点が出土している。全体形は「楕円形」を呈している。溝断面形はU字形を呈する。  
B-1類に属する。

#### S B12

有溝土錘が1点出土している。全体形は「菱形」に近い「楕円形」を呈しており、溝断面形はU字形を呈する。B-1類に属する。

#### S B14

管状土錘が1点出土している。A-a類に属する。

#### S B15

管状土錘が9点出土している。A-b類に属するものは3点で、うち1点は両端部を欠損している。A-c類に属するものは5点で、A-f類に属するものは1点である。

#### S B16

管状土錘が1点出土している。形態は「円筒形」に近い「紡錘形」で、A-b類に属する。

#### S B17

管状土錘が1点出土している。形態は「円筒形」に近い「紡錘形」で、A-b類に属する。

#### S B19

管状土錘が2点出土している。A-b類、A-f類が各1点である。

#### S B20

管状土錘7点、有溝土錘4点の計11点出土している。管状土錘はA-b類が4点、A-c類が1点、A-f類が2点である。有溝土錘はB-1類が3点、B-2類が1点である。A-f類の2点は、欠損していて全体は不明ではあるが、孔径などをみてみると、かなりの大型品だと思われる。

#### S B21

管状土錘11点、有溝土錘13点の計24点出土している。A-aが3点、A-bが3点、A-fが5点である。有溝土錘はB-1類が11点、B-2類が2点である。

#### S A4

管状土錘2点が出土している。A-a類が1点、A-b類が1点である。

#### S X 6

管状土錘1点、有溝土錘1点の計2点が出土している。A-b類が1点、B-1類が1点である。

#### P 4

有溝土錘2点が出土している。B-1類が2点である。

#### P 14

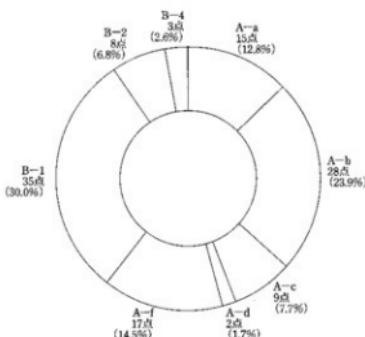
管状土錘4点、有溝土錘2点の計6点が出土している。A-a類が2点、A-b類が2点、有溝土錘は2点ともB-2類に属する。

#### P 15

管状土錘6点、有溝土錘1点の計7点が出土している。管状土錘はA-a類が4点、A-b類が1点、A-d類が1点である。有溝土錘の1点については、一部欠損のため溝の数が不明であるためB-4

類に属する。

表8 H区土錘分類割合表

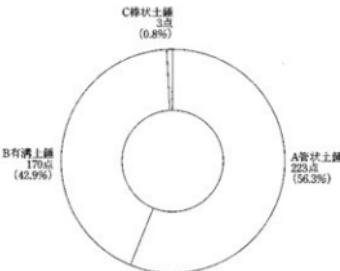


### ③ 下ノ坪遺跡出土土錘のまとめ

下ノ坪遺跡からの土錘で、図化したもの155点、図化し得なかった241点の合計396点を、分類・細分化をおこなった。H区・拡I・II包含層で一括して263点も土錘が出土したため、H区拡I・II包含層を基準に細分化を試みた。しかし、包含層からの出土のため時期比定については若干大きな幅があるものの、この包含層から出土した遺物から判断すると古代のものであるといえる。その他の調査区の遺構から出土した土錘もすべてが、古代に位置づけることができる。

下ノ坪遺跡全体では、A類の管状土錘は総数223点、B類の有溝土錘が170点、C類の棒状土錘が3点である。

表9 下ノ坪遺跡土錘形態分類割合表

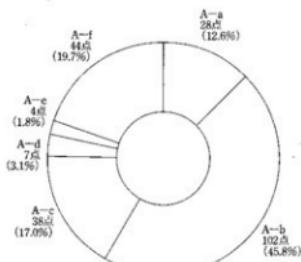


### A類（管状土錘）

A類の管状土錘を重量別にみると、A-a類が28点、A-b類が102点、A-c類が38点、A-d類が7点、A-e類が4点、A-f類が44点であり、A-b類が圧倒的に多く出土しており、10.0g前後から30.0g前後の管状土錘が主流を占めていたものと思われる。

形態的には、「紡錘形」が圧倒的に多く、中には「円筒形」や、「算盤玉形」も数点みられた。

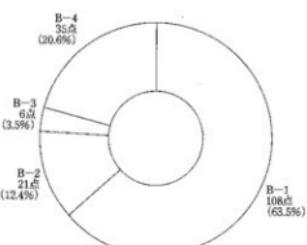
表10 管状土錘分類割合表



### B類（有溝土錘）

有溝土錘の溝数をみてみると、B-1類（2条溝）が108点、B-2類（3条溝）が21点、B-3類（4条溝）が6点、B-4類（溝数不明）が35点であり、2条の溝を有するB-1類が圧倒的に多く、形態的には「楕円形」を呈するものが多く、「菱形」を呈するものもある。B-3類は全て球形である。

表11 有溝土錘分類割合表



### C類（棒状土錘）

C類の棒状土錘は、下ノ坪遺跡土錘総点数396点中、3点のみである。先にも述べたとおり、高知県全体でも、下ノ坪遺跡3点を含む、深瀬遺跡、曾我遺跡、船戸遺跡から各1点の、計6点の出土例しかなく、比較検討できない。

# 下ノ坪遺跡土錐（報告書掲載分）

下ノ坪遺跡剖面番号	鉱物	断面番号	全高 (cm)	全幅 (cm)	全厚 (cm)	孔径 (cm)	重量 (g)	出土地点
II	Fig. 5 - 17	有溝土錐	B-1	8.6	4.0	4.2	131.1	C.E区 SB2 上層
II	Fig. 5 - 18	管状土錐	A-b	5.5	2.0	0.6	15.3	C.E区 SB2 上層
II	Fig. 5 - 19	管状土錐	A-a	3.7	1.1	0.3	3.5	C.E区 SB2 上層
II	Fig. 7 - 76	管状土錐	A-a	3.9	1.2	0.4	4.4	C.E区 SB2 下層
II	Fig. 8 - 95	管状土錐	A-c	5.9	2.7	0.5	34.4	E区 SB2 最下層
II	Fig. 35 - 125	管状土錐	A-a	3.7	1.7	0.5	7.3	H区 SB32
II	Fig. 35 - 126	管状土錐	A-a	(2.2)	(1.3)	(0.4)	(3.3)	H区 SB32
II	Fig. 50 - 238	管状土錐	A-b	5.8	2.2	0.7	23.0	H区 SB15 P8
II	Fig. 50 - 239	管状土錐	A-b	4.3	2.0	0.7	12.9	H区 SB15 P3 下層
II	Fig. 50 - 240	管状土錐	A-b	5.8	1.9	0.6	17.4	H区 SB15 P3 下層
II	Fig. 50 - 241	管状土錐	A-c	4.6	2.9	0.9	36.4	H区 SB15 P5
II	Fig. 50 - 242	管状土錐	A-c	4.6	2.9	1.0	33.2	H区 SB15 P2 下層
II	Fig. 50 - 243	管状土錐	A-a	4.4	2.8	0.9	33.1	H区 SB15 P5
II	Fig. 50 - 244	管状土錐	A-c	4.2	2.7	0.9	32.8	H区 SB15 P5
II	Fig. 50 - 245	管状土錐	A-c	4.6	3.1	0.9	41.0	H区 SB15 P9 上層
II	Fig. 51 - 268	管状土錐	A-b	5.2	2.0	0.6	15.7	H区 SB16 P2
II	Fig. 52 - 279	管状土錐	A-b	6.5	2.1	0.8	26.1	H区 SB17 P1
II	Fig. 55 - 339	管状土錐	A-f			2.3	(46.0)	H区 SB20 P26
II	Fig. 56 - 340	管状土錐	A-b	4.3	2.0	0.6	13.3	H区 SB20 P25
II	Fig. 56 - 341	管状土錐	A-b	4.9	2.0	0.6	14.4	H区 SB20 P23
II	Fig. 56 - 342	管状土錐	A-c	7.3	2.2	0.9	34.6	H区 SB20 P13
II	Fig. 56 - 343	管状土錐	A-f			(37.0)		H区 SB20 P27
II	Fig. 57 - 344	有溝土錐	B-1	5.5	4.2	3.4	87.0	H区 SB20 P23
II	Fig. 57 - 345	有溝土錐	B-1	8.0	4.8	4.0	141.7	H区 SB20 P23
II	Fig. 57 - 346	有溝土錐	B-2	8.3	4.2	3.2	92.3	H区 SB20
II	Fig. 59 - 374	管状土錐	A-a	4.7	1.7	0.6	9.0	H区 SB21 P1
II	Fig. 59 - 375	有溝土錐	B-1	7.4	3.1	2.8	57.9	H区 SB21 P2
II	Fig. 59 - 376	有溝土錐	B-2	8.1	5.0	4.2	159.9	H区 SB21 P2
II	Fig. 69 - 491	有溝土錐	B-1					H区 SB20
II	Fig. 71 - 536	有溝土錐	B-2			3.5		H区 SK21
II	Fig. 73 - 598	管状土錐	A-d	7.1	3.2	0.9	62.7	H区 SK22
II	Fig. 73 - 599	管状土錐	A-f		3.1	1.0		H区 SK22
II	Fig. 75 - 632	有溝土錐	B-1			3.4		H区 SK22 上層
II	Fig. 84 - 758	有溝土錐	B-1	7.5	4.2	3.7	110.3	H区 SK30 上層
II	Fig. 86 - 788	管状土錐	A-b	4.9	2.1	0.5	20.3	H区 SK33 上層
II	Fig. 89 - 858	管状土錐	A-a	3.0	1.2	0.5	2.8	H区 SK34 * 暫
II	Fig. 89 - 859	管状土錐	A-b	6.1	2.3	0.8	23.9	H区 SK34 VI層
II	Fig. 89 - 860	有溝土錐	B-1	7.3	3.3	2.8	(66.0)	H区 SK34
II	Fig. 89 - 861	有溝土錐	B-1	6.6	3.3		(66.0)	H区 SK34
II	Fig. 89 - 862	有溝土錐	B-2	7.8	5.4	3.2	142.4	H区 SK34 X層直上
II	Fig. 94 - 937	管状土錐	A-b	5.7	4.2	0.5	19.7	H区 SB40
II	Fig. 94 - 938	管状土錐	A-b	5.3	4.2	0.6	19.0	H区 SB40
II	Fig. 98 - 1007	管状土錐	A-a	7.7	1.9	0.4	4.1	H区 P15
II	Fig. 98 - 1008	管状土錐	A-a	3.9	1.3	0.5	5.3	H区 P15
II	Fig. 98 - 1009	管状土錐	A-a	4.3	1.2	0.3	4.3	H区 P15
II	Fig. 98 - 1010	管状土錐	A-a	3.5	1.8	0.6	8.5	H区 P15
II	Fig. 98 - 1011	管状土錐	A-a	4.2	1.7	0.4	9.4	H区 P14
II	Fig. 98 - 1012	管状土錐	A-a	4.8	1.7	0.7	10.0	H区 P14
II	Fig. 98 - 1013	管状土錐	A-b	5.3	1.6	0.5	12.4	H区 P15
II	Fig. 98 - 1014	管状土錐	A-d	7.2	3.0	1.3	65.3	H区 P15
II	Fig. 98 - 1015	有溝土錐	B-4	6.1	4.0		(53.9)	H区 P15
II	Fig. 98 - 1016	有溝土錐	B-2	7.6	4.7	4.7	154.3	H区 P14
II	Fig. 7 - 96	管状土錐	A-a	3.0	2.0	1.9	0.6	9.1
II	Fig. 7 - 97	管状土錐	A-a	3.7	1.6	1.7	0.5	7.3
II	Fig. 7 - 98	管状土錐	A-b	3.7	2.6	2.5	0.7	18.9
II	Fig. 7 - 99	管状土錐	A-b	3.7	2.7	2.5	0.7	19.7
II	Fig. 7 - 100	管状土錐	A-b	4.4	1.8	1.7	0.7	13.5
II	Fig. 7 - 101	管状土錐	A-b	4.5	2.7	2.6	0.9	18.5
II	Fig. 7 - 102	管状土錐	A-e	6.8	4.4	4.5	1.4	108.8
II	Fig. 7 - 103	有溝土錐	B-1	7.9	(3.8)	4.0		107.9
II	Fig. 11 - 116	管状土錐	A-a	4.4	1.6	0.5	0.5	8.3
II	Fig. 11 - 117	管状土錐	A-a	4.5	1.5	1.6	0.6	8.9
II	Fig. 11 - 118	管状土錐	A-a	5.5	1.4	1.5	0.5	8.0
II	Fig. 11 - 119	管状土錐	A-a	4.9	1.6	0.6	0.5	9.0
II	Fig. 11 - 120	管状土錐	A-b	4.1	2.0	2.0	0.6	15.2
II	Fig. 11 - 121	管状土錐	A-b	4.4	1.9	2.0	0.6	15.8
II	Fig. 11 - 122	管状土錐	A-b	4.4	2.1	1.8	0.5	16.7
II	Fig. 11 - 123	管状土錐	A-b	5.3	1.9	0.7	0.7	13.5
II	Fig. 11 - 124	管状土錐	A-b	4.7	2.0	2.1	0.5	18.4
II	Fig. 11 - 125	管状土錐	A-b	5.2	1.5	1.7	0.5	11.9
II	Fig. 11 - 126	管状土錐	A-b	5.3	2.1	1.8	0.4	13.2
II	Fig. 11 - 127	管状土錐	A-b	5.0	1.9	1.9	0.6	16.3
II	Fig. 11 - 128	管状土錐	A-b	5.1	2.0	2.1	0.6	18.9
II	Fig. 11 - 129	管状土錐	A-b	4.9	2.1	2.2	0.7	19.2
II	Fig. 11 - 130	管状土錐	A-b	5.1	2.1	2.2	0.6	20.9
II	Fig. 11 - 131	管状土錐	A-b	5.0	2.3	2.2	0.5	22.4
II	Fig. 11 - 132	管状土錐	A-b	5.0	2.2	2.1	0.6	23.3
II	Fig. 11 - 133	管状土錐	A-b	5.2	2.0	2.1	0.7	17.9

Y / 扇葉輪面積	種子番号	種類	細分類	交差 (cm)	高さ (cm)	半厚 (cm)	孔径 (cm)	重量 (g)	出土地点
III	Fig. 11-134	管状土器	A-b	5.2	2.2	2.1	0.6	23.5	H区 坡1 - II 包含層
III	Fig. 11-135	管状土器	A-b	10.3	2.3	0.7	0.8	18.8	H区 坡1 - II 包含層
III	Fig. 11-136	管状土器	A-b	5.6	2.1	0.7	0.6	20.9	H区 坡1 - II 包含層
III	Fig. 11-137	管状土器	A-b	5.5	2.2	1.9	0.7	22.0	H区 坡1 - II 包含層
III	Fig. 11-138	管状土器	A-b	5.9	2.3	2.2	0.7	23.2	H区 坡1 - II 包含層
III	Fig. 11-139	管状土器	A-b	6.0	2.3	2.3	0.8	23.1	H区 坡1 - II 包含層
III	Fig. 11-140	管状土器	A-b	5.5	2.5	2.5	0.7	27.9	H区 坡1 - II 包含層
III	Fig. 11-141	管状土器	A-b	6.1	1.7	1.7	0.7	16.0	H区 坡1 - II 包含層
III	Fig. 11-142	管状土器	A-b	6.7	2.0	2.1	0.6	26.0	H区 坡1 - II 包含層
III	Fig. 11-143	管状土器	A-b	7.1	1.9	1.8	0.6	23.3	H区 坡1 - II 包含層
III	Fig. 11-144	管状土器	A-c	5.1	2.6	2.4	0.8	31.9	H区 坡1 - II 包含層
III	Fig. 11-145	管状土器	A-c	4.6	3.1	2.8	1.0	35.2	H区 坡1 - II 包含層
III	Fig. 11-146	管状土器	A-c	4.7	3.0	2.8	0.9	33.6	H区 坡1 - II 包含層
III	Fig. 11-147	管状土器	A-c	4.8	3.2	3.1	1.1	40.3	H区 坡1 - II 包含層
III	Fig. 11-148	管状土器	A-c	5.0	3.0	3.0	0.8	40.9	H区 坡1 - II 包含層
III	Fig. 11-149	管状土器	A-c	4.9	3.1	3.1	0.9	40.4	H区 坡1 - II 包含層
III	Fig. 11-150	管状土器	A-c	5.3	3.4	3.5	1.4	48.0	H区 坡1 - II 包含層
III	Fig. 11-151	管状土器	A-c	5.2	3.1	3.0	0.8	44.2	H区 坡1 - II 包含層
III	Fig. 12-152	管状土器	A-c	5.8	3.2	3.1	1.0	44.7	H区 坡1 - II 包含層
III	Fig. 12-153	管状土器	A-c	6.8	2.7	2.4	0.8	30.9	H区 坡1 - II 包含層
III	Fig. 12-154	管状土器	A-c	6.0	2.6	2.6	0.8	34.3	H区 坡1 - II 包含層
III	Fig. 12-155	管状土器	A-c	6.2	2.7	2.9	0.7	36.4	H区 坡1 - II 包含層
III	Fig. 12-156	管状土器	A-c	5.5	2.2	2.1	0.9	30.7	H区 坡1 - II 包含層
III	Fig. 12-157	管状土器	A-d	6.3	3.3	3.3	1.0	60.5	H区 坡1 - II 包含層
III	Fig. 12-158	管状土器	A-d	6.0	4.2	4.1	1.4	87.7	H区 坡1 - II 包含層
III	Fig. 12-159	管状土器	A-d	7.8	4.0	3.8	1.2	(96.0)	H区 坡1 - II 包含層
III	Fig. 12-160	管状土器	A-d	6.7	3.2	3.0	0.9	(61.8)	H区 坡1 - II 包含層
III	Fig. 12-161	管状土器	A-e	6.6	4.4	4.4	1.6	115.5	H区 坡1 - II 包含層
III	Fig. 12-162	管状土器	A-e	6.2	5.7	1.8	2.4	(167.2)	H区 坡1 - II 包含層
III	Fig. 12-163	管状土器	A-e	7.5	5.9			(112.8)	H区 坡1 - II 包含層
III	Fig. 13-164	有底土器	B-1	3.4	2.7	2.3		19.0	
III	Fig. 13-165	有底土器	B-1	7.2	3.3	2.8		59.1	
III	Fig. 13-166	有底土器	B-1	6.3	4.0	3.6		62.8	
III	Fig. 13-167	有底土器	B-1	6.3	4.1	3.8		87.5	
III	Fig. 13-168	有底土器	B-1	6.3	4.0	3.8		83.3	
III	Fig. 13-169	有底土器	B-1	6.4	4.3	3.1		80.6	
III	Fig. 13-170	有底土器	B-1	6.2	4.4	3.6		93.7	
III	Fig. 13-171	有底土器	B-1	6.8	3.9	3.5		83.7	
III	Fig. 13-172	有底土器	B-1	6.5	4.5	3.5		86.6	
III	Fig. 13-173	有底土器	B-1	6.6	4.6	4.0		96.3	
III	Fig. 13-174	有底土器	B-1	6.9	4.5	4.0		111.9	
III	Fig. 13-175	有底土器	B-1	7.5	4.7	3.4		111.4	
III	Fig. 13-176	有底土器	B-1	7.3	4.0	3.3		86.3	
III	Fig. 13-177	有底土器	B-1	7.2	4.3	4.1		104.7	
III	Fig. 13-178	有底土器	B-1	7.5	4.2	3.9		114.3	
III	Fig. 14-179	有底土器	B-1	7.0	4.1	3.3		89.9	
III	Fig. 14-180	有底土器	B-1	7.3	4.5	2.9		SS.2	
III	Fig. 14-181	有底土器	B-1	7.3	4.3	3.6		101.9	
III	Fig. 14-182	有底土器	B-1	7.7	4.7	(4.7)	3.7	104.0	
III	Fig. 14-183	有底土器	B-1	7.3	4.4	4.4		127.1	
III	Fig. 14-184	有底土器	B-1	7.8	4.2	3.5		105.2	
III	Fig. 14-185	有底土器	B-1	8.0	4.0	3.6		105.1	
III	Fig. 14-186	有底土器	B-1	8.0	4.3	3.5		107.9	
III	Fig. 14-187	有底土器	B-1	8.2	4.4	3.7		124.9	
III	Fig. 14-188	有底土器	B-1	7.9	5.0	3.7		121.6	
III	Fig. 14-189	有底土器	B-1	8.0	4.2	4.2		125.9	
III	Fig. 14-190	有底土器	B-1	7.9	4.0	3.4		88.7	
III	Fig. 15-191	有底土器	B-1	8.1	4.9	3.8		139.8	
III	Fig. 15-192	有底土器	B-1	6.8	4.5	3.6		119.2	
III	Fig. 15-193	有底土器	B-1	8.0	4.5	3.8		109.6	
III	Fig. 15-194	有底土器	B-1	8.1	4.6	3.9		108.3	
III	Fig. 15-195	有底土器	B-1	8.4	4.2	2.8		86.3	
III	Fig. 15-196	有底土器	B-1	8.8	4.9	3.5		124.6	
III	Fig. 15-197	有底土器	B-1	8.6	4.5	3.9		124.6	
III	Fig. 15-198	有底土器	B-2	(5.0)	4.3	4.0		(79.4)	
III	Fig. 15-199	有底土器	B-2	7.0	4.4	3.5		84.6	
III	Fig. 15-200	有底土器	B-2	7.4	5.0	4.5		160.2	
III	Fig. 15-201	有底土器	B-2	8.0	3.9	4.1		(74.7)	
III	Fig. 15-202	有底土器	B-2	(8.0)	(4.0)	3.0		(87.5)	
III	Fig. 16-203	有底土器	B-2	8.9	5.0	3.6		120.2	
III	Fig. 16-204	有底土器	B-3	5.2	4.2	4.2		84.0	
III	Fig. 16-205	有底土器	B-3	5.2	4.0	4.6		92.5	
III	Fig. 16-206	有底土器	B-3	5.3	5.4			122.5	
III	Fig. 16-207	有底土器	B-3	5.5	5.4	4.6		125.3	
III	Fig. 16-208	椭狀土器	C	(3.3)	1.9		0.5	11.5	
III	Fig. 16-209	椭狀土器	C	3.7	1.6		0.5	10.4	
III	Fig. 16-210	椭狀土器	C	5.0	2.0		0.5	17.6	

## (2) 南四国全体の土錐

南四国から報告されている土錐は、下ノ坪遺跡を含む49遺跡から報告されており、総点数1468点を数える。土錐の種類をみてみると、管状土錐（A類）1270点、有溝土錐（B類）191点、棒状土錐（C類）6点、その他の土錐1点が報告されている。その中でも古代の土錐に注目し、弥生時代・古墳時代・古代・中～近世・時期不明なものに分類する。土錐の詳細な法量などは、最後に遺跡別に観察表を掲載する。なお、時期の幅が広いものや、少しでも疑問が残る土錐については、筆者の力量不足によりすべて時期不明に含める事とする。

表12 南四国全体の土錐割合表

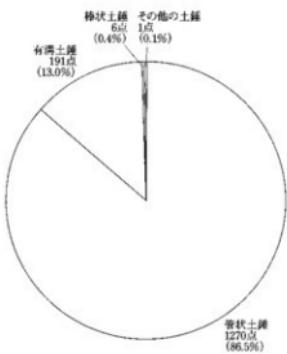


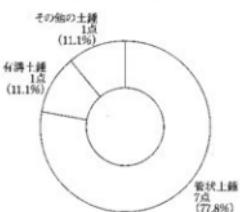
表 13 遺跡別土錘出土総数一覧表

市町村名	遺 跡 名 <sup>(注)</sup>	(土錘総数)	《管状土錘》	【有溝土錘】	《棒状土錘》	【その他土錘】
野 市 町	下ノ坪遺跡 <sup>(3)</sup>	(396)	《223》	【170】	〈 3 〉	[ - ]
	深瀬遺跡 <sup>(4)</sup>	( 6 )	《 5 》	[ - ]	〈 1 〉	[ - ]
	曾我遺跡 <sup>(5)</sup>	( 13 )	《 8 》	[ 4 ]	〈 1 〉	[ - ]
香 我 美 町	本村遺跡 <sup>(6)</sup>	( 1 )	《 1 》	[ - ]	〈 - 〉	[ - ]
	十万遺跡 <sup>(7)</sup>	( 14 )	《 14 》	[ - ]	〈 - 〉	[ - ]
	押原遺跡 <sup>(8)</sup>	( 17 )	《 17 》	[ - ]	〈 - 〉	[ - ]
土 佐 山 田 町	佐山田北部遺跡群 <sup>(9)</sup>	( 6 )	《 6 》	[ - ]	〈 - 〉	[ - ]
	林田遺跡 <sup>(10)</sup>	( 2 )	《 2 》	[ - ]	〈 - 〉	[ - ]
	楠目遺跡 <sup>(11)</sup>	( 1 )	《 1 》	[ - ]	〈 - 〉	[ - ]
	ひびのきサウジダ跡 <sup>(12)</sup>	( 8 )	《 8 》	[ - ]	〈 - 〉	[ - ]
	原遺跡 <sup>(13)</sup>	( 2 )	《 2 》	[ - ]	〈 - 〉	[ - ]
	山田三ツ又遺跡 <sup>(14)</sup>	( 1 )	《 1 》	[ - ]	〈 - 〉	[ - ]
香 北 町	高柳土居城跡 <sup>(15)</sup>	( 1 )	《 1 》	[ - ]	〈 - 〉	[ - ]
	美良布遺跡 <sup>(16)</sup>	( 10 )	《 10 》	[ - ]	〈 - 〉	[ - ]
南 国 市	陣山遺跡 <sup>(17)</sup>	( 1 )	《 1 》	[ - ]	〈 - 〉	[ - ]
	田村遺跡 <sup>(18)</sup>	( 320 )	《305》	【14】	〈 - 〉	[ 1 ]
	西谷遺跡 <sup>(19)</sup>	( 3 )	《 3 》	[ - ]	〈 - 〉	[ - ]
	岡豊城跡 <sup>(20)</sup>	( 32 )	《 32 》	[ - ]	〈 - 〉	[ - ]
	土佐国衙跡 <sup>(21)</sup>	( 79 )	《 79 》	[ - ]	〈 - 〉	[ - ]
	岩村遺跡 <sup>(22)</sup>	( 22 )	《 22 》	[ - ]	〈 - 〉	[ - ]
高 知 市	陣山北三区遺跡 <sup>(23)</sup>	( 2 )	《 2 》	[ - ]	〈 - 〉	[ - ]
	高知城跡 <sup>(24)</sup>	( 10 )	《 10 》	[ - ]	〈 - 〉	[ - ]
	介良遺跡 <sup>(25)</sup>	( 2 )	《 2 》	[ - ]	〈 - 〉	[ - ]
春 野 町	尾立遺跡 <sup>(26)</sup>	( 14 )	《 14 》	[ - ]	〈 - 〉	[ - ]
	南浦遺跡 <sup>(27)</sup>	( 1 )	《 1 》	[ - ]	〈 - 〉	[ - ]
	吉良城跡 <sup>(28)</sup>	( 3 )	《 3 》	[ - ]	〈 - 〉	[ - ]
土 佐 市	林口遺跡 <sup>(29)</sup>	( 1 )	《 1 》	[ - ]	〈 - 〉	[ - ]
	八田神母谷遺跡 <sup>(30)</sup>	( 1 )	《 1 》	[ - ]	〈 - 〉	[ - ]
	本郷遺跡 <sup>(31)</sup>	( 1 )	《 1 》	[ - ]	〈 - 〉	[ - ]
須 崎 市	飛坂田本遺跡 <sup>(32)</sup>	( 3 )	《 3 》	[ - ]	〈 - 〉	[ - ]
	上美都岐遺跡 <sup>(33)</sup>	( 9 )	《 9 》	[ - ]	〈 - 〉	[ - ]
	岩井口遺跡 <sup>(34)</sup>	( 17 )	《 17 》	[ - ]	〈 - 〉	[ - ]
佐 川 町	二ノ部遺跡 <sup>(35)</sup>	( 6 )	《 6 》	[ - ]	〈 - 〉	[ - ]
	早咲遺跡 <sup>(36)</sup>	( 12 )	《 9 》	【 3 】	〈 - 〉	[ - ]
	曾我城跡 <sup>(37)</sup>	( 1 )	《 1 》	[ - ]	〈 - 〉	[ - ]
大 方 町	西本城跡 <sup>(38)</sup>	( 4 )	《 4 》	[ - ]	〈 - 〉	[ - ]
	宮崎遺跡 <sup>(39)</sup>	( 30 )	《 30 》	[ - ]	〈 - 〉	[ - ]
	大官・宮崎遺跡 <sup>(40)</sup>	( 3 )	《 3 》	[ - ]	〈 - 〉	[ - ]
中 村 市	アゾノ遺跡 <sup>(41)</sup>	( 90 )	《 90 》	[ - ]	〈 - 〉	[ - ]
	風指遺跡 <sup>(42)</sup>	( 38 )	《 38 》	[ - ]	〈 - 〉	[ - ]
	肩城跡 <sup>(43)</sup>	( 14 )	《 14 》	[ - ]	〈 - 〉	[ - ]
	チシ古城跡 <sup>(44)</sup>	( 1 )	《 1 》	[ - ]	〈 - 〉	[ - ]
	土佐中村一条氏遺跡 <sup>(45)</sup>	( 3 )	《 3 》	[ - ]	〈 - 〉	[ - ]
	江ノ村遺跡 <sup>(46)</sup>	( 4 )	《 4 》	[ - ]	〈 - 〉	[ - ]
	江ノ吉城 <sup>(47)</sup>	( 2 )	《 2 》	[ - ]	〈 - 〉	[ - ]
	具同中山遺跡 <sup>(48)</sup>	(181)	《181》	[ - ]	〈 - 〉	[ - ]
	船戸遺跡 <sup>(49)</sup>	( 78 )	《 77 》	[ - ]	〈 1 〉	[ - ]
宿 毛 市	ハナノシロ城跡 <sup>(50)</sup>	( 1 )	《 1 》	[ - ]	〈 - 〉	[ - ]
	宿毛貝塚 <sup>(51)</sup>	( 1 )	《 1 》	[ - ]	〈 - 〉	[ - ]
計	4 9 遺跡	(1468)	《1270》	【191】	〈 6 〉	[ 1 ]

## ① 弥生時代の土錐

弥生時代に属すると思われる土錐総点数は9点である。内訳は、管状土錐（A類）7点、有溝土錐（B類）1点、その他の土錐1点である。これらの土錐は5遺跡から出土しており、遺跡ごとに順を追って説明していく。なお、細部に触れることができず特徴のある土錐についてのみ説明を加える。

表14 弥生時代の土錐割合表



### 田村遺跡

管状土錐4点、その他の土錐1点の合計5点が出土している。その他の土錐とはLoc. 35A、SR2からの出土で、約1/2が欠損していて全体形は不明ではあるが、形態は有溝土錐に似ており、溝がなく、中央付近に孔を穿（うが）ってある。弥生中期に属し南四国で1例しかみられない。

### 早咲遺跡

弥生終末の有溝土錐が1点出土している。E区、ST-8出土で、溝が十字にクロスしている。このタイプの有溝土錐は、南四国で1例しかみられない。

### ひびのきサウジ遺跡

管状土錐1点が出土している。ST8出土で、出土土器からヒビノキ日式と時代を特定することができる。

### 二ノ部遺跡

管状土錐1点が出土している。B区、ST-203出土で、弥生後期後半～終末に属する。

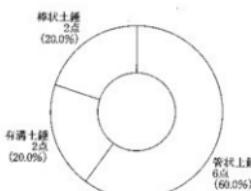
### 本村遺跡

管状土錐1点が出土している。SD6出土で弥生中期末～後期に属する。

## ② 古墳時代の土錐

古墳時代に属すると思われる土錐総点数は10点である。内訳は、管状土錐（A類）6点、有溝土錐（B類）2点、棒状土錐（C類）2点である。これらの土錐は6遺跡から出土しており、遺跡ごとに順を追って説明する。

表15 古墳時代の土錐割合表



### 早咲遺跡

管状土錐1点、有溝土錐2点の合計3点が出土している。管状土錐はC区、SX-4出土で、有溝土錐は2点ともB区、SX-3出土である。3点とも6世紀前半に属する。

### 深瀬遺跡

管状土錐1点、棒状土錐1点の合計2点が出土している。管状土錐はF区、ST2出土で、棒状土錐はF区、ST1出土である。2点とも古墳時代に属する。

### 介良遺跡

管状土錐2点が出土している。SR1、VI層とVII層から各1点づつ出土している。2点とも古墳時代に属する。

### 具同中山遺跡

管状土錐1点が出土している。SF21出土で、古墳時代に属する。

### 船戸遺跡

棒状土錐1点が出土している。I区、V層出土で、古墳時代に属する。

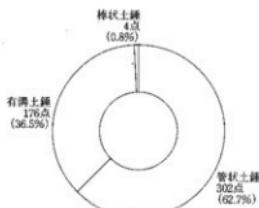
### 土佐国衝跡

管状土錐1点が出土している。P-10出土で、6世紀～7世紀前半に属する。

### ③ 古代の土錘

南四国から出土の、古代に属すると思われる土錘は、総数482点を数える。形態分類の内訳は、管状土錘（A類）302点、有溝土錘（B類）176点、棒状土錘（C類）4点である。その中で、下ノ坪遺跡でおこなった分類をもとに、古代の土錘について遺跡別に分類をおこなった。

表16 古代の土錘割合表



#### 宮崎遺跡

管状土錘30点が出土している。分類をみてみると、A-a類が24点、A-b類が3点、A-c類が3点である。

#### 田村遺跡

管状土錘6点、有溝土錘2点の合計8点が出土している。分類をみてみると、A-a類が3点、A-b類が2点、A-e類が1点、B-1類が1点、B-3類が1点である。

#### 土佐国衙跡

管状土錘12点が出土している。分類をみてみると、A-a類が2点、A-b類が5点、A-c類が1点、A-f類が4点である。

#### 具同中山遺跡

管状土錘11点が出土している。分類をみてみると、A-a類が6点、A-b類が3点、A-f類が2点である。

#### 曾我遺跡

管状土錘5点、有溝土錘4点、棒状土錘1点の合計10点が出土している。分類をみてみると、A-a類2点、A-b類3点、B-1類3点、B-2類1点、C類1点である。

#### 十万遺跡

管状土錘4点が出土している。分類をみてみると、A-f類が4点である。

#### 深瀬遺跡

管状土錘4点が出土している。分類をみてみると、A-f類が4点である。

#### 風指遺跡

管状土錘2点が出土している。分類をみてみると、A-f類が2点である。

#### ひびのきサウジ遺跡

管状土錘2点が出土している。分類をみてみると、A-b類が1点、A-d類が1点である。

### 林田遺跡

管状土錘2点が出土している。分類をみてみると、A-f類が2点である。

### 楠目遺跡

管状土錘1点が出土している。分類をみてみると、A-f類が1点である。

下ノ坪遺跡を含まない、他の11遺跡(86点)をまとめてみると、A類の管状土錘は79点で、A-a類37点、A-b類17点、A-c類4点、A-d類1点、A-e類1点、A-f類19点とA-a類が最も多い。次にB類の有溝土錘は6点で、B-1類4点、B-2類1点、B-3類1点である。次にC類の棒状土錘は1点である。

南四国における古代に属する土錘(482点)を下ノ坪遺跡に準ずる分類を行った結果(下ノ坪遺跡も含む)、A-a類6点、A-b類119点、A-c類42点、A-d類8点、A-e類5点、A-f類63点、B-1類112点、B-2類22点、B-3類7点、B-4類35点、C類4点である。

以上、南四国の古代に属する土錘を紹介した。A類の管状土錘ではA-b類が最も多く出土しており、南四国における古代に属する管状土錘の標準的な形態であることがいえる。また、B類の有溝土錘では、B-1類の2条の溝を有するタイプが圧倒的に多い。

表17 下ノ坪遺跡を除く古代の土錘分類割

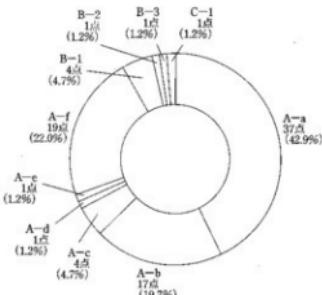
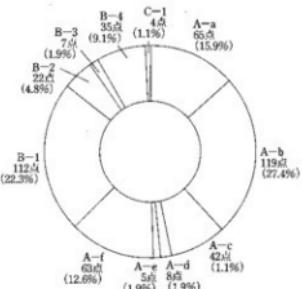


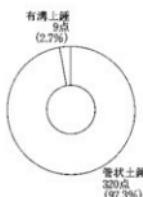
表18 古代の土錘分類割合表



#### ④ 中～近世の土錘

中～近世に属すると思われる土錘総点数は329点である。内訳は、管状土錘（A類）320点、有溝土錘（B類）9点で15遺跡から出土している。ここでは遺跡ごとに点数だけを述べていき、土錘の詳細な法量等については観察表を参照してもらいたい。

表19 中～近世の土錘割合表



##### 田村遺跡

管状土錘223点、有溝土錘9点の合計232点が出土している。

##### アゾノ遺跡

管状土錘28点が出土している。

##### 岩井口遺跡

管状土錘16点が出土している。

##### 扇城跡

管状土錘14点が出土している。

##### 拝原遺跡

管状土錘9点が出土している。

##### 土佐国衙跡

管状土錘6点が出土している。

##### 二ノ部遺跡

管状土錘5点が出土している。

##### 早咲遺跡

管状土錘4点が出土している。

##### 江ノ村遺跡

管状土錘4点が出土している。

##### 西谷遺跡

管状土錘3点が出土している。

##### 尾立遺跡

管状土錘3点が出土している。

##### 美良布遺跡

管状土錘2点が出土している。

### 上美都岐遺跡

管状土錘1点が出土している。

### ひびのきサウジ遺跡

管状土錘1点が出土している。

### 山田三ツ又遺跡

管状土錘1点が出土している。

表20

南四国の土錘 遺跡別・時代別点数表

(単位:点)

遺跡名	弥生				古墳				古代				中～近世				総合 点数
	豆状	石錐	棒錐	その他	豆状	石錐	棒錐	他類	豆状	石錐	棒錐	他類	豆状	石錐	棒錐	他類	
下ノ坪遺跡									223	170	3	396					396
田村遺跡	4		1	5					6	2		8	223	9			232
長岡中山道跡					1				1	11		11					12
アゾノ遺跡													28				28
上佐山古跡					1				1	12		12	6				19
船戸遺跡									1	1							1
風指遺跡									2		2						2
宮崎遺跡									30		30						30
岩井口遺跡												16					16
押原遺跡												9					9
福城跡												14					14
ト万道跡									4		4						4
尾立遺跡												3					3
雪我遺跡									5	4	1	10					10
早坂遺跡	1		1	1	2			3				4					8
美良布遺跡												2					2
上美都岐遺跡												1					1
ひびのきサウジ遺跡	1			1					2		2	1					4
深園遺跡					1		1	2	4			4					6
二ノ郎遺跡	1			1								5					6
江ノ村遺跡												4					4
西谷遺跡												3					3
今島遺跡					2			2									2
林田遺跡									2		2						2
本村遺跡	1			1													1
山田三ツ又遺跡												1					1
横目遺跡									1		1						1
合計27遺跡	7	1	1	9	6	2	2	10	302	176	4	482	320	9		830	

※時期が不明な土錘は除く。

## ⑤ 南四国の土錘まとめ

太平洋の海原に面する高知県は大小の河も流れ、昔から漁業とは密接な関係にあったと思われる。南四国における土錘は、遅くとも弥生中期には田村遺跡に出現し、中期末～後期に本村遺跡、後期後半～終末にかけて二ノ部遺跡で管状土錘が出現し、終末には早咲遺跡から有溝土錘も出現する。

古墳時代になると、深瀬遺跡からは棒状土錘も出現するが、土錘点数の急激な増加はみられず、弥生時代から古墳時代をとおして、緩やかに各地域に広がりをみせながら浸透していくものと考えられる。

古代に入ると、出土量が飛躍的に増加し、その種類も豊富となる。

下ノ坪遺跡は、古代に属する管状土錘（A類）、有溝土錘（B類）、棒状土錘（C類）の3種が同時期に使用されている。形態的特徴が全く違うこの3種類の土錘を同時期にどう使い分けていたのかは、今後の研究に委ねなければならない。他にこの3種が出土している遺跡は、県内では野市町の曾我遺跡のみであり、下ノ坪遺跡同様、古代に属する土錘である。そして、下ノ坪遺跡では県下では類をみない土錘も確認されている。本文中では説明できなかったが、H区・拡I・II包含層出土の、Fig.12図156は、須恵質の管状土錘であり、断面八角形を呈している。このタイプの土錘は県内全域をみても類をみない。県下では出土例が比較的小ない有溝土錘（B類）においても、ここではまとめて確認されており、溝数も形態的にバラエティーに富んでいる。

古代の土錘は、遺跡によって出土量に極端な違いがあることも指摘できる。当該期の遺跡として曾我遺跡や十万遺跡が挙げられる。下ノ坪遺跡では調査面積6,230m<sup>2</sup>で古代に属する土錘は396点である。一方、曾我遺跡は、調査面積約1,000m<sup>2</sup>で古代に属する土錘は10点、十万遺跡は、調査面積約4,200m<sup>2</sup>で古代に属する土錘は4点である。これらの遺跡は古代官衙的要素を有する遺跡であるが、下ノ坪遺跡と比較すると明確な違いがでている。

中～近世においては、そのほとんどが管状土錘に統一されていく。有溝土錘は減少していく、棒状土錘は使用されていない。南四国における中心的な集落、田村遺跡において土錘は、中世に急激な増加をみせており、その中でも14世紀～15世紀がもっとも多い。

人々の生業形態が農耕活動となった弥生時代以降も、漁撈活動とその伝統は生活の中に今日まで生き続けている。近年まで網錘として土錘は使用されており、錘の材質は変化をみせてはいるものの、錘の役割は昔も現代も変わっていない。

しかし土錘の用途はまだ特定されているわけではなく、釣錘、網錘など広い意味での水上生産活動にかかる錘と考えられており、現段階では、その当時の漁法や漁業を考えるには困難な状態であり、今後の調査・研究に期待をしたい。

末筆になったが、南四国の土錘を集成するにあたり、高知県埋蔵文化財センターの出原恵三氏に助言をいただいたこと、未熟な筆者に対してご指導いただいた埋蔵文化財センター整理作業員の皆さんに深く感謝申し上げたい。

※1999年12月現在

(註)

- (1) 金田楨之著『日本漁具・漁法図説 増補改訂版』成山堂 1994年
- (2) 和田晴吾「土鍤・石鍤」『弥生文化の研究5 道具と技術I』雄山閣 1997年
- (3) 小松大洋・出原恵三・池澤俊幸・行藤たけし『下ノ坪遺跡I -農業農村活性化農業構造改善事業上岡地区区画整理工事に伴う発掘調査報告書-』高知県野市町教育委員会 1997年  
小松大洋・出原恵三・池澤俊幸『下ノ坪遺跡II -農業農村活性化農業構造改善事業上岡地区区画整理工事に伴う発掘調査報告書-』高知県野市町教育委員会 1998年
- (4) 吉原達生・高橋啓明・出原恵三『深潤遺跡発掘調査報告書』高知県野市町教育委員会 1989年
- (5) 高橋啓明・吉原達生『曾我遺跡発掘調査報告書』高知県野市町教育委員会 1989年
- (6) 板本憲昭『本村遺跡』高知県野市町教育委員会 1993年
- (7) 高橋啓明・吉原達生・出原恵三『十萬遺跡発掘調査報告書』高知県香我美町教育委員会 1988年
- (8) 出原恵三『押原遺跡 山南地区県営圃場整備事業に伴う押原遺跡緊急発掘調査報告書』  
高知県香我美町教育委員会 1993年
- (9) 森田尚宏・中山泰弘『土佐山田北部遺跡群 一山田北部県営圃場整備事業に伴う埋蔵文化財調査報告書-』高知県土佐山田町教育委員会 1992年
- (10) 宅間一之・山本哲也・森田尚宏『林田遺跡』高知県土佐山田町教育委員会 1985年
- (11) 山本哲也『楠目遺跡発掘調査報告書』高知県土佐山田町教育委員会 1988年
- (12) 高橋啓明『ひびのきサウジ遺跡II 土佐山田観光開発株式会社寮建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書』(財)高知県文化財団埋蔵文化財センター 1992年
- (13) 広田典夫・山本哲也・森田尚宏・角谷和男『公共施設設置に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 原遺跡』  
高知県教育委員会 1982年
- (14) 佐竹 寛・藤方正治『山田三ツ又遺跡 一あけぼの道路建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書-』  
(財)高知県文化財団埋蔵文化財センター 1997年
- (15) 山本哲也『高柳遺跡・高柳土居城跡発掘調査報告書 一明治地区圃場整備工事関連遺跡発掘調査-』  
高知県土佐山田町教育委員会 1992年
- (16) 出原恵三『美良布遺跡』高知県香北町教育委員会 1991年
- (17) 洪田恵子・佐竹 寛・吉成承三・出原恵三『障山遺跡』『障山遺跡・障山北三区遺跡』  
(財)高知県文化財団埋蔵文化財センター 1997年
- (18) 高知県教育委員会『高知空港拡張整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 田村遺跡群 第3分冊』  
高知県教育委員会 1996年  
高知県教育委員会『高知空港拡張整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 田村遺跡群 第4分冊』  
高知県教育委員会 1996年  
高知県教育委員会『高知空港拡張整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 田村遺跡群 第5分冊』  
高知県教育委員会 1996年

- 高知県教育委員会『高知空港拡張整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 田村遺跡群 第6分冊』  
高知県教育委員会 1996年
- 高知県教育委員会『高知空港拡張整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 田村遺跡群 第7分冊』  
高知県教育委員会 1996年
- 高知県教育委員会『高知空港拡張整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 田村遺跡群 第8分冊』  
高知県教育委員会 1996年
- 高知県教育委員会『高知空港拡張整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 田村遺跡群 第9分冊』  
高知県教育委員会 1996年
- 高知県教育委員会『高知空港拡張整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 田村遺跡群 第10分冊』  
高知県教育委員会 1996年
- 出原恵三『高知空港拡張整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査（山舞進入灯設置区域）報告書 田村遺跡群 田中地区』高知県教育委員会 1986年
- (19) 坂本憲昭・松田直則・山本哲也『西谷遺跡発掘調査報告書 一伝長宗我部氏屋敷跡の調査一』高知県  
南国市教育委員会 1991年
- (20) 岡本健児・森田尚宏・松田直則『岡豈城跡 一第1～5次発掘調査報告書一』高知県教育委員会  
1990年  
森田尚宏『岡豈城跡Ⅱ』(財)高知県文化財団埋蔵文化財センター 1992年
- (21) 宅間一之・廣田佳久・岡本健児『土佐国衙跡 第3集 一府中地区の調査一』高知県教育委員会  
1982年  
宅間一之・廣田佳久・岡本健児『土佐国衙跡 第4集 一府中・太郎三郎ヤシキ地区の調査一』  
高知県教育委員会 1983年  
廣田佳久・岡本健児・宅間一之『土佐国衙跡 第5集 一堂ヶ内・クグ地区の調査一』  
高知県教育委員会 1984年  
廣田佳久・下村公彦・松田直則・岡本健児『土佐国衙跡 第6集 一一ノ坪・鍛冶給・松ノ下地区的調  
査一』高知県教育委員会 1986年  
森田尚宏『土佐国衙跡 第7集 一松ノ下・南屋敷地区の調査一』高知県教育委員会 1987年  
森田尚宏・廣田佳久『土佐国衙跡 第8集 一松ノ下・金屋地区の調査一』高知県教育委員会  
1988年  
廣田佳久『土佐国衙跡 第9集 一金屋地区的調査一』高知県教育委員会 1989年  
廣田佳久『土佐国衙跡 第10集 一金屋地区・神ノ木戸地区的調査一』高知県教育委員会 1990年  
廣田佳久『土佐国衙跡 第11集 一金屋地区的調査一』高知県教育委員会 1991年
- (22) 三谷民雄『岩村遺跡群 Ⅲ』1998年
- (23) 浜田恵子・佐竹 寛・吉成承三・出原恵三『陣山北三区遺跡』『陣山遺跡・陣山北三区遺跡』  
(財)高知県文化財団埋蔵文化財センター 1997年

- (24) 近森泰子『史跡 高知城跡 I - 衛台所敷跡発掘調査報告書 -』高知県教育委員会 1994年  
宮地早苗・曾我實行『高知城跡 伝台所敷史跡整備事業に伴う発掘調査報告書』  
(財) 高知県文化財団埋蔵文化財センター 1995年
- (25) 坂本憲昭・田坂京子『介良遺跡 一介良川都市小河川改修事業に伴う発掘調査概要報告書 -』  
(財) 高知県文化財団埋蔵文化財センター 1997年
- (26) 江戸秀輝『尾立遺跡 四国横断自動車道（南国～伊野）建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書』  
(財) 高知県文化財団埋蔵文化財センター 1995年
- (27) 江戸秀輝『南浦遺跡埋蔵文化財発掘調査報告書 特別養護老人ホーム・デイサービスセンター建設に  
伴う埋蔵文化財発掘調査報告書』(財) 高知県文化財団埋蔵文化財センター 1993年
- (28) 山本哲也『吉良城跡II』高知県吾川郡春野町教育委員会 1987年
- (29) 小野由香・岡本裕介・廣田佳久『林口遺跡 土佐市々道改良工事に伴う発掘調査報告書』  
高知県土佐市教育委員会 1998年
- (30) 久家隆芳『八田神母谷遺跡 四国横断自動車道（伊野～須崎間）建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告  
書』(財) 高知県文化財団埋蔵文化財センター 1998年
- (31) 山本哲也『本郷遺跡』『日下川中小河川改修工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書』 1981年
- (32) 小鶴博満『飛田坂本遺跡 四国横断自動車道（伊野～須崎間）建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書』  
(財) 高知県文化財団埋蔵文化財センター 1998年
- (33) 廣田佳久『上美都岐遺跡 佐川町斗賀野地区県営圃場整備事業に伴う発掘調査報告書II』  
高知県佐川町教育委員会 1997年
- (34) 廣田佳久『岩井口遺跡』『岩井口遺跡・二ノ部遺跡・城跡 佐川町斗賀野地区県営圃場整備事業に伴う  
発掘調査報告書』高知県佐川町教育委員会 1995年  
廣田佳久『岩井口遺跡II 県道本郷・斗賀野停車場線改良工事に伴う発掘調査報告書』  
高知県佐川町教育委員会 1995年
- (35) 廣田佳久『二ノ部遺跡』『岩井口遺跡・二ノ部遺跡・城跡 佐川町斗賀野地区県営圃場整備事業に伴う  
発掘調査報告書』高知県佐川町教育委員会 1995年
- (36) 廣田佳久『早咲遺跡 県道大用大方線改良工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書』  
高知県大方町教育委員会 1991年
- (37) 山 正明・武吉真裕・竹村三葉『曾我城跡 高知西南開拓建設事業ヤモウジ団地農地造成工事に伴う  
発掘調査報告書』高知県大方町教育委員会 1997年
- (38) 松田直則・堅田 至『西本城跡 一県道岡本大方線改良工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 -』  
(財) 高知県文化財団埋蔵文化財センター 1999年
- (39) 廣田佳久『宮崎遺跡』『竹シマツ遺跡・宮崎遺跡』高知県大方町教育委員会 1992年
- (40) 出原恵三・前田光雄・芝 正司・今城宗久『大宮・宮崎遺跡』高知県幡多郡西土佐村教育委員会  
1998年

- (41) 出原恵三「アゾノ遺跡」『後川・中筋川埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅱ 風指遺跡 アゾノ遺跡』  
高知県教育委員会 1989年
- (42) 出原恵三「風指遺跡」『後川・中筋川埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅱ 風指遺跡 アゾノ遺跡』  
高知県教育委員会 1989年
- (43) 森田尚宏・吉成承三『扇城跡』(財)高知県文化財団埋蔵文化財センター 1992年
- (44) 吉成承三『チシ古城跡 高知西南地区大規模農道整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書』  
(財)高知県文化財団埋蔵文化財センター 1992年
- (45) 松田知彦・竹村三菜・松田直則『土佐中村一条氏遺跡確認調査報告書 一小姓町地区一』  
高知県中村市教育委員会 1997年
- (46) 前田光雄『江ノ村遺跡』高知県中村市教育委員会 1990年
- (47) 松田直則・曾我貴行・竹村三菜『江ノ古城跡』『中村・宿毛道路関連遺跡発掘調査報告書Ⅱ 江ノ古城  
跡・ハナノシロ城跡』高知県教育委員会 1993年
- (48) 出原恵三・廣田佳久・松田直則『具同中山遺跡群』『後川・中筋川埋蔵文化財発掘調査報告書 古津賀  
遺跡 具同中山遺跡』高知県教育委員会 1988年  
前田光雄・松田直則『後川・中筋川埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅲ 具同中山遺跡群 第1分冊1989・  
1990年度』高知県教育委員会・(財)高知県文化財団埋蔵文化財センター 1992年  
山 正明・武吉眞裕『具同中山遺跡群 県道中村下ノ加江線建設工事に伴う発掘調査概要報告書』  
(財)高知県文化財団埋蔵文化財センター 1998年
- (49) 松田直則『船戸遺跡 一中村・宿毛道路関連遺跡発掘調査報告書Ⅲ-』  
高知県教育委員会・(財)高知県文化財団埋蔵文化財センター 1996年
- (50) 松田直則・曾我貴行・竹村三菜『江ノ古城跡』『中村・宿毛道路関連遺跡発掘調査報告書Ⅱ 江ノ古城  
跡・ハナノシロ城跡』高知県教育委員会 1993年
- (51) 下村公彦・山本哲也・森田尚宏・角谷和男『宿毛貝塚発掘調査報告書』 1986年
- (52) 佐々木高明「はじめに」「狩猟と漁労 日本文化の源流をさぐる 小山修三編』雄山閣 1992年

南四国の土器一覧表

土器の種類	全長(cm)	全幅(cm)	全厚(cm)	孔径(cm)	重量(g)	出土点	時期	備考
管状土器	(3.1)	1.4		0.4	(3.0)	Loc. 1 第Ⅲ層	中-近世	
管状土器	(3.0)	0.9		0.3	2.4	Loc. 1 第Ⅲ層	中-近世	
管状土器	(3.1)	1.3		0.5	(5.1)	Loc. 1 第Ⅲ層	中-近世	
管状土器	3.8	1.8		0.4	8.1	Loc. 1 第Ⅲ層	中-近世	
管状土器	7.0	3.8		1.2	85.0	Loc. 1 第Ⅲ層	中-近世	
管状土器	5.5	1.1		0.3		Loc. 3 第Ⅳ層 包含層	中-近世	
管状土器	(4.3)	1.6		0.7	(8.3)	Loc. 4 P2	中-近世	
管状土器	4.8	1.4		0.4	10.2	Loc. 4 SD1	中-近世	
管状土器	(3.7)	1.6		0.7	(6.4)	Loc. 4 SD1	中-近世	
管状土器	3.9	1.1		0.5	3.5	Loc. 4 SD1	中-近世	
管状土器	(2.1)	1.1		0.3	(2.5)	Loc. 4 SD1	中-近世	
管状土器	(4.0)	1.7		0.5	(8.9)	Loc. 4 SD3	中-近世	
管状土器	4.7	1.5		0.4	9.7	Loc. 4 SD3	中-近世	
管状土器	(3.6)	1.4		(6.3)	(5.1)	Loc. 4 SD3	中-近世	
管状土器	(3.3)	1.3		0.5	(4.1)	Loc. 4 SD3	中-近世	
管状土器	5.3	1.9		0.6	16.6	Loc. 4 SD4	中-近世	
管状土器	(3.4)	1.1		0.4	2.3	Loc. 4 第Ⅲ層	中-近世	
管状土器	4.6	2.7		(1.0)	17.6	Loc. 4 第Ⅲ層 包含層	中-近世	
管状土器	4.2	1.3		0.5	4.9	Loc. 4 第Ⅲ層 包含層	中-近世	
管状土器	(2.5)	1.0		0.3	(2.1)	Loc. 4 第Ⅲ層 包含層	中-近世	
管状土器	(3.0)	1.5		0.4	(2.7)	Loc. 4 第Ⅲ層 包含層	中-近世	
管状土器	3.9	1.4		0.5	5.5	Loc. 4 第Ⅲ層 包含層	中-近世	
管状土器	(4.6)	1.8		0.4	(6.7)	Loc. 4 第Ⅲ層 包含層	中-近世	
管状土器	4.6	1.1		0.3	4.1	Loc. 4 第Ⅲ層 包含層	中-近世	
管状土器	4.3	1.9		0.7	8.8	Loc. 4 第Ⅲ層 包含層	中-近世	
管状土器	4.9	1.6		0.6	9.0	Loc. 4 第Ⅲ層 包含層	中-近世	
管状土器	(3.2)	1.3		0.4	4.6	Loc. 4 第Ⅲ層 包含層	中-近世	
管状土器	4.4	1.4		0.5	6.9	Loc. 4 第Ⅲ層 包含層	中-近世	
管状土器	(3.7)	1.4		0.6	(5.1)	Loc. 4 第Ⅲ層 包含層	中-近世	
管状土器	4.0	1.3		0.4	5.6	Loc. 4 第Ⅲ層 包含層	中-近世	
管状土器	4.4	1.4		0.4	6.9	Loc. 4 第Ⅲ層 包含層	中-近世	
管状土器	5.7	2.9		0.6	26.0	Loc. 4 第Ⅲ層 包含層	中-近世	
管状土器	(2.9)	1.2		0.4	(2.9)	Loc. 4 第Ⅲ層 包含層	中-近世	
管状土器	4.0	1.4		0.6	6.9	Loc. 4 第Ⅲ層 包含層	中-近世	
管状土器	5.1	1.5		0.5	10.6	Loc. 4 第Ⅲ層 包含層	中-近世	
管状土器	4.5	1.4		0.7	6.7	Loc. 4 第Ⅲ層 包含層	中-近世	
管状土器	(4.0)	1.5		0.5	(6.8)	Loc. 4 第Ⅲ層 包含層	中-近世	
管状土器	(3.6)	1.4		0.4	(4.6)	Loc. 4 第Ⅲ層 包含層	中-近世	
管状土器	(2.8)	1.6		0.5	4.1	Loc. 4 第Ⅲ層 包含層	中-近世	
管状土器	(3.7)	1.5		0.4	(6.9)	Loc. 4 第Ⅲ層 包含層	中-近世	
管状土器	(2.7)	1.3		0.4	(2.9)	Loc. 4 第Ⅲ層 包含層	中-近世	
管状土器	(2.3)	1.3		0.5	(2.5)	Loc. 4 第Ⅲ層 包含層	中-近世	
管状土器	(3.1)	1.4		0.3	5.9	Loc. 4 第Ⅲ層 包含層	中-近世	
管状土器	(2.4)	1.0		0.3	(1.5)	Loc. 4 第Ⅲ層 包含層	中-近世	
管状土器	(1.3)	0.9		0.3	(0.6)	Loc. 4 第Ⅲ層 包含層	中-近世	
管状土器	4.8	1.0		0.3	4.6	Loc. 4 第Ⅲ層 包含層	中-近世	
管状土器	(3.7)	1.3		0.6	(4.0)	Loc. 4 第Ⅲ層 包含層	中-近世	
管状土器	4.3	1.3		0.4	5.0	Loc. 4 第Ⅲ層 包含層	中-近世	
管状土器	3.5	1.3		0.5	4.2	Loc. 4 第Ⅲ層 包含層	中-近世	
管状土器	4.8	1.2		0.4	4.9	Loc. 4 第Ⅲ層 包含層	中-近世	
管状土器	(3.4)	1.9		0.7	8.3	Loc. 4 第Ⅲ層 包含層	中-近世	
管状土器	(3.4)	1.4		0.5	(3.7)	Loc. 4 第Ⅲ層 包含層	中-近世	
管状土器	(2.6)	1.2		0.3	2.6	Loc. 4 第Ⅲ層 包含層	中-近世	
管状土器	4.6	1.1		0.2	5.2	Loc. 4 第Ⅲ層 包含層	中-近世	
管状土器	(1.9)	0.9		0.2	(1.2)	Loc. 4 第Ⅲ層 包含層	中-近世	
管状土器	5.4	1.1		0.3	5.6	Loc. 6 P7	不明	
管状土器	3.4	1.2		0.4	5.4	Loc. 6 P9	不明	
管状土器	4.3	1.4		0.5	7.3	Loc. 6 SD1	中-近世	
管状土器	4.4	1.1		0.3	5.9	Loc. 6 SD1	中-近世	
管状土器	5.0	1.0		0.4	4.9	Loc. 6 SD2	中-近世	
管状土器	4.2	1.8		0.5	10.7	Loc. 6 第Ⅳ層 包含層	中-近世	
管状土器	5.3	1.0		0.3	5.7	Loc. 6 第Ⅳ層 包含層	中-近世	
管状土器	5.3	1.4		0.5	9.0	Loc. 6 第Ⅳ層 包含層	中-近世	
管状土器	4.2	0.9		0.3	4.2	Loc. 6 第Ⅳ層 包含層	中-近世	
管状土器	5.5	1.1		0.3	7.2	Loc. 6 第Ⅳ層 包含層	中-近世	
管状土器	5.1	1.3		0.4	6.8	Loc. 6 第Ⅳ層 包含層	中-近世	
管状土器	4.3	1.5		0.6	8.6	Loc. 6 第Ⅳ層 包含層	中-近世	
管状土器	4.5	1.4		0.5	8.1	Loc. 6 第Ⅳ層 包含層	中-近世	
管状土器	(3.4)	1.4		0.5	(4.5)	Loc. 6 第Ⅳ層 包含層	中-近世	
管状土器	5.5	1.2		0.4	7.5	Loc. 6 第Ⅳ層 包含層	中-近世	
管状土器	4.0	1.3		0.5	5.9	Loc. 6 第Ⅳ層 包含層	中-近世	
管状土器	4.7	0.9		0.4	4.1	Loc. 6 第Ⅳ層 包含層	中-近世	
管状土器	5.4	1.3		0.5	7.2	Loc. 6 第Ⅳ層 包含層	中-近世	
管状土器	3.5	1.1		0.3	3.5	Loc. 6 第Ⅳ層 包含層	中-近世	

## 田村遺跡(南国市)

土器の種類	全長(cm)	全幅(cm)	全厚(cm)	孔径(cm)	重量(g)	出土地点	時期	備考
管状土器	4.7	0.9	0.4	4.5	Loc. 7 第1層	不明		
管状土器	4.9	1.0	0.4	5.2	Loc. 7 第1層	不明		
管状土器	5.1	1.2	0.4	7.1	Loc. 7 第1層	不明		
管状土器	4.3	1.4	0.5	8.5	Loc. 7 第1層	不明		
管状土器	4.1	1.1	0.4	4.7	Loc. 7 第1層	不明		
管状土器	(2.8)	1.4	0.4	5.9	Loc. 7 第1層	不明		
管状土器	5.0	1.2	0.3	6.3	Loc. 7 第V層	不明		
管状土器	(2.9)	1.0	0.3	(2.8)	Loc. 7 第V層	不明		
管状土器	(3.7)	1.1	0.3	4.2	Loc. 7 第V層	不明		
管状土器	4.4	1.2	0.3	5.1	Loc. 7 第V層	不明		
管状土器	(2.6)	1.0	0.3	(2.1)	Loc. 7 第V層	不明		
管状土器	5.2	1.6	0.9	9.2	Loc. 8 第V層	不明		
管状土器	5.0	1.5	0.7	8.0	Loc. 10A SD10	中~近世		
管状土器	4.5	1.6	0.5	8.9	Loc. 10A SD8	中~近世		
管状土器	(2.8)	1.4	0.4	(3.1)	Loc. 10B SB36	中~近世		
管状土器	(2.8)	1.3	0.3		Loc. 10B SB36	中~近世		
管状土器	(3.5)	1.3	0.5	(5.1)	Loc. 10B 第II層	不明		
管状土器	4.4	1.0	0.3	3.7	Loc. 10B 第II層	不明		
管状土器	(3.5)	1.3	0.5	5.1	Loc. 10B 第II層	不明		
管状土器	4.4	1.6	0.5	10.2	Loc. 11 第I層	不明		
管状土器	3.0	1.1	0.4	3.8	Loc. 11 第II層	不明		
管状土器	(3.2)	1.7	0.7	(5.8)	Loc. 12 P6	不明		
管状土器	(3.5)	0.9	0.4	2.6	Loc. 12 P6	不明		
管状土器	5.1	1.3	0.3	5.5	Loc. 12 第III層 包含層	不明		
管状土器	4.5	1.3	0.4	6.4	Loc. 13 P15	中~近世		
管状土器	(4.6)	1.4	0.4	7.6	Loc. 13 P18	中~近世		
管状土器	5.0	1.1	0.4	6.3	Loc. 13 P8	中~近世		
管状土器	(3.4)	1.3	0.7	(5.5)	Loc. 13 SB1 P1	中~近世		
管状土器	4.6	1.5	0.5	8.7	Loc. 13 SB16 P1	中~近世		
管状土器	(3.0)	1.2	0.3	(3.5)	Loc. 13 SB24 P1	中~近世		
管状土器	4.8	1.1	0.5	5.6	Loc. 13 SD1	中~近世		
管状土器	3.5	1.2	0.4	4.1	Loc. 13 SD1	中~近世		
管状土器	3.2	1.6	0.4	5.8	Loc. 13 SD10	古代		
管状土器	(4.6)	1.4	0.5	8.1	Loc. 13 SE1	不明		
管状土器	(3.4)	1.2	0.4	(4.5)	Loc. 13 SK1	中~近世		
管状土器	3.6	1.4	0.7	6.4	Loc. 13 SK12	中~近世		
管状土器	(5.2)	1.0	0.3	2.8	Loc. 13 SK19	中~近世		
管状土器	4.5	1.8	0.5	9.9	Loc. 13 SK7	中~近世		
管状土器	4.2	1.5	0.5	8.8	Loc. 13 SP1	不明		
管状土器	(5.4)	1.6	0.8	13.4	Loc. 13 SP1	不明		
管状土器	5.2	1.7	0.6	11.5	Loc. 13 第III層	中~近世		
管状土器	4.9	1.2	0.4	5.2	Loc. 13 第III層	中~近世		
管状土器	(7.0)	(5.1)	(1.5)	(85.0)	Loc. 13 第III層	中~近世		
管状土器	4.3	1.2	0.4	5.5	Loc. 13 第III層	中~近世		
管状土器	4.9	1.2	0.4	6.8	Loc. 13 第III層	中~近世		
管状土器	4.0	1.9	0.6	12.5	Loc. 13 第III層	中~近世		
管状土器	4.3	1.0	0.3	4.2	Loc. 13 第III層	中~近世		
管状土器	4.8	1.2	0.4	7.9	Loc. 13 第III層	中~近世		
管状土器	5.4	1.6	0.6	9.1	Loc. 13 第III層	中~近世		
管状土器	(4.1)	1.6	0.7	(8.9)	Loc. 13 第III層	中~近世		
管状土器	8.5	4.5	1.7	170.0	Loc. 14 P32	古代		
管状土器	(3.6)	(1.7)	0.7	8.0	Loc. 14 P38	古代		
管状土器	4.5	1.3	0.4	6.2	Loc. 14 P41	不明		
管状土器	(2.4)	1.1	0.4	(3.1)	Loc. 14 SD11	中~近世		
管状土器	4.1	0.9	0.3	3.8	Loc. 14 第II層	不明		
管状土器	(3.5)	1.2	0.5	(3.9)	Loc. 14 第II層	不明		
管状土器	4.0	0.9	0.3	2.8	Loc. 14 第II層	不明		
管状土器	5.4	1.8	0.7	17.4	Loc. 14 第III層	不明		
管状土器	(2.8)	1.1	0.4	2.5	Loc. 14 第III層	不明		
管状土器	4.0	1.3	0.5	4.6	Loc. 14 第III層	不明		
管状土器	4.5	2.3	1.0	20.3	Loc. 14 第IV層	不明		
管状土器	4.1	1.2	0.4	4.1	Loc. 16 第III層	中~近世		
管状土器	5.8	2.2	0.5	26.5	Loc. 18 P6	中~近世		
管状土器	5.0	2.0	0.5	23.0	Loc. 18 S35 P4	中~近世		
管状土器	4.5	0.9	0.4	9.8	Loc. 18 第III層	中~近世		
管状土器	3.8	1.4	0.4	11.0	Loc. 18 第III層	中~近世		
管状土器	4.9	1.4	0.6	7.3	Loc. 19 P11	中~近世		
管状土器	(3.3)	1.0	0.5	2.9	Loc. 19 P12	中~近世		
管状土器	(4.4)	1.8	0.6	(11.8)	Loc. 19 P9	中~近世		
管状土器	(2.9)	1.1	0.4	(2.9)	Loc. 19 SD10	中~近世		
管状土器	4.2	1.0	0.5	3.6	Loc. 19 SD4	中~近世		
管状土器	4.5	1.1	0.5	4.2	Loc. 19 SD9	中~近世		
管状土器	2.9	1.1	0.3	3.0	Loc. 19 第I~III層	中~近世		
管状土器	(2.9)	1.0	0.4	(2.7)	Loc. 19 第I~III層	中~近世		
管状土器	(3.0)	1.5	0.7	(3.5)	Loc. 19 第I~III層	中~近世		
管状土器	3.8	1.2	0.3	3.3	Loc. 19 第I~III層	中~近世		
管状土器	3.7	1.4	0.4	7.0	Loc. 21 S334	中~近世		

## 田村遺跡(南砺市)

土器の種類	全底(cm)	全幅(cm)	全厚(cm)	孔径(cm)	重量(g)	出土地點	時期	備考
管状土器	3.2	1.0		0.4	2.5	Loc. 21 S09	中~近世	
管状土器	4.1	1.2		0.4		Loc. 21 S09	中~近世	
管状土器	5.2	1.6		0.6	10.0	Loc. 21 S09	中~近世	
管状土器	(3.9)	2.0		0.7	(11.0)	Loc. 21 S09	中~近世	
管状土器	(2.9)	1.5		0.6	(4.0)	Loc. 21 S09	中~近世	
管状土器	(4.4)	1.8		0.6		Loc. 21 S09	中~近世	
管状土器	(3.6)	1.8		0.6		Loc. 21 S09	中~近世	
管状土器	(3.4)	1.1		0.5	5.0	Loc. 21 S09	中~近世	
管状土器	(2.1)	1.2		0.5	(2.0)	Loc. 21 S09	中~近世	
管状土器	(2.8)	1.6		0.6	(4.0)	Loc. 21 S09	中~近世	
有底土器	7.6	5.3				Loc. 21 S09	中~近世	
管状土器	(3.4)	1.		0.5	3.0	Loc. 21 S09	中~近世	
管状土器	4.7	1.2		0.4		Loc. 21 S09	中~近世	
管状土器	3.5	1.1		0.4	2.5	Loc. 21 S09	中~近世	
管状土器	3.5	1.1		0.3	2.5	Loc. 21 S09	中~近世	
管状土器	4.4	1.2		0.4		Loc. 21 S09	中~近世	
管状土器	(3.6)	1.6		0.7	(7.5)	Loc. 21 S09	中~近世	
管状土器	2.6	0.8		0.4	2.0	Loc. 21 S09	中~近世	
管状土器	5.5	1.3		0.3	9.5	Loc. 21 S83	中~近世	
管状土器	4.0	1.1		0.4	2.5	Loc. 21 SK49	中~近世	
管状土器	3.5	2.0		(0.6)	(6.0)	Loc. 21 SK70	中~近世	
管状土器	(2.7)	1.0		0.4	(2.5)	Loc. 21 SK79	中~近世	
管状土器	(3.8)	1.3		0.4	(5.0)	Loc. 21 SK81	中~近世	
管状土器	3.8	1.2		0.4	5.0	Loc. 21 SK81	中~近世	
管状土器	(2.8)	1.0		0.4	(2.5)	Loc. 21 SP2	中~近世	
管状土器	3.4	1.0		0.4	4.3	Loc. 21 SP2	中~近世	
有底土器	5.6	5.3				Loc. 24 第Ⅲ層 包含層	不明	
管状土器	(5.4)	1.6		0.4	(6.9)	Loc. 24 第Ⅲ層 包含層	不明	
管状土器	4.5	1.5		0.7	5.0	Loc. 25 P04	不明	
管状土器	4.8	1.6		0.4	10.0	Loc. 25 SD1	中~近世	
管状土器	6.0	1.6		0.4	11.0	Loc. 25 SD1	中~近世	
管状土器	4.4	1.3		0.4	5.0	Loc. 25 SD1	中~近世	
管状土器	5.7	1.1		0.4	3.9	Loc. 25 SD1	中~近世	
管状土器	3.9	1.1		0.3	3.2	Loc. 25 SD1	中~近世	
管状土器	(4.2)	1.		0.4	4.3	Loc. 25 SD1	中~近世	
管状土器	(3.4)	1.1		0.4	3.1	Loc. 25 SD1	中~近世	
管状土器	(2.0)	0.9		0.2	(1.3)	Loc. 25 SD1	中~近世	
管状土器	4.8	1.8		0.5	12.1	Loc. 25 SD1	中~近世	
管状土器	4.6	1.7		0.4	10.4	Loc. 25 SD1	中~近世	
管状土器	3.4	1.2		0.4	3.7	Loc. 25 SD1	中~近世	
管状土器	5.6	1.8		0.4	15.7	Loc. 25 SD1	中~近世	
管状土器	(4.7)	1.6		0.5	15.7	Loc. 25 第Ⅰ層	不明	
管状土器	3.7	1.2		0.3	4.4	Loc. 25 第Ⅰ層	不明	
管状土器	(4.3)	1.5		0.4	7.0	Loc. 25 第Ⅰ層	不明	
管状土器	5.7	2.6		0.5	32.8	Loc. 25 第Ⅰ層	不明	
管状土器	(4.6)	1.2		0.5	4.8	Loc. 25 第Ⅰ層	不明	
管状土器	5.3	1.0		0.5	3.0	Loc. 30 P12	不明	
管状土器	3.9	1.4		0.5	6.2	Loc. 30 P14	不明	
管状土器	4.6	1.2		0.6	6.8	Loc. 30 P17	不明	
管状土器	4.7	1.4		0.5	9.0	Loc. 30 P19	不明	
管状土器	3.5	1.2		0.5	4.2	Loc. 30 P31	不明	
管状土器	4.0	1.3		0.4	6.4	Loc. 30 P33	不明	
管状土器	5.0	1.5		0.5	7.1	Loc. 30 P38	不明	
管状土器	4.5	1.1		0.4	5.7	Loc. 30 P46	不明	
管状土器	5.2	3.8		1.5	50.9	Loc. 30 P51	不明	
管状土器	(2.2)	0.8		0.3	(1.4)	Loc. 30 SB13	中~近世	
管状土器	4.6	1.7		0.5	12.5	Loc. 30 SB30	中~近世	
管状土器	(3.2)	1.6		0.4	(5.5)	Loc. 30 SB35	不明	
管状土器	3.2	1.8		0.5	10.3	Loc. 30 SD13	不明	
管状土器	4.0	1.0		0.5	4.1	Loc. 30 SD22	不明	
管状土器	4.6	1.7		0.5	11.7	Loc. 30 SD23	中~近世	
管状土器	(3.0)	1.1		0.4	(2.6)	Loc. 30 SK121	不明	
管状土器	2.9	1.6		0.5	7.6	Loc. 30 SK121	不明	
管状土器	4.1	1.4		0.5	2.9	Loc. 30 SK40	不明	
管状土器	2.8	1.4		0.5	4.3	Loc. 30 第Ⅲ層	不明	
管状土器	3.8	1.0		0.5	2.9	Loc. 30 第Ⅲ層	不明	
管状土器	(4.5)	1.2		0.5	(6.3)	Loc. 30 第Ⅲ層	不明	
管状土器	2.9	1.7		0.5	8.1	Loc. 30 第Ⅲ層	不明	
管状土器	(4.3)	1.3		0.5	7.1	Loc. 30 第Ⅲ層	不明	
管状土器	(2.5)	1.3		0.4	(3.0)	Loc. 31A P10	中~近世	
管状土器	3.9	1.1		0.3	3.0	Loc. 31A S525	中~近世	
管状土器	4.3	1.6		0.6	3.0	Loc. 31A SK42	中~近世	
管状土器	5.1	1.2		0.7	7.0	Loc. 31B S03	中~近世	
管状土器	6.2	4.2		1.8	70.0	Loc. 31B 第Ⅲ層	中~近世	
管状土器	3.5	1.2		0.3	3.7	Loc. 32 第Ⅱ層	不明	
管状土器	(3.0)	1.2		0.5	(4.3)	Loc. 32 第Ⅱ層	不明	
管状土器	4.4	1.8		0.5	3.7	Loc. 33 P7	中~近世	

## 田村遺跡(南国市)

土師の種類	全長(cm)	全幅(cm)	全厚(cm)	孔径(cm)	重量(g)	出土地点	時期	備考
管状土錠	(5.0)	1.8	0.9	15.9	Loc. 33 SK5 P1	中~近世		
管状土錠	(3.7)	0.9	0.4	2.7	Loc. 33 SD1	中~近世		
管状土錠	(2.6)	1.1	0.4	(6.9)	Loc. 34 SK58	不明		
管状土錠	5.4	2.2	0.5	29.6	Loc. 34 SK59	弥生		
その他の土錠	(4.1)	4.0	(0.5)	(35.0)	Loc. 35A SB2	弥生		
管状土錠	6.4	3.4	0.8	72.5	Loc. 36B SB2	弥生		
管状土錠	3.5	1.5	0.4	5.1	Loc. 39 P1	中~近世	須恵質	
有溝土錠	7.6	4.9		110.0	Loc. 39 SK10 P5	古代		
管状土錠	4.5	1.7	0.6	9.0	Loc. 39 SK12 P2	古代		
有溝土錠	7.8	4.5		86.0	Loc. 39 SK13 P4	古代		
有溝土錠	8.0	5.4		126.0	Loc. 39 SD1	中~近世		
有溝土錠	6.7	5.5		85.0	Loc. 39 SD1	中~近世		
有溝土錠	7.0	4.9			Loc. 39 SD1	中~近世		
管状土錠	3.5	2.2	0.6	20.5	Loc. 39 SD1	中~近世		
有溝土錠	6.5	4.5		115.0	Loc. 39 SD1	中~近世		
有溝土錠	8.1	4.3		126.0	Loc. 39 SD1	中~近世		
有溝土錠	9.1	4.2		116.0	Loc. 39 SD1	中~近世		
有溝土錠	7.3	5.1		126.0	Loc. 39 SD1	中~近世		
管状土錠	4.4	2.2		18.7	Loc. 39 SD1	中~近世		
管状土錠	(3.8)	1.7	0.6	8.7	Loc. 39A SK76	中~近世		
管状土錠	4.6	2.5	0.8	18.7	Loc. 39A SK76	中~近世		
管状土錠	5.3	2.1	0.7	22.5	Loc. 39B SD12	古代		
管状土錠	4.7	1.9	0.4	12.5	Loc. 39B SD12	古代		
管状土錠	4.2	1.2	0.5	7.0	Loc. 39B SD6	中~近世		
管状土錠	4.5	1.6	0.6	10.0	Loc. 39B SD6	中~近世		
管状土錠	4.4	1.9	0.7	12.5	Loc. 39B SD6	中~近世		
管状土錠	4.6	1.3	0.5	7.5	Loc. 39B SD6	中~近世		
管状土錠	4.2	1.2	0.4	6.2	Loc. 39C P14	中~近世		
管状土錠	4.5	1.7	0.5	11.6	Loc. 39C P21	中~近世		
管状土錠	4.5	1.4	0.5	13.4	Loc. 39C P21	中~近世		
管状土錠	3.8	2.1	0.6	12.2	Loc. 39C P24	中~近世		
管状土錠	4.0	1.4	0.3	9.9	Loc. 39C P28	中~近世		
管状土錠	(3.9)	1.4	0.8	(5.1)	Loc. 39C P34	中~近世		
管状土錠	4.3	1.8	0.4	13.3	Loc. 39C SD1	小網		
有溝土錠	9.7	5.1		130.0	Loc. 39C SD1	不明		
有溝土錠	7.4	3.3		95.0	Loc. 39C SD1	不明		
管状土錠	4.0	1.3	0.6	4.1	Loc. 39C SD1	不明		
管状土錠	3.9	2.2	0.8	14.5	Loc. 39C SD1	不明		
管状土錠	8.6	4.9	1.9	166.0	Loc. 39C SD1	不明		
管状土錠	7.1	4.0	1.4	101.0	Loc. 39C SD1	不明		
石澗土錠	8.2	5.0		144.0	Loc. 39C SD2	中~近世		
管状土錠	5.0	1.7	0.3	16.7	Loc. 39C SD9	中~近世		
管状土錠	4.6	2.1	0.5	17.7	Loc. 39C SD9	中~近世		
管状土錠	4.0	1.8	0.6	9.6	Loc. 39C SK111	中~近世		
管状土錠	3.8	2.4	0.8	17.7	Loc. 39C SK227	中~近世		
管状土錠	5.0	1.4	0.5	7.5	Loc. 39C SK28	中~近世		
管状土錠	(4.2)	2.3	0.6	(19.3)	Loc. 39C SK60	中~近世		
管状土錠	4.3	1.8	0.3	12.6	Loc. 39C SK66	中~近世		
管状土錠	4.4	1.8	0.6	12.9	Loc. 39C 第1層	不明		
管状土錠	(4.0)	1.5	0.3	(7.7)	Loc. 41 F2	不明		
管状土錠	4.2	1.0	0.3	3.8	Loc. 41 SK27	中~近世		
管状土錠	4.2	1.7	0.6	10.2	Loc. 42 SD13	中~近世		
管状土錠	3.9	1.2	0.4	5.0	Loc. 42 SD13	中~近世		
管状土錠	4.1	1.5	0.4	5.0	Loc. 42 SD14	中~近世		
管状土錠	3.6	0.8	0.3	2.5	Loc. 42 SD2	中~近世		
管状土錠	3.2	0.7	0.3	2.0	Loc. 42 SD2	中~近世		
管状土錠	3.5	0.9	0.3	3.0	Loc. 42 SD2	中~近世		
管状土錠	3.4	0.8	0.4	2.5	Loc. 42 SD2	中~近世		
管状土錠	5.5	1.1	0.5	6.0	Loc. 42 SD2	中~近世		
管状土錠	(2.1)	0.9	0.4	2.0	Loc. 42 SD2	中~近世		
管状土錠	(4.3)	1.8	0.3	(12.5)	Loc. 42 SD2	中~近世		
管状土錠	3.8	0.9	0.4	3.0	Loc. 42 SD2	中~近世		
管状土錠	3.6	0.9	0.4	2.5	Loc. 42 SD2	中~近世		
管状土錠	3.5	0.9	0.5	2.5	Loc. 42 SD2	中~近世		
管状土錠	3.1	1.0	0.3	3.0	Loc. 42 SD2	中~近世		
管状土錠	3.3	0.8	0.2	2.5	Loc. 42 SD2	中~近世		
管状土錠	3.2	0.9	0.2	3.0	Loc. 42 SD2	中~近世		
管状土錠	3.1	1.0	0.3	3.5	Loc. 42 SD2	中~近世		
管状土錠	(3.3)	1.0	0.4	2.5	Loc. 42 SD2	中~近世		
管状土錠	3.6	0.9	0.3	3.0	Loc. 42 SD2	中~近世		
管状土錠	4.1	0.9	0.3	3.0	Loc. 42 SD2	中~近世		
管状土錠	(3.0)	0.9	0.3	2.5	Loc. 42 SD2	中~近世		
管状土錠	4.8	1.3	0.5	7.0	Loc. 42 SD2	中~近世		
管状土錠	(3.9)	1.0	0.3	2.5	Loc. 42 SD2	中~近世		
管状土錠	4.3	0.9	0.4	3.0	Loc. 42 SD2	中~近世		
管状土錠	3.8	0.9	0.3	4.0	Loc. 42 SD2	中~近世		
管状土錠	4.3	1.6	0.3	10.0	Loc. 42 SD7	中~近世		

## 田村遺跡(南国市)

土器の種類	全長(cm)	全幅(cm)	全厚(cm)	孔径(cm)	重量(g)	出土地点	時期	備考
管状土器	(2.8)	1.5		0.3	(5.7)	Loc. 42 SD7	中一近世	
管状土器	4.6	1.7		0.5	7.5	Loc. 42 SD7	中一近世	
管状土器	(2.5)	1.5		0.5	(5.0)	Loc. 42 SD7	中一近世	
管状土器	(4.3)	1.9		0.5	(12.5)	Loc. 42 SK75	中一近世	
管状土器	(5.4)	2.5		0.6	16.0	Loc. 42 SK77	中一近世	
管状土器	3.2	1.1		0.4	2.5	Loc. 42 第III層	不明	
管状土器	(3.3)	3.6		0.8	(44.0)	Loc. 45 SD	先住	
管状土器	3.4	1.2		0.4	2.6	Loc. 48 SD6	中一近世	
管状土器	(2.3)	1.4		0.5	3.0	Loc. 48 SK41	中一近世	
管状土器	5.9	1.9		0.7	13.9	Loc. 48 第IV層	中一近世	
管状土器	(2.4)	1.5		0.4	(4.6)	Loc. 48 第IV層	中一近世	
管状土器	(3.3)	1.8		0.8	(7.5)	Loc. 48 第IV層	中一近世	
管状土器	3.5	1.0		0.5	3.4	Loc. 25 第II層	不明	
管状土器	2.9	2.2		0.4		田中地区 SK-27	先住	

## 具同中山遺跡(中村市)

土器の種類	全長(cm)	全幅(cm)	全厚(cm)	孔径(cm)	重量(g)	出土地点	時期	備考
管状土器	2.2	1.4		0.5	5.1	B区 SK1	古代	
管状土器	4.6	1.7		0.5	9.6	B区 SK1	古代	
管状土器	4.7	2.1		0.5	15.8	B区 SK1	古代	
管状土器	3.7	1.5		0.5	7.1	B区 SK1	古代	
管状土器	3.1	1.4		0.5	5.5	B区 SK1	古代	
管状土器	4.1	1.5		0.7	9.6	B区 SK1	古代	
管状土器	5.1	1.4		0.5	8.4	B区 SK1	古代	
管状土器	5.9	1.9		0.7	14.3	E区 II層	古代	
管状土器	2.0	1.1		0.4	1.4	E区 II層	古代	
管状土器	4.4	1.4		0.5	6.5	E区 II層	古代	
管状土器	3.8	1.9		0.6	9.5	E区 V層	古代	
管状土器	4.5	1.3		0.3	8.0	P26	不明	
管状土器	4.5	1.4		0.6	9.0	P40	不明	
管状土器	5.3	1.7		0.6	12.5	P41	不明	
管状土器	4.1	1.7		0.5	8.0	P45	不明	
管状土器	5.4	3.4		0.9	52.0	P45	不明	
管状土器	6.2	3.8		1.4	85.0	P47	不明	
管状土器	5.5	4.1		1.2	84.0	P47	不明	
管状土器	5.6	3.4		0.7	55.2	P50	不明	
管状土器	(4.2)	1.6		0.6	(7.5)	P51	不明	
管状土器	3.0	1.4		0.6	5.0	P51	不明	
管状土器	5.7	3.6		1.2	67.0	P51	不明	
管状土器	6.9	4.2		1.3	95.0	P55	不明	
管状土器	4.3	1.2		0.4	5.0	SB26	不明	
管状土器	4.6	3.0		0.5	S21	不明		
管状土器	(5.5)	3.8		1.0	S21	不明		
管状土器	5.1	3.2		0.8	S21	不明		
管状土器	5.6	3.5		0.8	S21	不明		
管状土器	5.4	3.5		0.9	S21	不明		
管状土器	(5.1)	3.7		1.0	S21	不明		
管状土器	5.3	3.5		0.8	S21	不明		
管状土器	5.4	3.4		0.8	S21	不明		
管状土器	5.3	3.3		0.9	S21	不明		
管状土器	5.1	3.1		0.8	S21	不明		
管状土器	(4.6)	1.7		0.6	S22	不明		
管状土器	4.6	1.3		0.5	7.0	S22	不明	
管状土器	(3.8)	1.4		0.4	S26	不明		
管状土器	4.2	1.9		0.2	10.5	SF17	不明	
管状土器	3.9	1.5		0.6	7.0	SF18	不明	
管状土器	3.4	1.7		0.3	SF21	古墳		
管状土器	(4.0)	1.4		0.3	(7.0)	SK	不明	
管状土器	4.1	1.7		0.5	14.0	SK13	不明	
管状土器	5.3	3.4		1.0	60.0	SX13	不明	
管状土器	5.3	3.3		1.1	60.0	SX14	不明	
管状土器	5.5	3.6		0.9	63.0	SX14	不明	
管状土器	5.0	2.8		0.8	30.0	SX14	不明	
管状土器	6.2	3.7		0.8	90.0	SX15	不明	
管状土器	5.5	4.4		0.8	120.8	SX15	不明	
管状土器	5.6	3.4		1.0	51.0	SX15	不明	
管状土器	(2.7)	1.5		0.5	4.7	IV層 包含層	不明	
管状土器	3.9	1.0		0.4	4.4	IV層 包含層	不明	
管状土器	4.0	1.5		0.5	6.8	V層 包含層	不明	
管状土器	(2.5)	1.2		0.4	(2.9)	V層 包含層	不明	
管状土器	4.8	1.4	1.5	0.4	7.7	不明	不明	
管状土器	4.1	1.0		0.4	5.6	包含層	不明	
管状土器	3.0	1.5		0.5	5.2	包含層	不明	
管状土器	4.1	1.2		0.4	4.0	包含層	不明	
管状土器	3.7	1.4		0.4	5.7	包含層	不明	
管状土器	3.7	1.1		0.3	5.7	包含層	不明	

## 鳥取中山陵跡（中村市）

土種の種類	全長(cm)	全幅(cm)	全厚(cm)	孔径(cm)	重量(g)	出土地点	時期	備考
管状土錐	4.0	1.3		0.5	5.2	包含層	不明	
管状土錐	4.6	1.2		0.4	5.1	包含層	不明	
管状土錐	4.5	1.3		0.4	5.8	包含層	不明	
管状土錐	6.5	4.2		1.3	95.5	包含層	不明	
管状土錐	5.3	3.5		1.1	60.0	包含層	不明	
管状土錐	6.5	4.6		1.0	131.6	包含層	不明	
管状土錐	3.6	1.3		0.4	3.5	包含層	不明	
管状土錐	4.3	1.1		0.4	4.0	包含層	不明	
管状土錐	5.1	3.3		0.5	5.8	包含層	不明	
管状土錐	5.4	3.5		0.9	62.3	包含層	不明	
管状土錐	5.1	1.2		0.4	7.2	包含層	不明	
管状土錐	5.4	3.8		1.2	52.5	包含層	不明	
管状土錐	3.2	1.2		0.4	4.5	包含層	不明	
管状土錐	5.4	3.5		0.9	60.0	包含層	不明	
管状土錐	6.1	3.8		0.9	84.5	包含層	不明	
管状土錐	4.1	1.2		0.4	4.7	包含層	不明	
管状土錐	4.4	1.4		0.4	4.0	包含層	不明	
管状土錐	5.6	4.9		0.9	136.0	包含層	不明	
管状土錐	5.9	1.7		0.6	11.0	包含層	不明	
管状土錐	4.5	2.9		1.1	32.5	包含層	不明	
管状土錐	3.9	1.2		0.5	5.0	包含層	不明	
管状土錐	3.4	1.4		0.5	5.1	包含層	不明	
管状土錐	6.4	4.4		0.8	125.0	包含層	不明	
管状土錐	4.8	1.2		0.3	6.6	包含層	不明	
管状土錐	6.0	3.9		1.0	85.0	包含層	不明	
管状土錐	5.7	4.5		1.4	120.0	包含層	不明	
管状土錐	5.6	3.6		0.9	75.0	包含層	不明	
管状土錐	6.3	4.1		0.8	125.0	包含層	不明	
管状土錐	3.0	1.4		0.5	5.1	包含層	不明	
管状土錐	5.1	1.2		0.5	4.0	包含層	不明	
管状土錐	4.7	3.3		0.9	53.7	包含層	不明	
管状土錐	5.9	1.5		0.5	10.8	包含層	不明	
管状土錐	6.3	4.5		0.9	125.0	包含層	不明	
管状土錐	5.8	4.0		1.0	85.0	包含層	不明	
管状土錐	5.7	3.8		0.9	68.4	包含層	不明	
管状土錐	7.5	1.8		0.6	9.7	包含層	不明	
管状土錐	4.8	1.3		0.4	5.8	包含層	不明	
管状土錐	5.6	3.3		0.9	53.7	包含層	不明	
管状土錐	(4.0)	1.2		0.4	(4.0)	包含層	不明	
管状土錐	3.4	1.2		0.4	4.8	包含層	不明	
管状土錐	4.5	1.2		0.4	4.0	包含層	不明	
管状土錐	5.2	3.2		0.9	53.5	包含層	不明	
管状土錐	5.5	3.6		1.0	80.0	包含層	不明	
管状土錐	3.5	1.8		0.4	7.2	包含層	不明	
管状土錐	3.5	1.5		0.5	5.4	包含層	不明	
管状土錐	4.4	1.3		0.6	6.0	包含層	不明	
管状土錐	4.2	1.4		0.5	7.2	包含層	不明	
管状土錐	6.2	4.0		0.9	105.0	包含層	不明	
管状土錐	4.7	1.7		0.7	9.8	包含層	不明	
管状土錐	6.3	4.5		1.1	120.0	包含層	不明	
管状土錐	3.9	1.4		0.5	4.4	包含層	不明	
管状土錐	5.2	4.3		0.9	105.0	包含層	不明	
管状土錐	5.9	4.2		0.8	122.0	包含層	不明	
管状土錐	5.4	4.1		0.9	90.0	包含層	不明	
管状土錐	6.2	4.1		0.9	110.0	包含層	不明	
管状土錐	6.0	4.4		0.9	115.0	包含層	不明	
管状土錐	4.9	3.7		1.1	60.0	包含層	不明	
管状土錐	5.8	4.6		1.0	102.8	包含層	不明	
管状土錐	4.2	1.4		0.5	6.2	包含層	不明	
管状土錐	5.5	3.6		1.0	60.0	包含層	不明	
管状土錐	6.3	4.1		0.9	120.0	包含層	不明	
管状土錐	6.5	4.0		1.1	110.0	包含層	不明	
管状土錐	5.2	4.1		1.2	80.0	包含層	不明	
管状土錐	5.4	4.0		1.2	80.0	包含層	不明	
管状土錐	3.9	1.2		0.5	3.0	包含層	不明	
管状土錐	5.7	3.8		0.9	80.0	包含層	不明	
管状土錐	5.3	1.7		0.6	9.5	包含層	不明	
管状土錐	4.8	1.1		0.4	4.4	包含層	不明	
管状土錐	6.5	4.3		1.0	120.0	包含層	不明	
管状土錐	5.8	1.4		0.4	9.0	包含層	不明	
管状土錐	6.0	4.4		1.0	120.0	包含層	不明	
管状土錐	4.9	1.3		0.4	6.5	包含層	不明	
管状土錐	6.0	1.2		0.4	6.5	包含層	不明	
管状土錐	6.4	3.5		1.2	80.0	包含層	不明	
管状土錐	4.9	1.5		0.5	9.0	包含層	不明	
管状土錐	3.7	1.2		0.3	5.0	包含層	不明	
管状土錐	4.3	1.3		0.4	4.5	包含層	不明	

## 長岡中山遺跡（中村市）

土器の種類	全長(cm)	全幅(cm)	全厚(cm)	孔径(cm)	重量(g)	出土地点	時期	備考
管状土錐	4.6	1.7		0.5	4.3	包含層	不明	
管状土錐	5.6	3.7		1.1	75.0	包含層	不明	
管状土錐	6.6	1.3		0.3	8.0	包含層	不明	
管状土錐	4.9	1.2		0.5	4.0	包含層	不明	
管状土錐	5.4	1.8		0.4	4.5	包含層	不明	
管状土錐	4.1	1.8		0.5	9.3	包含層	不明	
管状土錐	6.0	3.5		1.1	71.6	包含層	不明	
管状土錐	4.7	1.2		0.5	5.0	包含層	不明	
管状土錐	6.2	1.1		0.3	6.1	包含層	不明	
管状土錐	4.0	1.3		0.4	5.5	包含層	不明	
管状土錐	4.5	1.3		0.4	6.0	包含層	不明	
管状土錐	6.5	3.5		0.9	74.0	包含層	不明	
管状土錐	3.9	1.0		0.4	3.0	包含層	不明	
管状土錐	5.5	3.5		0.9	62.9	包含層	不明	
管状土錐	6.2	4.5		0.8	124.0	包含層	不明	
管状土錐	7.1	3.8		1.3	95.0	包含層	不明	
管状土錐	5.8	3.9		1.0	87.5	包含層	不明	
管状土錐	5.7	3.5		1.0	66.0	包含層	不明	
管状土錐	6.4	4.5		0.8	119.2	包含層	不明	
管状土錐	5.4	1.4		0.4	6.9	包含層	不明	
管状土錐	3.7	1.2		0.4	3.8	包含層	不明	
管状土錐	4.4	1.4		0.4	8.0	包含層	不明	
管状土錐	4.2	1.1		0.4	3.3	包含層	不明	
管状土錐	6.5	4.2		0.9	101.0	包含層	不明	
管状土錐	7.2	1.8		0.7	9.9	包含層	不明	
管状土錐	5.5	3.7		0.9	75.0	包含層	不明	
管状土錐	4.4	1.1		0.4	4.0	包含層	不明	
管状土錐	5.2	3.6		1.1	60.0	包含層	不明	
管状土錐	3.7	1.1		0.4	3.2	包含層	不明	
管状土錐	7.5	1.7		0.7	9.6	包含層	不明	
管状土錐	4.7	1.3		0.4	7.0	包含層	不明	
管状土錐	5.6	1.3		0.4	7.8	包含層	不明	
管状土錐	4.0	1.3		0.4	3.5	包含層	不明	
管状土錐	4.2	1.1		0.3	3.6	包含層	不明	
管状土錐	5.2	1.2		0.6	6.2	包含層	不明	
管状土錐	4.0	1.1		0.4	3.0	包含層	不明	
管状土錐	5.5	3.9		0.9	85.0	包含層	不明	
管状土錐	5.0	3.8		0.9	70.0	包含層	不明	
管状土錐	5.4	1.3		0.4	9.0	包含層	不明	
管状土錐	6.3	4.4		1.1	129.0	包含層	不明	
管状土錐	4.7	3.6		0.8	66.0	包含層	不明	
管状土錐	4.4	1.2		0.4	3.5	包含層	不明	
管状土錐	5.3	3.9		1.0	97.0	包含層	不明	
管状土錐	5.2	1.8		0.7	5.4	包含層	不明	
管状土錐	4.2	1.1		0.4	4.1	包含層	不明	

## アゾノ遺跡（中村市）

土器の種類	全長(cm)	全幅(cm)	全厚(cm)	孔径(cm)	重量(g)	出土地点	時期	備考
管状土錐	(4.8)	1.3		0.3	P3		中-近世	
管状土錐	(3.3)	1.2		0.3	P1		中-近世	
管状土錐	(3.2)	1.1		0.5	P14		中-近世	
管状土錐	(2.9)	1.2		0.4	P14		中-近世	
管状土錐	(2.9)	1.4		0.4	P14		中-近世	
管状土錐	(4.0)	1.2		0.4	P15		中-近世	
管状土錐	4.3	1.4		0.5	P15		中-近世	
管状土錐	(3.7)	1.2		0.4	P15		中-近世	
管状土錐	(5.7)	1.2		0.3	P15		中-近世	
管状土錐	(4.0)	1.2		0.5	P20		中-近世	
管状土錐	(3.9)	1.1		0.4	P20		中-近世	
管状土錐	4.0	1.2		0.5	P20		中-近世	
管状土錐	4.2	1.2		0.4	P20		中-近世	
管状土錐	4.0	1.2		0.4	P20		中-近世	
管状土錐	(4.4)	1.3		0.5	P22		中-近世	
管状土錐	4.4	1.0		0.3	P24		中-近世	
管状土錐	(3.4)	1.3		0.4	P3		中-近世	
管状土錐	3.8	1.3		0.3	P31		中-近世	
管状土錐	(4.5)	1.5		0.5	P43		中-近世	
管状土錐	(4.7)	1.1		0.4	SB1-P		中-近世	
管状土錐	(4.6)	1.2		0.4	SB1-P1		中-近世	
管状土錐	(3.8)	1.1		0.4	SK12		中-近世	
管状土錐	(3.7)	1.1		0.5	SK13		中-近世	
管状土錐	(3.8)	1.2		0.6	SK16		中-近世	
管状土錐	(3.7)	1.3		0.5	SK21		中-近世	
管状土錐	(3.3)	1.3		0.5	SK22		中-近世	
管状土錐	(3.6)	1.3		0.5	SK23		中-近世	
管状土錐	(4.1)	1.2		0.4	SK4		中-近世	

## アゾノ遺跡(中村市)

土器の種類	全長(cm)	全幅(cm)	全厚(cm)	孔径(cm)	重量(g)	出土地点	時期	備考
管状土器	4.2	1.3	0.6	5.4	包含層	不明		
管状土器	6.5	4.1	1.1	114.0	包含層	不明		
管状土器	(3.4)	1.6	0.4	(8.1)	包含層	不明		
管状土器	6.0	4.8	1.0	126.5	包含層	不明		
管状土器	4.1	1.2	0.5	4.3	包含層	不明		
管状土器	6.6	4.2	0.9	115.8	包含層	不明		
管状土器	4.4	1.3	0.6	3.0	包含層	不明		
管状土器	5.9	1.2	0.5	4.5	包含層	不明		
管状土器	3.6	1.2	0.4	3.2	包含層	不明		
管状土器	4.3	1.2	0.7	2.6	包含層	不明		
管状土器	(3.3)	1.4	0.4	(4.5)	包含層	不明		
管状土器	3.8	1.2	0.4	4.1	包含層	不明		
管状土器	4.2	1.3	0.4	5.4	包含層	不明		
管状土器	3.2	1.1	0.3	3.8	包含層	不明		
管状土器	5.9	3.9	1.0	90.4	包含層	不明		
管状土器	3.0	1.1	0.3	3.0	包含層	不明		
管状土器	(2.6)	1.3	0.4	(3.1)	包含層	不明		
管状土器	3.9	1.5	0.7	4.5	包含層	不明		
管状土器	3.3	1.4	0.4	5.1	包含層	不明		
管状土器	4.8	1.4	0.8	5.1	包含層	不明		
管状土器	3.9	1.4	0.4	4.8	包含層	不明		
管状土器	4.5	1.2	0.4	4.8	包含層	不明		
管状土器	4.3	1.2	0.6	3.0	包含層	不明		
管状土器	4.9	1.4	0.5	4.5	包含層	不明		
管状土器	3.2	1.2	0.5	3.7	包含層	不明		
管状土器	4.7	1.2	0.3	5.2	包含層	不明		
管状土器	3.8	1.1	0.3	2.5	包含層	不明		
管状土器	5.6	1.2	0.4	7.0	包含層	不明		
管状土器	4.8	1.1	0.4	3.9	包含層	不明		
管状土器	4.5	1.5	0.4	7.2	包含層	不明		
管状土器	4.7	1.3	0.4	7.6	包含層	不明		
管状土器	5.1	1.8	0.5	9.7	包含層	不明		
管状土器	4.9	1.4	0.3	9.3	包含層	不明		
管状土器	4.3	1.4	0.3	6.7	包含層	不明		
管状土器	5.0	1.3	0.5	7.8	包含層	不明		
管状土器	(3.8)	1.2	0.4	(2.5)	包含層	不明		
管状土器	5.5	4.0	0.9	91.6	包含層	不明		
管状土器	4.1	1.4	0.5	7.3	包含層	不明		
管状土器	5.1	1.3	0.6	4.5	包含層	不明		
管状土器	(2.9)	1.5	0.6	(4.5)	包含層	不明		
管状土器	4.5	3.0	1.1	34.0	包含層	不明		
管状土器	(4.0)	1.4	0.4	(5.2)	包含層	不明		
管状土器	5.0	2.9	0.9	39.0	包含層	不明		
管状土器	5.8	4.9	1.0	158.6	包含層	不明		
管状土器	6.5	3.7	1.0	85.2	包含層	不明		
管状土器	4.2	1.2	0.4	5.0	包含層	不明		
管状土器	4.0	1.3	0.3	5.1	包含層	不明		
管状土器	4.9	1.4	0.5	7.5	包含層	不明		
管状土器	5.1	1.2	0.5	5.0	包含層	不明		
管状土器	3.8	1.4	0.3	5.5	包含層	不明		
管状土器	4.9	1.4	0.7	5.5	包含層	不明		
管状土器	4.9	3.2	1.1	38.0	包含層	不明		
管状土器	4.1	1.4	0.4	5.5	包含層	不明		
管状土器	5.3	1.4	0.7	5.5	包含層	不明		
管状土器	5.0	1.1	0.3	5.9	包含層	不明		
管状土器	4.1	1.4	0.4	6.5	包含層	不明		
管状土器	4.7	1.4	0.5	6.1	包含層	不明		
管状土器	4.4	1.3	0.5	5.9	包含層	不明		
管状土器	4.8	1.3	0.3	6.3	包含層	不明		
管状土器	4.1	1.3	0.4	5.5	包含層	不明		
管状土器	6.1	3.1	1.0	74.0	包含層	不明		
管状土器	4.8	1.8	0.6	12.5	包含層	不明		

## 十佐国歴跡(南国市)

土器の種類	全長(cm)	全幅(cm)	全厚(cm)	孔径(cm)	重量(g)	出土地点	時期	備考
管状土器	4.4	1.4	0.5	0.5	B地区 S5-20	不明		
管状土器	3.5	1.5	0.6	SB地区 SK-22	不明			
管状土器	6.7	3.4	0.9	P-10	古墳			
管状土器	4.4	2.2	0.6	13.8	P-2	不明		
管状土器	7.0	2.5	0.8	34.0	P1	古代		
管状土器	4.9	1.5	0.3	6.8	P1	中~近世		
管状土器	(4.7)	1.4	0.7	5.8	SA-22	不明		
管状土器	(4.0)	1.9	0.5	(12.0)	SB50 P-5	古代		
管状土器	5.1	1.7	0.4	SD51	古代			
管状土器	5.5	1.4	0.4	SE-01	不明			
管状土器	3.8	1.9	0.5	15.7	SK-101	古代	須恵質	

土器の種類							出土地点		時期	備考
	全長(cm)	全幅(cm)	全厚(cm)	孔径(cm)	重量(g)					
管状土錐	4.5	1.8	0.5	13.6	SK-90				古代	
管状土錐	4.7	1.5	0.5	9.1	SK-97				古代	
管状土錐	3.9	1.2	0.3	5.0	SK59				古代	
管状土錐	4.9	2.0	0.4	13.0	SK61				古代	
管状土錐	(4.7)	2.3	0.5	(22.0)	SK68				古代	
管状土錐	4.6	1.9	0.6	13.0	SK69				古代	
管状土錐	2.6	1.2	0.5	2.9	SX-1				不明	
管状土錐	4.4	1.5	0.5	7.6	SX-1				不明	
管状土錐	4.5	1.5	0.8	6.2	SX-6				不明	
管状土錐	2.7	1.3	0.5	4.5	SX-6				不明	
管状土錐	3.3	1.4	0.8	5.4	SX-6				不明	
管状土錐	4.3	1.0	0.4	3.9	SX-6				不明	
管状土錐	3.8	1.6	0.5	7.3	SX-6				不明	
管状土錐	4.7	1.4	0.5	7.2	SX-6				不明	
管状土錐	3.5	1.4	0.5	5.3	SX-6				不明	
管状土錐	3.3	1.5	0.6	6.2	SX-6				不明	
管状土錐	6.0	2.1	0.7	23.0	SX-9				不明	
管状土錐	5.1	1.5	0.5	9.5	SX-9				不明	
管状土錐	4.3	2.2	0.7	20.1	SX-10				不明	
管状土錐	4.5	1.5	0.5	10.7	SX-12				不明	
管状土錐	3.6	1.4	0.4	5.7	SX-14				不明	
管状土錐	4.8	1.9	0.5	17.0	SX-15				不明	
管状土錐	(4.5)	1.4	0.5	(7.8)	第Ⅰ層 包含層				不明	
管状土錐	4.5	2.0	0.6	15.5	第Ⅰ層 包含層				不明	
管状土錐	(5.0)	2.0	0.3	(14.2)	第Ⅰ層 包含層				不明	
管状土錐	4.8	2.3	0.5	22.5	第Ⅱ層				不明	
管状土錐	(4.5)	1.8	0.5	(9.0)	第Ⅱ層				不明	
管状土錐	4.1	2.3	0.8	15.5	第Ⅱ層				不明	
管状土錐	4.3	1.9	0.6	10.0	第Ⅱ層				不明	
管状土錐	3.9	2.2	0.6	15.3	第Ⅱ層				不明	
管状土錐	5.0	1.8	0.6	13.5	第Ⅱ層 包含層				不明	
管状土錐	4.6	1.3	0.5	7.5	第Ⅱ層 包含層				不明	
管状土錐	4.1	1.9	0.6	15.0	第Ⅱ層 包含層				不明	
管状土錐	3.9	2.4	0.5	15.9	第Ⅱ層 包含層				不明	
管状土錐	4.5	2.2	0.7	16.7	第Ⅱ層 包含層				不明	
管状土錐	4.1	1.6	0.5	8.7	第Ⅱ層 包含層				不明	
管状土錐	4.2	2.3	0.8	27.2	第Ⅱ層 包含層				東東質	
管状土錐	4.2	1.4	0.5	9.8	第Ⅱ層 包含層				東東質	
管状土錐	4.1	1.7	0.5	11.4	第Ⅲ層 包含層				不明	
管状土錐	4.0	2.9	1.2	23.3	第Ⅲ層 包含層				不明	
管状土錐	4.5	1.9	0.5	16.7	第Ⅲ層 包含層				不明	
管状土錐	4.5	2.4	0.6	26.9	第Ⅲ層 包含層				不明	
管状土錐	4.2	1.1	0.4		第Ⅲ層 包含層				須恵質	
管状土錐	(5.6)	2.0	0.7	(16.0)	第Ⅲ層 包含層				不明	
管状土錐	5.5	1.5	0.3		第Ⅲ層 包含層				中世	
管状土錐	(5.3)	1.4	0.4		第Ⅲ層 包含層				中世	
管状土錐	6.0	1.3	0.5		第Ⅲ層 包含層				不明	
管状土錐	(3.0)	1.4	0.3		第Ⅲ層 包含層				中世	
管状土錐	(4.3)	1.3	0.4		第Ⅲ層 包含層				中世	
管状土錐	5.1	2.0	0.7		第Ⅲ層 包含層				不明	
管状土錐	(4.7)	1.3	0.4		第Ⅳ層				古代	
管状土錐	7.6	2.6	0.5	42.0	第Ⅳ層				不明	
管状土錐	5.9	2.2	0.5	25.0	第Ⅳ層				不明	
管状土錐	4.9	1.4	0.4		第Ⅳ層				古代	
管状土錐	4.3	1.6	0.8		不明				不明	
管状土錐	4.3	1.5	0.4		不明				不明	
管状土錐	4.1	1.2	0.3		不明				不明	
管状土錐	(4.5)	1.2	0.3		不明				不明	
管状土錐	(4.0)	1.4	0.8		不明				不明	
管状土錐	(5.0)	1.5	0.8		不明				不明	
管状土錐	5.1	1.5	0.8		不明				不明	
管状土錐	(4.3)	1.3	0.5		不明				不明	
管状土錐	(4.2)	1.5	0.3		不明				不明	
管状土錐	(3.0)	1.3	0.4		不明				不明	
管状土錐	(4.1)	1.4	0.5		包含層 重層				不明	
管状土錐	(4.2)	1.5	0.4		包含層 重層				不明	
管状土錐	3.5	1.4	0.5		包含層 重層				不明	
管状土錐	(5.3)	(1.7)	0.5		包含層 重層				灰白色	

## 船戸遺跡(中村市)

船戸遺跡(中村市)							出土地点	時期	備考
土器の種類	全長(cm)	全幅(cm)	全厚(cm)	孔径(cm)	重量(g)				
管状土錐	5.6	4.0	1.1	85.1	I区 SR1				
管状土錐	(2.7)	1.1	0.5	(1.6)	I区 SR1				
管状土錐	4.6	1.2	0.4	5.7	I区 SR1				
管状土錐	5.6	4.8	0.8	118.5	I区 SR1				
管状土錐	4.2	1.3	0.5	5.4	I区 SR1				

## 船戸遺跡(中村市)

土器の種類	全長(cm)	全幅(cm)	全厚(cm)	孔径(cm)	重量(g)	出土地点	時期	備考
管状土器	3.3	1.2		0.5	4.3	I区 SR2	不明	
管状土器	(4.3)	1.4		0.4	(6.5)	I区 SR2	不明	
管状土器	(4.0)	1.5		0.3	(3.1)	I区 SR2	不明	
管状土器	(6.4)	1.3		0.5	(7.1)	I区 SR2	不明	
管状土器	5.9	1.3		0.3	8.0	I区 SR2	不明	
管状土器	(4.1)	1.2		0.5	(4.4)	I区 SR2	不明	
管状土器	4.5	1.9		0.6	(12.3)	I区 SR2	不明	
管状土器	(3.2)	1.1		0.4	(2.7)	I区 SR2	不明	
管状土器	(3.1)	1.3		0.4	(3.8)	I区 SR2	不明	
管状土器	(4.2)	1.5		0.4	(6.5)	I区 SR2	不明	
管状土器	(5.8)	2.3		0.5	(25.9)	I区 SR2	不明	
管状土器	(4.4)	2.7		1.0	(20.6)	I区 SR2	不明	
管状土器	4.2	1.3		0.5	6.1	I区 SR2	不明	
管状土器	(3.9)	1.3		0.4	(4.8)	I区 SR2	不明	
管状土器	5.6	2.4		0.5	25.0	I区 SR2	不明	
管状土器	(4.5)	1.4		0.5	(5.8)	I区 SR2	不明	
管状土器	(3.5)	1.5		0.5	(6.1)	I区 SR2	不明	
管状土器	3.7	1.4		0.5	6.3	I区 SR2	不明	
管状土器	(4.4)	1.3		0.4	(5.1)	I区 SR2	不明	
管状土器	(3.6)	1.4		0.5	(4.6)	I区 SR2	不明	
管状土器	3.5	1.6		0.5	6.7	I区 SR2	不明	
管状土器	(2.4)	1.0		0.4	(1.7)	I区 SR2	不明	
管状土器	4.6	1.1		0.4	4.7	I区 SR2	不明	
管状土器	(4.4)	1.4				I区 V層	古墳	
管状土器	4.5	1.3		0.5	7.7	I区 包含層	I層	不明
管状土器	4.3	1.5		0.4	6.0	I区 包含層	I層	不明
管状土器	4.5	1.3		0.4	4.0	I区 包含層	V層	不明
管状土器	3.5	1.6		0.5	5.9	I区 包含層	V層	不明
管状土器	4.2	1.3		0.3	5.0	I区 包含層	V層	不明
管状土器	(3.6)	1.6		0.4	(5.0)	I区 包含層	V層	不明
管状土器	3.8	2.1		0.6	13.7	I区 包含層	V層	不明
管状土器	(5.0)	1.1		0.3	(5.0)	I区 包含層	V層	不明
管状土器	4.4	1.5		0.4	7.0	I区 包含層	V層	不明
管状土器	5.5	1.2		0.5	6.5	I区 包含層	V層	不明
管状土器	3.9	1.2		0.5	4.1	I区 I2-2内	不明	
管状土器	4.2	1.2		0.4	4.4	I区 IV層	不明	
管状土器	(4.5)	1.2		0.6	(4.0)	I区 IV層	不明	
管状土器	(4.3)	1.6		0.2	(11.4)	I区 IV層	不明	
管状土器	(3.0)	1.3		0.5	(3.5)	I区 IV層	不明	
管状土器	(3.4)	1.4		0.5	(5.3)	I区 IV層	不明	
管状土器	(4.2)	1.4		0.5	(4.1)	I区 IV層	不明	
管状土器	4.5	1.2		0.4	4.2	I区 IV層	不明	
管状土器	(2.9)	1.2		0.4	(3.9)	I区 IV層	不明	
管状土器	(3.3)	1.4		0.5	(5.5)	I区 IV層	不明	
管状土器	4.2	1.2		0.4	4.2	I区 IV層	不明	
管状土器	4.1	1.4		0.5	6.0	I区 IV層	不明	
管状土器	(2.4)	1.5		0.2	(5.4)	I区 IV層	不明	
管状土器	5.0	1.3		0.4		I区 IV層	不明	
管状土器	3.5	0.9		0.4	1.7	I区 IV層	不明	
管状土器	2.5	1.3		0.5	2.9	I区 IV層	不明	
管状土器	3.8	1.2		0.4		I区 IV層	不明	
管状土器	3.5	1.1		0.4	2.8	I区 IV層	不明	
管状土器	(4.0)	1.4		0.6	(5.9)	I区 IV層	不明	
管状土器	(2.9)	1.0		0.4	(1.6)	I区 IV層	不明	
管状土器	(3.4)	1.5		0.5	(5.7)	I区 IV層	不明	
管状土器	3.8	1.3		0.4	4.8	I区 V層	不明	
管状土器	3.7	1.2		0.5	3.6	I区 V層	不明	
管状土器	4.8	1.4		0.4	6.7	I区 V層	不明	
管状土器	3.8	1.2		0.4	4.4	I区 V層	不明	
管状土器	4.2	1.5		0.4	8.2	I区 V層	不明	
管状土器	5.2	1.5		0.5	8.1	I区 V層	不明	
管状土器	4.7	1.4		0.3	10.1	I区 V層	不明	
管状土器	4.5	1.4		0.4	5.9	I区 V層	不明	
管状土器	(5.4)	1.8		0.6		I区 VI層	不明	
管状土器	4.1	2.1		0.7	18.8	I区 VI層	不明	
管状土器	(4.0)	1.1		0.5		I区 VI層	不明	
管状土器	3.9	1.2		0.4	4.9	I区 VI層	不明	
管状土器	(2.1)	1.8		0.5	(5.4)	I区 VI層	不明	
管状土器	2.7	1.0		0.4	2.4	I区 VI層	不明	
管状土器	(2.7)	1.1		0.5	(2.2)	I区 VI層	不明	
管状土器	(4.6)	1.6		0.5	(8.2)	I区 VI層	不明	
管状土器	(2.5)	0.9		0.4	(1.5)	I区 表表	不明	
管状土器	(2.4)	1.0		0.3	(2.5)	I区 表表	不明	

## 風指遺跡(中村市)

土器の種類	全長(cm)	全幅(cm)	全厚(cm)	孔径(cm)	重量(g)	出土地点	時期	備考
管状土器	(3.9)	1.3	0.4		SK17		古代	
管状土器	6.7	3.3	1.2		SK17		古代	
管状土器	5.4	3.6	1.0			不明	不明	
管状土器	4.8	1.5	0.5			不明	不明	
管状土器	5.0	1.4	0.3			不明	不明	
管状土器	(3.9)	2.4	1.0			不明	不明	
管状土器	5.8	1.6	0.3			不明	不明	
管状土器	5.3	1.5	0.2			不明	不明	
管状土器	4.7	2.7	0.8			不明	不明	
管状土器	5.4	1.5	0.4			不明	不明	
管状土器	(4.5)	2.8	0.9			不明	不明	
管状土器	2.0	1.1	0.5			不明	不明	
管状土器	(4.5)	2.5	0.7			不明	不明	
管状土器	(5.0)	1.7	0.4			不明	不明	
管状土器	5.0	2.8	0.8			不明	不明	
管状土器	(5.1)	2.0	0.7			不明	不明	
管状土器	4.6	3.5	1.1			不明	不明	
管状土器	5.7	2.8	0.7			不明	不明	
管状土器	(7.3)	3.1	0.9			不明	不明	
管状土器	5.0	3.2	0.8			不明	不明	
管状土器	5.0	2.9	0.8			不明	不明	
管状土器	3.8	1.8	0.4			不明	不明	
管状土器	4.2	2.3	0.6			不明	不明	
管状土器	(5.1)	2.6	0.6			不明	不明	
管状土器	4.7	2.7	0.8			不明	不明	
管状土器	5.7	1.3	0.4			不明	不明	
管状土器	(4.2)	2.6	1.0			不明	不明	
管状土器	4.6	2.8	0.7			不明	不明	
管状土器	6.0	3.0	1.0			不明	不明	
管状土器	5.2	1.5	0.4			不明	不明	
管状土器	5.6	2.8	0.7			不明	不明	
管状土器	5.5	2.9	0.7			不明	不明	
管状土器	(3.8)	2.7	0.9			不明	不明	
管状土器	(4.8)	3.1	1.0			不明	不明	
管状土器	4.9	2.9	0.9			不明	不明	
管状土器	(4.6)	2.6	0.8			不明	不明	
管状土器	(4.3)	2.6	0.7			不明	不明	
管状土器	4.0	3.2	1.2			不明	不明	

## 岡豊城跡(南国市)

土器の種類	全长(cm)	全幅(cm)	全厚(cm)	孔径(cm)	重量(g)	出土地点	時期	備考
管状土器	3.8	1.5	0.5	0.3	8.3	T1 3層	不明	
管状土器	4.4	1.5	0.5	0.5	9.2	T1 5層	不明	
管状土器	3.5	1.4	0.4	0.5	5.0	T2 3層	不明	
管状土器	3.2	1.4	0.4	0.5	5.0	T2 4層	不明	
管状土器	4.4	1.4	0.4	0.5	6.6	T6 3層	不明	
管状土器	(4.4)	1.3	0.5	0.6	(5.8)	T6 3層	不明	
管状土器	4.3	1.3	0.4	0.4	8.0	T9 4層	不明	
管状土器	3.6	1.5	0.5	0.5	7.9	詰	不明	
管状土器	4.6	1.3	0.4	0.5	6.0	詰	不明	
管状土器	4.0	1.5	0.5	0.5	8.4	詰	不明	
管状土器	4.0	1.3	0.4	0.5	5.1	詰	不明	
管状土器	4.1	1.5	0.5	0.5	8.1	詰	不明	
管状土器	4.4	2.0	0.4	0.5	14.1	詰	不明	
管状土器	3.9	1.8	0.4	0.5	11.7	詰	不明	
管状土器	4.9	1.5	0.4	0.5	10.9	詰	不明	
管状土器	4.4	1.6	0.6	0.6	10.1	詰	不明	
管状土器	5.0	1.4	0.4	0.5	10.4	詰	不明	
管状土器	4.0	1.6	0.5	0.5	9.8	詰	不明	
管状土器	3.8	1.5	0.5	0.5	8.6	詰	不明	
管状土器	3.7	1.7	0.3	0.3	10.8	三ノ段	不明	
管状土器	4.7	1.3	0.3	0.3	6.2	三ノ段	不明	
管状土器	4.3	1.5	0.5	0.5	7.5	三ノ段	不明	
管状土器	4.3	1.5	0.5	0.5	8.8	三ノ段	不明	
管状土器	3.8	1.6	0.4	0.4	9.9	三ノ段	不明	
管状土器	3.9	1.5	0.4	0.4	8.7	二ノ段	不明	
管状土器	3.7	1.2	0.3	0.3	4.5	表斜	不明	
管状土器	4.1	1.6	0.6	1.5	7.5	掘切	不明	
管状土器	4.4	1.6	0.6	1.2	7.2	掘切	不明	
管状土器	4.2	1.5	0.3	1.2	7.2	掘切	不明	
管状土器	4.5	1.6	0.5	1.2	7.2	掘切	不明	
管状土器	4.4	1.7	0.6	1.5	7.5	掘切	不明	
管状土器	4.6	1.8	0.6	1.5	7.5	掘切	不明	

## 宮崎県道(大方面)

土器の種類	全長(cm)	全幅(cm)	全厚(cm)	孔径(cm)	重量(g)	出土地点	時期	備考
管状土錐	(4.1)	1.8		0.7	(7.5)	A区 第Ⅲ層	古代	
管状土錐	8.2	2.5		0.8	47.0	A区 第Ⅲ層	古代	
管状土錐	3.3	1.8		0.6	(2.5)	A区 第Ⅲ層	古代	
管状土錐	7.6	3.0		0.7	45.0	A区 第Ⅲ層	古代	
管状土錐	3.9	1.3		0.5	2.5	A区 第Ⅲ層	古代	
管状土錐	4.6	1.5		0.6	5.0	A区 第Ⅲ層	古代	
管状土錐	5.6	2.7		1.0	32.0	A区 第Ⅲ層	古代	
管状土錐	3.0	1.6		0.5	5.0	A区 第Ⅲ層	古代	
管状土錐	(4.4)	1.7		0.6	(6.0)	A区 第Ⅲ層	古代	
管状土錐	3.6	1.4		0.6	4.0	B区 IV層	古代	
管状土錐	4.8	1.2		0.5	4.0	B区 IV層	古代	
管状土錐	5.0	1.5		0.4	5.0	B区 第Ⅳ層	古代	
管状土錐	3.1	1.2		0.4	4.3	B区 第Ⅳ層	古代	
管状土錐	(4.8)	1.8		0.7	(8.0)	B区 第Ⅳ層	古代	
管状土錐	3.3	1.4		0.5	5.0	B区 第Ⅳ層	古代	
管状土錐	3.3	1.3		0.5	5.0	B区 第Ⅳ層	古代	
管状土錐	5.1	1.8		0.5	13.0	B区 第Ⅳ層	古代	
管状土錐	4.7	1.4		0.4	5.0	B区 第Ⅳ層	古代	
管状土錐	4.3	1.4		0.5	5.0	B区 第Ⅳ層	古代	
管状土錐	5.0	1.3		0.5	4.0	B区 第Ⅳ層	古代	
管状土錐	3.8	1.7		0.6	7.0	B区 第Ⅳ層	古代	
管状土錐	4.5	1.8		0.7	9.0	B区 第Ⅳ層	古代	
管状土錐	4.3	1.4		0.6	5.0	B区 第Ⅳ層	古代	
管状土錐	4.1	1.3		0.5	5.0	B区 第Ⅳ層	古代	
管状土錐	5.3	1.4		0.6	4.5	B区 第Ⅳ層	古代	
管状土錐	3.6	1.3		0.5	3.5	B区 第Ⅳ層	古代	
管状土錐	3.8	1.9		0.6	11.0	B区 第Ⅳ層	古代	
管状土錐	(4.5)	1.8		0.6	(10.0)	B区 第Ⅳ層	古代	
管状土錐	3.3	1.3		0.4	4.0	C区 IV層	古代	
管状土錐	4.2	1.4		0.4	7.1	C区 第Ⅳ層	古代	

## 岩村遺跡(南国市)

土器の種類	全長(cm)	全幅(cm)	全厚(cm)	孔径(cm)	重量(g)	出土地点	時期	備考
管状土錐	3.1	2.1	0.6	0.6	13.8	V区 SK	不明	
管状土錐	3.3	1.7	0.6	0.5	7.2	V区 SK	不明	
管状土錐	3.7	1.6	0.5	5.0	6.7	V区 包含層	不明	
管状土錐	3.5	1.9	0.7	0.7	9.9	V区 包含層	不明	
管状土錐	3.5	1.4	0.6	0.6	5.5	V区 包含層	不明	
管状土錐	3.2	1.3	0.4	0.6	5.5	V区 包含層	不明	
管状土錐	3.6	1.8	0.7	0.6	9.4	V区 包含層	不明	
管状土錐	3.7	1.8	0.6	0.7	9.7	V区 包含層	不明	
管状土錐	4.9	1.3	0.4	0.5	8.3	V区 包含層	不明	
管状土錐	3.8	1.9	0.6	0.6	5.0	V区 包含層	不明	
管状土錐	(3.2)	1.6	0.5	0.6	(7.7)	V区 包含層	不明	
管状土錐	4.2	1.5	0.5	0.7	8.9	V区 包含層	不明	
管状土錐	(3.5)	1.4	0.5	0.5	(7.3)	V区 包含層	不明	
管状土錐	3.6	1.8	0.6	0.6	9.3	V区 包含層	不明	
管状土錐	4.0	2.1	0.6	0.8	13.6	V区 包含層	不明	
管状土錐	3.2	0.8	0.3	0.3	2.7	V区 包含層	不明	
管状土錐	2.6	1.3	0.4	0.7	4.1	V区 包含層	不明	
管状土錐	4.6	1.8	0.7	0.5	—	別区 内堀	不明	
管状土錐	4.1	1.9	0.5	0.5	—	別区 内堀	不明	
管状土錐	4.7	2.0	0.7	0.5	—	別区 内堀	不明	
管状土錐	(3.0)	1.1	0.4	0.4	—	別区 内堀	不明	
管状土錐	3.9	1.5	0.5	0.5	—	別区 内堀	不明	

## 岩井口遺跡(佐川町)

土器の種類	全長(cm)	全幅(cm)	全厚(cm)	孔径(cm)	重量(g)	出土地点	時期	備考
管状土錐	(3.2)	1.2		0.3	(3.1)	P-135	不明	
管状土錐	3.5	1.3		0.3	—	P13	中~近世	
管状土錐	(3.4)	1.4		0.4	—	P14	中~近世	
管状土錐	4.0	1.3		0.4	—	P15	中~近世	
管状土錐	4.5	1.3		0.4	5.7	SB-101	中~近世	
管状土錐	4.8	1.3		0.4	5.4	SB-107	中~近世	
管状土錐	5.6	1.5		0.6	8.1	SB-113	中~近世	
管状土錐	4.4	1.9		0.5	7.5	SB-114	中~近世	
管状土錐	4.9	1.6		0.5	11.4	SB-117	中~近世	
管状土錐	3.9	1.1		0.3	3.4	SD-102	中~近世	
管状土錐	4.7	1.4		0.3	6.2	SD-102	中~近世	
管状土錐	(3.0)	1.4		0.6	—	SD-103	中~近世	
管状土錐	4.9	1.4		0.5	8.1	SD-106	中~近世	
管状土錐	(4.0)	1.5		0.3	—	SD-201	中~近世	
管状土錐	4.3	1.4		0.5	7.3	SK-102	中~近世	
管状土錐	5.5	1.4		0.4	7.1	SK-103	中~近世	
管状土錐	(2.7)	1.3		0.6	—	SK-103	中~近世	

## 押原遺跡(香我美町)

土器の種類	全長(cm)	全幅(cm)	全厚(cm)	孔径(cm)	重量(g)	出土場所	時期	備考
管状土錐	4.9	1.7	0.7	12.9	P25	中~近世		
管状土錐	4.5	2.0	0.7	12.9	P32	中~近世		
管状土錐	4.5	1.4	0.5	6.1	P60	中~近世		
管状土錐	(3.8)	1.4	0.6	(3.5)	P75	中~近世		
管状土錐	4.0	1.6	0.5	7.3	P96	中~近世		
管状土錐	(3.7)	1.6	0.5	(7.7)	SD2 I層	中~近世		
管状土錐	5.3	1.7	0.7	13.3	SD2 II層	中~近世		
管状土錐	(4.5)	1.6	0.6	(4.7)	SD2 III層	中~近世		
管状土錐	6.4	2.3	0.7	25.0	SK2	中~近世		
管状土錐	6.0	2.1	0.4	19.4	SX5	不明		
管状土錐	5.6	1.8	0.5	14.3	包含層	不明		
管状土錐	5.4	2.2	0.6	26.3	包含層	不明		
管状土錐	5.0	1.5	0.5	7.8	包含層	不明		
管状土錐	4.6	1.4	0.5	6.7	包含層	不明		
管状土錐	4.0	1.3	0.6	5.7	包含層	不明		
管状土錐	4.5	1.1	0.5	5.3	包含層	不明		
管状土錐	(5.0)	2.0	0.6	(14.9)	包含層	不明		

## 栗城跡(中村市)

土器の種類	全長(cm)	全幅(cm)	全厚(cm)	孔径(cm)	重量(g)	出土場所	時期	備考
管状土錐	3.6	1.4	0.5	5.2	2層	中~近世		
管状土錐	3.3	1.0	0.4	2.4	2層	中~近世		
管状土錐	3.4	1.1	0.3	2.6	3層	中~近世		
管状土錐	2.4	0.9	0.3	1.6	3層	中~近世		
管状土錐	4.5	1.2	0.4	4.5	6層	中~近世		
管状土錐	4.3	1.3	0.5	4.8	6層	中~近世		
管状土錐	(3.3)	1.4	0.5	(3.6)	6層	中~近世		
管状土錐	4.1	1.2	0.4	5.1	6層	中~近世		
管状土錐	(2.7)	1.1	0.4	(2.2)	6層	中~近世		
管状土錐	3.6	1.1	0.4	2.7	6層	中~近世		
管状土錐	(2.3)	1.2	0.5	(2.4)	6層	中~近世		
管状土錐	4.1	1.3	0.5	5.9	6層	中~近世		
管状土錐	(2.5)	1.2	0.4	(2.6)	7層	中~近世		
管状土錐	3.7	1.2	0.5	4.1	7層	中~近世		

## 十萬遺跡(香我美町)

土器の種類	全長(cm)	全幅(cm)	全厚(cm)	孔径(cm)	重量(g)	出土場所	時期	備考
管状土錐	4.0	2.7	0.6	SD2	古代			
管状土錐	(3.7)	1.7	0.7	SD2	古代			
管状土錐	4.7	2.6	0.6	SD2	古代			
管状土錐	5.8	2.2	0.5	SK50	古代			
管状土錐	6.3	2.5	0.5	不明	不明			
管状土錐	4.9	1.7	0.6	不明	不明			
管状土錐	(2.6)	1.8	0.8	不明	不明			
管状土錐	(3.9)	1.3	0.4	不明	不明			
管状土錐	5.1	1.5	0.4	不明	不明			
管状土錐	4.2	1.6	0.4	不明	不明			
管状土錐	5.3	2.1	0.7	不明	不明			
管状土錐	3.9	2.9	0.9	不明	不明			
管状土錐	3.9	1.5	0.4	不明	不明			
管状土錐	4.0	1.6	0.5	不明	不明			

## 局立遺跡(高知市)

土器の種類	全長(cm)	全幅(cm)	全厚(cm)	孔径(cm)	重量(g)	出土場所	時期	備考
管状土錐	(4.1)	1.2	0.4	5.0	-2区 P11	中~近世		
管状土錐	(4.2)	1.2	0.4	5.0	-1-3区 2	中~近世		
管状土錐	(3.7)	1.2	0.4	(5.0)	-1-3区 1 F13	中~近世		
管状土錐	(4.8)	1.1	0.4	7.5	-2-1区 南2	不明		
管状土錐	6.0	1.8	0.5	21.0	-2-1区 南 SD1	不明		
管状土錐	(3.1)	1.2	0.5	(5.0)	-2-1区 南 SD1	不明		
管状土錐	(4.8)	1.2	0.4	7.0	-2-1区 南1	不明		
管状土錐	(4.2)	1.6	0.5	(9.0)	-2-1区 南1	不明		
管状土錐	(4.2)	1.0	0.4	(4.0)	-2-1区 南1	不明		
管状土錐	(3.0)	1.3	0.4	(7.0)	-2-1区 南1	不明		
管状土錐	3.7	1.6	0.4	10.0	-2-1区 南1 SD1	不明		
管状土錐	(4.2)	1.7	0.6	9.0	-2-1区 南1 SD1	不明		
管状土錐	(2.2)	1.2	0.4	(5.0)	-2-1区 南2	不明		
管状土錐	(2.5)	1.1	0.4	(2.5)	-2-1区 南2	不明		

## 曾我遺跡(野市町)

土器の種類	全長(cm)	全幅(cm)	全厚(cm)	孔径(cm)	重量(g)	出土場所	時期	備考
管状土錐	5.9	2.9	0.7	39.1	3区 南層 包含層	不明		
管状土錐	3.4	1.9	0.4	11.1	5区 SK5	古代		
有溝土錐	8.0	4.2			108.8	5区 SK5	古代	
管状土錐	5.8	4.6	1.2	94.0	5区 V層 包含層	不明		
管状土錐	3.5	1.7	0.4	10.0	7区 P20	古代		

## 曾我遺跡(野市町)

土器の種類	全長(cm)	全幅(cm)	全厚(cm)	孔径(cm)	重量(g)	出土地点	時期	備考
管状土錐	3.6	1.8		0.5	12.0	7区 P20	古代	
有溝土錐	5.1	3.5			56.0	7区 P20	古代	
管状土錐	4.0	1.9		0.5	14.2	7区 Ⅲ層下 包含層	古代	
有溝土錐	7.2	4.8			85.0	7区 Ⅲ層下 包含層	古代	
有溝土錐	5.5	3.7			56.8	7区 Ⅲ層下 包含層	古代	
管状土錐	2.8	1.9		0.7	9.0	7区 Ⅲ層上 包含層	古代	
管状土錐	(7.2)	1.7		0.7	(27.0)	7区 Ⅲ層上 包含層	古代	
管状土錐	4.1	2.8		0.7	22.4	1区 Ⅱ層 包含層	不明	

## 早良遺跡(大方町)

土器の種類	全長(cm)	全幅(cm)	全厚(cm)	孔径(cm)	重量(g)	出土地点	時期	備考
管状土錐	(3.7)	1.3		0.4	(5.5)	B区 P-2	不明	
管状土錐	(3.7)	1.4		0.3	(5.7)	B区 SK-18	中~近世	
有溝土錐	(4.8)	5.2	2.7		(45.0)	B区 SX-3	古墳	
有溝土錐	(4.5)	(4.2)	3.2		(50.0)	B区 SX-3	古墳	
管状土錐	(2.5)	2.2		0.6	(10.3)	C区 SX-4	古墳	
管状土錐	(3.6)	1.6		0.4	(2.8)	D区 P8	不明	
管状土錐	(5.0)	1.1		0.4	(4.9)	D区 SX-7	中~近世	
管状土錐	(2.8)	0.9		0.3	(1.9)	D区 SX-7	中~近世	
管状土錐	(3.0)	1.2		0.4	(4.2)	D区 第1層	不明	
管状土錐	(4.3)	1.3		0.5	(8.1)	D区 第1層	不明	
管状土錐	5.0	2.5			15.5	E区 SK-100	中~近世	
有溝土錐	4.2	2.7	1.6		6.5	E区 ST-8	弥生	

## 美良布遺跡(香北町)

土器の種類	全長(cm)	全幅(cm)	全厚(cm)	孔径(cm)	重量(g)	出土地点	時期	備考
管状土錐	4.2	1.8		0.5		第1区 包含層	不明	
管状土錐	(4.5)	3.1		(1.4)		第1区 P100	中~近世	
管状土錐	(4.7)	1.3		0.5		第1区 PR2	中~近世	
管状土錐	5.1	1.5		0.5		第1区 包含層	不明	
管状土錐	5.1	2.1		0.7		第1区 包含層	不明	
管状土錐	(3.0)	1.1		0.5		第1区 包含層	不明	
管状土錐	(3.2)	1.4		0.4		第1区 包含層	不明	
管状土錐	4.1	1.3		0.4	4.5	第1区 P7	不明	
管状土錐	5.2	2.0		0.8		第1区 包含層	不明	
管状土錐	(3.3)	2.0		0.6		第1区 包含層	不明	

## 高知城跡(高知市)

土器の種類	全長(cm)	全幅(cm)	全厚(cm)	孔径(cm)	重量(g)	出土地点	時期	備考
管状土錐	4.0	1.4		0.6	6.0	I層	不明	
管状土錐	4.7	1.7		0.6	10.8	下段南石垣下 1層下	不明	
管状土錐	3.7	1.2		0.5	3.6	下段南石垣下 1層下	不明	
管状土錐	5.1	2.1		0.5		III区・Ⅳ層	不明	
管状土錐	5.1	2.1		0.7		III区・Ⅳ層	不明	
管状土錐	(3.0)	1.1		0.5		III区・Ⅳ層	不明	
管状土錐	(3.2)	1.4		0.4		III区・Ⅳ層	不明	
管状土錐	4.1	1.3		0.4	4.5	III区・Ⅳ層	不明	
管状土錐	5.2	2.0		0.8		III区・Ⅳ層	不明	
管状土錐	(3.3)	2.0		0.6		第1層包含層	不明	

## 上美濃岐遺跡(佐川町)

土器の種類	全長(cm)	全幅(cm)	全厚(cm)	孔径(cm)	重量(g)	出土地点	時期	備考
管状土錐	(4.0)	2.6		0.7		A区 第IV層	不明	
管状土錐	(3.9)	2.2		0.6		A区 第IV層	不明	
管状土錐	(5.7)	1.7		0.6		A区 第IV層	不明	
管状土錐	(3.0)	1.2		0.6		A区 第IV層	不明	
管状土錐	(3.1)	1.2		(0.4)		A区 第IV層	不明	
管状土錐	(3.5)	1.5		0.6		A区 第IV層	不明	
管状土錐	(3.3)	1.1		0.5	2.7	A区 第IV層	不明	
管状土錐	(5.3)	1.9		0.6		SF-2	不明	
管状土錐	5.8	2.4		0.7		SK-19	中~近世	

## ひびのきサウジ遺跡(土佐山田町)

土器の種類	全長(cm)	全幅(cm)	全厚(cm)	孔径(cm)	重量(g)	出土地点	時期	備考
管状土錐	(3.9)	1.1		0.5	(4.3)	P171	不明	
管状土錐	4.4	1.4	0.6	0.2	10.0	P53	不明	
管状土錐	4.1	2.8		0.8	24.0	SF-1 層上	古代	
管状土錐	5.9	4.3		1.1	85.0	SF-1 層上	古代	
管状土錐	(3.1)	2.1		(0.6)	(7.8)	SK4	中~近世	
管状土錐	(3.5)	1.2		0.6	(37.0)	S18	弥生	
管状土錐	(3.5)	1.9		0.6	(9.5)	Ⅲ層	不明	
管状土錐	3.2	1.0		0.3	2.4	表様	不明	

## 深瀬遺跡(野市町)

土器の種類	全長(cm)	全幅(cm)	全厚(cm)	孔径(cm)	重量(g)	出土地点	時期	備考
管状土錐	(3.3)	1.3		0.5		C-a区 包含層 Ⅲ層	古代	
管状土錐	4.0	1.2		0.4		C-a区 包含層 Ⅲ層	古代	

## 浜渀遺跡（野市町）

土器の種類	全長(cm)	全幅(cm)	全厚(cm)	孔径(cm)	重量(g)	出土地点	時期	備考
管状土錐	3.3	2.0	0.6	0.6	0.6	E.F区 包含層	古代	
管状土錐	4.2	2.6	0.6	0.6	0.3	E.F区 包含層	古代	
棒状土錐	(2.7)	1.8		0.4		F区 ST1	古墳	
管状土錐	3.9	0.8		0.3		F区 ST2	古墳	

## 土佐山田北師遺跡群（土佐山田町）

土器の種類	全長(cm)	全幅(cm)	全厚(cm)	孔径(cm)	重量(g)	出土地点	時期	備考
管状土錐	(3.7)	1.6		0.3		C-89	不明	
管状土錐	(2.7)	2.0		(0.8)		B-43	不明	
管状土錐	4.5	2.3		(0.8)		B-43	不明	
管状土錐	4.0	2.2		0.7		C-70	不明	
管状土錐	3.6	2.1		0.5		C-87	不明	
管状土錐	4.2	1.5		0.5		C-89	不明	

## 弓削跡(川原町)

土器の種類	全長(cm)	全幅(cm)	全厚(cm)	孔径(cm)	重量(g)	出土地点	時期	備考
管状土錐	(3.3)	1.5		0.5	0.8	B区 ST-203	弥生	
管状土錐	4.4	1.3		0.3		C区	中～近世	
管状土錐	4.9	1.4		0.3		C区	中～近世	
管状土錐	(2.7)	1.4		0.4		C区 P-327	中～近世	
管状土錐	5.2	1.4		0.5	7.3	C区 SB-301	中～近世	
管状土錐	(3.7)	1.4		0.4	(0.73)	SD-202	中～近世	

## 江ノ村遺跡(中村市)

土器の種類	全長(cm)	全幅(cm)	全厚(cm)	孔径(cm)	重量(g)	出土地点	時期	備考
管状土錐	4.5	1.9		0.3	5.6	BB-P6	中～近世	
管状土錐	(2.8)	1.9		0.5	(4.5)	BB-P8	中～近世	
管状土錐	(4.0)	1.8		0.6		C区 P2	中～近世	
管状土錐	3.4	1.8		0.2	4.8	E3-P10	中～近世	

## 西本城跡(大方町)

土器の種類	全長(cm)	全幅(cm)	全厚(cm)	孔径(cm)	重量(g)	出土地点	時期	備考
管状土錐	(3.4)	1.2		0.5		駿織1	不明	
管状土錐	(2.7)	1.2		0.4		駿織1	不明	
管状土錐	(2.6)	1.1		0.4		駿織2	不明	
管状土錐	(3.1)	1.2		0.4		駿織2	不明	

## 大宮・宮崎遺跡(西土佐村)

土器の種類	全長(cm)	全幅(cm)	全厚(cm)	孔径(cm)	重量(g)	出土地点	時期	備考
管状土錐	5.2	1.5		0.5		SK3	不明	
管状土錐	(3.1)	(1.5)		0.5		SK3	不明	
管状土錐	4.4	1.5		0.5	8.5	包含層	不明	

## 西谷遺跡(南国市)

土器の種類	全長(cm)	全幅(cm)	全厚(cm)	孔径(cm)	重量(g)	出土地点	時期	備考
管状土錐	5.5	1.3		0.5		酒匂区中央部後石列周辺部	中～近世	
管状土錐	4.3	1.5		0.6		酒匂区中央部後石列周辺部	中～近世	
管状土錐	(4.7)	1.7		0.5		酒匂区中央部後石列周辺部	中～近世	

## 吉良城跡(春野町)

土器の種類	全長(cm)	全幅(cm)	全厚(cm)	孔径(cm)	重量(g)	出土地点	時期	備考
管状土錐	(3.6)	1.5		0.3		A1レチ 北	不明	
管状土錐	(5.0)	1.4		0.6		A1レチ 北	不明	
管状土錐	(3.3)	1.3		(0.5)		A1レチ 北	不明	

## 土佐中村一氏堀跡(中村市)

土器の種類	全長(cm)	全幅(cm)	全厚(cm)	孔径(cm)	重量(g)	出土地点	時期	備考
管状土錐	(4.0)	1.5		0.5		集石遺構	不明	
管状土錐	4.5	0.9		0.4		集石遺構	不明	
管状土錐	4.7	1.2		0.4		集石遺構	不明	

## 飛田坂本遺跡(須崎市)

土器の種類	全長(cm)	全幅(cm)	全厚(cm)	孔径(cm)	重量(g)	出土地点	時期	備考
管状土錐	4.3	1.3		0.4	4.0	C区 遺構外 IV層	不明	
管状土錐	3.5	1.2		0.4	3.3	C区 遺構外 IV層	不明	
管状土錐	3.7	1.1	1.0	0.3	4.2	D区 B点 遺構外 Ⅲ層	不明	

## 障山北三区遺跡(南国市)

土器の種類	全長(cm)	全幅(cm)	全厚(cm)	孔径(cm)	重量(g)	出土地点	時期	備考
管状土錐	3.0	1.2		0.4	3.6	I区 包含層	不明	
管状土錐	(3.5)	1.6		0.7	(6.2)	I区 包含層	不明	

## 新浜跡(土佐山田町)

土器の種類	全長(cm)	全幅(cm)	全厚(cm)	孔径(cm)	重量(g)	出土地点	時期	備考
管状土錐	5.4	1.5		0.6		I区	不明	
管状土錐	4.3	1.7				I区	不明	

## 介良遺跡(高知市)

土錐の種類	全長(cm)	全幅(cm)	全厚(cm)	孔径(cm)	重量(g)	出土地点	時期	備考
管状土錐	(2.8)	1.1	1.1	0.5	(2.3)	SR1 VI層	古墳	
管状土錐	5.3	1.4	1.4	0.5	9.0	SR1 VI層	古墳	

## 江ノ古城跡(中村市)

土錐の種類	全長(cm)	全幅(cm)	全厚(cm)	孔径(cm)	重量(g)	出土地点	時期	備考
管状土錐	(4.2)	2.2		0.5	(23.0)	第3基	不明	瓦質
土錐の種類	全長(cm)	全幅(cm)	全厚(cm)	孔径(cm)	重量(g)	出土地点	時期	備考
管状土錐	(4.6)	2.0		0.4	(13.7)	第3基 II層	不明	瓦質

## 林田遺跡(土佐山田町)

土錐の種類	全長(cm)	全幅(cm)	全厚(cm)	孔径(cm)	重量(g)	出土地点	時期	備考
管状土錐	3.5	0.9		0.5		TR-K	古代	
	(3.8)	2.3		0.6		TR-K	古代	

## 本村遺跡(野市町)

土錐の種類	全長(cm)	全幅(cm)	全厚(cm)	孔径(cm)	重量(g)	出土地点	時期	備考
管状土錐	4.8	1.7		0.4	12.9	SD6	弥生	

## チシ古城跡(中村市)

土錐の種類	全長(cm)	全幅(cm)	全厚(cm)	孔径(cm)	重量(g)	出土地点	時期	備考
管状土錐	3.3	1.4		0.4	4.8	不明	不明	

## 南浦遺跡(春日井町)

土錐の種類	全長(cm)	全幅(cm)	全厚(cm)	孔径(cm)	重量(g)	出土地点	時期	備考
管状土錐	2.0	1.2		0.4	12.5	不明	不明	

## 曾我城跡(大方町)

土錐の種類	全長(cm)	全幅(cm)	全厚(cm)	孔径(cm)	重量(g)	出土地点	時期	備考
管状土錐	2.8	1.1		0.4		2部 I 層	不明	

## 山田三ツ又遺跡(土佐山田町)

土錐の種類	全長(cm)	全幅(cm)	全厚(cm)	孔径(cm)	重量(g)	出土地点	時期	備考
管状土錐	(4.0)	2.0		0.7	(10.5)	SK17	中~近世	

## 鳴山遺跡(南国市)

土錐の種類	全長(cm)	全幅(cm)	全厚(cm)	孔径(cm)	重量(g)	出土地点	時期	備考
管状土錐	5.6	1.8	1.8	0.5	15.0	包帯層 目層	不明	

## 椎原遺跡(土佐山田町)

土錐の種類	全長(cm)	全幅(cm)	全厚(cm)	孔径(cm)	重量(g)	出土地点	時期	備考
管状土錐	(3.4)	1.6		0.4	(0.5)	SB-1 P1	古代	

## ハナニシロ城跡(中村市)

土錐の種類	全長(cm)	全幅(cm)	全厚(cm)	孔径(cm)	重量(g)	出土地点	時期	備考
管状土錐	3.5	1.7		0.7	8.6	不明	不明	

## 高柳土居城跡(土佐山田町)

土錐の種類	全長(cm)	全幅(cm)	全厚(cm)	孔径(cm)	重量(g)	出土地点	時期	備考
管状土錐	3.6	1.5		0.5		TR1 遷様除出層	不明	

## 本郷遺跡(日高村)

土錐の種類	全長(cm)	全幅(cm)	全厚(cm)	孔径(cm)	重量(g)	出土地点	時期	備考
管状土錐				0.4		不明	不明	

## 林口遺跡(土佐山)

土錐の種類	全長(cm)	全幅(cm)	全厚(cm)	孔径(cm)	重量(g)	出土地点	時期	備考
管状土錐	(2.9)	0.9		0.6		C区 第IV層	不明	

## 八田神母谷遺跡(伊野町)

土錐の種類	全長(cm)	全幅(cm)	全厚(cm)	孔径(cm)	重量(g)	出土地点	時期	備考
管状土錐	5.0	1.6		0.6	10.8	第1調査区 包含層	不明	

## 宿毛貝塚(宿毛市)

土錐の種類	全長(cm)	全幅(cm)	全厚(cm)	孔径(cm)	重量(g)	出土地点	時期	備考
管状土錐	(3.4)	(1.7)		0.5		TR2	不明	

## 第V章 下ノ坪遺跡出土鍛冶・鋳銅関連遺物の金属学的調査

大澤正己・鈴木瑞穂

### 概要

8~9世紀前半に比定される下ノ坪遺跡出土の鍛冶・鋳銅関連遺物（楕円鍛冶滓、羽口、培塿、鉄製品など）を調査して次の事が明らかになった。

（1）鍛冶作業は鉄器製作を目的とした鍛錬鍛冶工程が中心に行われた可能性が高い。鉄素材は廃鉄器リサイクルと、従来の鉱石系鉄塊が原料となる。また、鉄素材の酸化防止に粘土汁を塗布する工程を伴った形跡を残す。

（2）鉄斧刃先破片や鉄鉢（まだら鉄鉢、ねずみ鉄鉢）は鍛冶原料鉄の廃鉄器であった可能性がある。廃鉄器を原料鉄とする場合、鉄滓の脈石成分 ( $TiO_2$ 、V、 $MnO$ 、 $CaO + MgO$ ) は低減傾向になる。また、従来の鉄塊は純度の高い高品位材の搬入があったとみて鉄滓の夾雜成分は低目となる。

（3）鉄製品としての袋状鉄斧は、極軟鋼 (0.1%C) 母材に浸炭処理を施した材質強化の熱処理品であった。焼戻しの痕跡も認められて一定水準の産物と評価される。

（4）鍛冶羽口の胎土成分は鉄分や塩基性成分 ( $CaO + MgO$ ) が低めで羽口先端孔づまりを配慮した品質であった。また、耐火度は  $1450^{\circ}\text{C}$  を確保する性状であった。鍛冶の折返し曲げ鍛接の高温作業に十分耐えうる羽口の調達と考えられる。

（5）当地では取鍋が出土しており、鍛冶作業以外に非鉄金属の細工作業が想定された。内面溶融金属は純銅粒であった。

### 1 いきさつ

下ノ坪遺跡は高知県香美郡野市町上岡に所在する、弥生時代から中世にわたる複合遺跡である。農業農村活性化農業構造改善事業上岡地区区画整理工事に従って発掘調査が行われた。古代 (8c~9c 前半) の掘立柱建物跡・土坑などから鍛冶関連遺物が検出され、これらを通して当時の鉄生産・鉄器製作の実態を把握する目的から金属学的調査を行った。

### 2 調査方法

#### 2-1 供試材

Table.1 に供試材 20 点の履歴を示す。

#### 2-2 調査方法

##### （1）肉眼観察

遺物の肉眼観察所見。これらの所見をもとに分析試料採取位置を決定する。必要に応じて試料採取時の切断面の所感を加えている。

##### （2）マクロ組織

本来は肉眼またはルーペで観察した組織であるが、本稿では顕微鏡埋込み試料の断面全体像を、投影機の 10 倍もしくは 20 倍で撮影したものを指す。当調査は、顕微鏡検査によるよりも広い範囲にわたって、組織の分布状態、形状、大きさなどの観察ができる利点があ

る。

### (3) 顕微鏡組織

切り出した試料をベークライト樹脂に埋込み、エメリー研磨紙の#150、#240、#320、#600、#1000と順を追って研磨し、最後は被研磨面をダイヤモンドの3μと1μで仕上げて光学顕微鏡観察を行った。なお、金属鉄の炭化物は、ピクラン（ピクリン酸鉄和アルコール液）で、フェライト結晶粒はナイタル（5%硝酸アルコール液）で、腐食（Etching）している。

### (4) ピッカース断面硬度

鉄滓の鉱物組成と、金属鉄の組織同定を目的として、ピッカース断面硬度計（Vickes Hardness Tester）を用いて硬さの測定を行った。試験は鏡面研磨した試料に136°の頂角をもったダイヤモンドを押し込み、その時に生じた溝の面積をもって、その荷重を除した商を硬度値としている。試料は顕微鏡用を併用した。

### (5) CMA (Computer Aided X-Ray Micro Analyzer) 調査

E P M A (Electron Probe Micro Analyzer) にコンピューターを内蔵させた新鋭分析機器である。旧式装置は別名X線マイクロアナライザとも呼ばれる。分析の原理は、真空中で試料面（顕微鏡試料併用）に電子線を照射し、発生する特性X線を分光後に画像化し、定性的な結果を得る。更に標準試料とX線強度との対比から元素定量値をコンピューター処理してデータ解析を行う方法である。化学分析を行えない微量試料や鉱物組織の微小域の組織同定が可能である。

### (6) 化学組成分析

供試材の分析は次の方法で実施した。

全鉄分 (Total Fe)、金属鉄 (Metallic Fe)、酸化第一鉄 (FeO) : 容量法。

炭素 (C)、硫黄 (S) : 燃焼容量法、燃焼赤外吸収法

二酸化硅素 (SiO<sub>2</sub>)、酸化アルミニウム (Al<sub>2</sub>O<sub>3</sub>)、酸化カルシウム (CaO)、酸化マグネシウム (MgO)、酸化カリウム (K<sub>2</sub>O)、酸化ナトリウム (Na<sub>2</sub>O)、酸化マンガン (MnO)、二酸化チタン (TiO<sub>2</sub>)、酸化クロム (Cr<sub>2</sub>O<sub>3</sub>)、五酸化磷 (P<sub>2</sub>O<sub>5</sub>)、バナジウム (V)、銅 (Cu)、: ICP (Inductively Coupled Plasma Emission Spectrometer) 法 : 誘導結合プラズマ発光分光分析。

### (7) 耐火度

耐火度の加熱に耐える温度とは、溶融現象が進行の途上で軟化変形を起こす状態の温度で表示することを定め、これを耐火度と呼んでいる。試験には三角コーン、つまりゼルゲルコーンが溶倒する温度と比較する方法を用いている。

## 3 調査結果

### SMT-1 橢形鍛冶滓

① 肉眼観察：鍛冶炉の炉底に堆積形成された楕形鍛冶滓。平面は不整六角形で側面5面は破面、厚手の楕形滓である。上面はやや流動状の凹凸を持ち、光沢のある黒色ガラス質である。下面には淡褐色の鍛冶炉床土が厚く固着している。炉床土部と楕形滓部が接する部分で細かな気孔が集中する。

② 顕微鏡組織：Photo.1①～⑤に示す。鉱物組成は、白色粒状結晶のヴスタイト (Wüstite : FeO) が局部的に凝集し、淡灰色木ずれ状結晶の (Fayalite : 2FeO·SiO<sub>2</sub>)、

白色多角形結晶のマグнетサイト (Magnetite : Fe<sub>3</sub>O<sub>4</sub>) が基地の暗黒色ガラス質スラグに晶出する。ヴスタイト粒内には微小析出物が認められる。ヘーシナイト Hercynite : (FeO·Al<sub>2</sub>O<sub>3</sub>) の可能性が考えられる。また、⑤では一部鉄化鉄 (Goethite) を残存させる。

該品は鉄素材の繰り返し折り曲げ鍛接の高温作業で排出された鍛錬鍛治滓に分類される。なお、鉄素材の酸化防止に塗布された粘土汁の影響からファイヤライトやガラス質成分が若干多いめになっている。

③ 化学組成分析 : Table.2 に示す。比較的鉄分少なくガラス質の多い成分系である。全鉄分 (Total Fe) 41.05%に対し、金属鉄 (Metallic Fe) 0.14%、酸化第1鉄 (FeO) 38.83%、酸化第2鉄 (Fe<sub>2</sub>O<sub>3</sub>) 15.34%の割合である。ガラス質成分 (SiO<sub>2</sub>+Al<sub>2</sub>O<sub>3</sub>+CaO+MgO+K<sub>2</sub>O+Na<sub>2</sub>O) は 40.92%でそのうち塩基性成分を (CaO+MgO) 1.73%含む。砂鉄特有成分の二酸化チタンは (TiO<sub>2</sub>) 0.50%、バナジウム (V) 0.01%とやや低値である。酸化マンガン (MnO) 0.07%、銅 (Cu) 0.002%などが検出された。磁鉄鉱系鉄素材の鍛錬鍛治滓の成分系である。それも酸化マンガンが 0.1%を割るので、廃鉄器を鍛冶原料鉄とした可能性が考えられる。

#### SMT-2 梶形鍛治滓

① 肉眼観察 : 平面は不整六角形を呈する梶形鍛治滓である。表面に分厚く黄褐色の酸化土砂が固着し地の観察が困難であり、明確な破面は確認されない。やや厚手で小振りの形状である。上面はほぼ平坦で下面には細かな木炭痕を僅かに残す。

② 顕微鏡組織 : Photo.1⑥～⑧に示す。鉱物組成は白色粒状結晶のヴスタイト (Wüstite : FeO)、淡灰色木ずれ状結晶のファイヤライト (Fayalite : 2FeO·SiO<sub>2</sub>) が基地の暗黒色ガラス質スラグに晶出する。結晶は一部風化傾向にある。また、⑧では鉄化鉄 (Goethite) が認められた。フェライト (Ferrite) 素地にとバーライト (pearlite : フェライトとセメンタイトが交互に重なり合って構成された層状組織) の痕跡が確認できる。バーライトの占める面積は炭素含有量の増加に伴って増し、焼きならし状態では 0.4%で約半分、0.77%で全部バーライトとなる。この面積率で含鉄部の炭素量を推定すると 0.1%C 程度の極軟鋼である。

③ ピッカース断面硬度 : Photo.1⑥に示す。白色粒状結晶の硬度測定の圧痕を示す。462 Hv であった。ヴスタイトの文献硬度値が 450～500 Hv であり (注 1)、この範囲内であるため ヴスタイトに同定される。

④ 化学組成分析 : Table.2 に示す。鉄分多く脈石成分 (Ti、V、MnO) は低減する成分系である。全鉄分 (Total Fe) 50.79%に対して、金属鉄 (Metallic Fe) 0.54%、酸化第1鉄 (FeO) 37.04%、酸化第2鉄 (Fe<sub>2</sub>O<sub>3</sub>) 30.68%の割合である。ガラス質成分 (SiO<sub>2</sub>+Al<sub>2</sub>O<sub>3</sub>+CaO+MgO+K<sub>2</sub>O+Na<sub>2</sub>O) 23.96%で、このうちに塩基性成分 (CaO+MgO) 1.45%を含む。チタン (Ti) 0.33%、バナジウム (V) <0.01%、酸化マンガン (MnO) 0.06%、銅 (Cu) 0.005%など随伴微量元素が少なく、核品も廃鉄器を素材とした鍛錬鍛治滓に分類される。

#### SMT-3 鉄斧刃先

① 肉眼観察 : 袋状上部を欠損し、板状を呈する鉄斧刃部破片と思われる。鉄化が進行

し皮金と芯金に沿って大きく層状に放射割れが進行する。また、表面剥落が数個所に認められる。刃部端部より分析試料採取。皮金は芯金より鉄化が激しく、両方とも鉄化が進行して金属鉄は残存しない。

② マクロ組織：Photo.14 に示す。芯金が一部と皮金の片側を供試材とする。芯金と皮金は折返し曲げ鍛接線の痕跡は認められるが熱処理に関する情報は不明瞭である。

③ 顕微鏡組織：Photo.2①～③に示す。金属鉄は既に残留せず鉄化鉄（Goethite）となる。かろうじて皮金側で一部フェライト（Ferrite）結晶粒及びバーライトの痕跡を留める。0.25%C 前後の炭素含有量がみられる低炭素鋼であった。該品も鍛冶原料鉄の一種であろうか。

#### SMT-4 鍛治滓

① 肉眼観察：やや流動状に細長く伸びた不定形の鍛治滓である。上面は幅 1cm 程の木炭痕による凹凸が顕著である。側面はやや二段気味の外観を呈する。

② 顕微鏡組織：Photo.2④～⑥に示す。④は一部に鉄化鉄（Goethite）と鉄滓が共存する組織である。鉱物組成は、大粒の白色粒状結晶ワスタイト（Wüstite : FeO）が凝集した状態で晶出し、その粒間に僅かに淡灰色木ずれ状結晶のファイヤライト（Fayalite : 2FeO · SiO<sub>2</sub>）が暗黒色ガラス質スラグ中に認められる。結晶に一部風化が認められる。鍛錬鍛治滓の晶癖である。

③ ピッカース断面硬度：Photo.2⑦⑧に白色粒状結晶の硬度測定の圧痕を示す。⑦風化のためか 411Hv とワスタイトの文献硬度値 450～500Hv の下限を僅かに切るが、ワスタイト（Wüstite : FeO）に同定される。⑧は風化した結晶であるために 296Hv と異常値を呈したがワスタイト（Wüstite : FeO）とみてよからう。

#### SMT-5 ガラス質滓

① 肉眼観察：小型で表面流動状のガラス質滓である。色調は黒色または緑色を呈する。破面には中小の気孔がかなり密に認められる。非常に軽い質感の滓であり表面には長さ 1～2cm 大の木炭痕をまばらに残す。

② 顕微鏡組織：Photo.3①～③に示す。気泡を点在させた暗黒色ガラス質スラグ中に微細な金属鉄粒と微小析出物が認められる。核品は赤熱鉄素材の酸化防止に塗布された粘土汁が溶融してガラス化した滓である。

#### SMT-6 楠形鍛治滓

① 肉眼観察：小型でほぼ完形の楕形鍛治滓である。78 g を測る。上下面には細かい木炭痕が散在する。表面には褐色の酸化土砂が付着する。また、酸化土砂中にわずかに細かい鍛造剥片が囲着する。<sup>注(2)</sup>

② 顕微鏡組織：Photo.3④～⑥に示す。④は付着鍛造剥片である。鍛造剥片は鉄素材を大気中で加熱、鍛打するとき表面の酸化膜が剥離、飛散して生じたものである。鍛治工程の進行により、表面荒れ肌の厚手から平滑薄手へ色調は黒褐色から青味を帯びた銀色へ変化する。鍛打作業の実証と鍛治の段階を押える上で重要な遺物である。

鍛造剥片の被膜構成は通常、微厚の外層ヘマタイト（Hematite : Fe<sub>2</sub>O<sub>3</sub>）、中間層マグネ

タイト (Magnetite : Fe<sub>3</sub>O<sub>4</sub>)、内層ヴスタイト (Wüstite : FeO) で構成される。当試料は風化のためか外層ヘマタイトは明瞭に確認できないが、中間層マグネタイト、内層ヴスタイトの非晶質が確認でき、鍛打作業後半段階の派生品と推定される。

楕形滓の鉱物組成は白色粒状結晶のヴスタイト (Wüstite : FeO)、淡灰色木ずれ状結晶のファイヤライト (Fayalite : 2FeO·SiO<sub>2</sub>) が基地の暗黒色ガラス質スラグに晶出する。鍛鍊鍛治滓の晶癖である。

③ ピッカース断面硬度 : Photo.3 の⑧に示す。白色粒状結晶の硬度測定の圧痕を示す。硬度値は 465Hv でヴスタイト (Wüstite : FeO) に同定される。

④ 化学組成分析 : Table.2 に示す。全鉄分 (Total Fe) 47.76% に対して、金属鉄 (Metallic Fe) 0.18%、酸化第 1 鉄 (FeO) 51.98%、酸化第 2 鉄 (Fe<sub>2</sub>O<sub>3</sub>) 10.26% の割合となる、ガラス質成分 (SiO<sub>2</sub>+Al<sub>2</sub>O<sub>3</sub>+CaO+MgO+K<sub>2</sub>O+Na<sub>2</sub>O) は 34.27% あり、このうちにも塩基性成分 (CaO+MgO) 3.59% を含む。随伴微量元素は少なめで、二酸化チタン (TiO<sub>2</sub>) 0.35%、パナジウム (V) <0.01%、酸化マンガン (MnO) 0.08%、銅 (Cu) 0.002% であった。前述してきた SMT-1、SMT-2 と同系成分である。鍛鍊鍛治滓に分類される。

#### SMT-7 楕形鍛治滓

① 肉眼観察 : 側面 2 面が破面の楕形鍛治滓である。上面はほぼ平坦で 5mm 程の細かい木炭痕がわずかに認められる。破面には細かい気孔を発生する。やや軽い質感の滓である。

② 顕微鏡組織 : Photo.4 ①～③に示す。楕形滓の鉱物組成は白色粒状結晶のヴスタイト (Wüstite : FeO)、淡灰色木ずれ状結晶のファイヤライト (Fayalite : 2FeO·SiO<sub>2</sub>) が基地の暗黒色ガラス質スラグに晶出する。鍛鍊鍛治滓の晶癖である。

③ ピッカース断面硬度 : Photo.4 ③に示す。白色粒状結晶の硬度測定の圧痕を示す。亀裂のため 378Hv と低値であるがヴスタイト (Wüstite : FeO) とみてよかろう。

#### SMT-8 楕形鍛治滓

① 肉眼観察 : 完形の楕形鍛治滓である。上面には 1cm 程の大きさの木炭痕が顕著に認められる。下面にも細かい木炭痕を一面に残す。また、一部に淡褐色の炉床粘土が付着する。やや軽い質感の滓である。

② 顕微鏡組織 : Photo.4 ④～⑧に示す。鉱物組成は、④は暗黒色ガラス質スラグ中に淡灰色盤状結晶のファイヤライト (Fayalite : 2FeO·SiO<sub>2</sub>) が晶出する。また、僅かに鉄化鉄 (Goethite) の痕跡も認められる。⑤～⑧淡灰色盤状結晶のファイヤライト (Fayalite : 2FeO·SiO<sub>2</sub>)、白色樹枝状結晶の微小ヴスタイト (Wüstite : FeO) が基地の暗黒色ガラス質スラグに晶出する。粘土汁塗布の影響が現れた鍛鍊鍛治滓の晶癖である。

#### SMT-9 楕形鍛治滓

① 肉眼観察 : 平面が不整合形を呈する側面 1 面が大きく欠損した楕形鍛治滓である。上面はほぼ平坦で、下面は中小の木炭痕が一面に認められる。緻密で重量感のある滓である。破面では細かい気孔が下面側に集中する。

② 顕微鏡組織 : Photo.5 の①～③に示す。鉱物組成は白色粒状結晶のヴスタイト (Wüstite : FeO)、淡灰色木ずれ状結晶のファイヤライト (Fayalite : 2FeO·SiO<sub>2</sub>) が基

地の暗黒色ガラス質スラグに晶出する。鍛錬鍛冶滓の晶癖である。

③ ピッカース断面硬度: Photo. 5①に示す。白色粒状結晶の硬度測定の圧痕を示す。割れのため 417Hv とヴスタイトの文献硬度値 450~500 Hv の値をやや下まわるが、ヴスターイに同定される。

#### SMT-10 羽口

① 肉眼観察: 羽口の先端部破片である。先端の表面はガラス質化し細かい気孔が発生する。被熱痕跡から炉への装着角度は浅いものと思われる。胎土は淡褐色の緻密な粘土質で、僅かに植物の種子痕が認められる。

② 顕微鏡組織: Photo. 5④~⑧に示す。④は羽口胎土部分である。微細な鱗片状粘土鉱物セリサイト (Cerisite) は被熱のため溶融気味である。0.1mm以下の破片鉱物は石英であろうか。⑤~⑧は先端溶融物の鉱物組成は暗黒色ガラス質スラグ中に白色多角形結晶のマグネタイト (Fe<sub>3</sub>O<sub>4</sub>) と淡灰色多角形結晶のヘーシナイト (Hercynite: FeO·Al<sub>2</sub>O<sub>3</sub>) などが晶出する。羽口先端溶融物としては典型的な組織である。

③ 化学組成分析: Table.2 に示す。胎土の強熱減量の Ig Loss は 3.22% で熱影響を受けかけた部分の分析となる。鉄分 (Fe<sub>2</sub>O<sub>3</sub>) 2.49%、塩基性成分 (CaO+MgO) 1.18% と低く軟化性には良好な成分系であるが、酸化アルミニウム (Al<sub>2</sub>O<sub>3</sub>) 16.07% と低く耐火度には若干不利である。僅かに砂鉄粒子を粘土中に含むのか二酸化チタン (TiO<sub>2</sub>) 0.93%、バナジウム (V) <0.01% であった。古代製鉄の炉材類として的一般的性状を有した成分系である。

④ 耐火度: 胎土をゼーゲルコーンという三角錐の試験片を造り、1 分間あたり 10°C の速度で温度上昇して、変化を起こしたところから昇温温度を 4°C におとし、荷重なしに自重だけで軟化し崩れる温度は 1450°C であった。該期の鍛冶羽口として十分な耐火性が得られている。

#### SMT-11 取鍋

① 肉眼観察: 片口を持つ取鍋の破片である。内面口縁部に沿って溶融ガラス質化する。ガラス質部分の色調は黒色または緑色、また特に片口付近は赤褐色を呈する。胎土は長石・砂粒を多量に混和させる。植物の種子痕も認められる。内面表面の溶融ガラス質部分を供試材とした。

② 顕微鏡組織: Photo. 6 の①~⑤に示す。取鍋の器壁内表面は溶融金属に触れて被熱溶融ガラス質化している。さらにガラス質スラグ中に多量の微細な銅粒 (Cu)、及び微小析出物の晶出が認められる。

③ CMA 調査: ガラス質スラグ中の球状析出物の分析を行った。Photo. 17 の SE (2 次電子像) に見られる暗黒色ガラス質スラグ中に晶出した金属粒の高速定性分析結果を Fig. 1 に示す。A-Rank で検出された元素は銅 (Cu) をはじめ、鉄 (Fe)、マンガン (Mn)、ガラス質成分 (Si+Al+Ca+Mg+K+Na)、燐 (P)、酸素 (O)、などである。

この高速定性分析結果を視覚化した面分析の特性 X 線像と定量分析結果を Photo. 17 に示す。SE に 1 の番号つけた球状析出物は銅 (Cu) に白色輝点が集中し、定量分析値は 99.947% Cu 組成となり純銅 (Cu) と同定された。銅細工に使用された取鍋か坩堝であろう。

### SMT-12 梭形鍛治滓

① 肉眼観察：小型で厚手の梭形鍛治滓の破片である。上面一部ガラス質部が認められる。羽口由来の溶融物であろう。下面は細かい木炭痕を極く薄く残すが、きれいな曲面を呈する。破面は光沢を発生す。緻密で重量感のある滓である。

② 顕微鏡組織：Photo.6⑥～⑧に示す。鉱物組成は淡灰色盤状結晶のファイヤライト（Fayalite : 2FeO·SiO<sub>2</sub>）、白色粒状結晶のヴスタイト（Wüstite : FeO）が基地の暗黒色ガラス質スラグに晶出する。粘土汁多用の鍛錬鍛治滓の晶癖である。

③ ピッカース断面硬度：Photo.6⑥に示す。淡灰色盤状結晶の硬度測定の圧痕を示す。ファイヤライト（Fayalite : 2FeO·SiO<sub>2</sub>）の文献硬度値は 600～700 Hv であり、718Hv と上限を僅かに越えるがファイヤライトに同定される。

④ 化学組成分析：Table.2 に示す。鍛治滓にしては鉄分が少なく、ガラス質の多い成分系となっている。全鉄分（Total Fe）32.08%に対して、金属鉄（Metallic Fe）0.69%、酸化第1鉄（FeO）23.97%、酸化第2鉄（Fe<sub>2</sub>O<sub>3</sub>）18.24%の割合である、ガラス質成分（SiO<sub>2</sub> + Al<sub>2</sub>O<sub>3</sub> + CaO + MgO + K<sub>2</sub>O + Na<sub>2</sub>O）48.12%、このうちには塩基性成分（CaO + MgO）2.71% を含む、随伴微量元素は砂鉄特有元素の二酸化チタン（TiO<sub>2</sub>）0.27%、バナジウム（V）< 0.01%と低値である。酸化マンガン（MnO）は 1.09%と高値である。銅は（Cu）0.002%。マンガンが多いのは鍛冶原料鉄が廃鉄器ではない鉄塊の充当が考えられる。

鉱物相、成分系から鉄素材の酸化防止粘土汁を多用した鍛錬鍛治作業時に生成された梭形鍛治滓の可能性が考えられる。

### SMT-13 鍛治滓

① 肉眼観察：不整形小型の鍛治滓である。表面には淡褐色の土砂が付着する。錆化により茶褐色に変色した部分が認められ、金属探知器の反応は無いもの小さな鉄部を含む資料であったと思われる。また表面には灰色の滓部と黒色ガラス質部分が残存する。

② 顕微鏡組織：Photo.7①～⑤に示す。鉱物組成は淡灰色木ずれ状結晶のファイヤライト（Fayalite : 2FeO·SiO<sub>2</sub>）、白色樹枝状結晶の微小ヴスタイト（Wüstite : FeO）が基地の暗黒色ガラス質スラグに晶出する。粘土汁多用の鍛錬鍛治滓の晶癖である。

③ ピッカース断面硬度：Photo.7①に示す。淡灰色木ずれ状結晶の硬度測定の圧痕を示す。硬度値は 687Hv とファイヤライト（Fayalite : 2FeO·SiO<sub>2</sub>）の文献硬度値の範囲内であり、ファイヤライト（2FeO·SiO<sub>2</sub>）に同定される。

### SMT-14 梭形鍛治滓

① 肉眼観察：平面形が半円状を呈する厚手の梭形鍛治滓である。側面 2 面は大きく破面、他に 3 面破面。約 1/2 が残存する破片である。表面は黄褐色の酸化土砂に覆われる。上面は平坦で 1cm 程の木炭痕が認められる。側面も 1cm 大の木炭痕が顕著である。緻密で重量感のある滓である。

② 顕微鏡組織：Photo.7⑥～⑧に示す。鉱物組成は淡灰色木ずれ状結晶ファイヤライト（Fayalite : 2FeO·SiO<sub>2</sub>）、ごく少量の白色樹脂状結晶ヴスタイト（Wüstite : FeO）が基地の暗黒色ガラス質スラグに晶出する。これも前述した SMT-13 と同系の粘土汁多用の鍛錬鍛治滓の晶癖である。

③ ピッカース断面硬度：Photo.7⑥に示す。淡灰色木ずれ状結晶の硬度測定の圧痕を示す。割れのため 557Hv とファイヤライト（Fayalite : 2FeO·SiO<sub>2</sub>）の文献硬度値を下回るが、ファイヤライトといえよう。

#### SMT-15 梗形鍛治滓

① 肉眼観察：平面不整五角形を呈する厚手の梗形鍛治滓である。側面 5 面は破面。上面は一部黒色ガラス質部分が認められ、表面は比較的滑らかである。裏面は一部に淡褐色の鍛治炉床土の付着がある。緻密な粘土質で長石粒・砂粒を僅かに含む。

② 顕微鏡組織：Photo.8①～⑤に示す。鉱物組成は白色粒状結晶のヴスタイト（Wüstite : FeO）と、淡灰色木ずれ状結晶（Fayalite : 2FeO·SiO<sub>2</sub>）が基地の暗黒色ガラス質スラグに晶出する。ヴスタイト粒内には微小析出物のヘーシナイト（Hercynite : FeO·Al<sub>2</sub>O<sub>3</sub>）とウルボスピネル（Ulvöspinel : 2FeO·TiO<sub>2</sub>）の混合組成が認められる。鍛冶原料鉄は廃鉄器でなしに鉄塊である。荒鉄の成分調整と不純物除去の精錬鍛治の終末段階か、鍛錬鍛治滓か微妙な鉱物相である。

③ ピッカース断面硬度：Photo.8①に示す。白色粒状結晶の硬度測定の圧痕を示す。硬度値は 483Hv であった。ヴスタイトの文献硬度値が 450～500Hv であり、この範囲内に収まるのでヴスタイトに同定される。

④ CMA調査：Photo.18 の SE（2 次電子像）にある鉱物相 4 種の高速定性分析結果を Fig.2 に示す。検出された元素は A-Rank で鉄（Fe）、チタン（Ti）、ガラス質成分（Si+Al+Ca+Mg）、酸素（O）、B-Rank でカリウム（K）である。

高速定性分析結果を視覚化した面分析の特性 X 線像と定量分析値を Photo.18 に示す。SE 番号 1 は淡灰色盤状結晶であり、鉄（Fe）と硅素（Si）に白色輝点が集中する。定量分析値は 64.7%FeO-30.6%SiO<sub>2</sub> 組成が得られた。ファイヤライト（Fayalite : 2FeO·SiO<sub>2</sub>）が同定される。SE 番号 2 は白色粒状結晶であり、白色輝点は鉄（Fe）と酸素（O）に集中する。定量分析値は 98.6%FeO 組成が得られ、ヴスタイト（Wüstite : FeO）に同定される。SE 番号 3 は白色粒状結晶粒内の淡茶褐色微小析出物であり、定量分析値 13.1%Al<sub>2</sub>O<sub>3</sub>-2.2%TiO<sub>2</sub>-80.2%FeO が得られた。ヘーシナイト（Hercynite : FeO·Al<sub>2</sub>O<sub>3</sub>）とウルボスピネル（Ulvöspinel : 2FeO·TiO<sub>2</sub>）の混合組成と考えられる。ただしチタン濃度がすこぶる浅い。SE 番号 4 は基地の暗黒色ガラス質スラグである。白色輝点は硅素（Si）、アルミニウム（Al）、カリウム（K）などに集中する。定量分析値：56.9%SiO<sub>2</sub>-24.2%Al<sub>2</sub>O<sub>3</sub>-5.8%K<sub>2</sub>O-5.8%FeO 組成となる。ガラス質成分で珪酸系である。鍛治原料は砂鉄系鉄素材と考えられるが、チタン濃度が弱いので磁鉄鉱系を全面的に否定はできないであろう。今後の研究課題となってくる。

⑤ 化学組成分析：Table.2 に示す。全鉄分（Total Fe）37.22%に対して金属鉄（Metallic Fe）0.04%、酸化第 1 鉄（FeO）38.76%、酸化第 2 鉄（Fe<sub>2</sub>O<sub>3</sub>）10.08%の割合である。ガラス質成分（SiO<sub>2</sub>+Al<sub>2</sub>O<sub>3</sub>+CaO+MgO+K<sub>2</sub>O+Na<sub>2</sub>O）48.17%で、このうち塩基性成分（CaO+MgO）が 4.22%と高値である。二酸化チタン（TiO<sub>2</sub>）0.51%、バナジウム（V）<0.01%、酸化マンガン（MnO）0.35%、銅（Cu）0.002%など多く、特にマンガン量が高めなので鉄塊を鍛治原料とした成分系と推定される。廃鉄器の鍛治ではないと考えられる。